『般若第一會』譯後記

昭和九年六月二十日 發行

發行所 大東出版社

國譯一切經 般若部 四

昭和九年六月十五日印刷
昭和九年六月二十日發行
昭和十三年四月十日再版

國譯一切經 般若部 四

【改正定價壹圓廿五錢】

編輯兼發行者　岩野眞雄
東京市芝區芝公園地七號地十番

印刷者　長尾文雄
東京市芝區芝浦二丁目三番地

印刷所　日進舍
東京市芝區芝浦二丁目三番地

發行所　東京市芝區芝公園地七號地十番
大東出版社
振替東京一九四七一番
電話芝三九四四番

製本所　兩角製本所

「般若第一會」譯後記

玆に佛教中最大の經典たる大般若の第一會を譯し終る。是れは十萬頌大般若よりも詳叙されたもので大般若中の最も增廣された大經である。唐譯原本は四百卷、今卷次之に從ふも通闕法によりて同文の省略し得べきものは之を略抄せるが故に量に於て著るしく減少することを得たるも、讀者は尙重複繁冗を感ぜらるべく、若し精讀を得たらば譯者はその閲讀者に深き感謝を捧げると同時に一句をも省略せなかつた玄奘三藏の譯場に向て更に新たなる尊敬を感ぜざるを得ない。殊に又一句を得んが爲に血髓を供養せる常啼菩薩や長者女眷屬の熱烈に感激なきを得ない。この廣大の經說、詮約すれば性空無相、所得なく執著なく二相なくして菩薩行願を精進すべきを示すに過ぎない。閲經轉讀の同行諸君と倶に化敎付囑の佛意、結集傳承の先德にその慈恩を報謝してこの行願精進に結緣致したい。尙初分四百卷を四卷に收むるに當り第一第二に粗略誤謬あるやに思ひ、第三第四は一層愼重注意を加へたるも訛誤少くあるまい、若し過誤發見せば一括訂正したい、大方諸賢にして高敎を賜らば法幸これに過ぐるものはない。尙第二會第三會第四會は初分よりも略叙されたるものなるを以て、最も略せられたる第五會を追出して中間三會を全略する。その內第二會は謂ゆる大品大般若に當り世に流布せるもの、譯者も先きに國譯大藏に於て譯出せるが今回は最具の初分大本を出すを以て二會大品をも省略する。此の如く要を得て而かも漏さゞるを期するや十三會此に六卷となる、若し全文を盡さば十卷となる、今既に讀者を煩はす多きを惧れ撮要不漏此の如くせる點に就て讀者の豫め諒恕せられんことを希ふ次第である。

昭和九年六月初分譯了に際し後記す。

譯者　椎尾辨匡

忘失せしむること勿れ是の如き般若波羅蜜多爾所の時に隨て世に流布せば、當に知るべし卽ち諸佛世尊有りて現に世間に住して衆の爲に法を說きたまふと。慶喜當に知るべし若し此の甚深般若波羅蜜多に於て恭敬聽聞し受持讀誦し究竟通利し說の如く修行し理の如く甚深の義趣を思惟し書寫流布し他の爲に解說し、復た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明及び餘の種種珍奇の雜物を以て供養恭敬尊重讃歎する有らば當に知るべし是の人は常に諸佛を見恒に正法を聞き諸の梵行を修すと。[二] 時に薄伽梵是の經を說き已て無量の菩薩摩訶薩衆、[三] 慈氏菩薩を而かも上首と爲し大迦葉波及び舍利子阿難陀等の諸の大聲聞及び餘の天龍人非人等の一切の大衆佛の所說を聞きて皆大いに歡喜し信受し奉行しき。

（第一會終）

【二】最期に會中大衆の歡喜を明す。

【三】慈氏。梅坦麗耶（Maitreya）の義譯彌勒の姓。

初分結勸品第七十九

善現當に知るべし、是の理趣甚深般若波羅蜜多の威德殊勝なるに由り諸の菩薩をして速に能く一切智智を引得せしむと。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩六種波羅蜜多を學して速に圓滿せしめんと欲し、具さに諸佛の境界に通達せんと欲し、諸佛の自在神通を得んと欲し、疾く一切智智を得んと欲し、能く畢竟一切有情を利益安樂せんと欲せば應に是の如き甚深般若波羅蜜多を學すべし。應に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て恭敬聽聞し受持讀誦し究竟通利し說の如く修行し理の如く甚深の義趣を思惟し書寫流布して他の爲に解說すべし。應に種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明及び餘の種種珍奇の雜物を以て供養恭敬尊重讃歎すべし。所以は何ん、此の所說の甚深般若波羅蜜多は是れ諸の如來應正等覺の眞の生養母にして是れ諸の菩薩摩訶薩衆の眞の軌範師なるに由り一切の如來應正等覺は咸く共に尊重恭敬讃歎し一切の菩薩摩訶薩衆は供養し精勤修學せざる無く、是れは爲れ如來の眞實の教誡なればなりと。[一]爾の時佛、阿難陀に告げて言はく、汝如來に於て愛敬有りや不やと。阿難陀曰く、是の如し世尊、是の如し善逝、我れ佛所に於て實に愛敬有り、如來自ら知ろしめすと。佛、慶喜に告げたまはく、是の如し是の如し、汝我が所に於て實に愛敬有り。汝昔より來た常に慈善の身語意業を以て我れに恭敬供養隨侍し未だ曾て違失せず。慶喜、汝應に、我れに現在實の愛敬を以て我が身を供養するが如く我が涅槃の後も汝亦た當に是の如き愛敬を用て甚深般若波羅蜜多を供養尊重すべしと。第二第三。佛是の如き甚深般若波羅蜜多を以て慶喜を教誡して如來に過ぐる身を深く愛敬し供養し尊重せしむ。佛、慶喜に告げたまはく、我れ是の如き甚深般若波羅蜜多を以て今の大衆に對して汝に付屬す。汝應に受持すべし。我が涅槃の後乃至一字をも

【一】佛、般若を阿難に付囑して斯法を尊重護持し流布すべきを說く。

法不可思議三摩地なり。是の如き等の六十百千三摩地門を得たり。[一八]常啼菩薩既に是の如き六十百千三摩地門を得て即時に、現に、東西南北四維上下各殑伽沙數の如き三千大千世界に、現に如來應正等覺在して聲聞菩薩大衆に圍遶せられて是の如き名、是の如き句、是の如き字、是の如き理趣を以て諸の菩薩摩訶薩衆の爲に般若波羅蜜多を宣説したまふこと我が今此の三千大千世界に於て聲聞菩薩大衆に圍遶せられて是の如き名、是の如き句、是の如き字、是の如き理趣を以て諸の菩薩摩訶薩衆の爲に般若波羅蜜多を宣説するが如く等しくして差別無きを見る。常啼菩薩是れより已後多聞智慧不可思議なること猶ほ大海の如く所生の處に隨て恒に諸佛を見、常に諸佛の淨妙國土に生じ乃至夢中にも亦た常に佛を見、般若波羅蜜多を說かんが爲に親近供養し曾て暫くも捨つる無く無暇法を離れて有暇を具足す。

【一七】前來廣說せる常啼の因緣の如く、今佛にも諸佛にも同じきを明す。

が故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無壊なりと。一切法無雜なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無雜なりと。一切法無差別なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無差別なりと。諸法の自性不可得なるが故に當に當に知るべし般若波羅蜜多の自性も亦た不可得なりと。諸法の無所有平等なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多の無所有も亦た平等なりと。諸法無所作なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無所作なりと。諸法不可思議なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不可思議なりと。

爾の時常啼菩薩摩訶薩般若波羅蜜多の差別の句義を説くを聞きて即ち座前に於て六十億三摩地門を得たり。所謂諸法平等三摩地、諸法遠離三摩地、諸法不動三摩地、諸法無念三摩地、諸法無畏三摩地、諸法無懼三摩地、諸法一味三摩地、諸法無際三摩地、諸法無生三摩地、諸法無滅三摩地、虚空無邊三摩地、大海無邊三摩地、妙高山無邊三摩地、妙高山嚴好三摩地、如虚空無分別三摩地、色等諸蘊無邊三摩地、眼等諸處無邊三摩地、色等諸處無邊三摩地、眼等諸界無邊三摩地、色等諸界無邊三摩地、眼識等諸界無邊三摩地、眼觸等無邊三摩地、眼觸爲縁所生諸受等無邊三摩地、地界等無邊三摩地、因縁等無邊三摩地、從縁所生諸法無邊三摩地、諸縁起支無邊三摩地、諸波羅蜜多無邊三摩地、一切空無邊三摩地、諸法眞如等無邊三摩地、菩提分法無邊三摩地、諸聖諦無邊三摩地、諸善業道無邊三摩地、施戒修無邊三摩地、靜慮無量無色無邊三摩地、解脱勝處等至遍處無邊三摩地、空無相無願解脱門無邊三摩地、總持等持門無邊三摩地、菩薩諸地無邊三摩地、五眼六神通無邊三摩地、諸力無畏無礙解大慈悲喜捨佛不共法無邊三摩地、無忘失法恒住捨性無邊三摩地、一切智道相智一切相智無邊三摩地、諸相隨好無邊三摩地、聲聞乘無邊三摩地、獨覺乘無邊三摩地、無上乘無邊三摩地、有漏無漏法無邊三摩地、有爲無爲法無邊三摩地、金剛喩平等三摩地、諸法無壊三摩地、諸法無雜三摩地、諸法無差別三摩地、諸法自性不可得三摩地、諸法無所有平等三摩地、諸法無所作三摩地、諸

際なり。一切法無滅なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無滅なり。太虛空無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり。大海水無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり。妙高山無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり。妙高山嚴好なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た嚴好なり。太虛空の如く無分別なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無分別なりと。

善男子、(a)色無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり受想行識無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり。(a)眼處(ろ)乃至意處。(a)色處(は)乃至法處。(a)眼界(に)乃至意界。(a)色界(ほ)乃至法界。(a)眼識界(へ)乃至意識界。(a)眼觸(と)乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(ち)乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界(ぬ)乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明(る)乃至老死愁歎苦憂惱。

善男子、(a)布施波羅蜜多(を)乃至靜慮方便善巧妙願力智波羅蜜多。(a)內空(わ)乃至無性自性空。(a)眞如(か)乃至不思議界。(a)四念住(よ)乃至八聖道支。(a)苦聖諦(た)乃至道聖諦。(a)十善業道。(a)施戒修。(a)四靜慮(れ)乃至四無色定。(a)八解脫(そ)乃至十遍處。(a)空解脫門(つ)乃至無願解脫門。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)菩薩の十地。

善男子、(a)五眼、六神通。(a)佛の十力(ね)乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智(な)乃至一切相智。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)預流果(ら)乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩行、諸佛の無上正等菩提。一切の有漏法無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり一切の無漏法無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なりと。一切の有爲法無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なり一切の無爲法無邊なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無邊なりと。金剛喩平等なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た平等なりと。一切法無壞なる

(a)「色無邊故…………受想行識無邊故當知般若波羅蜜多亦無邊」
右の文中「色乃至識」の五蘊の處に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

薩の爲に七寶の師子の座を敷設して其の地を掃灑し極めて香潔ならしむ、云何が當に諸の妙香花を得て座の四邊を繞りて其の地を莊嚴すべけん、大師座に昇りて將に說法せん時我れ等も亦た應に持つて散じ供養すべしと。時に天帝釋其の所念を知り卽便ち微妙の香花の摩揭陀の千斛の量の如くなるを化作し恭敬して常啼菩薩に奉施し眷屬と共に持つて以て供養せしむ。是に於て常啼、天帝釋の施す所の花を受け已つて分て二分と作し先に一分を持つて諸の眷屬と共に座の四邊を繞りて其の地に嚴布し餘の一分を留めて以て大師の法座に昇る時當に持つて奉散すべきに擬す。

爾の時法涌菩薩摩訶薩七日を過ぎ已つて遊戲する所の三摩地門より安庠として起ち般若波羅蜜多を說かんが爲に無量百千の眷屬に圍繞せられて內宮より出て師子座に昇りて大衆の中に處し儼然として坐す。常啼菩薩、重ねて法涌菩薩摩訶薩を瞻仰することを得たる時踊躍歡喜し身心悅樂せること譬へば苾芻の念を一境に繫け忽然として第三靜慮に入ることを得たるが如し。便ち眷屬と先に留めし所の微妙の香花を持つて奉散し供養す。既に供養し已つて雙足を頂禮し右繞三匝し退きて一面に坐しぬ。[一七]爾の時法涌菩薩摩訶薩、常啼菩薩摩訶薩に告げて言はく、善男子、諦かに聽け諦かに聽きて善く之を思念せよ。吾れ當に汝が爲に般若波羅蜜多を宣說すべしと。常啼白して言さく、唯然、願くは說きたまへ我れ等樂聞したてまつらんと。法涌菩薩、常啼に告げて言はく、善男子、一切法平等なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た平等なり。一切法遠離なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た遠離なり。一切法不動なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た不動なり。一切法無念なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無念なり。一切法無畏なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無畏なり。一切法無懼なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無懼なり。一切法一味なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た一味なり。一切法無際なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無際なり。一切法無生なるが故に當に知るべし般若波羅蜜多も亦た無

【一七】法涌菩薩重ねて般若の相を宣說す。

便して水を求むるも得ずして是の念言を作さく、我れ應に身を刺し血を出して地に灑ぐべし、塵をして起らしめて我が大師を坌すこと勿れ今我が此の身は必ず當に敗壞すべし、何をか是の如き虛僞の身を用て爲んや。我れ無始より來た生死に流轉し數五欲の爲に身命を喪失するも而かも未だ曾て正法の爲に身を捨てず。是の故に今應に身を刺して血を出すべしと。是の念を作し已て卽ち利刀を執りて周遍ねく身を刺し血を出して地に灑ぐ。時に長者女及び諸の眷屬も亦た常啼に學びて刺して血を地に灑ぐ。常啼菩薩長者女等各法の爲の故に身を刺して血を出し乃至一念も異心を起さず。時に諸の惡魔便りを得ること能はず亦た修する所の善品を礙ふること能はず、常啼等の心勇決せるを以ての故に。時に天帝釋此の事を見已て是の念言を作さく、常啼菩薩長者女等は甚だ爲れ希有なり、而かも法を愛し法を重んずる因緣に由りて乃至遍體皆刺して血を出し說法師の爲に周ねく其の地に灑ぎ曾て一念も異心を發起せず、諸の惡魔をして求むるも便りを得ず亦た修する所の善品を礙ふること能はざらしむ。奇なる哉大士、乃ち能く是の如き堅固弘誓の鎧甲を擐被し一切有情を利樂せんと欲するが爲に淳淨の心を以て身命を顧みずして無上正等菩提を求め恒に誓言を發す、我れ生死に沈淪せる一切有情の無量無邊の身心の大苦を拔濟せんが爲に而かも無上正等菩提を求め事若し未だ成らずんば終に懈廢無しと。時に天帝釋、是の念を作し已て常啼等の身より出す所の血を變じて一切皆栴檀香水と成し灑ぐ所の地をして座の四邊を遶らしむ。面各百踰繕那量を滿ず、皆天上の不可思議最勝甚奇の栴檀の香氣有り。時に天帝釋是の事を成し已つて常啼を讃めて曰く、善哉善哉、大士、志願堅固にして動じ難し、精進勇猛思議す可からず、法を愛重し求むる最も爲れ無上なり。過去の如來應正等覺も亦た是の如き堅固の志願もて勇猛精進して法を愛重し求め菩薩の清淨梵行を修行せしに由り已に無上正等菩提を證せり。大士、今の志願もて精進して法を愛重し求めなば亦た定めて當に所求の無上正等菩提を證すべしと。爾の時常啼復た是の念を作さく、我れ今已に法涌菩

疲倦せるを知り師子座より下り還て宮中に入る。[一四]爾の時常啼菩薩摩訶薩既に法涌菩薩摩訶薩の還て宮中に入れるを見て便ち是の念を作さく、我れ[一五]法の爲の故に而かも此に來至せり。未だ正法を聞かずんば坐臥すべからず、我れ應に唯だ[一六]住行のみして威儀を立て以て大師法涌菩薩の當に宮より出でゝ法要を宣說すべきを待つべしと。法涌菩薩既に宮に入り已て時七年を經、一心不亂に菩薩の無量無數三摩地門に遊戯し菩薩の無量無數い甚深般若波羅蜜多方便善巧に安住す。常啼菩薩は七歲中に於て坐せず臥せず唯だ行き唯だ立ちて睡眠を念ぜず晝夜を想はず疲倦を辭せず飲食を思はず寒熱を怖れず內外に緣らず曾て欲恚害尋及び餘の一切の煩惱纏垢を發起せずして但だ是の念を作すのみ、法涌菩薩は何れの時にか當に三摩地より起つべき、我れ等眷屬は應に法座を敷き其の地を掃灑して諸の香花を散ずべし。法涌菩薩當に此の座に昇りて般若波羅蜜多方便善巧及び餘の法要を宣說すべしと。時に長者女及び諸の眷屬も亦た七歲中唯だ行き唯だ立ちて所念を捨てずして皆常啼に學び進止相隨ひ曾て暫くも捨つる無し。爾の時常啼菩薩摩訶薩是の如く精勤し七歲を過ぎ已て欻然として空中に聲有るを聞く、言はく、咄善男子、却て後七日、法涌菩薩當に定より起ち此の城中に於て正法を宣說すべしと。常啼菩薩空の聲を聞き已て踊躍歡喜して是の念言を作さく、我れ今當に法涌菩薩の爲に師子の座を敷設し嚴飾して其の地を掃灑し妙香花を散じ、我が大師をして當に此の座に昇りて衆の爲に甚深般若波羅蜜多方便善巧及び餘の法要を宣說せしむべしと。常啼菩薩是の念を作し已て長者女及び諸の眷屬と七寶の師子の座を敷設す。時に長者女及び諸の眷屬各一淨妙衣を脫ぎて說法師の爲に座上に重ね敷く。常啼菩薩既に座を敷き已て水の地に灑ぐを求むるに竟に得ること能はず。所以は何ん、惡魔城の內外の水を隱蔽して皆現ぜさらしむればなり。魔是の念を作さく、常啼菩薩水を求めて得ず愁憂苦惱疲倦し羸劣の心或は變異し便ち無上正等菩提に於て善根增さず智慧照らさず一切智に於て稽留有らば則ち我れの境界を空ずること能はさらんと。常啼菩薩種種に方

【一三】　法涌菩薩七年間入三昧中の出來事を述べ、常啼及び長者女等の精進力堅固を明す。
【一四】　法の爲。正信眞生を求むるなり。
【一五】　住行。經行と住立を云ふ。

の能く一切有情の爲に無量無數の大劫を經て諸の勤苦を受くること大士の如き者の有らんこと甚だ爲れ得難し。是の故に今應に我が施す所を受くべしと。爾の時常啼菩薩摩訶薩天帝釋の微妙の香花を受けて法涌菩薩摩訶薩に奉散し供養し已て虛空より下りて雙足を頂禮し合掌恭敬して白して言さく、大師、我れ今日より願くは身命を以て大師に奉屬し以て給使に充てんと。是の語を作し已て法涌菩薩摩訶薩の前にて合掌して住せり。[一三]時に長者女及び諸の眷屬合掌恭敬し常啼に白して言さく、我れ等今より亦た身命を以て奉屬し供侍せん、願くは納受を垂れたまへ、此の善根を以て願くは當に是の如き勝法を獲得して尊の所證に同ぜんことを、願くは當來世に恒に尊に親近し、常に尊に隨從して諸佛及び諸の菩薩を供養して同じく梵行を修せんことをと。常啼菩薩卽ち彼れに報へて言はく、汝等至誠もて我れに隨屬せば當に我が敎に從ふべし。我れ當に汝を受くべしと。長者女等、常啼に白して言さく、誠心もて尊に屬す、當に尊の敎に隨ふべしと。時に常啼菩薩卽ち長者女及び諸の眷屬をして各種種の妙莊嚴具を以て自ら嚴飾せしめ及び五百の七寶の妙車並に諸の供具を以て俱時に法涌菩薩に奉上し白して言さく、大師、我れ是の如き長者女等を以て大師に奉施す、惟だ願くは慈悲して我が爲に納受したまはんことをと。時に天帝釋、常啼を讃めて言はく、善哉善哉、大士、乃ち能く是の如く捨施す、諸の菩薩摩訶薩法は應に一切の所有を捨施すべし。若し菩薩摩訶薩能く是の如く一切を捨施するを學せば疾く無上正等菩提を證せん。若し法師に於て能く是の如き恭敬供養を作して悋む所無き者は決定して甚深般若波羅蜜多方便善巧を聞くことを得ん。過去の如來應正等覺の菩薩道を精勤修學せし時も亦た甚深般若波羅蜜多方便善巧を請問せんが爲に諸の所有を捨て、斯れに由りて已に所求の無上正等菩提を證せるなりと。是の時法涌菩薩、常啼菩薩の種うる所の善根をして圓滿することを得せしめんと欲するが故に長者女及び諸の眷屬五百の寶車並に諸の供具を受け、受け已て還て常啼菩薩に施す。法涌菩薩說法すること旣に久しく日將に沒せんと欲し衆の

【一三】長者女及び諸眷屬身を以て供養するを明す。

亦た種種の香花を雨す。時に天帝釋四大天王及び諸の天衆虛空の中に於て卽ち種種の天の妙香花を以て法涌菩薩摩訶薩に奉散し供養し已て復た種種の天の妙香花を以て常啼菩薩に奉散し供養して是の言を作さく、我れ大士に因りて是の如き勝義の敎を聞くことを得たり、一切世間の身見に住する者是の法を聞き已らば能く執著を捨てゝ皆悉く難伏の地に住せんと。

爾の時常啼菩薩摩訶薩、法涌菩薩摩訶薩に白して言さく、何の因何の緣にて此の世界一切の大地諸山大海をして六種に變動し及び種種の希有の相を現ずるやと。法涌菩薩、常啼に告げて言はく、我れ汝の問ふ所の如來應正等覺來去の相無きを答ふるに由り此の會中に於ける八千の衆生皆悉く無生法忍を證得じ復た八十那庾多の衆生有りて皆無上正等覺の心を發し復た八萬四千の衆生有りて遠塵離垢し諸法の中に於て淨法眼を生ず。是の因緣に由りて此の世界の一切の大地諸山大海をして六種に變動せしめ及び種種希有の相を現ずと。常啼菩薩是の語を聞き已て踊躍歡喜して是の念言を作さく、我れ今已に僞れ大善利を獲たり、謂ゆる我れ法涌菩薩に問ひしに因り諸の有情をして是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得せしめ、諸の如來應正等覺來去の相無きを說き爾所の衆をして大饒益を獲せしむ。我れ是の如き殊勝の善根に由りて能く所求の無上正等菩提を成辦するに足る。我れ無上正等菩提に於て復た疑慮無し。我れ來世に於て定めて如來應正等覺を成じて無量の有情を利益安樂せんと。是の念を作し已て歡喜踊躍し虛空に上昇すること七多羅樹にして復た是の念を作さく、當に何等を以て大師法涌菩薩に供養し用て我が僞に法を說きたまふの恩に酬ひんかと。時に天帝釋其の所念を知りて無量微妙の香花を化作し持て常啼菩薩に施與せんと欲して是の言を作さく、大士、今我れを哀愍するが故に此の花を受け持て以て法涌菩薩に供養す可し。大士、應に我れ等が供養を受くべし、我れ今大士の功德を助成せん。所以は何ん、大士に由るが故に我れ等無量百千の有情大饒益を獲たり、謂ゆる必ず當に所求の無上正等菩提を證すべし。大士、當に知るべし諸

【八】身見に住する者。我が身を思う時放逸執着となる。般若にて我身見去る。

【九】常啼己が質疑によりて會中の諸有情を饒益したるを歡喜し法涌菩薩を供養酬恩せんと欲す。

【一〇】淨法眼。無我自在の生活を見る眼。

【一一】帝釋、常啼を讃歎して香花を捧施し、常啼受けて法涌菩薩供を發するを明す。

し。是の寶の滅する時十方面に於て亦た去る所無し。但だ有情の善根力盡くるに由り彼れをして滅沒せしむるのみ。所以は何ん、諸の有爲法は緣合するが故に生じ、緣離るゝが故に滅し、中に於て都て[五]生ずる者無く滅する者無し。是の故に諸法は來る無く去る無きが如し。諸の如來身も亦復た是の如し。十方面に於て從て來る所無く亦た中に於て造作する者有るに非ず亦た因緣無くして生ずと說く可からず、然かも本と修する淨行の圓滿せるに依り、因緣の爲の故に及び有情先に見佛を修し業成熟するに依るが故に如來身有りて世に出現す。佛身滅する時十方面に於て亦た去る所無し。但だ因緣和合力盡くるに由りて卽便ち滅沒するのみ。是の故に諸佛は來る無く去る無し。

復た次に善男子、譬へば[六]箜篌の種種の因緣に依止して和合して聲を生ずること有るも是の聲の因緣、所謂槽頸繩棍絃等人功、作意、是の如き一一聲を生ずること能はず、要らず和合する時其の聲方に起る。是の聲の生位は從て來る所無く息滅の時に於て至り去る所無きが如し。善男子、諸の如來身も亦復た是の如し。種種の因緣に依止して生ず。是の身の因緣、所謂無量の福德智慧及び諸の有情の修する所の見佛の善根の成熟、是の如き一一は身を生ずること能はず、要らず和合する時其の身分に起る、是の身の生位は從て來る所無く滅沒の時に於て至り去る所無し。善男子、汝如來應正等覺に於て來去の相無きを、應に是の如く知るべし。此の道理に隨て一切法に於て來去の相無きも亦た是の如く知れ。善男子、若し如來應正等覺及び一切法に於て能く如實に來る無く去る無く生ずる無く滅する無く染する無く淨なる無きを知らば定めて能く甚深般若波羅蜜多善巧方便を修行して必ず無上正等菩提を得んと。法涌菩薩摩訶薩、常啼菩薩摩訶薩の爲に諸の如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵の來る無く去る無き相を說く時彼の三千大千世界一切の大地諸山大海及び諸の天宮をして六種に變動せしむ。[七]諸の魔の宮殿皆威光を失ひ魔及び魔軍皆悉く驚怖す。時に彼の三千大千世界の一切の所有る草木叢林[八]時に非ざる花を生じ悉く皆法涌菩薩摩訶薩の所に傾向し、空中より

【五】生ずる者。生者造物者なく緣の離合によりて生滅相あるのみ。

（ロ）箜篌。くだらごと。を喩として如來の無去來、緣生滅を說く。

【六】諸の魔等。般若正法は法身如來出現し惡魔非法の退却となる。

【七】時に非ざる花。草木も感應衝動を受くるを示す。

なるが如し。善男子、意に於て云何、夢に見じ所の佛は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、夢中に見し所は皆是れ虛妄にして都て實有に非ず、如來が來去する處有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語つて言はく是の如し是の如し、汝が所說の如し、夢に見し所來去する者有りと執せば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し、當に知るべし是の人は愚癡無智なり。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如來とは卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず。如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。又た善男子、一切の如來應正等覺は一切法は夢に見る所の如く、變化事の如く、尋香城光影響像幻事陽焰の如く皆實有に非ずと說く。若し[一]是の如き諸佛所說の甚深の法義に於て實の如く知らずして如來身は是れ名是れ色、來る有り去る有りと執せば、當に知るべし、彼の人は法性に迷ふが故に、愚癡無智にして諸趣に流轉して生死の苦を受け般若波羅蜜多を遠離し亦復た一切の佛法をも遠離すと。若し是の如き諸佛所說の甚深の法義に於て能く如實に知りて佛身は是れ名是れ色と執せず。亦た佛來る有り去る有りと謂はずば、當に知るべし彼の人は佛所說の甚深の法義に於て實の如く解了し諸法來る有り去る有り生ずる有り滅する有り染する有り淨なる有りと執せずと。執せざるに由るが故に能く般若波羅蜜多を行じ亦た能く一切の佛法を勤修し則ち爲に所求の無上正等菩提に鄰近す。亦た如來の眞淨の弟子と名づく。終に[二]虛しく國人の信施を受けず能く一切の無に良福田と作り應に世間人天の供養を受くべし。

[三]復た次に善男子、(イ)大海中に諸の珍寶有るも是の如き珍寶は十方より來るに非ず亦た有情中に於て造作するに非ず、亦た此の寶は因緣無くして生ずるに非ず。然かも諸の[四]有情の善根力の故に大海の內に諸の寶有りて生ぜしむ。是の寶の生ずる時因緣力和合するに依るが故に有り、從て來る所無

【一】是の如き等。法涌に如來法身に去來なきを廣宣し、法性に迷ふ有相見佛と法性に契ふ無執とを明す。

【二】無執如法の眞弟子には虛受信施とならず應供の良福田なり。

【三】重ねて如來無去來にして緣生滅するを喩說す。(イ)海中の珍寶によりて。

【四】有情の善根力等。器世界も業報所招とすれば大海中に寶あるは有情の福德に因る。

來は卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず、如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。(ヘ)復た次に善現尋香城の物類有るを現ずるも是の如き物類は暫くにして無に還ること有るが如し。善男子、意に於て云何、是の尋香城の所有る物類は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、是の尋香城の所有る物類は皆實有に非ず、如何が從て來る所有り去りて至る所有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語りて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、尋香城の所有る物類の來去する者有りと執せば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し。當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如來とは卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず、如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。(ト)復た次に善男子、諸の如來應正等覺の變化する所の事は暫くにして無に還ること有るが如し。善男子、意に於て云何、諸の變化事は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、諸の變化事は皆實有に非ず、如何が從て來る所有り去りて至る所有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語て言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、變化事の來去する者有りと執せば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し。當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如來とは卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず。如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。(チ)復た次に善男子、人夢中に諸佛の若しは一若しは十若しは百若しは千乃至無數有るを見るも彼の夢覺め已らば見し所皆無

(ヘ) 尋香城喩。

(ト) 變化事喩。

(チ) 夢喩。

可からざればなり。夫れ如來は卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず、如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。(ニ)復た次に善男子、谷等の中に諸の響有りて現ずるも是の如き諸響は暫くにして無に還ること有るが如し。善男子、意に於て云何、是の谷等の響は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、諸の響は實に非ず、如何が來去する處有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語りて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。若し諸響の來去する者有りと執せば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し、當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如來は卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は旣に來る有り去る有りと說く可からず。如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。

卷の第四百

初分法涌菩薩品第七十八之二

(ホ)復た次に善男子、譬へば光影の種種の形相の現に動搖轉變差別有るが如し。善男子、意に於て云何、是の如き光影は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、光影は實に非ず、如何が來去する處有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語りて言はく　是の如し是の如し、汝が所說の如し。若し光影來去す者有りと執せば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し、當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如

(ニ)　響喩。

(ホ)　光影喩。

法涌菩薩、常啼に語りて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、彼の渴人愚癡無智にして熱の逼る所と僞り動ける陽焰を見、無水の中に於て妄りに水想を生ずるが如く、若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し。當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は[七]色身を以て見る可からず。夫れ如來は卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は既に來る有り去る有りと說く可からず。如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。（ロ）復た次に善男子、譬へば幻師或は彼の弟子、種種の象軍馬軍車軍步軍及び牛羊等を幻作するが如し、須臾の頃を經て忽然として現ぜず。善男子、意に於て云何、是の幻の作す所、何れより來り去りて何れの所に至るやと、常啼答へて言はく、幻事は實に非ず如何が來去する處有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語りて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、若し幻事に執して來去する者有りとせば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し、當に知るべし是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る可からざればなり。夫れ如來は卽ち是れ法身なり。善男子、如來の法身は卽ち是れ諸法の眞如法界なり。眞如法界は既に來る有り去る有りと說く可からず。如來の法身も亦復た是の如く來る無く去る無し。（ハ）復た次に善男子、鏡等の中に諸の像現ずる有り、是の如き諸像は暫くにして無に還ること有るが如し。善男子、意に於て云何、是の鏡等の像は何れより來り去りて何れの所に至ると爲すやと。常啼答へて言はく、諸像は實に非ず、如何が來る有り去る有りと說く可けんと。法涌菩薩、常啼に語りて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、若し諸像に執して來る有り去る有りとせば當に知るべし彼の人は愚癡無智なりと。若し如來應正等覺來る有り去る有りと謂ふも亦復た是の如し。當に知るべし、是の人は愚癡無智なりと。何を以ての故に、善男子、一切の如來應正等覺は色身を以て見る

【七】色身等。色身法身を佛身の二種とするは當らず、色身とか心身とかするは二相なり、色身相好を佛とするは世諦の爲のみ、かゝる二相分別を離るる法身は眞佛なり。
（ロ）幻師喩。
（ハ）鏡中像喩。

說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、法の無生性は來る無く去る無く施設す可からず、法の無生性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、法の無滅性は來る無く去る無く施設す可からず、法の無滅性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、法の如實性は來る無く去る無く施設す可からず、法の如實性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、法の遠離性は來る無く去る無く施設す可からず、法の遠離性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、法の寂靜性は來る無く去る無く施設す可からず、法の寂靜性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、無染淨界は來る無く去る無く施設す可からず、無染淨界は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、諸法の空性は來る無く去る無く施設す可からず、諸法の空性は卽ち是れ如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵なり。善男子、一切の如來應正等覺—廣說乃至—佛薄伽梵は諸法に卽するに非ず、諸法を離るゝに非ず。善男子、[三]諸法の眞如と如來の眞如とは一にして二に非ず。善男子、諸法の眞如は合するに非ず散するに非ず、唯だ一相のみ有り所謂無相なり。善男子、諸法の眞如は一に非ず二に非ず三に非ず四に非ず—廣說—乃至百千等に非ず。何を以ての故に、善男子、[四]諸法の眞如は數量を離るゝが故に、有性に非ざるが故に。

[五]復た次に善男子、譬へば人有りて[六]熱際後分に曠野に遊び日中渴乏して(イ)陽焰の動くを見て是の念を作して言はく、我れ今時に於て定めて當に水を得べしと。是の念を作し已つて遂に便ち往趣するに見し所の陽焰漸く其れを去ること遠し。卽ち之を奔逐するに轉た復た遠きを見、種種に方便して水を求むるも得ざるが如し。善男子、意に於て云何、是の焰中の水は何れの山谷泉池の中より來り今何れの所に去るや、東海に入ると爲すや、西海南北海に入ると爲す耶と。常啼答へて言はく、陽焰の中の水すら尙ほ得可からず、況や當に從て來る所有り及び至る所有りと說く可けんをやと。

【三】諸法の眞如等。眞如は實際のそのまゝを云ふ、諸法のそのままは如來のそのままなり、人と法と別つべき別物があるに非ず。
【四】諸法の眞如は數量を離る。憶想分別取相名字中に數量あるも如實にはこれあること無し。
【五】以下諸法來なきを說くに比喩を以てす。
【六】熱際後分。晩夏。
【イ】陽焰喩。[illegible]

初分法涌菩薩品第七十八之一

[一]爾の時法涌菩薩摩訶薩、常啼菩薩摩訶薩に告げて言はく、善男子、一切の[二]如來應正等覺明行圓滿善逝世間解無上丈夫調御士天人師佛薄伽梵の所有る法身は從て來る所無く亦た去る所無し。何を以ての故に、善男子、諸法の實性は皆不動なるが故なり。善男子、諸法の眞如は來る無く去る無く施設す可からず、是の如き眞如は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、諸法の法界は來る無く去る無く施設す可からず、是の如き法界は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、諸法の法性は來る無く去る無く施設す可からず、是の如き法性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、不虛妄性は來る無く去る無く施設す可からず、不虛妄性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、不變異性は來る無く去る無く施設す可からず、不變異性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、法の平等性は來る無く去る無く施設す可からず、法の平等性は卽ち是れ如來應正覺等―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、法の離性は來る無く去る無く施設す可からず、法の離生性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、諸法の定性は來る無く去る無く施設す可からず、諸法の定性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、諸法の住性は來る無く去る無く施設す可からず、諸法の住性は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵きり。善男子、諸法の實際は來る無く去る無く施設す可からず、諸法の實際は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、法の虛空界は來る無く去る無く施設す可からず、法の虛空界は卽ち是れ如來應正等覺―廣說乃至―佛薄伽梵なり。善男子、不思議界は來る無く去る無く施設す可からず、不思議界は卽ち是れ如來應正等覺―廣

【一】諸佛卽諸法を說き比喩を以てその來去無きを明す。この廣演は直行等になき所なり。
【二】如來等。佛十號なり。

慰し歡喜せしめ已つて忽然として現ぜず。我れ所證の三摩地より起つて諸佛を見ず、心に惆悵を懷いて是の思惟を作す、我れ向きに見し所の十方の諸佛は先に何れより來り今何れの所に往きたまへるならん、誰れか能く我が爲に是の如き疑を斷ぜんと。復た是の念を作す、法涌菩薩は久しく已に甚深般若波羅蜜多方便善巧を修學して已に無量の陀羅尼門及び三摩地を得、諸の菩薩の自在神通に於て已に究竟に到り、已に曾て無量の如來應正等覺を供養し、諸の佛所に於て弘誓願を發して諸の善根を種ゑ、長夜の中に於て我が善友と爲り、常に我れを攝受して利樂を獲せしむ。我れ當に疾く法涌菩薩摩訶薩の所に詣りて向に見し所の十方の諸佛先に何れより來り今何所に往けるかを問ふべし。彼れ能く我が爲に是の如き疑ひを斷ぜんと。我れ爾の時に於て是の念を作し已て勇猛精進し漸く復た東に行き荏苒たること多時、此の城邑に入り漸く復た前進して遙に大師の七寶臺に處し師子座に坐し大衆に圍遶せられて爲に說法したまふを見る。是の處に於て初めて大師を見、身心悅樂せること譬へば苾芻の忽然として第三靜慮に入るを得たるが如きが故に我れ今大師に請問す、我れ先に見し所の十方の諸佛は先に何れより來り今何れの所に往けるや。唯だ願くは我が爲に[二]彼の諸佛の所從至處を說き我れをして了知せしめたまへ、知り已らば生生常に諸佛を見たてまつらんと。

【二】彼の諸佛。法涌に諸佛の來往を問ひ、生生見佛を願ふ。

れず、内外法に於て心散亂せずして唯だ是の念をのみ作す、我れ何れの時にか當に般若波羅蜜多を聞くべき、我れ先に何が故ぞ空の聲我れに勸めて東行し去りて當に遠近の何處の所に至るべく、復た誰れに從つて甚深般若波羅蜜多を聞くかを問はざりきと。我れ是の如き愁憂啼泣に於て自ら歎恨せし時欻に我が前に於て佛像有りて現じ我れに告げて言はく、善男子、汝是の如き勇猛精進愛樂恭敬求法の心を以て此より東に行きて五百踰繕那量を過ぎなば大王城有り具妙香と名づく。中に菩薩有り、名づけて法涌と爲す。常に無量百千の有情の爲に般若波羅蜜多を宣說す。汝當に彼れに從ひて般若波羅蜜多を聞くことを得べし。又た善男子、法涌菩薩は是れ汝が長夜清淨の善友にして示現教導讚勵慶喜し、汝をして速に所求の無上正等菩提を證せしめん。法涌菩薩の過去世に於て勤苦行を以て深般若波羅蜜多を求めしも亦た汝の今之を求め方便せるが如くなりき。汝宜しく速に法涌菩薩摩訶薩の所に往くべし。疑難を生ずること勿れ、晝夜を計すること莫れ、久しからずして當に甚深般若波羅蜜多を聞くべしと。我れ時に是の如き語を聞き已つて踊躍歡喜して是の思惟を作す、何れの時にか當に法涌菩薩を見て彼れに從つて甚深般若波羅蜜多を聞くことを得、聞き已つて便ち能く永く種種虛妄の分別有所得の見を斷じて疾く無上正等菩提を證すべきと。是の念を作す時一切法に於て卽ち能く現に無障智見を起し、斯の智見に由りて卽ち現に無量殊勝の三摩地門に入ることを得たり。我れ是の如き三摩地の中に住して現に十方無量無數無邊世界の諸佛如來、諸の菩薩摩訶薩衆の爲に般若波羅蜜多を宣說したまふを見たり。時に諸の如來應正等覺咸く共に我れを讚慰慇懃教誡教授して言はく、善哉善哉、善男子、我れ等本菩薩道を行ぜし時も亦た汝の今勤苦行を以て深般若波羅蜜多を求むるが如くし、勤苦の時に於ても亦た汝の今現に是の如き諸の三摩地を得るが如く我れ等爾の時是の無量勝三摩地を得、究竟して修し已つて則ち能く甚深般若波羅蜜多方便善巧を成辦し、斯れに由りて能く一切の佛法を辦じて便ち不退轉地に住することを得たり。時に十方の佛廣く我れを教

重するが故に皆無上正等覺の心を發し〔一〇〕。是の願を作して言はく、我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に必ず如來應正等覺を成ぜんことを。我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に菩薩道を精勤修學せん時深法門に於て通達し無礙なること今の大師法涌菩薩の如くならんことを。我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に菩薩道を修學せん時能く上妙の七寶の臺閣及び餘の供具を以て般若波羅蜜多を供養すること今の大師法涌菩薩の如くならんことを。我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に菩薩道を精勤修學せん時大衆の中に處し師子座に坐して般若波羅蜜多の甚深の義理を宣說し都て畏るる所無きこと今の大師法涌菩薩の如くならんことを。我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に菩薩道を精勤修學せん時般若波羅蜜多巧方便力を成就し速に能く所求の無上正等菩提を成辦すること今の大師法涌菩薩の如くならんことを。我れ等此の殊勝の善根に由りて願くは當來世に菩薩道を精勤修學せん時勝神通變化を得て自在に無量の有情を利益安樂すること今の大師法涌菩薩の如くならんことをと。常啼菩薩及び長者女並に諸の眷屬諸の供具を持て般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養し已て雙足を頂禮し合掌恭敬し右遶三匝し却て一面に住す。

爾の時常啼菩薩摩訶薩躬を曲げ合掌して法涌菩薩摩訶薩に白して言さく、我れ常に樂ふて阿練若處に居し深般若波羅蜜多を求めしに曾て一時に於て欻然として空中に聲有るを聞く、曰く、咄善男子、汝東に行く可し。決定して甚深般若波羅蜜多を聞くことを得んと。我れ空中の是の如き敎を聞き已つて歡喜踊躍して卽便ち東に行き未だ之を久うせさる間に是の如き念を作す、我れ寧ろ彼の空中の聲に我れを遣はして東行し去りて當に遠近の何れの城邑に至るべく、復た誰れに從つて甚深般若波羅蜜多を聞くかを問はざりきと。是の念を作し已つて卽ち其の處に住し、胸を搥ち悲歎愁憂して啼泣す。七晝夜を經るも疲勞を辭せず、睡眠を念ぜず、飲食を思はず、晝夜を想はず、寒熱を怖

〔一〇〕是の願、常啼等法涌の德に化せられ發願す。

如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆を能く生じ能く攝す。若し菩薩摩訶薩能く此の中に於て精勤修學せば速に一切功德の彼岸に到り、速に能く一切の佛法を成辦し、速に能く一切智智を證得す。是の因縁に由りて我れ等此に於て諸の眷屬と恭敬供養すと。常啼菩薩聞き已て歡喜し聲に尋で復た天帝釋に問ふて言はく、是の如き所說の甚深般若波羅蜜多は今何處に在るや。我れ供養せんと欲す、唯だ願くは之を示したまへと。天帝釋言はく、大士、知るや不や。甚深般若波羅蜜多は此の臺中の七寶座上の四寶の函の內に在り、眞金を葉と爲し吠琉璃寶以て其の字を爲し、法涌菩薩七寶の印を以て自ら之を封印す。我れ等輒ち開いて相示すこと能はずと。

[九] 爾の時常啼菩薩摩訶薩及び長者女並びに其の父母侍女の五百是の語を聞き已て卽ち持てる所の花香珍寶衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明及び餘の種種の供養の具を取り分ちて二分と作し、先に一分を持て寶臺の所に詣りて般若波羅蜜多に供養し、復た一分を持て俱に共に法涌菩薩摩訶薩の所に往詣し、到り已て皆、法涌菩薩の師子座に坐し大衆に圍遶せらるるを見て、卽ち花香寶幢幡蓋衣服瓔珞伎樂燈明諸の珍寶等を以て散列して此の說法師及び所說の法に供養す。法涌菩薩威神力の故に卽ち散ずる所の種種の妙花をして虛空の中に於て其の頂上に當て欻然として合して一妙花の臺とならしめ衆寶もて莊嚴し甚だ愛樂す可し。復た散ずる所の妙香をして虛空の中に於て花臺の上に當て欻然として合して一妙香臺を成ぜしめ種種の珍寶而かも爲に嚴飾し、復た散ずる所の諸の妙寶衣、虛空の中に於て香蓋の上に當て欻然として合して一妙寶帳を成ず。亦た衆寶を以て間飾し莊嚴す。餘の散列する所の寶幢幡蓋伎樂燈明諸の瓔珞等自然に涌きて臺帳蓋の邊に在り周匝莊嚴し妙巧に安布す。常啼菩薩長者女等是の事を見已て歡喜踊躍し異口同音に皆共に法涌菩薩摩訶薩を稱歎して言はく、今我が大師は甚だ爲れ希有なり、能く是の如き大威神力を現ず。菩薩爲る時尙ほ能く是の如し。況んや無上正等菩提を得んをやと。是の時常啼及び長者女並に諸の眷屬深心に法涌菩薩摩訶薩を愛

【九】常啼等法涌菩薩所現の奇瑞を見、何れもその威神力を得んことを作願す。

車輪の如くにして水に映蔽す。其の華は皆七寶を以て成る所なり。諸の池苑の中に多く衆鳥有り、音聲相和し聚散して遨遊し、漸く復た前行せば卽便ち遙に見ゆ。法涌菩薩摩訶薩正しく七寶臺に處して師子座に坐し無量無數百千倶胝那庾多衆に前後圍遶せられて爲に法を說く。

爾の時常啼菩薩摩訶薩最初に法涌菩薩摩訶薩を遙見せしが故に身心悅樂すること譬へば苾芻の念を一境に繫け忽然として第三靜慮に入るを得たるが如し既に遙見し已て是の念言を作さく、我れ等車に乘りて法涌菩薩摩訶薩の所に趣くべからずと。是の念を作し已て卽便ち車より下りて衣服を整理す。時に長者女及び彼の父母侍女の五百も亦た皆車より下り、各上妙衆寶の衣服を以て其の身を嚴飾し、諸の供具を持て恭敬して常啼菩薩を圍遶し徐ろに行きて法涌菩薩摩訶薩の所に趣く。其の路邊に法涌菩薩の營む所の七寶の大般若臺有り、赤栴檀を以て而かも爲に塗飾し寶の鈴鐸を懸けて微妙の音を出し、周匝に皆眞珠の[六]羅網を垂れ、臺の四角に於て四寶珠を懸け以て燈明と爲して晝夜常に照らす。寶臺の四面に四香爐有り白銀の所成にして衆寶もて嚴飾し、恒時燒くに黑沈水香を以てし、衆の妙花を散じて供養を爲す。臺中に座有り七寶の所成なり。其の上に重ねて茵褥綺帊を敷けり。斯の座上に於て復た一函有り、四寶もて合成し莊嚴綺麗なり。一に金、二に銀、三吠琉璃、四に帝青寶なり。[七]眞金葉上に琉璃汁を鎖き書くに般若波羅蜜多を以てし、此の函の中に置きて恒時に封印す。臺中の處處に寶の幡花を懸け間飾莊嚴して甚だ愛樂す可し。常啼菩薩長者女等、此の寶臺の莊嚴殊妙なるを見て合掌供敬して未曾有なりと歎じ、復た帝釋と其の無量百千の天衆と寶臺の邊りに在り天の種種上妙の香末及び衆寶屑、微妙の香花金銀花等を持て寶臺の上に散じ虛空の中に於て天の伎樂を奏するを見る。[八]常啼菩薩是の事を見已て帝釋に問ふて言はく、何に緣りて天主と諸の天衆と此の臺を供養するやと。天帝釋曰はく、大士、今豈に知らざる耶、此の臺の中に無上の法有り、深般若波羅蜜多を名づく。是れ諸の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩の母にして一切の

【六】羅網。寶珠を連ねて網の如くなせる莊嚴具。

【七】眞金葉上に琉璃汁等。般若經を金葉琉璃寶液にて書ける寶典。

【八】帝釋常啼の間に答へて寶台を供養する所以を明す。

れ等云何が隨喜を生ぜざらん。今汝の去るを聽るし、我れ等も亦た汝と相隨はんと欲す。汝歡喜するや不やと。女卽ち白して言さく、我れ尙ほ餘人の善法すら礙げず、況や父母をやと。父母報へて言はく、汝應に供具を嚴辦し侍從して速に當に共に往くべしと。時に長者女卽便ち五百の乘車を營辦し七寶もて嚴飾し、亦た五百の常隨の侍女をして恣意に各衆寶を取りて嚴身し復た金銀吠琉璃寶頗胝迦寶志尼眞珠帝靑大靑螺貝壁玉珊瑚琥珀杵藏石藏及び餘の無量異類の珍財、種種の花香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂 [五]蘇油上妙の珍財各無量種並びに餘の種種上妙の供具を取らしむ。其の女旣に是の如きの事を辦じ已て恭敬し啓請し常啼菩薩は一車に前乘し、身及び父母侍女五百は各一車に乘り、圍遶して常啼菩薩に侍從し漸漸に東に去りて妙香城に至る。城を見るに高廣にして七寶もて成就せり。其の城外に於て周匝に皆七寶所成の七重の垣牆、七重の樓觀、七重の欄楯、七重の寶塹、七重行列の寶多羅樹有り。是の垣牆等互に相間飾して種種の光を發して甚だ愛樂す可し。

此の大寶城の面各十二踰繕那量にして淸淨寬廣、人物熾盛にして安隱豐樂なり。中に五百の街巷市鄽有り度量相當にして端嚴なること畫の如し。諸の衢陌に於て各淸流有り、亘るに寶舫を以てし往來するに擁無く、一一の街巷淸淨に嚴飾し灑ぐに香水を以てし布くに名花を以てす。鎣るに衆珍を以てし光明輝煥す。雉堞の間に於て厠ふるに寶樹を以てし、是の一一の樹の根莖枝葉及以び花果皆別の寶もて成り、城垣樓閣及び諸の寶樹覆ふに金網を以てし連ぬるに寶繩を以てし、懸くるに金鈴を以てし綴るに寶鐸を以てし、微風吹動して和雅の音を發す。譬へば善く五支の諸樂を奏するが如し。城外に周匝せる七重の寶塹は八功德水其の中に彌滿し冷暖調和し淸澄皎鏡なり。水中處處に七寶の船有りて間飾莊嚴し衆の見んと樂ふ所なり。諸の塹水內には衆の妙華を具し、色香鮮郁し遍ねく水上を覆ふ。五百の苑有りて大城を周寰し、種種の莊嚴甚だ憙樂す可し。一一の苑內に五百の池有り、其の池縱廣一俱盧舍にして七寶もて莊飾し衆の心を悅可す。諸の池內に於て四色の花有り量

【五】蘇油。牛乳より作る油、食用或は塗身用に供す。

何ん、我れ若し十方の諸佛に啓告して誠諦の言を發さん、今自ら身を賣るは實に法を慕ふが爲なり、諂詐を懷いて世間を誑惑せずと。此の因緣に由りて定めて無上正等菩提に於て退轉せざる者は我が身形をして平復すること故の如くならしむればなり。此の言未だ訖らざるに自ら能く我れをして平復して故の如くならしむ。豈に天威を假らんやと。天帝釋言はく是の如し是の如し、佛の神力は不可思議なり菩薩の至誠何事か辦ぜざらん。然かも我れに由るが故に大士の身を損せり。唯だ願くは慈悲して斯の事を許辦せんことをと。時に彼の大士帝釋に告げて言はく、既に爾く慇懃なり當に汝が意に隨ふべしと。時に天帝釋卽ち天威を現じ彼の身形をして平復して故の如くならしめ、乃至少分の瘡瘢をも見ず、形貌端嚴なること往日に過ぐ。愧謝し右遶し忽然として現ぜず。我れ既に彼の希有の事を見て轉た愛敬を增し合掌して白して言さく、願はくは慈悲を降して暫らく我が宅に臨み、甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養するに須ふる所の供養の具、爲に父母に白さば一切當に得べし。我れ及び侍從も亦た父母を辭し大士に隨て具妙香城に往かん、甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが爲の故にと。今彼の大士、我が至誠を以て所願を遺さず來りて門首に至れり。唯だ願くは父母多く珍財を與へ及び我が身並びに先に我れに事へし五百の侍女の諸の供具を持て咸く當に常啼菩薩に隨從して妙香城に往きて甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を禮敬し供養せんことを許したまへ、所說の諸の佛法を得んが爲の故にと。

【四】爾の時父母、女の所說を聞きて歡喜踊躍して未曾有なりと歎じ便ち女に告げて言はく、汝が所說の如き常啼菩薩は甚だ爲れ希有なり。能く是の如き大功德の鎧を擐、勇猛精進して諸の佛法を求む。求むる所の佛法は微妙最勝廣大清淨にして思議す可からず。能く世間の諸の有情類を引きて殊勝の利益安樂を獲せしめん。汝是の法に於て既に深く愛重し、善友に隨て諸の供具を持て妙香城に往き般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を供養せんと欲す、諸の佛法を證得せんと欲するが爲の故に。我

【四】長者女父母の許諾を得、常啼に隨ひて般若及び法涌菩薩を供養するを明す。

をも棄捨すべし、況んや唯だ一を捨つるのみなるをや。所以は何ん、若し是の如き微妙の功德を得ば則ち能く一切の有情を利樂すればなり。大士の家貧なるに尙ほ是の如き微妙の功德の爲には身命をすら惜しまず、況んや我が家富みて多く珍財有るに是の功德の爲に而かも棄捨せざらんをや。大士今復た自ら害すること勿るべし、須ふる所の供具盡く當に相與ふべし、所謂金銀吠琉璃寶頗胝迦寶末尼眞珠杵藏石藏螺貝璧玉帝青大青珊瑚琥珀及び餘の無量異類の珍財、花香瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明車乘衣服並びに餘の種種上妙の供具、持て甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養す可し。唯だ願くは大士、復た自ら害すること勿れ。我が身も亦た願くは大士に隨て法涌菩薩摩訶薩の所に往きて倶時に瞻仰し共に善根を植ゑんことを。所說の諸の佛法を得んが爲の故にと。時に天帝釋即ち本形に復し彼れの前に在りて住し躬を曲げ合掌して讚めて言はく、大士、善哉善哉、法の爲に至誠堅固なること乃ち爾り。過去の諸佛の菩薩爲りし時も亦た大士の如く堅固の願を以て深般若波羅蜜多方便善巧を求め、菩薩の所學、所乘、所行、所作を請問して心に厭倦無く有情を成熟し佛土を嚴淨して已に無上正等菩提を證せり。大士、當に知るべし、此れ實には人血心髓を用ひず、但だ來りて相試みしのみ。今何をか願ふ所なる、我れ當に相與へ以て輕觸損惱の愆に酬ゆべしと。彼れ卽ち報へて言はく、我れ本願ふ所は唯だ無上正等菩提有るのみ。天主頗し能く斯の願を與ふるや不やと。時に天帝釋赧然として愧づる有りて彼れに白して言さく、此れは我が力に非ず、唯だ諸佛大聖法王の法に於て自在なる有りて能く斯の願を與ふのみ。大士、今應に無上覺を除きて更に餘の願を求むべし、我れ當に之を與ふべしと。彼れ便ち報へて曰はく、甚深般若波羅蜜多も亦た我が願ふ所なり、頗し能く惠むや不やと。時に天帝釋倍す復た慚を生じて彼れに白して言さく、我れ此の願に於ても亦た與ふること能はず、然かも我れ力有り大士の身をして平復して故の如くならしめん、斯の願を用ふるや不やと。彼れ復た報へて言はく、是の如き所願は自ら能く滿足して天主を勞する無し。所以は

仁の買ふ所の者は我れ悉く能く賣らんと。婆羅門言はく、幾ばくの價直を須つやと。大士報へて曰はく、意に隨て相酬ゐよと。大士爾の時是の語を作し已て卽ち右手を申して利刀を執取り、己が左臂を刺して其の血を出さしめ、復た右髀の皮肉を割きて地に置き、骨を破り髓を出して婆羅門に與へ、復た牆邊に趣きて心を剖きて出さんと欲す。我れ高閣に在りて遙に是の事を見て是の念言を作さく、此の善男子は何の因緣の故に其の身を困苦するや、我れ當に之を問ふべしと。念じ已て閣より下り大士の所に到て是の問ひを作して言はく、汝何の因緣によりて先に自ら賣らんと唱へ、今血髓を出し復た心を剖かんと欲するやと。彼れ我れに答へて言はく、姉よ知らざる耶、我れ甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養せんと爲るも然かも我貧乏にして諸の財寶無し、法を愛重するが故に先に自ら身を賣るも相買ふ者無し。今三事を賣りて婆羅門に與ふと。我れ時に問ふて言はく、汝今自ら身血心髓を賣りて價直を持て般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養せんと欲し當に何等の功德勝利をか獲べきと。彼れ我れに答へて言はく、法涌菩薩は甚深の法に於て已に自在を得たり、當に我が爲に甚深般若波羅蜜多方便善巧、菩薩の所學、菩薩の所乘、菩薩の所行、菩薩の所作を說くべし。我れ聞くことを得已て說の如く修行せば有情を成熟し佛土を嚴淨し速に無上正等菩提を證し金色身を得、三十二大丈夫相を具し八十隨好圓滿莊嚴し、常光一尋餘光無量にして佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法、無忘失法恒住捨性、五淨眼六神通、不可思議淸淨の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊、無障智見、無上智見、一切智道相智一切相智を得、一切の無上法寶を具足し分ち布施して一切の有情に與へ、諸の有情の與に依止する所と作らん。我れ身命を捨てて爲に彼れを供養せば當に此れ等の功德勝利を獲べしと。我れ時に是の如き殊勝不可思議微妙の佛法を分說せるに歡喜踊躍して身毛皆竪ち恭敬合掌して彼れに白して言さく、大士の所說は第一廣大最勝微妙にして甚だ爲に希有なり。是の如き一一の佛法を獲んが爲には尙ほ殑伽沙の如き重ずる所の身命

是の時常啼彼の所願に隨ひて倶に其の舍に到り門外に在りて止る。時に長者女卽ち其の舍に入りて父母に白して言さく、願はくは多く我が家中の所有る上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂蘇油末尼眞珠吠琉璃寶頗胝迦賓珊瑚琥珀螺貝璧玉杵藏石藏帝青大青幷びに金銀等種種の供具を與へんことを。亦た我が身及び先に我れに事へし五百の侍女の諸の供具を持て皆當に常啼菩薩に隨從して妙香城に往かんことを聽したまへ、甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養せんと欲するが爲に。彼れ當に我が爲に法要を宣說すべし、我れ聞くことを得已て說の如く修行せば定めて無邊微妙の佛法を獲んと。時に彼の父母聞き已て驚駭し卽ち女に問ふて言はく、常啼菩薩は今何處に在すや、是れ何等の人なるやと。女卽ち白して言さく、今門外に在す、彼れは是れ大士なり。一切有情を生死の苦より度脫せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を勤求す。又た彼の大士は正法を愛重して身命を惜しまず。菩薩の學する所の甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが爲の故に此の城中に入りて處處に巡環し高聲に唱へて曰はく、我れ今自ら賣らん、誰れか人を買はんと欲する、我れ今自ら賣らん、誰れか人を買はんと欲すると。久時を經て身を賣るに售れず、愁憂苦惱して一處に在りて立ち[三]涕涙して言はく、我れ何の罪有りてか甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが爲の故に自ら身を賣ると雖も而かも買う者無きと。時に天帝釋爲に試驗せんと欲して卽ち自ら少婆羅門を化作し來りて其の前に至り問うて言はく、汝何すれぞ此に住し憂悲して樂まざると。時に彼の大士答へて言はく、儒童、我れ甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を供養せんと爲るも然かも我れ貧乏にして諸の財寶無し。法を愛重するが故に自ら身を賣らんと欲するも遍ねく此の城中に相問ふ者無し。自ら薄福を惟ひ此に住して憂悲すと。時に婆羅門、大士に語て曰はく、我れ今正に天を祠らんと欲す、人身を用ひずして但だ人血人髓人心を須ふるのみ、頗し能く賣るや不やと。大士聞き已て歡喜踊躍し柔軟の語を以て婆羅門に報ふらく、

【三】涕涙して言はく、より以下說明文として前文を繰返す。

だ來りて相試みしのみ。今何をか願ふ所なる。我れ當に相與へて以て輕觸損惱の愆に酬ひんと。常啼報へて言はく、我れ本願ふ所は唯だ無上正等菩提有るのみ、天主頗し能く斯の願を與ふや不やと。時に天帝釋赧然として愧ち有り常啼に白して言さく、此れは我が力に非ず唯だ諸佛大聖法王の法に於て自在なる有りて能く斯の願を與ふるのみ。大士、今應に無上覺を除きて更に餘の願を求むべくんば我れ當に之を與ふべしと。常啼報へて曰はく、甚深般若波羅蜜多も亦た我が願ふ所なり、頗し能く惠むや不やと。時に天帝釋倍す復た慚を生じ常啼に白して言さく、我れ此の願に於ても亦た與ふること能はず、然かも我れ力有り大士の身をして平復して故の如くならしめん、斯の願を用ふるや不やと。常啼報へて言はく、是の如き所願は自ら能く滿足して天主を勞する無し。所以は何ん、我れ若し十方の諸佛に啓告して誠諦の言を發さん、今自ら身を賣るは實に法を慕ふが爲なり諂詐を懷いて世間を誑惑せずと。此の因緣に由りて定めて無上正等菩提に於て退轉せざる者は我が身形をして平復すること故の如くならしむればなり。此の言未だ訖らざるに自ら能く我れをして平復して故の如くならしむ、豈に天威を假らんやと。天帝釋言はく、是の如し是の如し、佛の神力は思議す可からず、菩薩の至誠何事か辦ぜざらん、然かも我れに由るが故に大士の身を損せり、唯だ願くは慈悲して斯の事を許辦せんことをと。常啼菩薩便ち彼れに告げて言はく、既に爾く慇懃なり當に汝が意に隨ふべしと。時に天帝釋卽ち天威を現じ常啼の身をして平復して故の如くならしめ、乃至少分の瘡痕をも見ず形貌端嚴なること往日に過ぐ。愧謝し右遶して忽然として現ぜず。

[二]爾の時長者女、常啼菩薩の希有の事を見て轉た愛重を增し、恭敬合掌して常啼に白して言さく、願はくは慈悲を降して暫く我が宅に臨み、甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養するに須ふる所の上妙の供具、爲に父母に白せば一切當に得べし。我れ及び侍從も亦た父母を辭し、大士に隨て具妙香城に往かん、甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが爲の故にと。

【二】長者女常啼を父母の許に伴ひて財物を與へ、自ら侍女と共に常啼に隨ひて法涌菩薩の許に至らん事を乞ふ。

見を具し、一切智道相智一切相智を得、一切の無上法寶を具足し、分ち布施して一切有情に與へ、諸の有情の與に依止する所と作らん、我れ身命を捨てて彼れに供養を爲すなり、當に此れ等の功德勝利を獲べしと。時に長者女、殊勝不可思議微妙の佛法を說くを聞きて歡喜踊躍し身毛皆竪ち恭敬合掌して常啼に白して言さく、大士の說く所は第一廣大最勝微妙にして甚だ爲れ希有なり。是の如き一一の佛法を獲んが爲には尙ほ殑伽沙の如き重んずる所の身命をも棄捨すべし、況んや唯だ一を捨てんのみをや。所以は何ん、若し是の如き微妙の功德を得ば則ち能く一切の有情を利樂すればなり。大士の家貧しきにすら尙ほ是の如き微妙の功德を爲し身命を惜しまず、況んや我が家の富みて多く珍財有るに是の功德の爲に而かも棄捨せざらんをや。大士今應に復た自ら害すること勿るべし、須つ所の供具、盡く當に相與ふべし、所謂金銀吠琉璃寶頗胝迦寶末尼眞珠杵藏石藏螺貝璧玉帝青大青珊瑚虎珀及び餘の無量異類の珍財花香瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明車乘衣服、幷びに餘の種種上妙の供具持て甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養す可し。唯だ願くは大士復た自ら害すること勿らんことを。我が身も亦た願くは大士に隨て法涌菩薩摩訶薩の所に往きて倶時に瞻仰して共に善根を植ゑんことを。所說の諸佛法を得んが爲の故にと。

卷の第三百九十九

初分常啼菩薩品第七十七之二

[一]時に天帝釋即ち本形に復し常啼の前に在り躬を曲げて立ち大士を讚めて言はく、善哉善哉、法の爲に至誠堅固なること乃ち爾り、過去の諸佛の菩薩爲りし時も亦た大士の如く堅固の願を以て深般若波羅蜜多方便善巧を求め菩薩の所學、所乘、所行、所作を請問して心厭倦無く有情を成熟し佛土を嚴淨して已に無上正等菩提を證せり。大士、當に知るべし、我れ實には人の血心髓を用ひず、但

【一】帝釋常啼の身を平復せしむ。

るも人身を用ひず但だ人血人髓人心を須つのみ、頗し能く賣るや不やと。常啼菩薩聞き已て念言すらく、我れ今定めて勝利を獲たり。所以は何ん、彼の買はんと欲する者我れ皆具有すればなり。斯の價直に由りて當に甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を供養することを得、我れをして甚深般若波羅蜜多方便善巧を具足して疾く無上正等菩提を證せしむべしと。是の念を作す時歡喜踊躍し柔軟の語を以て婆羅門に報ふらく、仁の買ふ者我れ悉く能く賣らんと。婆羅門言はく、幾價直を須つやと。常啼報へて曰はく、意に隨て相酬ひよと爾の時常啼是の語を作し已て卽ち右手を申べて利刀を執取り己が左臂に刺して其の血を出さしめ、復た右髀の皮肉を割きて地に置き、骨を破りて髓を出し婆羅門に與へ、復た牆邊に趣き心を剖きて出さんと欲す。[二七]長者女有り高閣に處して先に常啼の聲を揚げて自ら賣るを見、後時に復た自ら其の身を害するを見て是の念言を作さく、此の善男子は何の因緣の故に其の身を困苦する、我れ當に之を問ふべしと。念じ已て閣より下りて常啼の所に到り是の問ひを作して言はく、汝何の因緣によりて先に唱へて自ら賣り、今血髓を出し復心を剖かんと欲するやと。常啼報へて曰はく、姉よ知らざる耶、我れ甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養を爲す。然かも我れ貧乏にして諸の財寶無く、法を愛重するが故に先に自ら身を賣るも相買ふ者無く、今[二八]三事を賣りて婆羅門に與ふと。長者女言はく、汝今自ら身血心髓を賣り價直を持て般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養せんと欲し當に何等の功德勝利をか獲べきと。常啼答へて言はく、法涌菩薩は甚深の法に於て已に自在を得、當に我が爲に甚深般若波羅蜜多方便善巧、菩薩の所學、菩薩の所乘、菩薩の所行、菩薩の所作を說くべし。我れ聞くことを得已て說の如く修行し有情を成熟し佛土を嚴淨し速に無上正等菩提を證して金色身を得、三十二大丈夫相を具し八十隨好圓滿莊嚴し常光一尋餘光無量にして佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法、無忘失法恒住捨性、五淨眼六神通、不可思議淸淨の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊、無障智見無上智

【二七】長者女による下文の因緣廣說は小品道行になり。

【二八】三事。人血人髓人心なり。

隱豐樂なるに至る。常啼菩薩市肆の中に入り處處に巡環し高聲に唱へて言はく、我れ今自ら賣らん誰れか人を買はんと欲する、我れ今自ら賣らん誰れか人を買はんと欲すると。是の時惡魔此の事を見已て便ち是の念を作さく、常啼菩薩は法を愛重するが故に自ら身を賣らんと欲すと。謂ゆる甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが爲の故に斯れに因て當に理の如く甚深般若波羅蜜多方便善巧を請問することを得べしと。謂ゆる是の問ひを作す、云何が菩薩は方便して甚深般若波羅蜜多を修行し速に無上正善菩提を證するやと。是の問ひを作し已らば法涌菩薩當に爲に甚深の法要を宣說して多聞を得せしむること猶ほ大海の魔及び眷屬の壞すること能はざる所なるが如く漸く能く一切の功德を圓滿し斯れに因て諸の有情類を饒益して無上正等菩提を得せしめ、彼れ復た能く諸の有情類をして無上正等菩提を證得し展轉相承して我が境界を空ぜしむべし。我れ當に方便して其の聲を隱蔽し此の城中の長者居士婆羅門等をして咸く聞く能はざらしむべし。唯だ城中の一長者女の宿善根力によりて魔の蔽ふ能はざるをば除く。常啼菩薩是の因緣に由りて久時を經て身を賣るに售れず、愁憂苦惱し一處に在りて立ち涕淚して言はく、我れ何の罪有りてか甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩摩訶薩を供養せんと欲するが故に自ら身を賣ると雖も而かも買ふ者無きと。[二五]時に天帝釋見已て念言すらく、此の善男子は甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を供養せんが爲に法を愛重するを以ての故に自ら其の身を賣る、我れ當に之を試むべし、實に法を慕うと爲すや、諂詐を懷いて世間を誑惑すと爲すやと。是の如く念じ已て卽ち自ら少婆羅門を化作し常啼の所に詣り問ふて言はく、男子、汝今何に緣りて佇立し悲涕愁憂して樂しまざるやと。常啼菩薩答へて言はく、[二六]儒童、我れ甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養を爲すに然かも我れ貧乏にして諸の財寶無く、法を愛重するが故に自ら身を賣らんと欲するも遍ねく此の城中に相問ふ者無く、自ら薄福を惟ひ此に住して憂悲すと。時に婆羅門、常啼に語て曰はく、我れ今正に天を祠らんと欲す

【二五】帝釋、常啼を試して其の眞實求法心に隨喜し、一長者女も亦感動隨喜するを明す。

【二六】儒童、婆羅門の少壯學徒なり。

に十方の佛方便して常啼菩薩を讚慰し教誡教授し歡喜せしめ已て忽然として現ぜず。

[二三]爾の時常啼菩薩摩訶薩、現に證する所の三摩地より起ちて諸佛を見ず、心に惆悵を懷きて是の思惟を作す、我れ向に見し所の諸佛は先に何れより來り今何所にか往ける。誰れか能く我が爲に是の如きの疑を斷ぜんと。復た是の念を作さく、法涌菩薩は久しく已に甚深般若波羅蜜多を修學し方便善巧して已に無量の陀羅尼門及び三摩地を得、諸の菩薩の自在神通に於て已に究竟に到り、已に曾て無量の如來應正等覺を供養し、諸佛の所に於て弘誓願を發して諸の善根を種ゑ、長夜の中に於て我が善友と爲り、常に我れを攝受して利樂を獲せしむ。我れ當に疾く法涌菩薩摩訶薩の所に詣りて向に見し所の十方の諸佛、先に何れより來り今何所に往けるかを問はん、彼れは能く我が爲に是の如き疑を斷ぜんと。善現、當に知るべし、是の時常啼菩薩摩訶薩此の念を作し已て便ち法涌菩薩摩訶薩の所に於て轉た愛敬清淨の心を增し、復た[二四]是の念を作さく、我れ今法涌菩薩摩訶薩の所に詣らんと欲す、當に何物を以てか供養を爲すべき、然かも我れ貧匱にして花香澤香散香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明摩尼眞珠吠琉璃寶頗胝迦寶金銀珊瑚螺貝璧玉及び餘の種種上妙の供具の以て甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩を供養す可き有ること無し。

我れ定めて空爾として法涌菩薩摩訶薩の所に詣るべからず。我れ若し空しく往かば自ら喜び生ぜず、何を以てか至誠に法を求むるを表知せん。我れ今に於て應に自ら身を賣りて以て價直を求め持て用て甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養すべし。何を以ての故に、我れ長夜諸界の趣生に於て虛しく無邊の身命を喪ひ壞滅し、無始より生死して欲の因緣の爲に諸の地獄に墮し無量の苦を受く。未だ是の如き妙法及び說法師を供養せんが爲に自ら身命を捨てず。故に我れ今定めて應に身を賣りて以て財物を求め持て用て甚深般若波羅蜜多及び說法師法涌菩薩に供養すべしと。

爾の時常啼菩薩摩訶薩是の念を作し已て漸次に東に行き一大城の寬廣嚴淨にして諸の人衆多く安

【二三】常啼菩薩三昧より出でて愛敬清淨心增長するを明す。

【二四】是の念。常啼菩薩般若の爲に法涌菩薩を供養せんと欲するも無財なり、仍て身を賣りて之が財を得んと念願するなり。

じ便ち不退轉地に住することを得たり。我れ等此の諸の三摩地を觀ずるに稟くる所の自性入る無く出づる無く、亦た法の能く入出する者を見ず、亦た此の能く菩薩摩訶薩行を修するを見ず、亦た此の能く無上正等菩提を證するを見ず。我れ等爾の時諸法に於て執する所無きを以ての故に卽ち般若波羅蜜多と名づく。我れ等此の無所執に住するが故に便ち能く眞金色身の常光一尋にして三十二大丈夫相を具し八十隨好圓滿莊嚴せるを獲得し、又た能く不可思議の無上佛智、無上佛戒、無上佛定、無上佛慧を證得し、一切の功德波羅蜜多圓滿せざる無し。能く一切の功德波羅蜜多を圓滿するを以て佛すら尚ほ量を取つて盡して說くこと能はず、況や諸の聲聞及び獨覺等をや。是を以ての故に善男子、汝此の法に於て倍す應に共敬愛樂し勤求して暫くも捨つるを得ること無かるべし。若し此の法に於て倍す恭敬愛樂を生じ勤求して能く暫くも捨てずんば便ち無上正等菩提に於て證得す可きこと易し。又た善男子、汝善友に於て應に常に恭敬愛樂し勤求して諸佛の如き想をすべし。何を以ての故に、善男子、若し菩薩摩訶薩常に善友の攝護する所と爲らば疾く無上正等菩提を得ればなりと。是の時常啼菩薩摩訶薩卽ち十方の諸佛に白して言さく、何等をか名づけて我れの善友と爲し、我れ當に親近し恭敬供養すべきと。十方の諸佛、常啼に告げて言はく、法涌菩薩摩訶薩有り是れ汝が長夜眞淨の善友にして能く汝を攝護し、汝をして所求の無上正等菩提を成熟せしめ、亦た汝をして甚深般若波羅蜜多方便善巧を學せしめん。彼れ能く長夜に汝を攝益するが故に是れ汝が善友なり。汝應に親近して共敬供養すべし。又た善男子、汝若しは一劫若しは二若しは三是の如く乃至若しは百千劫、或は復た是れを過ぎて法涌菩薩を恭敬頂戴し、復た一切上妙の樂具乃至三千大千世界の所有る妙色聲香味觸を以て盡く以て供養するも未だ彼の須臾の恩にも報ゆること能はず。何を以ての故に、善男子、汝法涌菩薩の威力に因りて現に是の如き無量勝妙の三摩地門を得、又た當に彼れに因りて汝をして甚深般若波羅蜜多方便善巧を獲得して疾く無上正等菩提を證せしむべければなりと。時

妄の有所得の見を斷じて疾く無上正等菩提を證すべきと。善現當に知るべし、常啼菩薩即ち此の處に住して是の念を作す時一切法の中に於て無障の智見を起す。斯の智見に由りて卽ち能く現に無量殊勝の三摩地門に入る。所謂觀一切法自性三摩地、於一切法自性無所得三摩地、破一切法無智三摩地、得一切法無差別三摩地、見一切法無變異三摩地、能照一切法三摩地、於一切法離闇三摩地、得一切法無別意趣三摩地、知一切法都無所得三摩地、散一切花三摩地、引發一切法無我三摩地、離幻三摩地、引發鏡像照明三摩地、引發一切有情語言三摩地、令一切有情歡喜三摩地、善隨順一切有情語言三摩地、引發種種語言文句三摩地、無怖無斷三摩地、能說一切法本性不可說三摩地、得無礙解脫三摩地、遠離一切塵三摩地、名句文詞善巧三摩地、於一切法起勝觀三摩地、得一切法無礙際三摩地、如虛空三摩地、金剛喩三摩地、雖現行色而無所犯三摩地、得勝三摩地、得無退眼三摩地、出法界三摩地、安慰調伏三摩地、師子奮迅欠呿哮吼三摩地、映奪一切有情三摩地、遠離一切垢三摩地、於一切法得無染三摩地、蓮花莊嚴三摩地、斷一切疑三摩地、隨順一切堅固三摩地、出一切法三摩地、得神通力無畏三摩地、現前通達一切法三摩地、壞一切法師三摩地、現一切法無差別摩三地、離一切見稠林三摩地、離一切闇三摩地、離一切相三摩地、脫一切著三摩地、離一切懈怠三摩地、得深法明三摩地、如妙高山三摩地、不可引奪三摩地、摧伏一切魔軍三摩地、不著三界三摩地、引發一切殊勝光明三摩地、是の如く乃至現見諸佛三摩地なり。常啼菩薩は是の如き三摩地の中に安住して現に十方無量無數無邊世界の諸佛如來を見、諸の菩薩摩訶薩衆の爲に般若波羅蜜多を宣說する時[三]諸の如來應正等覺咸共に常啼菩薩摩訶薩を讚慰教誡教授して言はく、善哉善哉、善男子、我れ等本菩薩の道を行ぜし時も亦た汝が今勤苦行を以て深般若波羅蜜多を求むるが如くせり。勤求の時に於ても亦た汝が今現に是の如き諸の三摩地を得るが如くせり。我れ等爾の時是の無量の勝三摩地を得て究竟し修し已つて則ち能く甚深般若波羅蜜多を成辦し、方便善巧して斯れに由りて能く一切の佛法を辦

【三】諸佛常啼を讚慰教誡し般若を信受せしむ。

帶を垂れ妙香花を散ず。其の座高廣にして半倶盧舍なり。上空の中に於て張るに綺幔を以てし、內に珠帳の座の大小に稱へるを施し、諸の花纓を垂れ懸くるに金鐸を以てし、敬法の爲の故に座の四邊に於て五色の花を散じ、無價の香を燒き、復た種種の澤香末香を以て其の地に塗散し、衆多の寶幢幡蓋を羅列す。法涌菩薩時時中に於て此の寶座に昇りて衆の爲に甚深般若波羅蜜多を宣說す。每に說法する時皆無量の天龍藥叉健達縛阿素洛掲路荼緊捺洛莫呼洛伽人非人等倶に會に來集して法涌菩薩を恭敬供養す。般若波羅蜜多を聽受する時諸の大衆旣に法を聞き已て[一九]誦持する者有り、書寫する者有り、[二〇]轉讀する者有り、思惟する者有り、說の如く行ずる者有り、他を開悟する者有り。是の因緣に由りて彼の有情類は諸の惡趣に於て不墮法を得及び無上正等菩提に於て永く退轉せず。汝善男子、應に勤め精進して速に疾く法涌菩薩摩訶薩の所に往詣すべし、當に汝をして所求の般若波羅蜜多を聞かしむべし。又た善男子、法涌菩薩は是れ汝の長夜眞淨の善友にして示現教導讃勵慶喜し、汝をして速に所求の無上正等菩提を證せしむ。法涌菩薩の過去世に於て勤苦行を以て深般若波羅蜜多を求めしも亦た汝が今之を求め方便せるが如くせり。汝宜しく速に法涌菩薩摩訶薩の所に往くべし。疑難を生ずること勿れ、晝夜を計ること莫れ、久しからずして當に甚深般若波羅蜜多を聞くべしと。

[二一]爾の時常啼菩薩摩訶薩是の語を聞き已て心に適悅を生じ踊躍歡喜して是の思惟を作す、何れの時にか當に法涌菩薩を見て彼れに從て甚深般若波羅蜜多を聞くことを得べきと。善現當に知るべし、譬へば人有り遇ま毒箭に中り、苦の切る所と爲りて更に餘想無く但だ是の念のみを作すが如し、我れ何れの時にか良醫に遇ふことを得て爲に此の箭を拔きて斯の苦を免るるを得んと。常啼菩薩も亦復た是の如し、爾の時に當て更に餘想無く但だ是の念を作すのみ。我れ何れの時にか當に法涌菩薩摩訶薩を見て親近し供養して般若波羅蜜多を聞くことを得、聞き已て便ち能く永く種種虛

【一九】誦。文書を離れて暗記せるなり。
【二〇】轉讀。文書を繙き讀むなり。
【二一】常啼菩薩法涌菩薩に般若を聞くべきを知り、歡喜し往求するを明す。

る所無し。彼の有情類は長夜に甚深般若波羅蜜多を修行し、深法門に於て皆信樂を生ず。宿世に共に是の如き勝業を造るが故に今時に於て同じく斯の果を受く。又た善男子、妙香城の中に高勝の處有り、是れ[一六]法涌菩薩摩訶薩の住する所の宮なり。其の宮縱廣一踰繕那にして衆寶もて莊嚴し奇妙にして愛す可し。宮外には七寶の垣牆、七重の樓閣、七重の欄楯、七重の寶塹、七重行列の寶多羅樹を周匝し、是の垣牆等綺飾もて莊嚴し甚だ愛樂す可し。四妙苑有りて此の宮を周環す、一を常喜と名づけ、二を離憂と名づけ、三を華嚴と名づけ、四を香飾と名づく。一一の苑內に各八池有り、一を賢善と名づけ、二を賢上と名づけ、三を歡喜と名づけ、四を喜上と名づけ、五を安隱と名づけ、六を具安と名づけ、七を離怖と名づけ、八を不退と名づく。諸池の四面各一寶もて成ず、一に金、二に銀、三に吠琉璃、四に[一七]頗胝迦なり。[一八]羯鷄都寶以て池底と爲し、金沙上に布き妙水湛然たり。一一の池濱には八階陛有りて種種の妙寶以て嚴飾と爲し、勝上金を用て其の蹬と爲す。諸階の兩間に芭蕉樹の行列有りて間飾し紫金の所成なり。是の諸池の中に四妙花、嗢鉢羅花、鉢特摩花、拘母陀花、奔荼利花を具し衆色間雜して水上に彌布す。池の四邊を周りて香花樹有り、淸風時に鼓ちて水中に散ず。諸池に皆八功德水を具す、香は栴檀の如く色味具足し、鳧鴈等有りて其の中に遊戲す。法涌菩薩摩訶薩は此の宮中に住し常に六萬八千の侍女と諸の苑池に遊び妙五欲を以て共に相娛樂し、妙香城の中の男女の大小法涌菩薩を瞻仰し及び法を聽かんと欲するが爲の故に時有りて常喜等の苑、賢善等の池に入ることを得亦た五欲を以て共に相娛樂す。又た善男子、法涌菩薩摩訶薩と諸の侍女とは妙樂を受け已て晝夜三時に爲に般若波羅蜜多を說く。妙香城內に諸の士女有り其の城の中の七寶臺上に於て法涌菩薩摩訶薩の爲に師子座を敷き衆寶もて莊飾す。其の座の四足は各一寶もて成る、一には金、二には銀、三には吠琉璃、四には頗胝迦なり。其の座上に於て裍褥を重ね敷き、次に綺帊を鋪き、覆ふに白氎を以てし、絡すに綩綖を以てす。寶座の兩邊に丹枕を雙べ設け諸の幃

【一六】法涌。曇無竭(Dharmogata)なり。乾陀羅城に在りて常に般若經を宣說する菩薩。

【一七】頗胝迦。玻瓈(Sphatika)なり。此方の水精に當るもの。

【一八】羯鷄都(Karketana)寶名、水精の異名。

七重の樓觀、七重の[一二]欄楯、七重の寶塹、七重行列の寶[一三]多羅樹有り、是の垣牆等互に相間飾して種種の光を發し甚だ愛樂す可し。此の大寶城の面各十二踰繕那量にして淸淨寬廣に人物熾盛にして安隱豐樂なり。中に五百の街巷市鄽有り度量相當して端嚴なること畫の如し。諸の衢陌に於て各淸流有り、亘るに寶舫を以てし往來するに擁げ無く、一一の街巷淸淨嚴飾せり、灑ぐに香水を以てし布くに名華を以てし、城及び垣牆皆有りて敵を却け、雉堞樓閣は紫金の所な成り。瑩は衆の珍らしき光明を以て輝煥し、雉堞の間に廁ふるに寶樹を以てし、是の一一の樹の根莖枝葉及び花果皆別の寶を以て成ず、城垣樓閣及び諸の寶樹は覆ふに金網を以てし、連ぬるに寶繩を以てし、懸くるに金鈴を以てし、綴るに寶鐸を以てし、微風吹き動すに和雅の音を發す。譬へば五支の諸の樂を奏するが如し。是の寶城內の無量の有情は晝夜に恒に聞きて歡娛快樂す。城外には七重の寶塹を周匝し、八功德彌ねく其の中に滿ち冷煖調和し淸澄皎鏡なり。水中の處處に七寶の船有りて間飾莊嚴し衆の喜び見る所なり。彼の有情類の宿業の招く所にして時に共に之に乘じて汎漾遊戲す。諸の塹水內に衆の妙花、[一四]嗢鉢羅花、鉢特摩花、拘母陀花、奔荼利花、及び餘の種種の雜類の寶花を具し、色香鮮郁にして遍ねく水上に覆ふ。要を以て之を言はば三千界の內の所有る名花備足せざる無し。五百の苑有りて周環の大城種種に莊嚴し甚だ憙樂す可し。一一の苑內に五百の池有り、其の池の縱廣一[一五]倶盧舍にして七寶もて莊嚴し衆の心を悅可す。諸の池の中に於て四妙花、嗢鉢羅花、鉢特摩花、拘母陀花、奔荼利花有り。量車輪の如くにして水に暎蔽す。其の花は皆衆寶を以て成る所なり、青色には青顯れ、青影には青光あり、黃色には黃顯れ黃影には黃光あり、赤色には赤顯れ赤影には赤光あり、白色には白顯れ白影には白光あり。諸の苑池の中には多くの衆鳥、孔雀・鸚鵡・鳧・鷖・鴻・鴈・黃鵰・鶬・鶊・青鵁・白鵠・春鶯・鶬鶊・鴛鴦・鵁鶄・翡翠・精衞・鶡鷄・鸜鵒・鶏鶋・鵾鳳凰・妙翅・鵑・鵂・羯羅頻迦・命命鳥等有り、音聲相和して其の中に遊戲す。是の諸の苑池的めて屬す

【一二】欄楯。手摺の橫木を欄と云ひ、竪木を楯と云ふ。
【一三】多羅樹（Tāla）。岸樹、高竦樹など譯す。その葉はシユロに似て大きく高さ數丈に及び、白花にて實は柘榴の如く赤い。古代印度人は此葉に針で文字を書し現に殘存せるものなり。
【一四】嗢鉢羅花等。嗢鉢羅花は青蓮花、鉢特摩花は赤蓮花、拘母陀花は黃蓮花、奔荼利花は白蓮花を云ふ。
【一五】倶盧舍（Krośa）。譯又は鳴喚と譯す。印度の尺度の名。牛又は鼓の聲の聞き得る最大距離にて五百弓又は五里など諸說區區。

辱を加ふるも汝此の中に於て瞋恨すべからず、轉た法を愛重恭敬する心を增し常に法師を逐ひて厭倦を生ずること勿れと。

(九)爾の時常啼菩薩摩訶薩、空中の聲の重ねて教誡するを受け已て轉た歡喜を增し是れより東に行き未だ之を久しうせざる間に復た是の念を作す、我れ寧ろ彼の空中の聲に問はざりしか、我れを遣はして東に行かしめ、去りて當に遠近の何の城邑に至り、復た誰れに從て甚深般若波羅蜜多を聞くべきかと。是の念を作し已て卽ち其の處に住し胸を搥ち非歎憂愁して啼泣し須臾の頃を經て是の思惟を作す。我れ此の中に住し一晝夜を過ぎ乃至或は七晝七夜を過ぐるも疲倦を辭せず、睡眠を念せず、飮食を思はず、晝夜を想はず、寒熱を怖れず、內外法に於て心散亂せず、若し未だ審に之を去る遠近至る所の城邑及び從て甚深般若波羅蜜多を聞く所を知らずんば終に心に此の處を捨つるを起さずと。善現當に知るべし、譬へば父母に唯だ一子のみ有り、端正黠慧にして諸の伎能多く之を愛すること甚だ重し、其の子盛壯にして卒に便ち命終す。父母爾の時悲號苦毒して唯だ其の子のみを憶ひ更に餘念無きが如し。常啼菩薩も亦復た是の如し。爾の時に當て更に餘念無く唯だ是の念のみを作す、我れ何れの時に於てか當に般若波羅蜜多を聞くべき、我れ先に何が故ぞ空の聲の我れに東行するを勸むるに去りて當に遠近の何處の所に至り、復た誰れに從て甚深般若波羅蜜多聞くべきかを問はざりしかと。

善現當に知るべし、常啼菩薩摩訶薩の是の如く悲泣し自ら歎恨する時欻ち其の前に於て佛像有りて現じ、常啼菩薩摩訶薩を讃めて言はく、善哉善哉、善男子、過去の如來應正等覺、菩薩爲りし時勤め苦行を以て深般若波羅蜜多を求めしも亦た汝の今之を求め加(一〇)行するが如くなりき。又た善男子、汝是の如き勇猛精進愛樂恭敬求法の心を以て此れより東に行き五百踰繕那量を過ぎて大王城有り、(一一)具妙香と名づく、其の城高廣にして七寶もて成就す。其の城外の周匝に於て皆七寶所成の七重の垣牆、

【九】常啼の東行中途の思惟を說きて求法心の强きことを明す。

【一〇】加行（Prayoga）。舊に方便と譯す。正修行を資くる傍修行。

【一一】具妙香。乾陀羅（Gandhāra）。國の名。以下此國土富樂の狀を說く。

は當に是の處に於て大師の想を起すべし。汝應に恩を知り念じて當に重報すべし。汝善男子、應に是の念を作すべし。我が從つて聞く所の甚深般若波羅蜜多は是れ我が最勝眞實の善友なり、我れ彼れに從つて是の妙法を聞くが故に速に無上正等菩提に於て不退轉を得、我れ彼れに由るが故に如來應正等覺に近づくことを得常に諸佛の嚴淨國土に生じて諸佛世尊を恭敬供養し正法を聽聞し衆の德本を植ゑ[六]無暇を遠離して有暇を具足し念念に殊勝の善根を增長すと。汝應に諸の是の如き等の功德勝利を思惟籌量觀察すべし、汝が爲に甚深般若波羅蜜多を說く菩薩法師に於て常に應に敬事すること諸佛の想の如くすべし。汝善男子、[七]世利名譽の心を以ての故に法師に隨逐すること莫れ。但だ無上法を愛重し恭敬供養せんが爲の故に法師に隨逐せよ。汝善男子、應に魔事を覺すべし、謂ゆる惡魔有りて正法及び法師を壞せんが爲の故に妙色聲香味觸境を以て慇懃に奉施する時、說法師方便善巧して彼の惡魔を調伏せんと欲する爲の故に、諸の有情をして善根を種ゑしめんが故に、現に世間と其の事を同ふするが故に、彼の施を受くと雖も而かも染著無し。汝此の中に於て穢相を生ずること莫く應に是の念を作すべし、我れ未だ說法の菩薩の方便善巧を知ること能はず、此の說法師は善く方便を知りて剛强の有情を調伏せんと欲するが爲に、有情をして衆の德本を植ゑしめんと欲し、[八]世事に俯同して諸欲を受くるも然かも此の菩薩は法相を取らず、著無く礙無く曾て毀犯すること無しと。汝善男子、當に爾の時に於て應に諸法の眞實の理趣を觀ずべし。云何が諸法の眞實の理趣なると。謂ゆる一切法は染無く淨無し。何を以ての故に、善男子、一切法の自性は皆空にして我有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者無く幻の如く夢の如く響の如く像の如く陽焰の如く光影の如く變化事の如く尋香城の如くなればなり。汝善男子、若し能く是の如く諸法眞實の理趣を觀察して法師に隨逐せば久しからずして甚深般若波羅蜜多を成辦せん。又た善男子、餘の魔事に於て汝應に覺知すべし、謂ゆる說法師汝を見て甚深般若波羅蜜多を求請し都て眷念せず反て淩

【六】無暇。多忙匆匆。

【七】世利名譽の心。世間的名譽利欲心。

【八】世中に俯同等。世に交り五欲に接す。

諸法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)四念住乃至八聖道支。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)菩薩摩訶薩行、無上正等菩提。(a)世間法、出世間法。(a)有漏法、無漏法、有爲法に動ずること勿れ無爲法に動ずること勿れ。何を以ての故に、善男子、若し諸法に於て動ずる所有らば則ち佛法に於て安住すること能はず、若し佛法に於て安住すること能はずんば則ち生死に於て諸趣に輪廻す、若し生死に於て諸趣に輪廻せば則ち甚深般若波羅蜜多を得ること能はざればなりと。

爾の時常啼菩薩摩訶薩、空中の聲の慇懃に教誨するを聞きて歡喜踊躍し未曾有なりと歎じ合掌恭敬して空の聲に報へて曰はく、向に言ふ所の如く我れ當に敎へに從ふべし。所以は何ん、我れ當に一切有情の爲に大明と作らんと欲するが故に、我れ當に一切の如來應正等覺の殊勝の法を集めんと欲するが故に、我れ當に無上正等菩提を證せんと欲するが故にと。時に空中の聲復た常啼菩薩摩訶薩に語て言はく、善哉善哉、善男子、汝當に空無相無願甚深の法に於て應に信解を生ずべし、汝應に一切相を離るゝ心を以て深般若波羅蜜多を求むべし、汝應に我及び有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者相を離るゝ心を以て深般若波羅蜜多を求むべし、汝善男子、諸の惡友に於て應に方便して遠離すべし、衆の善友に於て應に親近し供養すべし、若し能く汝が爲に善巧に空無相無願無生無滅無染無淨本寂の法を說き及び能く汝が爲に一切智智を示現敎導讃勵慶喜せば是れを善友と爲す。汝善男子、若し是の如く行ぜば久しからずして甚深般若波羅蜜多を聞くことを得ん。或は經典の中より聞き、或は菩薩の所に從つて聞き、汝の從つて聞く所の甚深般若波羅蜜多に

初分　常啼菩薩品第七十七之一[一]

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が初業の菩薩に教授教誡し其れをして諸法の自性畢竟皆空なるを信解せしめんかと。佛、善現に告げたまはく、豈に一切法は先有後無ならんや。然かも一切法は有に非ず無に非ず、自性無く他性無く、先に既に有に非ず後亦た無に非ず、自性常に空にして怖畏する所無し。應當に[二]是の如く初業の菩薩を教授教誡し其れをして諸法の自性畢竟皆空なりと信解せしむべし。[三]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を欲求せば應に[四]常啼菩薩摩訶薩の求むるが如くすべし。是の菩薩摩訶薩は今大雲雷音佛の所に在りて梵行を修行すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、常啼菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜多を求むるやと。佛、善現に告げたまはく、常啼菩薩摩訶薩は本般若波羅蜜多を求むる時身命を惜まず珍財を顧みず名譽に徇はず恭敬を希はずして般若波羅蜜多を求む。彼れ常に樂うて[五]阿練若處に居し欻然として空中に聲有るを聞く、曰く咄善男子、汝東に行く可し、決定して甚深般若波羅蜜多を聞くことを得ん。汝當に行くべき時疲倦を辭すること莫れ、睡眠を念ずること莫れ、飲食を思ふこと莫れ、晝夜を想ふこと莫れ、寒熱を怖るゝこと莫れ、內外法に於て心散亂すること莫れ、行く時左右顧視することを得ざれ、前後上下四維を觀ること勿れ、威儀を破ること勿れ、身相を壞すること勿れ。(a)色に動ずること勿れ受想行識に動ずること勿れ。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。緣より生ずる所の

【一】求道者常啼得法の因緣を明して般若の尊重すべきを說く。

【二】是の如く。諸法本來自無にして現在も亦無なるを了知せば顚倒なく怖畏する所無きを云ふ。

【三】常啼菩薩の般若を求むるは空中の敎に依ることを明す。

【四】常啼。薩陀波崙(Sadāpralāpa)なり、般若經守護の菩薩とされてゐる。

【五】阿練若(Āraṇya)。寂靜處、無諍處など譯す。欻然は突然なり。

(a)「勿動於色勿動受想行識」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入して略すこと前例の如くす。

薩の所化なり有り、是れ如來の所化なる有り、是れ煩惱の所化なる有り、是れ善法の所化なる有り。善現、此の因緣に由りて一切法は皆變化等の如く差別無しと說くと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、所有る果を斷ずる謂ゆる預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺地或は如來地の永く煩惱の習氣相續を斷ずるも豈に亦た是れ化なるやと。佛、善現に告げたまはく、是の如き諸法若し生滅の二相と合すれば亦た皆是れ化なりと。[四]世尊、何の法か化に非ざると。善現、若し法、生滅相と合せざれば是の法は化に非ずと。世尊、何の法生滅相と合せざるやと。善現、虛誑ならざる法は卽ち是れ涅槃なり、此の法は生滅相と合せず、是の故に化に非ずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊の說の如く平等法性は一切皆空にして能く動ずる者無く二の得可き無く少法も自性空に非ざること有ること無くんば、云何が涅槃のみ他に非ずと言ふ可けんやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、少法も自性空に非ざること有ること無し。此の自性空は聲聞の作に非ず、獨覺の作に非ず、菩薩の作に非ず、如來の作に非ず、亦た餘の作に非ず、佛有るも佛無きも其の性常に空にして此れ卽ち涅槃なり。是の故に我れ說く涅槃は他に非ず實有の法に非ざるを名づけて涅槃と爲し無生無滅なるは化に非ずと說くと。

【四】非化法を明す。

故に諸法空なりと說くやと。佛言はく、善現、想空に由るが故に諸法空なりと說く。

復た次に善現、意に於て云何、若し變化身復た化事を作さば此れ實事有りて空ならざる耶と。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の變化する所は都て實事無く一切皆空なりと。佛、善現に告げたまはく、變化と空と是の如き二法は合に非ず散に非ず、此の二は倶に[三]空空なるを以ての故に空なり。是れ空是れ化なりと分別すべからず。何を以ての故に、善現、空性の中には空有り化有りて二事得可きに非ざればなり。一切法畢竟空なるを以ての故に。復た次に(f)善現、色は化に非ざる無く受想行識は化に非ざる無し。諸の是の化なる者は皆空ならざる無し。乃至、善現、預流果は化に非ざる無く一來不還阿羅漢果獨覺菩提は化に非ざる無し、諸の是の化なる者は皆空ならざる無し。善現、菩薩摩訶薩行は化に非ざる無く佛の無上正等菩提は化に非ざる無し。諸の是の化なる者は皆空ならざる無し。善現、是の如き法に依りて種種の補特伽羅を施設す、所謂異生若し隨信行若しは隨法行、若しは第八、若しは預流、若しは一來若しは不還、若しは阿羅漢、若しは獨覺若しは菩薩摩訶薩、若しは諸の如來應正等覺なり。是の如き一切は是の化に非ざる無く、諸の是の化なる者は皆空ならざる無しと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、世間の諸蘊・諸處・諸界・緣起・緣生・緣起支等皆是れ化なる可くんば諸の出世間波羅蜜多若しは三十七菩提分法若しは三解脫門、若しは一切空若しは諸の聖諦若しは四靜慮乃(た)至四無色定若しは八解脫乃(れ)至十遍處若しは陀羅尼門三摩地門若しは菩薩の十地若しは五眼六神通若しは佛の十力乃(ね)至十八佛不共法若しは三十二大士相八十隨好若しは無忘失法恒住捨性若しは一切智乃(な)至一切相智若しは彼の法に由りて得るの所の諸果若しは彼の法に依りて施設する種種の補特伽羅も豈に是れ化なるやと。佛、善現に告げたまはく、一切の世間出世間法是れ化に非ざること無し。然かも其の中に於て是れ聲聞の所化なる有り、是れ獨覺の所化なる有り、是れ善

【三】空空なるを以ての故に空。十八事實なりとするを破するに十八空あり、心中變化の空なるを示すに空空を以てす。

(f)「善現無色非化無受想行識非化諸是化者無不皆空」右の文中「五蘊」のある所に先の(e)場合と同じ議法を代入するのみなる故「乃至」として省略す。

初分無動法性品第七十六

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し諸法等の平等法性皆本性空にして此の本性空は有無の法に於て能く作す所に非ずんば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時勝義を動ぜずして菩薩の作すべき所の事を作し布施愛語利行同事を以て有情を饒益するやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、一切法等の平等法性は皆本性空にして此の本性空は有無の法に於て能く作す所に非ず。善現、若し諸の有情自ら諸法は皆本性空なりと知らば則ち諸の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆は[二]神通を現じて希有の事を作さず、謂ゆる諸法の本性空の中に於ては動ずる所無しと雖も而かも有情をして種種の妄想顛倒を遠離して諸法空に安住し生死の苦より解脫せしむるなり。謂ゆる有情をして我想有情想命者想生者想養者想士夫想補特伽羅想意生想儒童想作者想使作者想起者想使起者想受者想使受者想知者想使知者想見者想使見者想を遠離せしめ、亦た色想受想行識想を遠離せしめ、亦た眼處想乃至意處想を遠離せしめ、亦た色處想乃至法處想を遠離せしめ、亦た眼界想乃至意界想を遠離せしめ、亦た色界想乃至法界想を遠離せしめ、亦た眼識界想乃至意識界想を遠離せしめ、亦た眼觸想乃至意觸想を遠離せしめ、亦た眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受想乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受想を遠離せしめ、亦た地界想乃至識界想を遠離せしめ、亦た因緣想等無間緣所緣緣增上緣想を遠離せしめ、亦た緣より生ずる所の諸法想を遠離せしめ、亦た無明想乃至老死愁歎苦憂惱想を遠離せしめ、亦た世間出世間法想有漏無漏法有爲無爲法想を遠離して無爲界に安住して生死の苦より解脫せしむるなり。無爲界とは卽ち是れ諸法空なり。世俗に依りて說いて無爲界と名づくと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の空に由るが

【一】更に諸法平等に就て化の如しとして明す。

【二】神通を現じて希有の事を作さず。有情諸法の實相を知れば最早や能化の用なければかく云ふなり。

間法を離れず有漏無漏法有爲無爲法に非ず有漏無漏法有爲無爲法を離れずと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、平等法性は是れ有爲と爲すや是れ無爲と爲すやと。佛、善現に告げたまはく、平等法性は是れ有爲に非ず是れ無爲に非ず、然かも有爲法を離れて無爲法を得可からず無爲法を離れても有爲法亦た得可からず。善現、若しは有爲界若しは無爲界、是の如き二界は相應に非ず不相應に非ず、無色無見無對一相にして所謂無相なり。一切の如來應正等覺は世俗に依りて說く、勝義に依らず。何を以ての故に、勝義の中には身行語行意行有る可きに非ず、身行語行意行を離れて勝義得可きに非ざればなり。善現當に知るべし、有爲無爲に即する平等法性を說いて勝義と名づくと。是の故に菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時勝義を動ぜずして菩薩摩訶薩行を行じ有情を成熟し佛土を嚴淨して能く無上正等菩提を證すと。」

こと能はざるべし亦應に諸佛の所に於て諸の善根を種うること能はざるべし。若し諸佛の所に於て諸の善根を種うること能はずんば則ち應に有情を成熟し佛土を嚴淨すること能はざるべし。若し有情を成熟し佛土を嚴淨すること能はずんば則ち應に無上正等菩提を證得すること能はざるべしと。

佛　善現に告げたまはく、汝が所言の如く、若し一切法の平等法性即ち是れ異生の平等法性、亦た是れ隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺の平等法性ならば今一切法及び諸の有情相各異るが故に性も亦た應に異るべく是れ則ち法性も亦た應に各異るべし。云何が諸の異相法等に於て法性の一相に安立し得可きや、云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時法及び諸の有情種種性等有りと分別せざるやとは、善現、意に於て云何、諸の色の法性は是れ空性なりや不や諸の受想行識の法性は是れ空性なりや不や(c)乃至諸の愚夫異生の法性は是れ空性なりや不や諸の隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺の法性は是れ空性なりや不や。世間出世間法の法性は是れ空性なりや不や有漏無漏法有爲無爲法の法性は是れ空性なりや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、一切の法性は皆是れ空性なりと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、空性の中に於て法等の異相得可しと爲すや不や。謂ゆる色の異相得可しと爲すや不や受想行識の異相得可しと爲すや不や。(d)乃至愚夫異生の異相得可しと爲すや不や隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺の異相得可しと爲すや不や。世間出世間法の異相得可しと爲すや不や有漏無漏法有爲無爲法の異相得可しと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、空性の中に於ては一切の異相皆得可からずと。佛、善現に告げたまはく、此れに由りて當に知るべし。平等法性は色に非ず色を離れず受想行識に非ず受想行識を離れず(e)乃至愚夫異生に非ず愚夫異生を離れず隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺に非ず隨信行乃至如來應正等覺を離れず。世間出世間法に非ず世間出世

(c)　前の(b)の場合と同じ諸法につきて今の五蘊の場合の如き語を繰返すのみなる故「乃至」として略せり。

(d)　前の(c)の場合と全く同方法によりて省略せり。

(e)　も(c)の場合と同方法により略せしものなり。

た應に各異るべし。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至意界。(b)色界乃(う)至法界。(b)眼識界乃(ゐ)至意識界。(b)眼觸乃(の)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(む)至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明乃(ら)至老死愁歎苦憂惱。(b)貪、瞋、癡。(b)異生見趣。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)苦聖諦乃(か)至道聖諦。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若方便善巧妙願力智波羅蜜多。(b)八解脱乃(れ)至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)極喜地乃(く)至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)三十二大士相、八十隨好。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。愚夫異生相異るが故に性も亦た應に異るべく、隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺相異るが故に性も亦た應に異るべく、是れ則ち法性も亦た應に各異るべし。諸の世間出世間法相異るが故に性も亦た應に異るべく、諸の有漏無漏法有爲無爲法相異るが故に性も亦た應に異るべく、是れ則ち法性も亦た應に各異るべし。世尊、云何が諸の異相法等に於て法性の一相を安立し得可きや、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時法及び諸の有情種種の性有りと分別せざるや。若し菩薩摩訶薩法及び諸の有情、種種の性有りと分別せずんば則ち應に般若波羅蜜多を修行すること能はざるべし。若し般若波羅蜜多を修行すること能はずんば則ち應に一地より一地に至ること能はざるべし。若し一地より一地に至ること能はずんば則ち應に菩薩の正性離生に趣入して諸の聲聞及び獨覺地を超ゆること能はざるべし。若し菩薩の正性離生に趣入して諸の聲聞及び獨覺地を超ゆること能はずんば則ち應に神通波羅蜜多を圓滿することを能はざるべし。若し神通波羅蜜多を圓滿すること能はずんば則ち應に布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を圓滿すること能はざるべし。若し布施乃至智波羅蜜多を圓滿すること能はずんば則ち應に神通に遊戲して一佛土より一佛土に至り諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎する

れ獨覺乘。此れは是れ無上乘。此れは是れ隨信行。此れは是れ隨法行。此れは是れ第八。此れは是れ預流。此れは是れ一來。此れは是れ不還。此れは是れ阿羅漢。此れは是れ獨覺。此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺なりと。諸の有情類は是の如き等の差別の相に於て能く自ら知るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。若し佛、有情の爲に諸の是の如き等の差別の相を施設せずんば諸の有情類は自ら諸の是の如き等の差別の相を知ること能はずと。佛言はく、善現、是の故に如來應正等覺は無相法の中に於て方便善巧して有情の爲に種種の差別の相を施設すと雖も而かも諸法の平等法性に於ては都て動ずる所無しと。[四]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、如來應正等覺の一切法平等法性に於て動ずる所無きが如く、是の如く一切の愚夫異生も亦た諸法の平等法性に於て動ずる所無しと爲すや不や、是の如く隨信行若しは隨法行若しは第八若しは預流若しは一來若しは不還若しは阿羅漢若しは獨覺若しは菩薩摩訶薩も亦た諸法の平等法性に於て動ずる所無きや不やと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、一切法及び諸の有情は皆平等法性に出過せざるを以て皆諸法の平等法性に於て都て動ずる所無し。善現當に知るべし、一切の如來應正等覺の所有る眞如[a]乃至不思議界は卽ち是れ愚夫異生の眞如[a]乃至不思議界。亦た是れ隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩の眞如[a]乃至不思議界なりと。何を以ての故に、善現、一切法及び諸の有情は皆眞如[a]乃至不思議界に出過せざるを以て、善現當に知るべし、眞如[a]乃至不思議界性は差別無しと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法の平等法性卽ち是れ異生の平等法性、亦た是れ隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺の平等法性ならば今一切法及び諸の有情相各異るが故に性も亦應に異るべく、是れ則ち法性も亦應に各異るべし。謂ゆる(b)色相異るが故に性も亦た應に異るべく受想行識相異るが故に性も亦た應に異るべく、是れ則ち法性も亦

【四】諸法平等なれば如何にして差別を分別すべきかを明す。

(b)「色相異故性亦應異受想行識相異故性亦應異是則法性亦應各異」右の文中「色乃至識」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

て能く無相に於て種種法等の差別を建立す。

復た次に善現、意に於て云何、若し諸の如來應正等覺無上正等菩提を證せず設ひ無上正等菩提を證するも有情の爲に諸法差別の相を施設せずして諸の有情類は能く自ら知ると爲すや、此れは是れ地獄、此れは是れ傍生、此れは是れ鬼界、此れは是れ人、此れは是れ四大王衆天、此れは是れ三十三天、此れは是れ夜摩天、此れは是れ覩史多天、此れは是れ樂變化天、此れは是れ他化自在天、此れは是れ梵衆天、此れは是れ梵輔天、此れは是れ梵會天、此れは是れ大梵天、此れは是れ光天、此れは是れ少光天、此れは是れ無量光天、此れは是れ極光淨天、此れは是れ淨天、此れは是れ少淨天、此れは是れ無量淨天、此れは是れ遍淨天、此れは是れ廣天、此れは是れ少廣天、此れは是れ無量廣天、此れは是れ廣果天、此れは是れ無想天、此れは是れ無繁天、此れは是れ無熱天、此れは是れ善見天、此れは是れ善見天、此れは是れ色究竟天、此れは是れ空無邊處天、此れは是れ識無邊處天、此れは是れ無所有處天、此れは是れ非想非非想處天、(a)此れは是れ色此れは是れ受想行識。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣、所緣緣、增長緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)世間法、出世間法。(a)有漏法、無漏法。(a)有爲法、無爲法。(a)布施波羅蜜多乃至般若方便善巧妙願力智波羅蜜多。(a)四念住乃至八聖道支。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。此れは是れ一切相妙願智。此れは是れ一切智智。此れは是れ佛寶。此れは是れ法寶。此れは是れ僧寶。此れは是れ聲聞乘。此れは是

(a)「此是色此是受想行識」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

く別無し。故に此れは是れ異生法の平等性―廣說―乃至此れは是れ如來應正等覺法の平等性なりと說く可からず、此の一法平等性の中に於ては諸の平等性既に得可からず、中に於て異生及び諸の聖者の差別の相も亦た得可からずと。

卷の第三百九十七

初分勝義瑜伽品第七十五之二

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法平等性の中にては諸の差別相皆得可からずんば則ち諸の異生若しは[二]隨信行若しは[三]隨法行若しは諸の第八若しは諸の預流若しは諸の一來若しは諸の不還若しは諸の阿羅漢若しは諸の獨覺若しは諸の菩薩摩訶薩衆若しは諸の如來應正等覺、是の如き一切法及び有情は應に差別無かるべしと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、一切法平等性の中に於ては若しは諸の異生若しは諸の聖者乃至如來應正等覺法及び有情皆差別無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法平等性の中にては異生聖者法及び有情倶に差別無くんば云何が三寶世間に出現するや、所謂佛寶法寶僧寶なりと。佛言はく、善現、意に於て云何、佛法僧寶と平等性と各異り有り耶と。善現答へて言はく、我れ佛の所說の義を解する如くんば佛法僧寶と平等性と皆異り有ること無し。世尊、若しは佛寶若しは法寶若しは僧寶若しは平等性是の如き一切は皆相應に非ず不相應に非ず色無く見無く對無く一相にして所謂無相なり。然かも佛世尊は無相の中に於て方便善巧して種種の法等異り有りと建立す。謂ゆる此れは是れ異生、此れは是れ隨信行、此れは是れ隨法行、此れは是れ第八、此れは是れ預流、此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、如來は法に於て方便善巧し

【一】一切法平等性中には差別無し、差別有るは佛が有情の爲に施設せし方便なるを明す。

【二】隨信行。聲聞乘の見道位中の鈍根を云ふ　他の知識の言敎を信受し、これに隨順し修行するもの。

【三】隨法行。隨信行の對。前者の鈍根に對してこれは利根なり。自ら敎法を思念して修業するもの。

復た是の如し。若し二無く不二無くんば卽ち果を得と名づけ亦た現觀すと名づく。所以は何ん、善現、若し此れに由りて便ち能く果を得亦た現觀有りと執し及び彼れに由りて果を得ること能はず亦た現觀も無しと執するは俱に是れ戲論なり。一切法平等性の中には諸の戲論有るに非ず、若し戲論を離るれば乃ち名づけて法の平等性と爲す可しと。[二]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲さば此の中何をか法の平等性と謂ふやと。佛言はく、善現、若し是の處に於て都て有性無く亦た無性も無く亦た爲れ平等性なりとも說く可からずんば、是の如きを乃ち法の平等性と名づく。善現當に知るべし、法の平等性既に說く可からず亦た知る可からず、平等性を除いて法の得可き無く一切法を離れて平等性無しと。善現當に知るべし、法の平等性は異生聖者俱に行ずること能はず、彼の境に非ざるが故にと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、法の平等性は豈に亦た佛の所行の境に非ざる耶と。佛言はく、善現、法の平等性は諸の賢聖の所行の境に非ず、謂ゆる隨信行若しは隨法行若しは第八若しは預流若しは一來若しは不還若しは阿羅漢若しは獨覺若しは菩薩摩訶薩若しは諸の如來應正等覺皆法の平等性を以て所行の境と爲すこと能はずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、一切の如來應正等覺は一切法に於て皆自在を得とせば云何が法の平等性も亦た諸佛の所行の境に非ずと言ふ可けん耶と。佛言はく、善現、一切の如來應正等覺は一切法に於て自在を得と雖も若し平等性と佛と異り有らば是れ佛の所行の境なりと言ふ可けんも然かも平等性と佛と異り無くして云何が佛彼の境を行ずと說く可けんや。善現當に知るべし、若しは諸の異生法の平等性、若しは隨信行法の平等性、若しは隨法行法の平等性、若しは第八法の平等性、若しは諸の預流法の平等性、若しは諸の一來法の平等性、若しは諸の不還法の平等性、若しは諸の阿羅漢法の平等性、若しは諸の獨覺法の平等性、若しは諸の菩薩摩訶薩衆法の平等性、若しは諸の如來應正等覺法の平等性、是の如き一切法の平等性は皆同一相にして所謂無相なり。是の一平等は二無

【二】一切法平等性を說き、凡聖の俱にこれを行ずる能はざることを明す。

波羅蜜多を修行するは已身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に靜慮波羅蜜多を修行するは已身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に般若波羅蜜多を修行するは已身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を求趣するは已身の爲にせず餘事の爲に非ず。

復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時諸の愚夫の非我の中に於て我想に住し非有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者使知者見者使見者の中に於て有情廣說し乃至使見者想に住するを見る。是の菩薩摩訶薩は是の事を見已つて深く憐愍を生じ方便し敎化して顚倒妄想の執著を離れしめ、[六]無相甘露界の中に安置す。是の界の中に住せば復た我想乃至使見者想を現起せず。是の時一切の[七]掉動散亂戲論分別復た現行せず、心多く寂靜憺怕無戲論界に安住す。善現、是の菩薩摩訶薩は此の方便に由りて般若波羅蜜多を修行し、自ら諸法に於て執著する所無く亦た能く他をして一切法に於て執著する所無からしむ。此れ世俗に依りて勝義に依らずと。

[八]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の無上正等菩提を證したまひし時得たまへる所の佛法は世俗に依るが爲なるや勝義に依るが爲に說いて得と名づけたまへる耶と。佛、善現に告げたまはく、佛の無上正等菩提を證せし時得たる所の佛法は世俗に依るが故に說いて名づけて得と爲し勝義に依らず。若し勝義に依らば能得所得俱に得可からざるなり。何を以ての故に、善現、若し此の人是の如き法を得と謂はゞ便ち有所得なり、有所得なれば便ち[九]二有るを執す、二有るを執する者は果を得ること能はず亦た[一〇]現觀も無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し二有るを執せば果を得ること能はず亦た現觀無きも二無きを執する者は能く果を得、現觀有りと爲す耶と。佛言はく、善現、二有るを執する者は果を得ること能はず亦た現觀も無し、二無きを執する者も亦

【六】無相甘露界の中に安置す。涅槃界に安住して妄想を生ぜざるなり。
【七】掉動等。思惟憶想分別を云ふ。
【八】佛實成の法は世俗なるを明し、無性平等の義を詳說す。
【九】二有る。二邊分別ありとする。
【一〇】現觀。慧が現前に四諦の法を觀ずること。俱舍に三現觀、唯識に六現觀を立つ。

復た次に善現、是の諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時修行する所の一切の善法に隨て皆如實に夢の所見の如く像の如く響の如く陽焰の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如しと知る。謂ゆる若し布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行せば能く如實に夢の所見の如く廣說し乃至尋香城の如しと知り(f)乃至若し有情を成熟し佛土を嚴淨し無上正等菩提を求趣せば能く如實に夢の所見の如く廣說し乃至尋香城の如しと知り、亦た如實に諸の有情類の心行差別は夢の所見の如く―廣說―乃至尋香城の如しと知る。

復た次に善現、是の諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法に於て有と爲して取らず無と爲して取らず。若し是の如く取るに由るが故に一切智智を證得するも亦た彼の法は夢の所見の如く像の如く響の如く陽焰の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如しと知り有と爲して取らず無と爲して取らず。何を以ての故に、布施波羅蜜多は取る可からざるが故に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た取る可からざるが故に、(g)乃至世間法は取る可からざるが故に出世間法も亦た取る可からざるが故に、有漏法は取る可からざるが故に無漏法も亦た取る可からざるが故に、有爲法は取る可からざるが故に無爲法も亦た取る可からざるが故なり。是の諸の菩薩摩訶薩は一切法取る可からずと知り已て無上正等菩提を求趣す。所以は何ん、一切法は皆取る可からざるを以て都て實事無く夢の所見の如く像の如く響の如く陽焰の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如く不可取の法は不可取の法を證得すること能はず。然かも諸の有情は是の如き法に於て知らず見ず、是の諸の菩薩摩訶薩は彼の諸の有情を度脫せんが爲の故に無上正等菩提を求趣す。

復た次に善現、是の菩薩摩訶薩の初發心より諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に布施波羅蜜多を修行するは己身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に淨戒波羅蜜多を修行するは己身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に安忍波羅蜜多を修行するは己身の爲にせず餘事の爲に非ず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に精進

(f) 前の(e)の場合と同じ方法にて省略せしもの。

(g) 前の(f)の場合と同方法により略す。

復た次に善現、(d)布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多は實有に非さるが故に所求の無上正等菩提を證得すること能はず。(d)四念住乃至八聖道支、(d)內空乃至無性自性空。(d)苦集滅道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)空無相無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。善現、是の如き諸法は一切皆是れ思惟の造作なり、諸の思惟の造作する所の法有るも皆一切智智を得ること能はず。

復た次に善現、是の如き諸法は菩提道に於て能く引發すと雖も而かも其の果に於て資助し能ふ無し。此の諸法は[五]生無く起無く實相無きに由るが故に。諸の菩薩摩訶薩は初發心より種種の身語意の善を起すと雖も謂ゆる若しは布施乃至般若波羅蜜多を修行し。若しは四念住乃至八聖道支を修行し、若しは內空乃至無性自性空に安住し、若しは苦集滅道聖諦に安住し、若しは四靜慮乃至四無色定を修行し、若しは八解脫乃至十遍處を修行し、若しは一切陀羅尼門、一切三摩地門を修行し、若しは空無相無願解脫門を修行し、若しは極喜地乃至法雲地を修行し、若しは五眼、六神通を修行し、若しは佛の十力乃至十八佛不共法を修行し、若しは無忘失法、恒住捨性を修行し、若しは一切智乃至一切相智を修行するも而かも一切は夢の所見の如く像の如く響の如く陽焰の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如く皆實有に非ずと知る。

復た次に善現、是の如き諸法は實有に非ずと雖も若し圓滿せずんば決定して有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得すること能はず。諸の菩薩摩訶薩若し布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿せずんば決定して有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得すること能はず。(c)乃至若し一切智道相智一切相智を圓滿せずんば決定して有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得すること能はず。

(d)「布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多非實有故不能證得所求無上正等菩提」右も全く(b)の場合と同方法によりて以下略す。

【五】生無く起無く實相無し。諸法實に起生無く一相寂滅なるを云ふ。

(e)前の初發意以來起す所の善業として掲げし諸法につき六度の場合の如き語を繰返すのみなる故「乃至」として省略せり。

辯陀羅尼、(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至(な)一切相智。(a)三十二大士相、八十隨好、我れ當に無量の光明を發起して十方無邊世界を遍照すべし、我れ當に一の妙音聲を發起して十方無邊世界に遍滿して諸の有情の心心所法意樂の差別に隨て爲に種種微妙の法門を說き勸め修學して殊勝の利益安樂を證得せしむべしと。

佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、汝が說く所の法は豈に亦た夢の所見の如く像の如く響の如く陽焔の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如くならざる耶と。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、世尊、【四】若し一切法夢の所見の如く―廣說―乃至尋香城の如く皆實事無くんば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時誠諦を發して、我れ當に一切の功德を圓滿して無量の有情を利益安樂すべしと言ふや。(b)世尊、夢の所見―廣說―乃至尋香城の中に現ずる所の物類は能く布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を行ずるに非ず、況んや能く餘の一切法を圓滿せんをや、亦た應に是の如きは俱に實に非ざるべきが故に。(b)四靜慮乃至(た)四無色定。(b)四念住乃至(そ)八聖道支。(b)空無相無願解脫門。(b)八解脫乃至(れ)十遍處。(b)內空乃至(わ)無性自性空。(b)眞如乃至(か)不思議界。(b)苦集滅道聖諦。(b)一切陀羅尼門一切三摩地門。(b)極喜地乃至(つ)法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至(ね)十八佛不共法。(b)辯陀羅尼。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至(な)至一切相智。(b)三十二大士相八十隨好。世尊、夢の所見―廣說―乃至尋香城の中に現ずる所の物類は能く一切所願の事業を成ずるに非ず、餘の一切法も亦た應に是の如く俱に非實なるべきが故にと。

佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、非實有の法は尙ほ布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を行ずること能はず、況や能く圓滿せんをや、(c)乃至非實有の法は尙ほ三十二大士相八十隨好を行ずること能はず、況や能く圓滿せんをや。非實有の法は所願の事業を成辦すること能はず、非實有の法は所求の無上正等菩提を證得すること能はず。

【四】若し一切法等。菩薩は實法を求めて般若佛道を行ずべし、何ぞ不實法を行ずるやとなり。

(b)「世尊非夢所見廣說乃至尋香城中所現物類能行布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多況能圓滿餘一切法亦應如是俱非實故」右の文中「布施乃至智波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(a)の場合に同じ。

(c)「非實有法尙不能行布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多況能圓滿」右の文中「布施乃至智波羅蜜多」の所に(b)の場合と同じ諸法の代入するのみなる故「乃至」として全部省略せり。

初分勝義瑜伽品第七十五之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の見實者は染無く淨無く、不見實者も亦た染無く淨無し。何を以ての故に、一切法は皆無性を用て自性と爲すが故なり。世尊、諸の無性法は染無く淨無く、諸の有性法も亦た染無く淨無く、諸の無性有性法も亦た染無く淨無し。世尊、無自性法は染無く淨無く、有自性法も亦た染無く淨無く、無自性有自性法も亦た染無く淨無し。何を以ての故に、一切法は皆無性を用て自性と爲すが故なり。世尊、若し爾れば何が故ぞ時有りて佛は清淨法有りと說きたまふ耶と。佛、善現に告げたまはく、我れ一切法の平等性は爲れ清淨法なりと說くと。世尊、何等か一切法の平等性なると。善現、諸法の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議は如來出世し若しは出世せざるも性相常住なり。是れを一切法の平等性と名づけ、此の平等性を清淨法と名づく。此れは世俗に依りて說いて清淨と爲す、[二]勝義に依らず。所以は何ん、勝義諦の中には分別無く戲論無く、一切の音聲名字の路絕ゆればなりと。

[三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法夢に見る所の如く像の如く響の如く陽焰の如く光影の如く幻事の如く變化身の如く尋香城の如くば似有を現ずと雖も而かも實事無し。云何が菩薩摩訶薩は是の如き眞實に非ざる法に依止して阿耨多羅三藐三菩提の心を發し、是の願を作して言ふや、(a)我れ當に布施波羅蜜多を圓滿すべし我れ當に淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を圓滿すべし、(a)四靜慮乃至四無色定。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)八解脫乃至十遍處。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)

【一】諸法平等を辨說す。

【二】勝義に依らず。勝義より云へば一切の語論を超越するが故に染淨、實不實なくして而も無といふ可からず、故に世俗に依るとなす。

【三】善現佛に對して非眞實法中に發心作願する所以を問答す。

(a)「我當圓滿布施波羅蜜多」「當圓滿淨」安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多」右の文中「布施乃至智波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

實の雜染者及び清淨者無しと。佛言はく、善現、雜染者及び清淨者の實に所有無きが如く、此の因緣に由りて雜染淸淨も亦た實有に非ず。何を以ての故に、善現、我我所に住する諸の有情類は虛妄分別して雜染及び清淨者有りと謂ひ、實を見るに非ざる者は雜染及び淸淨者有りと謂ふも實を見るが如き者は雜染及び淸淨者無しと知る。是の如く亦た雜染淸淨無しと。

都て實事無ければなり、能施設に非ず、所施設に非ず、修道すら尚ほ無し、況や修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして作す所の變化身の如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして作す所の變化身の如きに非ざる者有ること無しと。(チ)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、尋香城の中に現ずる所の物類、實事有り依りて業を造る可く、造る所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、尋香城の中に現ずる所の物類は都て實事無し。云何が依りて諸の業を造作し、造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、尋香城の中の物類、頗し眞實の修道有り彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、尋香城の中に現ずる所の物類は都て實事無ければなり、能施設に非ず、所施設に非ず修道すら尚ほ無し、況や修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして尋香城の中に現ずる所の物類の如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく不なり世尊、不なり善現、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして尋香城の中に現ずる所の物類の如きに非ざる者有ること無しと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何此の中頗し實の雜染者清淨者有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、此の中都て

(チ)　尋香城中物類喩。

事を幻作するに此の幻象等實事有り依りて業を造る可く、造る所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、幻の象馬等は都て實事無く但だ愚童を惑すのみ。云何が依りて諸業を造作し、造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、幻事に頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、幻の象馬等は都て實事無ければなり、能施設に非ず所施設に非ず、修道すら尙ほ無し、況んや修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして象等の諸の幻事の如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして象等の諸の幻事の如きに非ざる者有ること無しと。(ト)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、佛の化作する所の諸の變化身、此の變化身實事有り依りて業を造る可く造る所の業に依りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の變化身は都て實事無し。云何が依りて諸の業を造作し造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、化身に頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと、善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、諸の變化身は

(ト) 變化身喩。

はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、陽焔水等は都て實事無ければなり、能施設に非ず所施設に非ず、修道すら尚ほ無し、況んや修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして陽焔の水等を現ずるが如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして陽焔の水等を現ずるが如きに非ざる者有ること無しと。(ホ)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の光影中現ずる所の色相は實事有り依りて業を造る可く造る所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の光影の中に現ずる所の色相は都て實事無く但だ愚眼を惑すのみ。云何が依りて諸の業を造作し造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の光影中の色相頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。何を以ての故に、世尊、光影色相は都て實事無ければなり、能施設に非ず所施設に非ず、修道すら尚ほ無し況んや修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして光影の色相を現ずるが如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして光影の色相を現ずるが如きに非ざる者有ること無しと。(ヘ)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、幻師の像馬車歩の四軍衆等の種種の幻

(ホ)　光影色相喩。

(ヘ)　幻師喩。

す所の諸の響は實事有り依りて業を造る可く、造る所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、深谷等の中に發す所の諸の響は都て實事無く但だ愚耳を惑すのみ。云何が依りて諸業を造作し、造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の響に頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、深谷等の響は都て實事無ければなり、能施設に非ず所施設に非ず修道すら尚ほ無し、況んや修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして谷等に發る所の響の如きに非ざる者有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして谷等に發る所の響の如きに非ざる者有ること無しと。(二)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の陽焰の中に水等に似たるものを現ずるに實事有り依りて業を造る可く、造る所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の陽焰の中に現ずる所の水等は都て實事無く但だ愚眼を惑すのみ。云何が依りて諸の業を造作し造る所の業に由りて或は惡趣に墮し或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の陽焰の中の水等頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ清淨を得る有りや不やと。善現答へて言

(二) 陽焰喩。

と。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。何を以ての故に、世尊、夢に見る所の法は都て實事無ければなり、能施設に非ず所施設に非ず、修道すら尙ほ無し、況や修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんやと。

卷の第三百九十六

初分無性自性品第七十四之二

(ロ)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、明鏡等の中に現ずる所の諸像は實事有り依りて業を造る可く、造くる所の業に由りて或は地獄に墮し、或は傍生に墮し、或は鬼界に墮し、或は人中に生じ、或は欲界の四大王衆天乃至他化自在天に生じ、或は色界の梵衆天乃至色究竟天に生じ、或は無色界の空無邊處天乃至非想非非想處天に生ずと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、明鏡等の中に現ずる所の諸像は都て實事無く但だ愚童を惑はすのみ。云何が依りて諸業を造作し、造くる所の業に由りて或は惡趣に墮し、或は人天に生ず可けんやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸像頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得ること有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。何を以ての故に、世尊、明鏡等の像は都て實事無ければなり能施設に非ず所施設に非ず、修道すら尙ほ無し、況んや修道に依りて雜染を離れ及び清淨を得る有らんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして鏡等に現ずる所の像の如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして鏡等に現ずる所の像の如きに非ざる者有ること無しと。(ハ)佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、深谷等の中に發

(ロ)　鏡中像喩。

(ハ)　響喩。

想を起し、無我の中に於て我想を起し、不淨の中に於て淨想を起し、無性の中に於て有性に執著す。此の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して殊勝の方便善巧を成就し是の如き諸の有情類を拔濟して顚倒虛妄の執著より離れしめ方便して無相法の中に安置し勸め修學して生死より解脫して畢竟常樂の涅槃を證得せしむと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊し頗し事の是れ眞實にして虛妄に非ず愚夫異生中に於て執著し諸の業を造作するに此の因緣に由りて諸趣に輪廻し生死の苦より解脫すること能はざる有りや不やと。佛、善現に告げたまはく、事は下毛端の量の如きに至るまで是れ眞實にして虛妄に非ざる無し。愚夫異生は中に於て執著して諸の業を造作す、此の因緣に由りて諸趣に輪廻して生死の衆苦より解脫すること能はず、唯だ顚倒虛妄の執著のみ有り。[一六]善現、吾れ今汝が爲に廣く譬喩を說き重ねて斯の義を顯し其れをして了し易からしめん、諸の智有る者は譬喩に由るが故に所說の義に於て正解を生ず。(イ)善現、汝が意に於て云何、夢中に人の五欲の樂を受くるを見るに夢中に頗し少分も實事有りて彼の人をして五欲の樂を受けしむ可きや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、夢に見る所の人すら尙ほ實有に非ず、況んや實事有りて彼の人をして五欲の樂を受けしむ可けんをやと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、頗し諸法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして夢中に見る所の事の如きに非ざる有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、定めて法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲にして夢中に見る所の事の如きに非ざる者有ること無しと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、夢中に頗し眞實に諸趣の中に於て生死に往來する事有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、夢中に頗し眞實の修道有り、彼の修道に依りて[一七]雜染を離れて清淨を得ること有りや不や

【一六】佛、一切法の本性空にして而も差別するを譬喩を以て示す。

(イ) 夢喩。

【一七】雜染。一切有漏法の總名なり。

を受く。是の如き身の品類差別に依りて假りに地獄傍生鬼界及び人有りと施設し、假りに三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天有りと施設し、假りに梵衆天梵輔天梵會天大梵天有りと施設し、假りに光天少光天無量光天極光淨天有りと施設し、假りに淨天少淨天無量淨天遍淨天有りと施設し、假りに廣天少廣天無量廣天廣果天及び無想天有りと施設し、假りに無繁天無熱天善現天善見天色究竟天有りと施設し、假りに空無邊處天識無邊處天無所有處天非想非非想處天有りと施設す。善現、愚夫異生の愚癡顚倒して生死の苦を受くるを拔濟せんと欲するが爲に聖法及び毘奈耶の分位差別を施設し、此の分位に依りて預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩及び諸の如來應正等覺を施設す。然かも一切法は皆無性を以て自性と爲す、無性法中實に異法無く業無く異無く亦た作用無し。無性の法は常に無性なるが故に。

復た次に善現、汝の言ふ所の如く、無性の法は必ず作用無し、云何が是の如き法に由りて預流一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得、菩薩摩訶薩位に入りて菩薩道を行ずるを得、如來應正等覺を成じて諸の有情をして生死より解脫せしむることを得るやとは、善現、汝が意に於て云何、諸の修する所の道は是れ無性なるや不や、預流一來不還阿羅漢果は是れ無性なるや不や、獨覺菩提は是れ無性なるや不や、一切の菩薩摩訶薩道は是れ無性なるや不や、諸の無上正等菩提は是れ無性なるや不やと。善現答へて言はく、世尊、諸の修する所の道は皆是れ無性なり、預流一來不還阿羅漢果も亦た是れ無性、獨覺菩提も亦た是れ無性、一切の菩薩摩訶薩道も亦た是れ無性、諸佛の無上正等菩提も亦た是れ無性なりと。佛言はく、善現、汝が意に於て云何、無性の法は能く無性法を得るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、無性及び道は是れ一切法にして皆相應に非ず不相應に非ず無色無見無對にして一相所謂無相なり。愚夫異生は愚癡顚倒して無相法に於て虛妄分別して有法の想を起し五蘊に執著し、無常の中に於て常想を起し、諸の苦の中に於て樂

は諸佛の所作に非ず、獨覺の所作に非ず、菩薩の所作に非ず、阿羅漢の所作に非ず、不還の所作に非ず、一來の所作に非ず、預流の所作に非ず、亦た是の如き諸向の諸作に非ずんば云何が諸法異り有りと施設するや、謂ゆる此れは是は地獄、此れは是れ傍生、此れは是れ鬼界、此れは是れ人、此れは是れ四大王衆天、此れは是れ三十三天、此れは是れ夜摩天、此れは是れ覩史多天、此れは是れ樂變化天、此れは是れ他化自在天、此れは是れ梵衆天、此れは是れ梵輔天、此れは是れ梵會天、此れは是れ大梵天、此れは是れ光天、此れは是れ少光天、此れは是れ無量光天、此れは是れ極光淨天、此れは是れ淨天、此れは是れ少淨天、此れは是れ無量淨天、此れは是れ遍淨天、此れは是れ廣天、此れは是れ少廣天、此れは是れ無量廣天、此れは是れ廣果天、此れは是れ無想天、此れは是れ無繁天、此れは是れ無熱天、此れは是れ善現天、此れは是れ善見天、此れは是れ色究竟天、此れは是れ空無邊處天、此れは是れ識無邊處天、此れは是れ無所有處天、此れは是れ非想非非想處天、此れは是れ預流、此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺、此の業に由るが故に地獄を施設し(c)乃至此の業に由るが故に如來應正等覺を施設すと。世尊、無性の法は必ず作用無し。云何が是の如き法に由りて地獄に生じ、(d)乃至是の如き法に由りて非想非非想處天に生じ、是の如き法に由りて預流果を得、是の如き法に由りて一來果を得、是の如き法に由りて不還果を得、是の如き法に由りて阿羅漢果を得、是の如き法に由りて獨覺菩提を得、是の如き法に由りて菩薩摩訶薩位に入りて菩薩道を行ずるを得、是の如き法に由りて如來應正等覺を成じて諸の有情をして生死より解脱せしむることを得と說く可けんやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。無性法の中には諸法異り有りと施設す可からず、業無く果無く亦た作用無し。善現、愚夫異生は聖法毘那耶を知らざるが故に諸法の皆無性を以て自性と爲すを了せず、愚癡顚倒して種種の身語意業を發起し業の差別に隨て種種の身

(c)「由此業故施設地獄」の語を地獄より如來應正等覺に至るまで前述の諸天諸界の各につき繰返へすのみなる乃至として略せり。

(d)「由如是法生於地獄」之も(c)の場合と同方法によりて略せしものなり。

ること有ること無し。一切法に於て如實に見る時一切法に於て都て所得無し。一切法に於て所得無き時則ち如實に一切法の空なるを見る。謂ゆる如實に[一一]四諦の攝する所及び攝せざる所の諸法皆空なりと見る。是の如く見る時能く菩薩の正性離生に入り、能く菩薩の正性離生に入るに由るが故に即ち菩薩の種姓地の中に住す。既に菩薩の種姓地の中に住せば即ち能く決定して頂より墮せず。若し[一二]頂より墮せば應に聲聞或は獨覺地に墮すべし。善現、是の菩薩摩訶薩は菩薩の種姓地の中に安住して能く四靜慮を起し及び四無量四無色定を起す。是の菩薩摩訶薩は是の如き奢摩他地に安住して能く一切法を決擇し及び四聖諦を隨覺す。是の菩薩摩訶薩は[一三]遍ねく苦を知ると雖も而かも能く苦を緣執する心を起さず、永く集を斷ずと雖も而かも能く集を緣執する心を起さず、滅を證すと雖も而かも能く滅を緣執する心を起さず、道を修すと雖も而かも能く道を緣執する心を起さず、但だ無上正道菩提に隨順し趣向し臨入するの心を起し一切法に於て實相を觀察するのみと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が是の菩薩摩訶薩は一切法に於て實相を觀察するやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法に於て皆觀じて空と爲すと。世尊、是の菩薩摩訶薩は何等を空なりと觀ずるやと。是の菩薩摩訶薩は一切法に於て自相空なりと觀ず。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如[一四]き相毘鉢舍那を用て如實に諸法皆空なりと觀見し都て諸法の自性の彼の性に住して無上正等菩提を證す可き有るを見ず。何を以ての故に、善現、諸佛の無上正等菩提及び一切法は皆無性を以て自性と爲せばなり。是の如き無性は諸佛の所作に非ず獨覺の所作に非ず、菩薩の所作に非ず、諸の聲聞向果の所作に非ず、但だ有情は一切法に於て如實に皆空なるを見ず知らずと爲すのみ。此の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して諸の有情の爲に如實に宣說して執著を離れ生死の苦より脫せしむと。

[一五]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲し、是の如き無性

【一一】四諦の攝する所及び攝せざる所の諸法。虛空非擇滅無爲を云ふ。

【一二】頂より墮す。法相を取り作佛を求めずば頂より墮すとなす。

【一三】遍ねく苦を知ると雖も等。菩薩四諦に通達せば苦も苦相を取らず苦諦を緣ぜざるを云ふ。

【一四】毘鉢舍那(Vipaśyanā)。觀、見など譯す。

【一五】無性　法中諸法差別なきも愚夫異生顛倒の故に差別す。今妄見を破し拔濟の爲に差別を說くを明かにす。

〔一〇〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、苦諦に由りて般涅槃を得と爲すや、集諦に由りて般涅槃を得と爲すや集智に由りて般涅槃を得と爲すや、滅諦に由りて般涅槃を得と爲すや滅智に由りて般涅槃を得と爲すや、道諦に由りて般涅槃を得と爲すや道智に由りて般涅槃を得と爲すやと。佛、善現に告げたまはく、苦諦に由りて般涅槃を得るに非ず苦智に由りて般涅槃を得るに非ず、集諦に由りて般涅槃を得るに非ず、集智に由りて般涅槃を得るに非ず、滅諦に由りて般涅槃を得るに非ず滅智に由りて般涅槃を得るに非ず、道諦に由りて般涅槃を得るに非ず道智に由りて般涅槃を得るに非ず、善現、我れ四聖諦の平等性は即ち是れ涅槃なりと說く。是の如き涅槃は苦集滅道諦に由りて得ず亦た苦集滅道智に由りて得ず、但だ般若波羅蜜多のみに由りて平等性を證するを涅槃を得と名づくと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて四聖諦の平等性と爲すと。佛、善現に告げたまはく、若し是の處に於て苦無く苦智無く、集無く集智無く、滅無く滅智無く、道無く道智無くんば此れ即ち名づけて四聖諦の平等性と爲す。此の平等性は卽ち四聖諦なり。所有る眞如法界法性不虛妄性不變異性法定法住平等性離生性實際虛空界不思議界は如來出世し若しは出世せざるも性相常住にして失壞無く變易無し。是の如きを名づけて四聖諦の平等性と爲す。諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時此の四聖諦の平等性を隨覺せんと欲するが爲の故に般若波羅蜜多を修行す。若し能く此の四聖諦の平等性を隨覺する時は眞に一切の聖諦を隨覺すと名づくと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は此の四聖諦の平等性を隨覺せんと欲するが爲の故に般若波羅蜜多を修行するや。若し能く此の四聖諦の平等性を隨覺する時は卽ち能く一切の聖諦を隨覺し、既に能く一切の聖諦を隨覺せば卽ち能く如實に菩薩行を修し、既に能く如實に菩薩行を修せば聲聞及び獨覺地に墮ちずして菩薩の正性離生に趣入せんと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時少法も如實に見ざ

〔一〇〕四聖諦に就て詳說す。一切助道善法多き中より特に四聖諦を說くは他のすべては此に攝すればなり。苦は解脫を要求する第一事にして進でその因を滅するが四諦なればなり。

便善巧して至敎を施設し諸の有情を惡趣の生死より拔くなり。

善現、諸の菩薩摩訶薩は常に是の念を作す、一切法は實に自相の諸の愚夫の異生の執する所の如き有るに非ず、然るに彼れ分別顚倒力の故に實有に非ざる中に實有の想を起す。謂ゆる無我の中に而かも我の想を起し無有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者の中に於て而かも有情乃至見者の想を起し、(b)無色の中に於て而かも色の想を起し無受想行識の中に於て而かも受想行識の想を起し。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。無世間法の中に於て世間法の想を起し無出世間法の中に於て出世間法の想を起し、無有漏法の中に於て有漏法の想を起し無無漏法の中に於て無漏法の想を起し、無有爲法の中に於て有爲法の想を起し無無爲法の中に於て無爲法の想を起す。是の如く分別顚倒力の故に實有に非ざる中に實有の想を起し、虛妄執著して其の心を倒亂し身語意の諸の善惡業を造り惡趣の生死より解脫すること能はず。我れ當に拔濟して解脫することを得せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の念を作し已て般若波羅蜜多を修行し、(九)諸の善法を以て般若波羅蜜多に攝在し無倒に諸の菩薩行を修行して漸次に菩提資糧を圓滿す。菩提資糧圓滿することを得已て無上正等菩提を證得し、菩提を得已て諸の有情の爲に四聖諦の義を宣說開示し分別建立す、謂ゆる是れ苦聖諦、是れ苦集聖諦、是れ苦滅聖諦、是れ趣苦滅道聖諦なりと。復た一切の菩提分法を以て是の如き四聖諦中に攝在し、復た一切の菩提分法に依りて施設して佛法僧寶を安立す。此の三寶世間に出現するに由りて諸の有情類は生死より解脫す。若し諸の有情佛法僧寶に歸信すること能はずして而かも諸業を造らば諸趣に輪廻して苦を受くること窮り無けんと。

(b)「於無色中而起色想於無受想行識中而起受想行識想」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入して以下略すること前例に同じ。

【九】諸の善法等。般若能く一切善法を攝するを云ふ。

布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を修行し、內空乃(わ)至無性自性空に安住し、四念住乃(を)至八聖道支を修行し、苦聖諦乃(る)至道聖諦に安住し、四靜慮乃(た)至四無色定を修行し、八解脫乃(れ)至十遍處を修行し、陀羅尼門、三摩地門を修行し、空解脫門乃(そ)至無願解脫門を修行し、極喜地乃(つ)至法雲地を修行し、五眼、六神通を修行し、佛の十力乃(ね)至十八佛不共法を修行し、無忘失法、恒住捨性を修行し、一切智乃(な)至一切相智を修行す。

善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き等の菩提分法に於て無間無缺に修して圓滿せしむ。旣に圓滿し已て便ち能く親ら菩提を助くる金剛喻定を引發して無上正等菩提を證得するを說いて如來應正等覺と名づく。無量の有情を利益安樂し、諸の爲す所有るは常に失壞無く、失壞無きが故に生死の諸趣に墮して輪迴せずと。

具壽善現、佛に白して言さく、佛は無上正等覺を證し已て諸趣の生死法を得と爲すや不やと。不なり善現と。世尊、佛は無上正等覺を證し已て(七)黑業白業黑白業非黑白業を得と爲すや不やと。不なり善現と。時に具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し佛は諸趣の生死及び業の差別を得ずんば云何が此れは是れ地獄、此れは是れ傍生、此れは是れ鬼界、此れは是れ天、此れは是れ人、此は是れ種姓、此れは是れ第八、此れは是れ預流、此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺なりと施設せんと、佛、善現に告げたまはく、諸の有情類は自ら諸法の自相空なりと知るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、若し諸の有情自ら諸法の自相空なりと知らば則ち菩薩摩訶薩、無上正等菩提を求證し方便善巧して(八)至教を施設し諸の有情を惡趣の生死より拔くと說くべからず、善現、諸の有情は諸法の自相空なりと知らざるを以ての故に諸趣に流轉して無量の苦を受く。是の故に菩薩摩訶薩は諸佛の所より一切法の自相空なるを聞き已て無上正等菩提を求證し方

(わ)前の六度の場合の如く分說すべきも今簡を旨とするが故に本文の如く略す以下亦た同じ。

【七】黑業。黑業は不善業果報にて地獄などの受苦處なり。白業は三界の諸天受樂自在處なり。黑白業は苦樂混ずる人阿修羅等八部處なり。非黑白業は善惡果報を離れたる無漏淸淨なるを云ふ。

【八】至教。至實。至極の敎の意にて佛敎を指す。

初分無性自性品第七十四之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し是の如き法是れ菩薩法なれば復た何等の法か是れ佛法なる耶と。佛、善現に告げたまはく、汝の問言する所の、若し是の如き法是れ菩薩法なれば復た何等の法か是れ佛法なるやとは、善現、卽ち菩薩法も亦た是れ佛法なり。謂ゆる諸の菩薩摩訶薩は一切法に於て一切相を覺り、此れに由りて當に一切相智を得永く一切の習氣相續を斷ずべし。若し諸の如來應正等覺ならば一切法に於て一刹那相應の妙慧を以て現等覺し已て無上正等菩提を證得す。善現、是の如く菩薩と佛と異り有ること二聖者の如し、倶に是れ聖なりと雖も而かも行向、住果の差別有り。是の如く善現、若し[二]無間道の中にて一切法を行ずるに未だ闇障を離れず、未だ彼岸に到らず、未だ自在を得ず、未だ界を得ざる時を名づけて菩薩摩訶薩と爲し、若し[三]解脫道の中にて一切法を行ずるに已に[四]闇障を離れ、已に彼岸に到り、已に自在を得、已に果を得たる時を名づけて如來應正等覺と爲す。善現、是れを菩薩と佛と異り有りと爲す。位異り有りと雖も而かも法は別無しと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法の自相皆空なれば自相空の中には[五]數取趣無く、造くる所の業無く、異熟果の差別得可き無し。然るに諸の有情は一切法自相空の理に於て盡く知ること能はず。此の因緣に由りて諸の業を造作す、謂ゆる罪業を造り或は福業を造り或は[六]不動業を造り或は無漏業を造る。罪業を造るが故に或は地獄に墮し或は傍生に墮し或は鬼界に墮す。福業を造るが故に或は人趣に生じ或は欲天に生ず。不動業を造るが故に或は色界に生じ或は無色界に生ず。無漏業を造るが故に或は聲聞果を得或は獨覺果を得。若し諸法の自相皆空なりと知らば或は菩薩摩訶薩地に入り或は無上正等菩提を證す。此の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は

【一】佛菩薩の差別を明す。

【二】無間道。方に惑を斷じつつありて惑の爲に間隔せられざる無漏智を云ふ。卽ち初發心乃至金剛三昧の行にて前念の因道なり。

【三】解脫道。無間道に對す。已に惑を斷じ已に正しく理を證する智を云ふ。卽ち後念の果道なり。

【四】闇障を離れ。一切法の疑を斷じ了了通達するなり。

【五】數取趣(Pudgala)人と譯す。

【六】不動業。善惡に屬せざる無記業。

上正等菩提を證得するやと。佛、善現に告げたまはく、(a)諸の菩薩摩訶薩は初發心より布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し中に於て都て分別執著無し、謂ゆる是の念を作す、此れは是れ施等なり、此れに由り此れを爲して施等を修すと。是の三分別執著皆無し。一切法の自性空なりと知るが故に。是れに由りて修する所の波羅蜜多は能く自ら饒益し亦た能く一切有情を饒益して生死より出でて涅槃を得せしむるが故に說いて善法と爲し亦た菩薩の菩提資糧と名づけ亦た菩薩摩訶薩道と名づく。過去未來現在の菩薩摩訶薩衆は此の道を行ずるが故に無上正等菩提を已に得當に得べく今得、亦た有情をして已當今に生死の大海を度りて涅槃の樂を證せしむ。(a)四念住乃至八聖道支。(a)內空乃至無性自性空。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。

善現當に知るべし、復た無量の諸の菩薩衆有りて修する所の功德は皆善法と名づけ亦た菩薩の菩提資糧と名づけ亦た菩薩摩訶薩道と名づくと。諸の菩薩摩訶薩は要らず是の如き殊勝の善法を修し極めて圓滿せしめて乃ち能く一切智智を證得す。要らず已に一切智智を證得せば乃ち能く無倒に正法輪を轉じ諸の有情をして生死より解脫して畢竟常樂の涅槃を證得せしむと。

(a)「善現」の二字を「諸菩薩摩訶薩從初發心修行布施波羅蜜多修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多………亦令有情已當今度生死大海證涅槃樂」に加へ

右の文中「六度」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空苦聖諦」の二は「修行」とある所は「安住」に「所修」とある所は「所住」と改むるものとす。

情をして是の法を聞き已て皆殊勝の利益安樂を得せしむ。（へ）善現、是の菩薩摩訶薩は隨所に漏盡智通を得るを以て如實に諸の有情類の漏の盡未盡を了知し、亦た如實に漏盡の方便を知りて未盡者の爲に法要を宣說す。謂ゆる布施を說き、或は淨戒を說き、或は安忍を說き、或は精進を說き、或は靜慮を說き、或は般若を說き、是の如く乃至或は涅槃を說き、彼の有情をして是の法を聞き已て皆殊勝の利益安樂を得せしむ。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に神通波羅蜜多を引發すべし。是の菩薩摩訶薩は神通波羅蜜多を修習して圓滿するを得るが故に意の樂ふ所に隨て種種の身を受け苦樂の過失の染する所と爲らざること佛の化身能く種種の事業を施作すと雖も而かも彼の苦樂の過失の雜染する所と爲らざるが如し。善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に神通波羅蜜多に遊戲すべし。若し神通波羅蜜多に遊戲せば則ち能く有情を成熟し佛土を嚴淨して速に無上正等菩提を證す。善現、若し菩薩摩訶薩有情を成熟し佛土を嚴淨せずんば終に所求の無上正等菩提を得ること能はず。何を以ての故に、善現、諸の菩薩摩訶薩の菩提の資糧若し未だ具せざる者は必ず所求の無上正等菩提を得ること能はざればなりと。

卷の第三百九十五

初分淨土方便品第七十三之二

（一）爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて菩薩摩訶薩の菩提資糧と爲し、諸の菩薩摩訶薩は要らず是の如き菩提資糧を具して乃ち能く所求の無上正等菩提を證得するやと。佛、善現に告げたまはく、一切の善法は皆是れ菩薩摩訶薩の菩提資糧なり。諸の菩薩摩訶薩は要らず是の如き菩提資糧を具して乃ち能く所求の無上正等菩提を證得すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて一切の善法と爲し、諸の菩薩摩訶薩是の如き諸の善法を成就するが故に無

（へ）漏盡通。

【一】菩提資糧卽一切善法を明す。

は四念住を說き或は四正斷乃至八聖道支を說き、或は四靜慮を說き或は四無量四無色定を說き、或は八解脫を說き或は八勝處九次第定十遍處を說き、或は陀羅尼門を說き或は三摩地門を說き、或は空解脫門を說き或は無相無願解脫門を說き、或は內空を說き或は外空乃至無性自性空を說き、或は苦聖諦を說き或は集滅道聖諦を說き、或は因緣を說き或は等無間緣所緣緣增上緣を說き、或は緣より生ずる所の諸法を說き、或は無明を說き或は行乃至老死愁歎苦憂惱を說き、或は蘊處界を說き、或は聲聞道を說き、或は獨覺道を說き、或は菩薩道を說き、或は菩提を說き、或は涅槃を說き彼の有情をして是の法を聞き已て皆殊勝の利益安樂を得せしめん。(ヘ)善現、是の菩薩摩訶薩は最清淨にして人に過ぐる天耳を以て能く一切の人非人の聲を聞き、此の天耳に由りて能く十方無量殑伽沙等の世界の諸佛の說法を聞き、聞き已て無倒に皆能く受持して諸の有情の爲に如實に宣說し、或は布施を說き、或は淨戒を說き、或は安忍を說き、或は精進を說き、或は靜慮を說き、或は般若を說き、是の如く乃至或は涅槃を說き彼の有情をして是の法を聞き已て皆殊勝の利益安樂を得せしむ。(ニ)善現、是の菩薩摩訶薩は淨宿住隨念智通を以て能く自他の諸の本生事を憶ひ、此の宿住隨念智通に由りて如實に過去の諸佛及び弟子衆の名等の差別を念知す。若し諸の有情の過去の諸の宿住の事を樂聞して益を得る者には便ち爲に諸の宿住の事を宣說し、此の方便に因りて爲に正法を說く、謂ゆる布施を說き、或は淨戒を說き、或は安忍を說き、或は精進を說き、或は靜慮を說き、或は般若を說き、是の如く乃至或は涅槃を說き彼の有情をして是の法を聞き已て皆殊勝の利益安樂を得せしむ。(ホ)善現、是の菩薩摩訶薩は極迅速神境智通を以て十方無量殑伽沙等の世界に往到して諸佛世尊に親近し供養し諸佛の所に於て衆の德本を植ゑ還て本土に歸り、諸の有情の爲に他方種種の勝事を宣說す。斯の方便に因りて爲に正法を說く、謂ゆる布施を說き、或は淨戒を說き、或は安忍を說き、或は精進を說き、或は靜慮を說き、或は般若を說き是の如く乃至或は涅槃を說き、彼の有

(ヘ) 天耳通。

(ニ) 宿住通。

(ホ) 神境通。

を得んをや。汝等此の惡慧の因緣に由りて當に地獄傍生鬼界に墮して無量の苦を受くべし。是の故に汝等愚癡惡慧相應の心は刹那を經る頃も容納すべからず、何に況んや其れをして長時相續せしめんをやと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の貪欲多き者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して不淨觀を修せしめ、若し有情の瞋恚多き者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して慈悲觀を修せしめ、若し有情の愚癡多き者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して緣起觀を修せしめ、若し有情の我慢多き者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して界分別觀を修せしめ、若し有情の尋伺多き者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して(イ)持息念觀を修せしめ、若し有情の邪道を行ずる者を見ば深く憐愍を生じ方便敎導して正道の謂ゆる聲聞道或は獨覺道或は如來道に入らしめ方便して彼の爲に是の如き法を說く、汝等執する所の自性は皆空なり、空法中執する所有る可きに非ず、執する所無きを以て空相と爲すが故にと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時要らず神通波羅蜜多に住して方に能く自在に正法を宣說し諸の有情を利益し安樂す。善現、若し菩薩摩訶薩神通波羅蜜多を遠離せば自在に正法を宣說し諸の有情の與に饒益事を作すこと能はず。善現、鳥の翅無くんば自在に虛空を飛翔して遠く至る所有る能はざるが如く諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、若し神通波羅蜜多無くんば自在に正法を宣說し諸の有情の與に饒益事を作すこと能はず。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に神通波羅蜜多を引發すべし。若し神通波羅蜜多を引發せば則ち能く意に隨て正法を宣說して諸の有情類を利益し安樂せん。善現、是の菩薩摩訶薩は最淸淨にして人に過ぐる天眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀じ及び彼れに生ずる諸の有情類を觀じ、見已て神境智道を引發して須臾を經る頃に彼の界に往到し、(ロ)他心智を以て如實に彼の諸の有情の心心所法を了知し、其の宜しき所に隨て爲に法要を說かん、謂ゆる布施を說き、或は淨戒を說き、或は安忍を說き、或は精進を說き、或は靜慮を說き、或は般若を說き、或

【イ】持息念觀。數息觀といふに同じ。

(ロ)他心通。

生じて苦の異熟を受け、或は傍生に生じて苦の異熟を受け、或は鬼界に生じて苦の異熟を受けん。汝等若し諸の惡趣の中に墮ちなば苦の異熟を受け尙ほ自ら救へず況や能く他を救はんや。是の故に汝等當に淨戒を持つべし。破戒の心は刹那を經る頃も容納すべからず況や多時を經んをや。自心を縱にして後憂悔を生ずること勿れと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の更に相瞋忿し展轉して結恨し互に相損惱するを見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く、汝等有情當に安忍を修すべし、相瞋忿し結恨して相害すること勿れ、諸の瞋恨心は善法に順はず、惡法を增長して現に衰損を招かん。汝等此の瞋恨心に由るが故に身壞命終して當に地獄傍生鬼界に墮して諸の劇苦を受くべし。是の故に汝等瞋忿の心は刹那を經る頃も容納すべからず、何に況んや其れをして多時相續せしめんをや。汝等今應に慈心を起し展轉し相緣りて饒益事を作すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の懶惰懈怠なるを見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く、汝等有情當に勤め精進すべし、善法に於て懶惰懈怠なること勿れ。諸の懈怠者は諸の善法及び諸の勝事に於て皆成ずること能はず。汝等斯れに由りて當に地獄傍生鬼界に墮して無量を苦を受くべし。是の故に汝等此の懈怠の心は刹那を經る頃も容納すべからず、何に況んや其れをして長時相續せしめんをやと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の失念し散亂して心寂靜ならざるを見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く、汝等有情當に靜慮を修すべし、失念散亂の心を生ずること勿れ、是の如きの心は善法に順はず惡法を增長して現に衰損を招かん、汝等此れに由りて身壞命終して當に地獄傍生鬼界に墮して無量の苦を受くべし。是の故に汝等失念散亂相應の心は刹那を經る頃も容納すべからず、何に況んや其れをして長時相續せしめんをやと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の愚癡惡慧なるを見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く。汝等有情當に勝慧を修すべし、惡慧を起すこと勿れ、惡慧を起す者は諸の善趣に於て尙ほ往くこと能はず況んや解脫

る、自性空は執著する所有るに非ず、若し執著有らば則ち愛味有り、執著無きに由りて亦た愛味無し。自性空の中には愛味無きが故に。

九　善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時勝神通波羅蜜多に住して(イ)天眼の清淨にして人に過ぐるを引發し、是の天眼を用て一切法は皆自性空なりと觀ず。善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自性空なりと見るが故に法相に依らずして諸業を造作し、有情の爲に是の如き法を說くと雖も而かも亦た諸の有情相及び彼の施設を得ず。善現、是の菩薩摩訶薩は無所得を以て方便と爲し神通波羅蜜多を引發し是の神通波羅蜜多を用て能く悲願神通の作す事を作す。善現、是の菩薩摩訶薩は極めて清淨にして人天に過ぐる眼を用て能く十方無量殑伽沙等の世界を見る。見已て神境智通を引發し彼れに往いて諸の有情類を饒益し或は布施波羅蜜多を以て饒益を爲し或は淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を以て饒益を爲し、或は四念住を以て饒益を爲し或は四正斷四神通五根五力七等覺支八聖道支を以て饒益を爲し、或は四靜慮を以て饒益を爲し或は四無量四無色定を以て饒益を爲し、或は八解脫を以て饒益を爲し或は八勝處九次第定十遍處を以て饒益を爲し、或は聲聞法を以て饒益を爲し、或は獨覺法を以て饒益を爲し、或は菩薩法を以て饒益を爲し、或は諸佛法を以て饒益を爲す。善現、是の菩薩摩訶薩は十六界に於て若し有情の慳貪多き者を見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く、『汝等有情當に布施を行ずべし、諸の慳貪者は貧窮の苦を受く、貧窮に由るが故に威德有ること無く尙ほ自ら益せず況んや能く他を益せんをや。是の故に汝等當に勤めて布施すべし、既に自ら安樂に亦た他を安樂ならしめよ。貧窮を以て互に相食噉して、倶に諸の惡趣の苦より解脫せざること勿れと。善現、是の菩薩摩訶薩は十方界に於て若し有情の淨戒を毀てる者を見ば深く憐愍を生じて是の如き法を說く、汝等有情當に淨戒を持つべし、諸の破戒者は惡趣の苦を受く、破戒の人は威德有ること無し、尙ほ自ら益せず況や。能く他を益せんや。破戒の因緣もて或は地獄に

【九】六神通に就て說く。菩薩この神通を修するを以ての故に隨意身を受け而も苦樂の過失に染せざるなり。

(イ)　天眼通。天眼を用て能く六度等を行じ有情を饒益す。

佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は但だ是の如き般若波羅蜜多のみに安住して能く是の如き方便善巧を作すと爲すや亦た餘法にも住すと爲す耶と。佛、善現に告げたまはく、豈に餘法の般若波羅蜜多に入らざる有らんや、云何が復た疑ひて餘法に住すと爲すやと。世尊、是の如き般若波羅蜜多若し自性空ならば云何が般若波羅蜜多は一切法を攝するや。世尊、空の中に於ては法の攝と不攝と有るを說く可きに非ずと。善現、豈に諸法の自性皆空ならざらんやと。是の如し世尊、是の如し善逝と。善現、若し一切法の自性皆空ならば豈に空の中に一切法を攝せざらんやと。

[八] 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法自性空の中に住して神通波羅蜜多を引發し、諸の菩薩摩訶薩は是の神通波羅蜜多に住して能く十方無量殑伽沙等の世界に往き諸佛を供養して正法を聽受し諸佛の所に於て諸の善根を種うるやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時遍ねく十方無量殑伽沙等の世界及び諸佛衆幷びに所說の法の自性皆空なるを觀ぜば唯だ世俗假設の名字のみ有り、是の如き世俗假設の名字も亦た自性空なり。善現、若し十方界及び諸佛衆幷びに所說の法、假說の名字、自性空ならざれば則ち所說の空は應に周遍せざるべし。所說の空は周遍せざるに非ざるを以ての故に一切法の自性は皆空なり。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時遍ねく空を觀ずるに由り方便善巧して便ち能く殊勝の神通波羅蜜多を引發し、此の神通波羅蜜多に住して復た能く天眼天耳神境他心宿住隨念を引發し及び漏盡殊勝の通慧を知る。善現、諸の菩薩摩訶薩は神通波羅蜜多を離れて能く自在に有情を成熟し佛土を嚴淨し無上正等菩提を證得すること有るに非ず。善現、是の故に神通波羅蜜多は是れ菩提道なり。諸の菩薩摩訶薩は皆此の道に依りて無上正等菩提を求趣し、求趣する時に於て能く自ら一切の善法を圓滿し亦た能く他をして諸の善法を修せしむ。是の事を作すと雖も而かも善法に於て執著を生ぜず、所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は諸の善法の自性皆空なるを知

【八】神通波羅蜜多に住する相を明す。

りて諸の漏長く壽き能く身を化作して諸の事業を起さば彼の事業に由りて他をして喜を生ぜしむと佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。一切の白淨無漏の法を成就すと雖も而かも諸の有情を利樂せんが爲の故に方便善巧して惡趣の身を受け應ずるが如く諸の有情類を成就す。彼の身を受くと雖も而かも彼れに同ぜず。諸の苦惱を受くるも亦復た彼の趣の過失の雜染する所と爲らず。復た次に善現、意に於て云何、巧みなる幻師或は彼の弟子有りて種種象馬等の事を幻作し諸人をして見て歡喜踊躍せしむるに彼れに於て實に象馬等有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。彼れに於て實に象馬等の事無しと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。一切の白淨無漏の法を成就すと雖も而かも諸の有情を饒益せんが爲の故に現に種種傍生等の身を受く。彼の身を受くと雖も而かも實に彼れに非ず、亦た彼の過の染汚する所と爲らずと。

[七]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩の方便善巧は是の如く廣大にして白淨無漏の聖智を成就すと雖も而かも有情の爲の故に種種の身を受け、其の宜しき所に隨て現に饒益を作す。世尊、諸の菩薩摩訶薩は何等の白淨勝法に安住して能く是の如き方便善巧を作し種種傍生等の身を受くと雖も而かも彼の過失の染する所と爲らざるやと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して能く是の如き方便善巧を作し十方無量殑伽沙等の世界に往き種種の身を現して彼の有情類を利益安樂すと雖も而かも其の中に於て染著を生ぜず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法に於て都て所得無ければなり。謂ゆる都て能染所染及び染因緣を得ざるなり。何を以ての故に、一切法の自然空なるを以ての故なり。善現、空は空に染著すること能はず、空も亦た餘法に染著すること能はず、亦た餘法の能く空に染著すること無し。所以は何ん、空の中には空性すら尙ほ得可からず況んや餘法の得可き者有らんをや。善現、是の如きを名づけて不可得空と爲す。諸の菩薩摩訶薩は此の中に安住して能く無上正等菩提を證すと。爾の時具壽善現、

【七】菩薩の白淨無漏法に住する相を明す。

薩摩訶薩は何の善法に住し諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に是の如き身を受くるやと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は何の善法有りて圓滿すべからざるや。善現、諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を得んが爲に一切の善法皆應に圓滿すべし。善現、諸の菩薩摩訶薩は初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て善法の圓滿すべからざる有ること無く、要らず具さに一切の善法を圓滿して方に無上正等菩提を得。若し一善法たりとも未だ圓滿すること能はずして而かも無上正等菩提を得とせば是の處有ること無し。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て常に學して一切の善法を圓滿し、學し已らば當に一切相智を得て永く一切の習氣相續を斷じて無上正等菩提を證得すべしと。

[五]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は是の如き一切の[六]白淨聖無漏法を成就し而かも惡趣に生じて傍生の身を受くるやと。佛言はく、善現、意に於て云何、如來は一切の白淨無漏法を成就するや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、如來は一切の白淨無漏の法を成就すと。佛言はく、善現、意に於て云何、如來は傍生趣の身を化作して有情を饒益し佛事を作すや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、如來は傍生趣の身を化作して有情を饒益し諸の佛事を作すと。佛言はく、善現、意に於て云何、如來は傍生の身を化作する時是れ實に傍生にして彼の苦を受くるや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、如來は傍生の身を化作する時實の傍生に非ず彼の苦を受けずと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、一切の白淨無漏法を成就すと雖も而かも諸の有情を成就せんが爲の故に方便善巧して傍生の身を受け、彼の身を受くるに由りて應ずるが如く諸の有情類を成熟す。復た次に善現、意に於て云何、阿羅漢有りて諸の漏永く盡き能く身を化作して諸の事業を起し、彼の事業に由りて他の喜を生ずるや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、阿羅漢有

【五】菩薩一切の白淨無漏法を成就すと雖も而も種々傍生等の身を受くるは有情饒益の方便たるを明す。
【六】白淨聖無漏法を成就す。本性空に依て善法を行ずるを云ふ。

上正等菩提を修行して一切の惡不善法を伏斷すればなり。善現、此の因緣に由りて是の諸の菩薩摩訶薩は復た惡趣に墮つとせば是の處有ること無く、是の諸の菩薩摩訶薩若し長壽天に生ずとせば亦た是の處無し。謂ゆる彼の處に於ては諸の勝善法現行するを得ず。是の諸の菩薩摩訶薩は若しは邊鄙に生じ或は達絮[三]篾戾車中に生ずとせば是の處有ること無し。謂ゆる彼の處に於ては殊勝の善法を修行すること能はず多く惡見を起して因果を信ぜず、常に樂ふて諸の穢惡業を習行し、佛名法名僧名を聞かず、亦た四衆の苾芻衆苾芻尼衆近事男衆近事女衆無し。是の諸の菩薩摩訶薩若し邪見の家に生ずとせば是の處有ること無し謂ゆる彼の家に生ずるは種種の諸の惡見趣に執著して妙行惡行及び果を撥無し諸の善を修せず諸の惡を作すを樂ふ。善現、初めて無上正等覺の心を發せる諸の菩薩摩訶薩無上正等菩提を求趣するに勝意樂を以て十種の不善業道を受行すとせば是の處有ること無しと。

[四]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩初發心より是の如き善根功德を成就して諸の惡處に於て復た受生せずんば何が故に世尊は每に衆の爲に自らの本生事の若しは百若しは千、中に於て亦た諸の惡處に生ずること有りと說きたまふや、爾の時善根は何れの所に在りと爲したまふやと。佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩は不淨業に由りて惡趣の身を受くるに非ず、但だ諸の有情類を利樂せんが爲に故の思願に由りて彼の身を受く。善現、諸の阿羅漢獨覺豈に方便善巧有ること菩薩摩訶薩の是の如き方便善巧を成就して傍生の身を受くるが如くならんや、獵者有り來りて損害を爲さんと欲するに便ち無上安忍の慈悲を起し、彼の人をして利樂を得せしめんと欲するが故に自ら身命を捨て、而かも彼を害せず。善現、是の因緣に由りて當に知るべし、菩薩摩訶薩は諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に、大慈悲速に圓滿するが爲の故に現に種種傍生の身を受くと雖も而かも傍生の過失の染する所と爲らずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の善

【三】篾戾車。彌離車 Mlecchas 邊國衆。

【四】菩薩有情利樂の爲に惡趣の身を受くるを明す。

初分淨土方便品第七十三之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の諸の菩薩摩訶薩は正性定聚に住すと爲すや不定聚に住すと爲す耶と。佛言はく、善現、是の諸の菩薩摩訶薩は皆正性定聚に住す、不定聚に非ずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の諸の菩薩摩訶薩は何等の正性定聚に住すと爲すや聲聞乘と爲すや獨覺乘と爲すや佛乘と爲す耶と。佛言はく、善現、是の諸の菩薩摩訶薩は皆佛乘の正性定聚に住し二乘の正性定聚に住するに非ずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の諸の菩薩摩訶薩は何れの時正性定聚に住すと爲すや、初發心なる耶、不退位なる耶、最後身なる耶と。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は若しは初發心若しは不退位若しは最後身に皆菩薩の正性定聚に住すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、正性定聚に住する諸の菩薩摩訶薩は復た諸の惡趣に墮つと爲すや不やと。佛言はく、善現、正性定聚に住する諸の菩薩摩訶薩は決定して復た諸の惡趣に墮ちずと。復た善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、諸の第八者、若しは預流若しは一來若しは不還若しは阿羅漢若しは獨覺の復た惡趣に墮つる者なりと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、正性定聚に住する諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、決定して復た諸の[二]惡趣に墮ちず。何を以ての故に、善現、是の諸の菩薩摩訶薩は初發心より(b)布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、(b)內空乃至無性自性空。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)陀羅尼門、三摩地門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。一切の菩薩摩訶薩行を修行し諸佛の無

【一】 菩薩の住正性定聚を明す。

【二】 惡趣に墮ちず。六度善業を修するの故に惡趣難處に墮せざるなり。
(b)「修行布施波羅蜜多修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右も(a)の場合と同方法により以下略す但し「內空苦聖諦」の二は「修行」の代りに「安住」の語を用ふるものとす。

中に住せしめ、地獄より出でゝ人趣に生じ、人趣に生じ已て復た種種の神通を以て方便し敎化して〔四〕正定聚の中に住せしめ、此れに由りて畢竟じて惡趣に墮せしめず。復た殊勝の行願を修習し命終して嚴淨佛土に生ずるを得て淨土の大乘法樂を受用せしむ。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は皆能く是の如く佛土を嚴淨す、所居の土極めて淸淨なるに由るが故に彼れに生ずる有情は一切法に於て虛妄猶豫分別を起さず、謂ゆる此れは是た世間法、此れは是れ出世間法、此れは是れ有漏法、此れは是れ無漏法、此れは是れ有爲法、此れは是れ無爲法なりと。是の如き種種の猶豫分別畢竟起らず、此の因緣に由りて彼の有情類は定めて無上正等菩提を得。善現、是の如きは菩薩摩訶薩の嚴淨佛土なりと。

〔四〕正定聚。三聚の一、必ず證悟するに定まるもの。

立すること有るを聞かず、但だ空無相無願無生無滅無性等を說く聲のみを聞く、謂ゆる有情の樂ふ所の差別に隨て樹林等の內外の物の中に於て常に微風有り互に相衝擊して種種微妙の音聲を發起し、彼の音聲の中一切法皆自性無きを說き、無性なるが故に空、空なるが故に無相、無相なるが故に無願、無願なるが故に無生、無生なるが故に無滅、是の故に諸法は本來寂靜にして自性涅槃なり。若しは佛出世し若しは出世したまはざるも法相常爾なり。彼の佛土の中の諸の有情類は若しは晝若しは夜若しは行若しは住若しは坐若しは臥常に是の如き說法の聲を聞く。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は各所住の嚴淨佛土に於て無上正等覺を證得する時十方の如來應正等覺皆共に彼れ彼れの佛名を稱讃す。若し諸の有情是の如く讃むる所の佛名を聞くことを得ば定めて無上正等菩提に於て不退轉を得。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は各所住の嚴淨佛土に於て無上正等覺を證得する時諸の有情の爲に正法を宣說し、有情聞き已て必ず疑を生ぜず、謂ゆる是れ法なりとや爲ん是れ非法なりとやと爲んと。所以は何ん、彼の有情類は諸法皆眞如法界法住不虛妄性不變異性に卽し一切是れ法にして非法なる者無しと了達すればなり。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は皆能く是の如き佛土を嚴淨す。

復た、次に善現、是の諸の菩薩摩訶薩は所化の生有りて不善根を具し、未だ諸佛菩薩獨覺及び聲聞の所に於て諸の善根を種ゑず、諸の惡友の攝受する所と爲るが故に、善友を離るゝが故に正法を聞かず、常に種種の我有情見及諸の見趣の執藏する所と爲り、斷常二邊の偏執に墮在し、是の諸の有情自ら邪執を起し亦た常に他に敎へて邪執を起さしめ、佛に於て非佛の想を起し、非佛に於て佛の想を起し、法に於て非法の想を起し、非法に於て法の想を起し、僧に於て非僧の想を起し、非僧に於て僧の想を起し、是の因緣に由りて正法を誹毀し、正法を謗るが故に身壞命終して諸の惡趣に墮し地獄の中に生じて諸の劇苦を受く。是の諸の菩薩摩訶薩は各自土に於て無上正等覺を證得し已て彼の有情の生死に沈淪し無量の苦を受くるを見て神通力を以て方便敎化して惡見を捨てゝ正見の

持て諸の有情と平等に共に所求の最淨佛土に廻向する有りて當に無上正等覺を得ん時我が土の中の諸の有情類をして心の樂ふ所に隨て上妙の色聲香味觸境念ずるに應じて至り、歡喜して受用するも而かも染著無からしむべしと。(a)復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて般若波羅蜜多を修行して弘誓願を發し精勤勇猛に自ら內空に住し亦た他に內空に住するを勸め、自ら外空乃[お]至無性自性空に住し亦た他に外空乃至無性自性空に住するを勸め、此の事を作し已て復た發願して言はく、當に無上正等覺を得ん時我が土の中の諸の有情類をして皆內空乃至無性自性空を遠離せさらしむべしと。(a)四念住乃[そ]至八聖道支。(a)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(a)四靜慮乃[た]至四無色定。(a)八解脫乃[れ]至十遍處。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(a)極喜地乃[て]至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃[ち]至一切相智。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し此の行願に由りて便ち能く所求の佛土を嚴淨す。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は爾所の時に隨て菩提道を行じて應に起す所の行願を圓滿することを得べし。卽ち爾所の時精勤修學し此の因緣に由りて自ら能く一切の善法を成就し亦た能く他をして漸次に一切の善法を成就せしめ、自ら能く殊勝の相好の莊嚴する所の身を修得し亦た能く他をして漸次に殊勝の相好の莊嚴する所の身を修得せしむ。廣大の福に攝受せらるゝに由るが故に。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は各所求の嚴淨佛土に於て無上正等覺を證得する時所化の有情も亦た彼の土に生じて共に淨土の大乘法樂を受けん。[三]善現、是の諸の菩薩摩訶薩は應に是の如き嚴淨佛土を修すべし、謂ゆる彼の土の中常に三種の惡趣有るを聞かず亦た諸の惡見趣有るを聞かず、亦た貪瞋癡の毒有るを聞かず、亦た男女の形相有るを聞かず、亦た聲聞獨覺有るを聞かず、亦た苦無常等有るを聞かず、亦た資具を攝受すること有るを聞かず、亦た我我所の執有るを聞かず、亦た隨眠纏結有るを聞かず、亦た顚倒執著有るを聞かず、亦た諸果の分位差別を安

(a)「復次善現有菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多發弘誓願精勤勇猛自住內空亦勸他住內空自住外空…………無性自性空亦勸他住外空乃至無性自性空……皆不遠離內空乃至無性自性空」右の文中「內空乃至無性自性空」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。但し「苦聖諦」の外は皆「自住」又は他住」とある所を「自修」「他修」と夫々改むるものとす。

【三】菩薩の修すべき嚴淨佛土を再說す。

嚴淨佛土に廻向する有りて當に我が土をして七寶もて莊嚴し、一切有情意に隨て種種の珍寶を受用するも而かも染著無からしむべしと。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て無量の天上人中の諸の妙音樂を擊奏して三寶及び佛制[二]多に供養し、供し已て歡喜し弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を持て諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有りて當に我が土をして常に是の如き上妙の樂音を奏し、有情之を聞きて身心悅豫するも而かも染著無からしむべしと。復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て三千大千世界の人中天上の諸の妙香花を盛り滿てて三寶及び佛制多に供養し、供し已て歡喜し弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を持つて諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有りて當に我が土をして常に是の如き諸の妙香花有りて有情受用し身心悅豫するも而かも染著無からしむべしと。復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て百味上妙の飲食を營辦して諸佛獨覺聲聞及び諸の菩薩摩訶薩衆に供養し、供し已て歡喜して弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を持て諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有りて當に無上正覺を得ん時我が土の中の諸の有情類をして皆是の如き百味飲食を食し身心を資悅するも而かも染著無からしむべしと。復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て種種の天上人中の上妙の塗香細軟の衣服を營辦して諸佛獨覺聲聞及び諸の菩薩摩訶薩衆に奉施し、或は復た法幷びに佛制多に施し、施し已て歡喜して弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を持て諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有りて當に無上正等覺を得ん時我が土の中の諸の有情類をして常に是の如き衣服塗香を得意に隨て受用するも而かも染著無からしむべしと。復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て種種の人中天上の意に隨て生ずる所の上妙の色聲香味觸境を嚴辦して諸佛及び佛制多獨覺聲聞幷びに諸の菩薩に供養し餘の生類に施して歡喜し踊躍して弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を

【二】制多（Caitya）。舊に支提といふ。遺骨を藏めぬ記念靈廟を云ふ、塔婆の納骨なると異る。

の無量無邊の諸法補特伽羅虛妄の分別及び[二三]等起する所の身語意業幷びに彼の種類に執著するは住するに堪ふる無く性皆麁重と名づく。

[二四]善現、是の菩薩摩訶薩は是の所說の如き麁重を遠離して自ら布施波羅蜜多を行じ亦た他に敎へて布施波羅蜜多を行ぜしめ、若し諸の有情の食を須つには食を與へ、飲を須つには飲を與へ、衣服を須つには衣服を與へ、車乘を須つには車乘を與へ、舍宅を須つには舍宅を與へ、僮僕を須つには僮僕を與へ、侍衞を須つには侍衞を與へ、花香を須つには花香を與へ、嚴具を須つには嚴具を與へ、幢蓋を須つには幢蓋を與へ、伎樂を須つには伎樂を與へ、臥具を須つには臥具を與へ、燈明を須つには燈明を與へ、床座を須つには床座を與へ、諸の須つ所の種種資具に隨ひて隨時隨處に皆悉く施與し、自ら行ずる所の如く他をして亦た爾らしめ、是の如く施し已て此の善根を持ちて諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有らば速に有情を圓滿し利樂せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は自ら淨戒波羅蜜多を行じ、亦た他に敎へて淨戒波羅蜜多を行ぜしめ、自ら安忍波羅蜜多を行じ、亦た他に敎へて安忍波羅蜜多を行ぜしめ、自ら精進波羅蜜多を行じ、亦た他に敎へて精進波羅蜜多を行ぜしめ、自ら靜慮波羅蜜多を行じ、亦た他に敎へて靜慮波羅蜜多を行ぜしめ、自ら般若波羅蜜多を行じ亦た他に敎へて般若波羅蜜多を行ぜしむ。是の菩薩摩訶薩は此の事を作し已て是の善根を持ちて諸の有情と平等に共に所求の嚴淨佛土に廻向する有らば速に有情を圓滿し利樂せしむ。

卷の第三百九十四

初分嚴淨佛土品第七十二之二

[一]復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて通願力を以て三千大千世界の上妙の七寶を以て佛法僧に施し、施し已て歡喜して弘誓願を發す、我れ是の如く種うる所の善根を持て諸の有情と平等に共に所求の

【二三】等起する等。我見妄執に伴ひ起る。

【二四】菩薩の修すべき淨善業を明す。

【一】菩薩の圓滿すべき行願を明す。

を菩薩摩訶薩の意の麁重と名づく。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊の皆清淨ならざるも亦た麁重と名づく。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩の慳貪心、犯戒心、忿恚心、懈怠心、散亂心、惡慧心なるも亦た麁重と名づく。(f)復た次に善現、若し菩薩摩訶薩の四念住四正斷斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を遠離するも亦た麁重と名づく。(f)內空乃(わ)至無性自性空。(f)苦集滅道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脫乃(れ)至十遍處。(f)陀羅尼門、三摩地門。(f)空無相無願解脫門。(f)菩薩摩訶薩地。(f)五眼六神通。(f)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)一切の菩薩摩訶薩行諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩預流果の證、或は一來果の證、或は不還果の證、或は阿羅漢の證、或は獨覺菩提の證を貪るも亦た麁重と名づく。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩(g)色想を起し受想行識想を起すも亦た麁重と名づけ。(g)眼處乃(ろ)至意處。(g)色處乃(ほ)至法處。(g)眼界乃(む)至意界。(g)色界乃(う)至法界。(g)眼識界乃(る)至意識界。(g)眼觸乃(の)至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃(に)至識界。(g)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(g)緣より生ずる所の諸法。(g)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃(こ)至般若波羅蜜多。(g)內空乃(わ)至無性自性空。(g)四念住乃(そ)至八聖道支。(g)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(g)四靜慮乃(た)至四無色定、(g)八解脫乃(れ)至十遍處。(g)陀羅尼門、三摩地門。(g)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(g)極喜地乃(く)至法雲地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)三十二大士相。八十隨好。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃(な)至一切相智。(g)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、異生想を起し聲聞想獨覺想菩薩想如來想を起すも亦た麁重と名づけ、地獄想を起し傍生想鬼界想天想人想男想女想を起すも亦た麁重と名づけ、欲界想色界想無色界想を起し、善想不善想無記想を起し、世間想出世間想を起し、有漏想無漏想を起し、有爲想無爲想を起すも亦た麁重と名づく。善現、諸の是の如き等

(f)「復次善現若菩薩摩訶薩遠離四念住……………八聖道支亦名麁重」
右の文中「四念住乃至八聖道支」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(e)の場合に同じ。

(g)「起色想起受想行識想亦名麁重」
右の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(f)場合に同じ。

かも汝の問ふ所の豈に菩薩摩訶薩は已に菩提道を得、已に菩提を得たるに應ぜざるやとは、善現、諸の菩薩摩訶薩菩提道を修し未だ圓滿するを得ずして云何が已に菩提を得たりと說く可けん。善現、諸の菩薩摩訶薩(e)若し已に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し。(e)內空乃至無性自性空。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(l)陀羅尼門三摩地門。(e)空解脫門無相無願解脫門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智、若し已に一切の菩薩摩訶薩行を圓滿し、若し已に順逆に十二緣起を觀察するを圓滿し、若し已に一切の菩薩の自在神通を圓滿し、若し已に勝[18]奢摩他毘鉢舍那を圓滿し、若し已に一切の福德智慧の資糧を圓滿し、若し已に有情を成熟し佛土を嚴淨するを圓滿し、若し已に無量無邊不可思議の諸佛の妙法を圓滿し、此の無間より一刹那金剛喩定相應の妙慧を以て永く一切の煩惱の所知二障麁重の習氣相續を斷じて無上正等菩提を證得せば乃ち如來應正等覺と名づく、一切法に於て大自在を[19]得盡未來際まで一切有情を利益し安樂すと。

[20]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は佛土を嚴淨するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩初發心より乃至究竟まで常に自ら身の麁重、語の麁重、意の麁重を清淨にし亦た他の身の麁重、語の麁重、意の麁重を清淨にせば是の菩薩摩訶薩は自他の三麁重を清淨にするが故に則ち能く所求の佛土を嚴淨すと。[21]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何をか菩薩摩訶薩の身語意の麁重と謂ふやと。佛、善現に告げたまはく、若しは[22]害生命、若しは不與取、若しは欲邪行、是の如き不善の諸の身の惡行、是れを菩薩摩訶薩の身の麁重と名づく。若しは虛誑語若しは離間語、若しは麁惡語、若しは雜穢語、是の如き不善の諸の語の惡行、是れを菩薩摩訶薩の語の麁重と名づく。若しは貪欲、若しは瞋恚、若しは邪見、是の如き不善の諸の意の惡行、是れ

(e)「若已圓滿布施淨戒……般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前例と同じ。

【一八】奢摩他毘鉢舍那（Śamatha Vipaśyanā）。止觀と譯す。靜的に整齊した心境が一切事象に動的に活動し觀照無礙なるを云ふ。

【一九】盡未來際。未來の際涯を盡す、即ち無限無窮の未來のこと。

【二〇】嚴淨佛土に就て明す。

【二一】菩薩の遠離すべき麁重を具說す。

【二二】害生命等。十惡業を三業の麁重とす。

是の菩薩摩訶薩は菩提心に住して菩提道を起し餘境の爲に其の心を擾亂せざるなりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆不生なれば云何が菩薩摩訶薩は菩提道を起すやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し。一切法は皆不生なり。此れは復た云何。[一二]諸の所作無く所趣無き者は一切法皆不生なりと知るが故にと。具壽善現、復た佛に白して言さく、[一三]世尊、豈に如來は出世し若しは出世したまはざるも諸法法界は法爾として常住ならざるやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、如來は出世し若しは出世せざるも諸法法界は法爾として常住なり。然かも諸の有情は諸法法界の法爾として常住なるを解了すること能はず。諸の菩薩摩訶薩は饒益せんが爲の故に菩提道を起し、菩提道に由りて有情を拔濟して永く生死の衆苦より解脫せしむと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は[一四]生道を用て菩提を得と爲す耶と。佛言はく、不なりと。世尊、不生道を用て菩提を得と爲す耶と。佛言はく、不なりと。世尊、生不生道を用て菩提を得と爲す耶と。佛言はく、不なりと。世尊、非生非不生道を用て菩提を得と爲す耶と。佛言はく不なりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は當に菩提を得べきやと。佛、善現に告げたまはく、道を用て菩提を得ず亦た非道を用て菩提を得す。[一六]何を以ての故に、善現、菩提は卽ち是れ道、道は卽ち是れ菩提なるが故なりと。[一七]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩提は卽ち是れ道、道は卽ち是れ菩提ならば豈に諸の菩薩摩訶薩は已に菩提道を得、已に菩提を得たるに應ぜざるや。若し爾れば云何が如來應正等覺は復た彼の爲に三十二大士相八十隨好及び佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法等の無量の佛法を說き其れをして修證せしめたまふやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝豈に佛、菩提を得と謂ふ耶と。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、何を以ての故に、世尊、佛は卽ち是れ菩提、菩提は卽ち是れ佛なるが故に佛、菩提を得と謂ふべからずと。佛言はく、是の如し是の如し、然

【一二】諸の所作無く等。無作解脫を得三業を起さざるものの爲に一切法不生なりと說く。
【一三】無生は解脫人の爲に說くとするを以て、諸法實相無生なるは如來の出世不出世にかかはらず常住同一なるべきを聞へるなり。
【一四】生道。有爲法生滅相を觀じて實とするもの。
【一五】不生道。無爲無作を實とするもの。
【一六】何を以て等。道非道を方便とせるを明す。
【一七】道卽菩提ならば菩薩卽佛なりとの疑難なり。

九 善現、是の菩薩摩訶薩は是の如く菩提道を修行する時一切法に於て都て住する所無し。無所住を以て方便と爲し布施波羅蜜多を行ずと雖も而かも其の中に都て住する所無く、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずと雖も而かも其の中に於て都て住する所無し。何を以ての故に、是の如き自性行者行相は一切空なるが故なり。(d)乃至一切の菩薩摩訶薩行を行ずと雖も而かも其の中に於て都て住する所無く諸佛の無上正等菩提を行ずと雖も而かも其の中に於て都て住する所無し。何を以ての故に、是の如き自性行者行相は一切空なるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は能く預流果を得と雖も中に於て住せず、能く一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得と雖も而かも中に於て住せずと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に是の菩薩摩訶薩は能く預流果を得と雖も而かも中に於て住せず能く一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得と雖も而かも中に於て住せざるやと。佛、善現に告げたまはく、是の菩薩摩訶薩は二因緣有りて能く預流果を得と雖も而かも中に於て住せず能く一來乃至獨覺菩提を得と雖も而かも中に於て住せざるなり。何等をか二と爲す。一には彼の果都て自性無く、能住所住倶に得可からず。二には彼れに於て一〇喜足を生ぜず是の故に住せざるなり。謂ゆる彼の菩薩恒に是の念を作す。我れ定めて應に預流果を得べし。得ざるべからず。然かも中に於て住すべからず。我れ定めて應に一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得べし。得ざるべからず。然かも中に於て住すべからず。所以は何ん、我れ初め無上正等菩提の心を起してより來た一切時に於て更に餘想無く唯だ無上正等菩提のみを求む。然かも我れ定めて當に無上正等菩提を證得すべし。豈に中間に於て應に一一餘果に住すべけんやと。善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より乃至菩薩の正性離生に趣入するまで曾て異想無く但だ無上正等菩提のみを求む。善現、是の菩薩摩訶薩は初地を得てより乃至第十地を得るまで曾て異想無く但だ無上正等菩提のみを求む。善現、是の菩薩摩訶薩は專ら無上正等菩提のみを求め一切時に於て心散亂無く諸の起す所の身語意業有るは皆菩提心と倶ならざるは無し。善現、

【九】菩薩の行を說き、その無所住を明す。

(d) 前の(c)の場合と同じ諸法につき六度の場合の如く繰返へすのみなる故「乃至」として略せり。

【一〇】喜足。滿足する故に執住すん執住するに至る。

【一一】餘果に住す。佛道を修するにして名利福樂若くは他の小果なり。

ず諸佛の無上正等菩提に執著すべからず。何を以ての故に、一切法の自性は皆空なるを以て空性は空性に執著す可からず、空の中には空性すら尙ほ得可からず、況んや空性の能く空に執著する有らんや。善現、諸の菩薩摩訶薩は是の如く一切法を觀察する時は諸の法性に於て執著無しと雖も而かも諸法に於て常に學して倦むこと無し。善現、是の菩薩摩訶薩は[七]此の學の中に住して諸の有情の心行差別を觀る、謂ゆる審に是の諸の有情の心の何處に行ずるかを觀察す。既に審に觀じ已らば如實に彼の心の但だ虛妄の執するを行ずる所を了知す。爾の時菩薩便ち是の念を作す、彼の心既に虛妄の執する所を行ず、我れ[八]解脫せしむるに必ず難しと爲さずと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の念を作し已て般若波羅蜜多に安住し方便善巧して諸の有情を教授教誡して言はく、汝等今皆應に虛妄の所執を遠離して正法に趣入し諸の善行を修すべしと。復た是の言を作さく、汝等今應に布施波羅蜜多を行ずべし、當に資具を得乏少する所無かるべし。然かも此を恃みて憍逸を生ずること勿れ。何を以ての故に、此の中都て堅實事無きが故なり。(c)汝等今應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずべし。然かも此れを恃みて憍逸を生ずること勿れ、何を以ての故に、此の中都て堅實事無きが故なり。

(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。

(c)八解脫乃至十遍處。(c)陀羅尼門、三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。

(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。

(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。

汝等今應に無上正等菩提を行ずべし。然かも此れを恃みて憍逸を生ずること勿れ。何を以ての故に、此の中都て堅實事無きが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住し方便善巧して諸の有情を教授教誡する時菩提道を行じて執著する所無し。何を以ての故に、一切の法性執著すべからざればなり。若しは能執著若しは所執著倶に自性無し、一切法の自性は空なるを以ての故に。

【七】此の學の中に住して等。無分別中に諸法を分別して、衆生の妄分別して趣好志願するに應ずるなり。

【八】解脫せしむるに必ず難しと爲さず。虛妄法に著するを以て虛妄なるを明すのみにて解脫せしめ得れば難しと爲さざるなり。

(c)「汝等今者應行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多然勿恃此而生憍逸何以故此中都無堅實事故」右の文中「淨戒乃至般若波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ略出す但し六度の如く分說しあるものと知るべし。

一來法此れは是れ不還法、此れは是れ阿羅漢法此れは是れ獨覺法、此れは是れ菩薩法此れは是れ如來法なりと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、諸の所有る法は皆自性空なり。善現、[五]若し一切法の自性空ならざれば則ち應に菩薩摩訶薩は無上正等菩提を得ざるべし。善現、一切法の自性皆空なるを以て是の故に諸の菩薩摩訶薩は能く無上正等菩提を得。善現、汝が所言の如く、若し一切法の自性皆空なれば云何が菩薩摩訶薩は一切の法を學するや、將た世尊は無戲論の法に於て戲論を作す無きや、謂ゆる諸法有りて是れ此是れ彼、是れに由りて是れを爲し、此れは是れ世間法此れは是れ出世間法乃至此れは是れ菩薩法此れは是れ如來法なりとは、善現、若し諸の有情一切法皆自性[六]空なりと知らば則ち諸の菩薩摩訶薩は一切法を學して無上正等菩提を證得し諸の有情の爲に安立し宣說すべからず。善現、諸の有情諸法皆自性空なりと知らざるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は一切法を學して無上正等菩提を證得し諸の有情の爲に安立し宣說す。

善現、諸の菩薩摩訶薩は菩薩道に於て初めて修學する時應に審に觀察すべし諸法の自性は都て得可からず。唯だ和合の所作に執著する有るのみ。我れ當に諸法の自性皆畢竟空なりと審察すべし、中に於て執著する所有るべからず。謂ゆる(b)色に執著すべからず受想行識に執著すべからず。(b)眼處乃(は)至意處。(a)色處乃(に)至法處。(b)眼界乃(ほ)至意界。(b)色界乃(へ)至法界。(b)眼識界乃(と)至意識界。(b)眼觸乃(ち)至意觸(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(り)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)四念住乃(か)至八聖道支。(b)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)陀羅尼門、三摩地門。(b)空解脫門乃(そ)至無願解脫門。(b)極喜地乃(つ)至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。一切の菩薩摩訶薩行に執著すべから

【五】若し一切法の自性空ならざれば等。不空にして實有ならば生滅なく四諦なく三寶なく無上菩提なし。

【六】空なりと知らば等。性空と知らば教化を要せず、知らざるを以て安立宣說の要なり。

(b)「不應執著色不應執著受想行識」――右も「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入し以下略するものとす。

初分嚴淨佛土品第七十二之一[一]

爾の時具壽善現。是の念言を作さく、何の法をか名づけて菩薩摩訶薩道と爲し、諸の菩薩摩訶薩此の道に安住して能く種種大功德の鎧を擐一切有情を利益安樂するならんと。佛其の念を知ろしめし善現に告げて言はく、善現、當に知るべし(a)布施波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩訶薩道淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩訶薩道。(a)四念住乃至八聖道支。(a)內空乃至無性自性空。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處、(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性、一切智は是れ諸の菩薩摩訶薩道道相智一切相智は是れ諸の菩薩摩訶薩道なりと。復た次に善現、總じて一切法は皆是れ菩薩摩訶薩道なり。善現、汝が意に於て云何、頗し法の諸の菩薩摩訶薩の學すべからざる所有りて諸の菩薩摩訶薩此法を學せずして能く無上正等菩提を得るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。善現、定めて法の諸の菩薩摩訶薩の學ぶべからざる所有ること無し。諸の菩薩摩訶薩此の法を學せずんば必ず所求の無上正等菩提を得ること能はず。何を以ての故に、善現、若し菩薩摩訶薩一切の法を學せずんば終に一切智智を得ること能はざればなりと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法の自性皆空なれば云何が菩薩摩訶薩は一切の法を學するや。[三]將た世尊は無戲論の法に於て戲論を作す無きや、謂ゆる[四]諸法有りて是れ此、是れ彼、是れに由りて是れを爲し、此れは是れ世間法此れは是れ出世間法、此れは是れ有漏法此れは是れ無漏法、此れは是れ有爲法此れは是れ無爲法、此れは是れ異生法此れは是れ預流法、此れは是れ、

【一】前品に續いて菩薩道を行じ佛土を嚴淨することを明す。

【二】善現の所念に對して更に菩薩道に就て辨說す。

(a)「布施波羅蜜多是諸菩薩摩訶薩淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多是諸菩薩摩訶薩道」右の文中「六度」の所に次下に出す諸法を代入して略すること前例に同じ。

【三】將た世尊等。法空にして法を分別し、法を學すとするの戲論に墮する無きかを問答す。

【四】諸法有りて等。別法それ〳〵に存在して我他此彼をなすを云ふ。是れは體を指す、當體全是と云ふ、此彼は差別存在を云ふ。

しめ、諸の瞋忿者には安忍を修して毀罵加害するも心變易無からしめ、諸の懈怠者には精進を修して諸の善法を修すること(三)頭然を救ふが如くせしめ、諸の散亂者には靜慮を修せしめ、諸の愚癡者には智慧を修せしめ、諸法に執する者には法空を觀ぜしめ、三十七菩提分法無き者には其れをして菩提分法を修行せしめ、四聖諦に於て未だ觀ずること能はざる者には正觀を修せしめ、靜慮無量無色定無き者には其れをして修習せしめ、解脱勝處等至遍處無き者には其れをして修行せしめ、未だ陀羅尼門三摩地門を得ざる者には速に證得せしめ、未だ空無相無願解脱門を得ざる者には其れをして修證せしめ、未だ菩薩地に入らざる者には其れをして趣入して能く速に圓滿せしめ、未だ五眼六神通を得ざる者には漸く修證せしめ、未だ佛の十力(一)乃至十八佛不共法を得ざる者には漸く修證せしめ、未だ無忘失法恒住捨性を得ざる者には漸く修證せしめ、未だ一切智(二)乃至一切相智を得ざる者には漸く修證せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多を安住して有情と成熟し方便善巧して或は諸の惡趣の苦より解脱せしめ、或は預流一來不還阿羅漢果を證得せしめ、或は獨覺菩提を證得せしめ、或は所求の無上正等菩提を證得せしむ。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多を修行し方便善巧して有情を成熟し其れをして惡趣の生死より解脱し應ずるが如く三乘涅槃を證得すと謂ふ。善現、當に知るべし、菩薩摩訶薩有りて餘の四波羅蜜多及び餘の菩薩摩訶薩の大菩提道を修行して一一皆能く方便善巧し一切善を以て有情を成熟し、其れをして惡趣の生死より解脱せしめ、或は聲聞菩提の寂滅安樂を證得せしめ、或は獨覺菩提の寂滅安樂を證得せしめ、或は所求の無上正等菩提を證得せしめて能く盡未來まで諸の有情類を利益安樂し常に間斷無しと。

【三】頭然。然は燃の意、頭上の火の燃ゆるなり。危急に喩ふ。

如く他想を作すこと莫れ。所以は何ん、我れ長夜に於て財物を積集せるは但だ汝等が利樂を得んが爲のみなるが故なり。汝等今（二）無難の心を以て此の財物に於て意に隨て受取り、受け已て先に應に自ら正しく受用して諸の善法を修し、後此の物を以て諸の有情に施して亦た善を修せしむべし。謂ゆる布施（三）乃至般若波羅蜜多を修行せしめ亦た內空（四）乃至無性自性空に安住せしめ、亦た苦聖諦集滅道聖諦に安住せしめ、亦た四靜慮（五）乃至四無色定を修行せしめ、亦た八解脫（六）乃至十遍處を修行せしめ、亦た陀羅尼門三摩地門を修行せしめ、亦た空解脫門無相無願解脫門を修行せしめ、亦た極喜地（七）乃至法雲地を修行せしめ亦た五眼六神通を修行せしめ、亦た佛の十力（八）乃至十八佛不共法を修行せしめ、亦た無忘失法恒住捨性を修行せしめ、亦た一切智（九）乃至一切相智を修行せしめよ。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如く諸の有情を敎導し已て其の應ずる所に隨て復た諸の無漏法を修習せしめ或は預流一來不還阿羅漢果を證得せしめ、或は獨覺菩提を證得せしめ、或は諸の菩薩地に證入せしめ、或は所求の無上正等菩提を證得せしむ。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多を修行し方便善巧して有情を成熟し其れをして惡趣の生死より解脫し應ずるが如く三乘の涅槃を證得せしむと謂ふと。

（三）具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多及び餘の菩薩摩訶薩の大菩提道を修行し方便善巧して有情を成熟するやと。佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩有りて淨戒波羅蜜多を修行する時方便善巧し諸の有情の資具匱乏し煩惱熾盛にして善を修する能はざるを見ては憐愍して告げて言はく、汝等若し資緣匱乏せるが爲に善を修する能はずんば我れ當に汝に飲食衣服及び臥具等の種種の資緣を施すべし。汝等煩惱惡業を起すこと勿れ。應に正しく布施等の善を修習すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多に安住して應ずるが如く諸の有情類を攝受して諸の慳貪者には布施を修して、身命財に於て顧惜する所無からしめ、諸の破戒者には淨戒を修して能く正しく十善業道を受行して律儀戒に住し破らず穿たず穢れ無く雜無く亦た執取無から

【二】無難。安穩。

【三】布施の如く他度の成滿を說く。

を受け未だ解脫し得ざるを見ては彼れをして生死の苦より脫せしめんと欲するが故に先づ種種の資具を以て饒益し、後出世の諸の無漏法を以て方便善巧して之を攝受す。彼の諸の有情旣に資具を得て乏少する所無く身心勇決して能く內空[六]乃至無性自性空に住し亦た能く四念住[七]乃至八聖道支を修し、亦た能く苦聖諦集滅道聖諦に住し、亦た能く四靜慮[八]乃至四無色定を修し、亦た能く八解脫[九]乃至十遍處を修し亦た能く陀羅尼門三摩地門を修し、亦た能く空解脫門無相無願解脫門を修し、亦た能く極喜地[十]乃至法雲地を修し、亦た能く五眼六神通を修し、亦た能く佛の十力[十一]乃至十八佛不共法を修し、亦た能く無忘失法恒住捨性を修し、亦た能く一切智[十二]乃至一切相智を修す。彼の諸の有情は無漏法に由りて攝受せらるるが故に生死より解脫す。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら種種の勝無漏法を行じ亦た他に種種の勝無漏法を行ずるを勸め、無倒に種種の勝無漏を行ずる法を稱揚し、歡喜して種種の勝無漏法を行ずる者を讚歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して無漏法を以て有情を攝受して生死は脫し勝利樂を獲せしむ。

卷の第三百九十三

初分成熟有情品第七十一之四

復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住し諸の有情の依怙する所無く諸の苦惱多く衆具匱乏せるを見ては深く憐愍を生じ安慰して言はく、我れ能く汝が爲に依怙する所と作り汝をして受くる所の苦事より解脫せしめん。汝等が須つ所の若しは食若しは飮若しは衣服若しは臥具若しは車乘若しは舍宅若しは香若しは花若しは僮僕若しは伎樂若しは珍寶若しは燈明若しは嚴具若しは醫藥若しは餘の種種の須つ所の資具皆意に隨ひて索め疑難有ること莫れ。我れ當に汝が索むる所に隨ひて皆施し汝をして長夜に利益安樂せしむべし。汝等我が施す所の物を受くる時已れの物を取るが

緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)緣より生ずる所の諸法。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)欲界、色無色界。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)陀羅尼門、三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。若しは一切の菩薩摩訶薩行若しは諸佛の無上正等菩提得可しと爲すや不やと。彼の諸の有情既に資具を得て乏少する所無し、菩薩の語に依りて先に布施淨戒安忍精進靜慮を修し圓滿することを得已て復た審かに諸法の實相を觀察して般若波羅蜜多を修行す。審に觀察する時先に說く所の如く諸法の實性皆得可からず得可からざるが故に執著する所無し。執著せざるが故に少法も生有り滅有り染有り淨有るを見ず。彼れ諸法に於て所得無き時一切處に於て分別を起さず。謂ゆる此れは是れ地獄、此れは是れ傍生、此れは是れ鬼界、此れは是れ阿素洛、此れは是れ人、此れは是れ天、此れは是れ持戒、此れは是れ犯戒、此れは是れ異生、此れは是れ聖者、此れは是れ預流、此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩、此れは是れ如來、此れは是れ有爲法、此れは是れ無爲法なりと分別せざるなり。彼れ是の如く分別無きに由るが故に其の應ずる所に隨ひて漸次に三乘涅槃を證得す。謂ゆる聲聞乘或は獨覺乘或は無上乘なり。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら般若を修し亦た他に般若を修するを勸め、無倒に般若を修する法を稱揚し、歡喜して般若を修する者を讃歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して諸の有情に般若を修行するを勸めて殊勝の利益安樂を獲せしむ。

三〇。復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行じ、亦た他に布施乃至般若波羅蜜多を行ずるを勸め已て復た有情の諸趣に輪廻して無量の苦

【三〇】更に布施中、諸菩薩行によりて有情を攝受することを明す。

彼れ是の言を作さん、我れ資具乏しきが故に靜慮に於て修習すること能はずと。菩薩告げて言はく、我れ能く汝に乏しき所の資具を施さん。汝等今より復た虛妄を起し尋伺内外に攀緣して自心を擾亂すべからずと。時に諸の有情是の菩薩の施す所の資具を得て乏少する所無く便ち能く虛妄の尋伺[一九]を伏斷して初靜慮に入り、漸次に復た第二第三第四靜慮に入り、諸の靜慮に依りて復た能く慈悲喜捨の四種梵住を發起して靜慮無量の依止する所と爲り、復た能く漸く四無色定に入り。靜慮無量無色心を調へ柔軟ならしめ已て四念住四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支空無相無願解脫門等の種種の善法を修し、其の應ずる所に隨ひて三乘の果を得。謂ゆる或は聲聞涅槃を證得し、或は獨覺涅槃を證得する有り、或は無上正等菩提を證する善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら靜慮を修し、亦た他に靜慮を修するを勸め、無倒に靜慮を修する法を稱揚し、歡喜して靜慮を修する者を讃歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して諸の有情に散亂を遠離して諸の靜慮を修した饒益を作すを勸む。

（ホ）復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して諸の有情の愚癡顚倒せるを見ては深く憐愍を生じて之に告げて言はく、汝等何に緣りて般若を修せず愚癡顚倒して生死に輪廻するやと。彼れ是の言を作さん、我れ資具に乏しく勝智慧に於て修習すること能はずと。菩薩告げて言はく、我れ能く汝に乏しき所の資具を施さん、汝之を受く可し。先に布施淨戒安忍精進靜慮を修し圓滿することを得已て應に審かに諸法の實相を觀察して般若波羅蜜多を修行すべし、謂ゆる爾の時に於て審に觀察すべし、少法有りて得可しと爲すや不やと。謂ゆる若しは我若しは有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者使知者見者使見者得可しと爲すや不や。(c)若しは色若しは受想行識得可しと爲すや不や。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に

【一九】尋伺。舊に覺觀といふ。尋は客觀對象に於てその義理を麁く尋求する、伺は一歩進んで一層細かに伺察する精神作用を云ふ。

（ホ）般若。

(c)「若色若受想行識爲可得不」右の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前に同じ。

と復た難しと。汝等今既に斯の事を具せるに憤恚に由りて好時を失ふこと勿れ。若し此の時を失はば則ち救療すること難し。是の故に汝等諸の有情に於て忿恚を起すこと勿れ。當に安忍を修すべし。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら安忍を行じ亦た他に安忍を行ずるを勸め、無倒に安忍を行ずる法を稱揚し、歡喜して安忍を行ずる者を讃歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して諸の有情に安忍を修行するを勸むるに諸の有情は斯れに由り展轉して漸く三乘に依りて解脫を得、謂ゆる或は聲聞乘に依りて解脫を得、或は獨覺乘に依りて解脫を得或は大乘に依りて解脫を得。

(八)復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して諸の有情の身心懈怠なるを見ては深く憐愍を生じて之に告げて言はく、汝等何に緣り勤め精進して諸の善法を修せずして懈怠を生ずるやと。彼れ是の言を作さん、我れ資具乏しきが故に善事に於て專修するを得ずと。菩薩告げて言はく我れ能く汝に乏しき所の資具を施さん。汝應に布施淨戒安忍等の法を專修すべしと。時に諸の有情是の菩薩の施す所の資具を得て乏少なる所無く便ち能く身心の精進を發起し諸の善法を修して速に圓滿するを得。諸の善法圓滿するを得るに由るが故に漸次に諸の無漏法を引生し、無漏法に由りて或は預流一來不還阿羅漢果を得、或は獨覺菩提を獲得する有り或は諸の菩薩地に趣入する有りて漸く無上正等菩提を得。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら精進を行じ亦た他に精進を行ずるを勸め、無倒に精進を行ずる法を稱揚し、歡喜して精進を行ずる者を讃歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住し諸の有情をして懈怠を遠離し諸善を勤修して速に解脫を得せしむ。

(九)復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住し諸の有情の散亂失念せるを見ては深く憐愍を生じて之に告げて言はく、汝等何に緣りて靜慮を修せず散亂失念して生死に沈淪するやと。

(八)　精進。

(九)　靜慮。

らしむべし。汝等諸の[一六]資生の具乏しきに由りて淨戒を毀犯して諸の惡業を作す。我れ當に汝の乏しき所の資具に隨ひて飲食乃至病に緣る醫藥及び餘の乏しき所皆當に供施すべし。汝等律儀戒に安住し已て漸次に當に能く苦邊際を作し或は聲聞乘に依りて出離を得、或は獨覺乘に依りて出離を得、或は無上乘に依りて出離を得べし。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら淨戒を受持し亦た他に淨戒を受持するを勸め無倒に淨戒を受持する法を稱揚し歡喜して淨戒を受持する者を讃歎す。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行して諸の有情に勸めて淨戒に安住し生死より解脫して勝利樂を得しむ。

(ロ)復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住し、諸の有情の更に相瞋忿するを見ては深く憐愍を生じて之に告げて言はく、汝等何に緣りて互ひに憤恚を起すや。汝等若し匱乏する所有りて展轉して相緣り斯の惡を起すと爲さば應に我れに從つて索むべし。我れ當に汝を濟ふべし。汝の須つ所に隨ひて飲食衣服臥具宅舍車乘僮僕珍寶花香病に緣る醫藥伎樂幡蓋瓔珞燈明及び餘の種種の須つ所の資具を皆當に汝に施して匱乏無からしむべし。汝等互ひに相瞋忿すべからず應に安忍を修して共に慈心を起すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して諸の有情に安忍を修するを勸め已て堅固ならしめんと欲し[一七]復た之に告げて言はく、瞋忿の因緣は都て定實無く皆虛妄の分別より生ずる所なり、一切法の本性は空なるを以ての故に。汝等何に緣りて無實の事に於て妄りに憤恚を起し互に相罵辱し刀杖等を執りて而かも相加害するや。汝等虛妄の分別に緣りて横に瞋忿を生じて諸の惡業を造くること勿れ。當に地獄傍生鬼界及び餘の惡處に墮ちて諸の劇苦を受くべし。其の苦楚の毒は剛強猛利にして身心に逼切し最極忍び難し。汝等實有の事に非ざるに執して妄りに憤恚を起して斯の罪業を作すこと勿れ。此の罪業に因りては下劣の人身すら尙ほ得可きこと難し、況んや佛世に生ぜんをや。汝等應に知るべし、[一八]人身は得難く佛世には値ひ難く信を生ずるこ

【一六】貧して罪あり。

(ロ) 安忍。

【一七】瞋忿は實有に非ざる事に執して虛妄の分別に緣りて起るを說く。

【一八】人身得難く等。諸難を成就するも憤瞋之を失ふ、瞋恚の害大なり。

悲速に圓滿するに由るが故に常に無量の有情を利樂すと雖も而かも有情に於て都て所得無く亦復た獲る所の勝果をも得ず、能く如實に但だ假想に由りて世俗の言說もて諸の有情を利樂する事を施設するを知るのみ、又た如實に施設する所の事は皆谷の響の如く現に有るに似たりと雖も而かも眞實無しと知る。此れに由りて法に於て都て取る所無し。

善現、諸の菩薩摩訶薩は常に應に是の如く布施波羅蜜多を修行すべし。謂ゆる有情に於て都て悋しむ所無く乃至能く自身の骨肉すら施す。況や諸の外の資具を捨つる能はざらんや。謂ゆる諸の資具は有情を攝受して速に生老病死より解脫せしむと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等の資具、諸の有情を攝して速に生老病死より解脫せしむるやと。佛、善現に告げたまはく、所謂布施波羅蜜多資具若しは淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多資具、若しは內空(わ)乃至無性自性空資具、若しは四念住(か)乃至八聖道支資具、若しは苦聖諦(よ)乃至道聖諦資具、若しは四靜慮(た)乃至四無色定資具、若しは八解脫(れ)乃至十遍處資具、若しは陀羅尼門、三摩地門資具、若しは空解脫門(そ)乃至無願解脫門資具、若しは極喜地(つ)乃至法雲地資具、若しは五眼、六神通資具、若しは佛の十力(ね)乃至十八佛不共法資具、若しは無忘失法、恒住捨性資具、若しは一切智(な)乃至一切相智資具、若しは預流果(ら)乃至阿羅漢果獨覺菩提資具、若しは一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提資具なり。善現、是の如き資具は諸の有情を攝して速に生老病死より解脫せしむ。諸の菩薩摩訶薩は恒に是の如き種種の資具を以て諸の有情を攝して生老病死より解脫することを得、大義利を獲せしむ。[一五]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して自ら布施を生じ諸の有情に布施を行ずるを勸め已つて諸の有情の淨戒を毀犯するを見ては深く憐愍を生じ彼れに告げて言はく、(イ)汝等皆應に淨戒を受持すべし。我れ當に汝が須つ所の飲食衣服臥具舍宅車乘末尼眞珠吠琉璃寶頗胝迦寶帝青大青金銀璧玉螺貝珊瑚及び餘の種種多價の珍寶香花幡蓋病に緣る醫藥の至種種の餘の資生の具を供し皆相給施して乏しき所無か

(わ) 六度の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す以下亦た同じ。

【一五】 二に無所得の布施中に他の五法を行ずるを明す。

(イ)、淨戒。

の菩薩摩訶薩は四攝事を以て有情を攝する時先に有情に教へて布施に安住せしめ是れに由りて漸次に淨戒安忍精進靜慮般若に住せしめ、復た四靜慮乃至[一二]四無色定に安住せしめ、復た四念住乃至[一三]八聖道支に安住せしめ、復た空三摩地無相三摩地無願三摩地に安住せしむ。是の菩薩摩訶薩は諸の有情をして是の如き等の諸の善法に住せしめ已つて或は正性離生に趣入して預流果を得、一來果を得、不還果を得、阿羅漢果を得しめ、或は正性離生に趣入して漸次に獨覺菩提を證得せしめ、或は正性離生に趣入して漸次に諸の菩薩地を修學して速に無上正等菩提に趣かしめ、復た彼れに告げて言はく、諸の善男子、當に大願を發して速に無上正等菩提に趣き諸の有情に利益安樂を作すべし。諸の有情類の著する所の法は都て自性無し。但だ顛倒虚妄に由りて分別し之は爲れ有なりと謂ふのみ。是の故に汝等常に當に精勤して自ら顛倒を斷ずべく、亦た應に他に教へて顛倒を斷ぜしむべし。自ら生死を脱し亦た應に他に教へて生死を脱せしむべし。自ら大利を獲亦た應に他に教へて大利を獲せしむべし。善現、諸の菩薩摩訶薩は常に應に是の如く布施波羅蜜多を修行すべし、此の布施波羅蜜多に由りて初發心より乃ち究竟に至るまで惡趣に墮ちず諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に多く人趣に生じて轉輪王と作らん。所以は何ん、種の勢力に隨ひて是の如き果を獲ればなり。謂ゆる彼の菩薩の輪王と作る時乞者の來るを見ては便ち是の念を作さん、我れ何の事の爲に生死に流轉して轉輪王と作れる。豈に我れ有情を利樂せんが爲に生死の中に住して斯の勝果を受けしならずや、餘の事に由らずと。是の念を作し已つて乞者に告げて言はく、汝の須つ所に隨ひて皆當に施與すべし。汝物を取る時已れの物を取るが如くして他想を作すこと勿れ、所以は何ん、我れ汝等に利樂を得しめんが爲の故に此の身を受け財物を積集せり。故に此の財物は是れ汝等が有なり。汝に隨ひて自ら取りて若しは自ら受用し若しは轉じて他に施すも疑難有ること莫れと。

是の菩薩摩訶薩の是の如く諸の有情を憐愍する時[一四]無緣の大悲速に圓滿することを得ん。此の大

【一四】無緣の大悲。功利等何等の條件無き大慈悲を云ふ。

等の想無しと。

〔一〇〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行し方便善巧して有情を成熟するやと。佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩有りて布施波羅蜜多を修行する時方便善巧して自ら布施を行じ亦た他に布施を行ずるを勸め殷勤に彼れに教授教誡して言はく、諸の善男子、布施に著すること勿れ。若し布施に著せば當に更に身を受くべし。若し更に身を受けなば斯れに由りて展轉して當に無量の猛利大苦を受くべし。諸の善男子、勝義諦の中には都て布施無く亦た施者無く亦た受者無く亦た施物無く亦た施果無し。是の如き諸法は皆本性空なり。本性空の中には法の取る可き無く諸法空性も亦た取る可からずと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行する時有情に於て自ら施を行じ亦た他に施を勸むと雖も而かも布施に於て施者受者施物施果皆得る所無し。是の如き布施波羅蜜多を無所得波羅蜜多と名づく。是の菩薩摩訶薩は此の諸法に於て所得無き時方便善巧して能く有情を化して預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を得或は無上正等菩提に趣かしむ。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行する時布施法に依りて有情を成熟して利樂を獲せしむ。

善現、是の菩薩摩訶薩は自ら布施波羅蜜多を行じ、亦た他に布施波羅蜜多を行ずるを勸め、〔一一〕無倒に布施波羅蜜多を行ずる法を稱揚し、歡喜して布施波羅蜜多を行ずる者を讃歎す。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き大布施を修行し已つて或は刹帝利大族〔一二〕衆同分の中に生じ、或は婆羅門大族衆同分の中に生じ、或は長者大族衆同分の中に生じ、或は居士大族衆同分の中に生じ、或は小王と作りて小國土に於て富貴自在に、或は大王と作りて大國土に於て富貴自在に、或は〔一三〕輪王と作りて四洲界に於て富貴自在ならん。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き等の諸の尊貴の處に生じ四攝事を以て諸の有情を攝す。何等をか四と爲す。一には布施、二には愛語、三には利行、四には同事なり。是

〔一〇〕菩薩行の第一に無所得の布施を明す。

〔一一〕無倒。一切の顛倒を離れたる正見。

〔一二〕衆同分。共通すること。

〔一三〕輪王。輪寶を有する王、王中の大王、四天を領するを金輪王、三天を銀、二天を銅、一天を領するを鐵輪王と云ふ。

正等菩提を證して諸の有情に眞實の饒益を作すべし。謂ゆる迷謬顚倒し諸趣に往來して生死の苦を受くるを解脫せしめんと。舍利子、是の菩薩摩訶薩は有情の諸趣の生死に迷謬し顚倒せるを脫せしむと雖も而かも所得無し。但だ世俗に依りて是の事有りと說くのみ。

舍利子、巧みなる幻師或は彼の弟子[八]帝網術を用て無量百千倶胝の諸の有情類を化作し、復た種種上妙の飲食を化して化の有情に與へて皆飽滿せしむるが如し。是の事を作し已つて歡喜し唱へて言はく、我れ已に廣大の福聚を獲得せりと。舍利子、汝が意に於て云何。是の如き幻師或は彼の弟子、實に有情をして飽滿することを得せしむるや不やと。舍利子言さく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、舍利子に告げたまはく、菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、初發心より諸の有情を度脫せんと欲するが爲の故に布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、內空(わ)乃至無性自性空に安住し、四念住(そ)乃至八聖道支を修行し、四靜慮(た)乃至四無色定を修行し、八解脫(れ)乃至十遍處を修行し、陀羅尼門、三摩地門を修行し、空解脫門(つ)乃至無願解脫門を修行し、極喜地(ね)乃至法雲地を修行し、五眼、六神通を修行し、佛の十力(な)乃至十八佛不共法を修行し、三十二大士相、八十隨好を修行し、無忘失法、恒住捨性を修行し、一切智(ら)乃至一切相智を修行し、菩薩摩訶薩の大菩提道を圓滿し有情を成熟し佛土を嚴淨す。舍利子、諸の菩薩摩訶薩は是の事を作すと雖も而かも有情及び一切法に於て都て所得無く、是の念を作さず、我れ此の法を以て是の如き諸の有情類を調伏すと。[九]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何をか菩薩摩訶薩の大菩提道と謂ひ諸の菩薩摩訶薩此の道を修行し方便善巧して有情を成熟し佛土を嚴淨するやと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩の初發心より行ずる所の布施波羅蜜多、行ずる所の淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多(ゐ)乃至行ずる所の一切智、行ずる所の道相智一切相智及び餘の無量無邊の佛法は皆是れ菩薩摩訶薩の大菩提道なり。諸の菩薩摩訶薩は此の道を修行し方便善巧して有情を成熟し佛土を嚴淨するも而かも有情佛土

【八】帝網術。帝網とは因陀羅網にて帝釋天にある寶網なり。その網の線と珠玉が交絡するを取て物の重々無盡に交絡渉入するに譬へらる。帝網術とはかく無盡に化作するに因りて名付く。

(わ) 六度の場合の如く分說すべき所なるも便宜上本文の如く略す以下亦た同じ。

【九】以下善現の問に對して行菩薩道の相を說く。

(ゐ) 前の佛の答の場合と同じ諸法につき「所行」の語を繰返すのみなる故「乃至」として略せり。

ず。諸趣の差別了知す可からざるが故に業無く煩惱無し。業煩惱無きが故に亦た異熟果無し。既に異熟果無くんば如何が我及び有情有りて諸趣に流轉し三界の種種の差別を現ずることを得んと。佛、舍利子に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。舍利子、若し有情類[五]先有後無ならば菩薩如來は應に過失有るべし。若し諸趣の生死先有後無ならば則ち菩薩如來も亦た過失有り。先無後有の理も亦然からず。是の故に舍利子、[六]如來は出世し若しは出世せざるも法相常住にして終に改轉無し。一切法の法性法界法住法定眞如實際不虛妄性不變異性は猶ほ虛空の如くなるを以て此の中尙ほ我無く有情無く命者無く生者無く養者無く士夫無く補特伽羅無く意生無く儒童無く作者無く使作者無く起者無く使起者無く受者無く使受者無く知者無く使知者無く見者無く使見者無し。況んや當に色有り受想行識有り、眼處乃至意處有り、色處乃至法處有り、眼界乃至意界有り、色界乃至法界有り、眼識界乃至意識界有り、眼觸乃至意觸有り、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受有り、地界乃至識界有り、諸の緣起有り、緣生法有り、緣起支有るべけんや。既に是の如き所說の諸法無し。云何が當に諸趣の生死有るべけん。諸趣の生死既に得可からず、云何が當に有情を成熟し其れをして解脫せしむること有るべけん。唯だ世俗に依りて假りに說いて有りと爲すのみ。

舍利子、是の如き法の自性は皆空なるを以て諸の菩薩摩訶薩は過去の佛より如實に聞き已つて有情を顚倒の執著より脫せんが爲に無上正等菩提を發趣す。發趣する時に於て是の念を作さず、我れ此の法に於て已に得當に得べく、彼の有情をして所執著處の生死の衆苦より已に度し當に度せしめんと。舍利子、是の菩薩摩訶薩は有情を顚倒の執著より脫せんが爲に功德の鎧を擐、大誓莊嚴し勇猛正勤して顧恪する所無く、無上正等菩提より退せず、常に菩提に於て[七]猶預を起さゞるなり、謂ゆる我れ當に證すべきや當に證すべからざる耶と。恒に是の思ひを作す、我れ必ず當に所求の無上

【五】先有後無。先に迷へる間は有なるも後佛教にて悟りて無となるを云ふ。

【六】如來は出世し等。佛の教の有無によりて法相有無の別あるに非ざるなり。

(ろ)　五蘊の如く分說せず簡を主とするが故に、以下亦た同じ。

【七】猶預。疑慮するなり。

得、或は一來果を得、或は不還果を得、或は阿羅漢果を得、或は獨覺菩提を得、或は菩薩摩訶薩位に入り、或は無上正等菩提を得と。

〔三〕爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を修行する時云何が有所得者と名づけざるや、謂ゆる諸の有情は實に所有無くして而かも布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に安住せしめ、復た爲に能く生死より出づる殊勝の聖法を宣說して或は預流果を得せしめ或は一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得せしめ、或は菩薩摩訶薩位に入らしめ、或は無上正等菩提を得せしむるやと。佛、舍利子に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時諸の有情に於て所得有るに非ず。何を以ての故に、舍利子、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時有情の少しくも實に得可きを見ず唯だ世俗の假りに有情を說く有るのみなればなり。舍利子、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時二諦に安住して諸の有情の爲に正法を宣說す。何をか二諦と謂ふ。謂ゆる世俗諦及び勝義諦なり。舍利子、二諦の中有情得可からず有情施設も亦た得可からずと雖も而かも諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して諸の有情の爲に法要を宣說す。諸の有情類は是の法を聞き已つて現法の中に於て尙ほ我をすら得ず、何に況んや當に所求の果證を得べきをや。是の如く舍利子、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して有情の爲に正法を宣說し正行を修して所證の果を得せしむと雖も而かも心彼れに於て都て所得無しと。〔四〕具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、此の諸の菩薩摩訶薩は是れ眞の菩薩摩訶薩なり、諸法に於て一性を得ず異性を得ず總性を得ず別性を得ずと雖も而かも是の如き大功德の鎧を擐る。是の如き大功德の鎧を擐るに由りて欲界に現ぜず色界に現ぜず無色界に現ぜず、有爲界に現ぜず無爲界に現ぜず、有情を化して三界より脫せしむと雖も而かも有情に於て都て所得無く亦復た有情施設を得ず。有情施設得可からざるが故に縛無く解無し。縛解無きが故に染無く淨無し。染淨無きが故に諸趣の差別了知す可から

〔三〕菩薩二諦に住して有情の爲に說法するを明す。

〔四〕生空なれば惑業苦の業道も空なるを明す。

初分成熟有情品第七十一之二

具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧し此の方便善巧力に由るが故に諸法皆自性無く都て實有に非ずと雖も而かも世俗に依りて無上正等菩提を發趣し、諸の有情の爲に種種に宣說して正解を得て顚倒を遠離せしむるやと。佛、舍利子に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時方便善巧すとは謂ゆる都て少しくも實法の中に於て住す可き有るを見ざるなり。中に於て住するに由りて[一]罣礙有り。罣礙に由るが故に退沒有り、退沒に由るが故に心便ち劣弱なり。心劣弱なるが故に便ち懈怠を生ず。舍利子、一切法は都て實事無く我我所無きを以て皆無性を以て自性と爲し本性空寂自相空寂なり。唯だ一切の愚夫異生のみ迷謬顚倒有りて色蘊に執著し受想行識蘊に執著し(a)乃至異生に執著し預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺に執著す。

舍利子、是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は一切都て實事無く我我所無く皆無性を以て自性と爲し本性空寂自相空寂なりと觀じて般若波羅蜜多を修行し、自ら立ちて[二]幻師の如く有情の爲に法を說く。謂ゆる慳貪なる者には爲に布施を說きて布施波羅蜜多を修せしめ、若し破戒する者には爲に淨戒を說きて淨戒波羅蜜多を修せしめ、若し瞋忿する者には爲に安忍を說きて安忍波羅蜜多を修せしめ、若し懈怠なる者には爲に精進を說きて精進波羅蜜多を修せしめ、若し散亂なる者には爲に靜慮を說きて靜慮波羅蜜多を修せしめ、若し愚癡なる者には爲に般若を說きて般若波羅蜜多を修せしむ。舍利子、是の菩薩摩訶薩は有情を安立して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に住せしめ已て復た爲に能く生死より出づる殊勝の聖法を宣說す。諸の有情類は之に依りて修學して或は預流果を

【一】罣礙。罣は網、礙は障り。煩惱妄想なり。

(a) 前巻(1)の問答の同じ諸法を反複するのみなる故「乃至」として略せり。

【二】幻師の如く。幻師所作の如く平等心もて種種神變度生するなり。

此れは是れ一來法、此れは是れ不還、此れは是れ不還法、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ阿羅漢法、此れは是れ獨覺、此れは是れ獨覺法、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ菩薩摩訶薩法、此れは是れ如來應正等覚、此れは是れ如來應正等覺法なりと了知す可けんと。佛、舍利子に告げたまはく、汝が意に於て云何、實に色有り實に受想行識有りと諸の愚夫異生の如く執すと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり世尊、不なり善逝、但だ顚倒に由りて愚夫異生は是の如き有りと執するのみなりと。(ロ)舍利子、實に眼處有り實に耳鼻舌身意處有りと諸の愚夫異生の如く執すと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり世尊、不なり善逝、但だ顚倒に由りて愚夫異生は是の如き有りと執するのみなりと。(ロ)色處乃至法處。(ロ)眼界乃至意界。(ロ)色界乃至法界。(ロ)眼識界乃至意識界。(ロ)眼觸乃至意觸。(ロ)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(ロ)地界乃至識界。(ロ)因縁、等無間縁所縁縁增上縁。(ロ)縁より生ずる所の諸法。(ロ)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(ロ)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(ロ)內空乃至無性自性空。(ロ)四念住乃至八聖道支。(ロ)苦聖諦乃至道聖諦。(ロ)四靜慮乃至四無色定。(ロ)八解脫乃至十遍處。(ロ)陀羅尼門、三摩地門。(ロ)空解脫門乃至無願解脫門。(ロ)極喜地乃至法雲地。(ロ)五眼、六神通。(ロ)佛の十力乃至十八佛不共法。(ロ)三十二大士相、八十隨好。(ロ)無忘失法、恒住捨性。(ロ)一切智乃至一切相智。(ロ)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(ロ)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

舍利子、實に異生有り實に預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩如來應正等覺有りと諸の愚夫異生の如く執すと爲すや不やと。不なり世尊、不なり善逝、但だ顚倒に由りて愚夫異生は是の如き有りと執するのみなりと。佛言はく、舍利子、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して諸法は皆自性無く都て實有に非ずと觀ずと雖も而かも世俗に依りて無上正等菩提を發趣し諸の有情の爲に種種に宣說して正解を得せしめ顚倒を遠離すと。

(ロ)「舍利子爲實有眼處實有耳鼻舌身意處如諸愚夫異生執不舍利子言不也世尊不也善逝但由顚倒愚夫愚生有如是執」右の文中「六處」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前に同じ。

訶薩行、諸佛の無上正等菩提、此れは是れ異生此れは是れ聲聞、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩、此れは是れ如來なりと取らず。

舍利子、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して如實に一切の法性皆取る可からずと了知す。所謂般若波羅蜜多は取る可からず靜慮波羅蜜多は取るべからず精進波羅蜜多は取る可からず安忍波羅蜜多は取る可からず淨戒波羅蜜多は取る可からず布施波羅蜜多は取る可からず(m)乃至一切の異生は取る可からず一切の聲聞は取る可からず一切の獨覺は取る可からず一切の菩薩摩訶薩は取る可からず一切の如來は取る可からずと。

舍利子、是の不可取波羅蜜多は卽ち是れ無障波羅蜜多なり。是の如き無障波羅蜜多は卽ち是れ般若波羅蜜多なり。諸の菩薩摩訶薩、應に中に於て學すべし。舍利子、諸の菩薩摩訶薩、中に於て學する時尙ほ學すら得ず、況んや無上正等菩提を得んをや、況んや般若波羅蜜多を得んをや、況んや菩薩法を得んをや、況んや諸佛法を得んをや、況んや獨覺法を得んをや、況んや聲聞法を得んをや、況んや異生法を得んをや。何を以ての故に、舍利子、少法も自性有ること無ければなり。是の如き無性を自性と爲す法の中に於ては何等か是れ異生法、何等か是れ預流法、何等か是れ一來法、何等か是れ不還法、何等か是れ阿羅漢法、何等か是れ獨覺法、何等か是れ菩薩法、何等か是れ如來法なる。舍利子、是の如き諸法既に得可からず、何等の法に依りて補特伽羅有りと施設す可けん。補特伽羅既に得可からず、云何が此れは是れ異生、此れは是れ預流、此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺なりと說く可けんと。

〔三〕時に舍利子、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆自性無く都て實有に非ずんば何等の事に依りて此れは是れ異生、此れは是れ異生法、此れは是れ預流、此れは是れ預流法、此れは是れ一來、

(m) 前の(l)の場合と同じ諸法を繰返へし說くのみなる故「乃至」として略せり。

【三】諸法自性なくして凡聖あるは無性に相應すると否とに由るも、實は人法俱に空なる空に同じきことを明す。

五眼、六神通。(k)佛の十力乃至十八佛不共法。(k)三十二大士相、八十隨好。(k)無忘失法、恒住捨性。(k)一切智乃至一切相智。(k)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(k)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。是の如く舍利子、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して勇猛に正しく菩提道を勤修すと。

爾の時具壽舍利子復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法都て自性の合離す可き者無くんば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を引發し諸の菩薩摩訶薩中に於て修學するや。世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を學せずんば終に所求の無上正等菩提を得ること能はざるやと。佛、舍利子に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を學せずんば終に所求の無上正等菩提を得ること能はず。舍利子、諸の菩薩摩訶薩は要らず般若波羅蜜多を學して乃ち能く所求の無上正等菩提を證得す。舍利子、諸の菩薩摩訶薩の所求の無上正等菩提は要らず方便善巧有りて乃ち能く證得す。方便善巧無くして證得す可きに非ず。舍利子、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時若し法の自性の得可き有りと見ば則ち應に取る可く、法の自性の得可き有るを見ずんば當に何所にか取るべけん。所謂此れは是れ般若波羅蜜多、此れは是れ靜慮波羅蜜多、此れは是れ精進波羅蜜多、此れは是れ安忍波羅蜜多、此れは是れ淨戒波羅蜜多、(l)此れは是れ布施波羅蜜多、(l)色乃至識。(l)眼處乃至意處。(l)色處乃至法處。(l)眼界乃至意界、(l)色界乃至法界、(l)眼識界乃至意識界。(l)眼觸乃至意觸。(l)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(l)地界乃至識界。(l)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(l)緣より生ずる所の諸法。(l)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(l)內空乃至無性自性空。(l)四念住乃至八聖道支。(l)苦聖諦乃至道聖諦。(l)四靜慮乃至四無色定。(l)八解脫乃至十遍處。(l)陀羅尼門、三摩地門。(l)空解脫門乃至無願解脫門。(l)極喜地乃至法雲地。(l)五眼、六神通。(l)佛の十力乃至十八佛不共法。(l)三十二大士相、八十隨好。(l)無忘失法、恒住捨性。(l)一切智乃至一切相智。(l)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(l)一切の菩薩摩

【一】菩提證得には不可取、無障の般若波羅蜜多を學すべきを明す。

(l)「此是布施波羅蜜多」右の「布施波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前に同じ但し六度の如く分說せず。

性自性空に安住する時外空乃至無性空を得ず、能住を得ず、所住を得ず、所爲を得ず、亦た是の如き諸法を遠離せずして外空乃至無性自性空に住せば是の菩薩摩訶薩は則ち能く菩薩道を圓滿し修するなり。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して菩薩道を修し圓滿することを得せしめ能く無上正等菩提を證す。(j)四念住乃至八聖道支。

巻の第三百九十一

初分成熟有情品第七十一之二

(j)苦聖諦乃至道聖諦。(j)四靜慮乃至四無色定。(j)八解脫乃至十遍處。(j)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(j)空解脫門乃至無願解脫門。(j)極喜地乃至法雲地。(j)五眼、六神通。(j)佛の十力乃至十八佛不共法。(j)三十二大士相、八十隨好。(j)無忘失法、恒住捨性。(j)一切智乃至一切相智。(j)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時勇猛に正しく菩薩道を勤修するやと。佛言はく、(k)舍利子、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時は方便善巧して色を和合せず色を離散せず、受想行識を和合せず受想行識を離散せず。何を以ての故に、是の如き諸法は皆自性の合離す可き無きが故に。(k)眼處乃至意處。(k)色處乃至法處。(k)眼界乃至意界。(k)色界乃至法界。(k)眼識界乃至意識界。(k)眼觸乃至意觸。(k)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(k)地界乃至識界。(k)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(k)緣より生ずる所の諸法。(k)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(k)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(k)內空乃至無性自性空。(k)四念住乃至八聖道支。(k)苦聖諦乃至道聖諦。(k)四靜慮乃至四無色定。(k)八解脫乃至十遍處。(k)陀羅尼門、三摩地門。(k)空解脫門乃至無願解脫門。(k)極喜地乃至法雲地。(k)

(j) 前巻と同意

(k) 「舍利子若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多時方便善巧不和合色不離散色不和合受想行識不離散受想行識何以故如是諸法皆無自性可合離故。右の文中「色乃至識」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前の如くす。

初分成熟有情品第七十一之一

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩(i)布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、(i)內空乃至無性自性空。(i)四念住乃至八聖道支。(i)苦聖諦乃至道聖諦。(i)四靜慮乃至四無色定。(i)八解脫乃至十遍處。(i)陀羅尼門、三摩地門。(i)空解脫門乃至無願解脫門。(i)極喜地乃至法雲地。(i)五眼、六神通。(i)佛の十力乃至十八佛不共法。(i)三十二大士相、八十隨好。(i)無忘失法、恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、菩薩道を修行して若し未だ圓滿せず、所求の無上正等菩提を證得する能はずんば、世尊、云何が菩薩摩訶薩は菩薩道を修し亡圓滿することを得せしめ、能く無上正等菩提を證得するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行し方便善巧して布施波羅蜜多を修行する時布施を得ず、能施を得ず、所施を得ず、所爲を得ず、亦た是の如き諸法を遠離せずして布施波羅蜜多を行ぜば是の菩薩摩訶薩は則ち能く菩薩道を圓滿し修するなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行し方便善巧して淨戒乃至般若波羅蜜多を修行する時靜戒乃至般若を得ず、能修を得ず、所修を得ず、所爲を得ず、亦た是の如き諸法を遠離せずして淨戒乃至般若波羅蜜多を行ぜば是の菩薩摩訶薩は則ち能く菩薩道を圓滿し修するなり。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して菩薩道を修し圓滿することを得せしめ能く無上正等菩提を證す。(j)善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行し方便善巧して內空に安住する時內空を得ず、能住を得ず、所住を得ず、所爲を得ず、亦た是の如き諸法を遠離せずして內空に住せば是の菩薩摩訶薩は則ち能く菩薩道を圓滿し修するなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行し方便善巧して外空乃至無

【一】菩提證得に要する菩薩道圓滿の義を明す。

(i)「修行布施波羅蜜多修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「六度」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前の諸例の如くす但し「內空苦聖諦」のみは修行の代りに「安住」の語を當つるものとす。

(j)「善現若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多方便善巧安住內空時不得內空不得能住不得所住不得所爲亦不遠離如是諸法而住內空………方便善巧修菩薩道令得圓滿能證無上正等菩提」右の文中「內空乃至無性自性空」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(j)にて略し以下その諸法のみ略出することとす但し「苦聖諦」を除き他のものは「安住」又は「住」とある所を「修行」又は「修」と改むるものとす即ち「能住」は「能修」「所住」は「所修」とするが如し。

き有らんをや。況や一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提を修する得可き有らんをや。善現、諸の菩薩摩訶薩の修住する所の一切の佛法に於て若し所得有りとせば是の處有ること無し。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を修行し無上正等菩提を證得して有情を饒益すること常に間斷無しと。

菩提を得、勝義に依らず。善現、(h)世俗に依るが故に色有りと施設し受想行識有りと施設す。(h)眼處乃至意處　(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界。(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(h)地界乃至識界。(h)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(h)緣より生ずる所の諸法。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)四念住乃至八聖道支。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)陀羅尼門、三摩地門。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)極喜地乃至法雲地。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)三十二大士相、八十隨好。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(h)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。世俗に依るが故に有情有りと施設し菩薩諸佛世尊有りと施設し勝義に依らず。善現、諸の菩薩摩訶薩は法有りて能く無上正等菩提に於て增有り減有り益有り損有りと見ず。一切法の本性空なるを以ての故に。善現、諸の菩薩摩訶薩は一切法に於て本性空を觀るすら尙ほ得可からず況んや初發心の而かも得可き有らんをや。況んや布施波羅蜜多を修する得可き有らんをや。況んや淨戒乃至般若波羅蜜多を修する得可き有らんをや。況んや內空乃至無性自性空に住する得可き有らんをや。況んや四念住乃至八聖道支を修する得可き有らんをや。況んや苦聖諦乃至道聖諦に住する得可き有らんをや。況んや四靜慮乃至四無色定を修する得可き有らんをや。況んや八解脫乃至十遍處を修する得可き有らんをや。況んや陀羅尼門、三摩地門を修する得可き有らんをや。況んや空解脫門乃至無願解脫門を修する得可き有らんをや。況んや極喜地乃至法雲地を修する得可き有らんをや。況んや五眼、六神通を修する得可き有らんをや。況んや佛の十力乃至十八佛不共法を修する得可き有らんをや。況んや三十二大士相、八十隨好を修する得可き有らんをや。況んや無忘失法、恒住捨性を修する得可き有らんをや。況や一切智乃至一切相智を修する得可

(h)「依世俗故施設有色施設有受想行識」右も全く(g)の場合の如くして略す。

(わ)「六度」の場合の如く分說せず簡に隨ふが故に以下亦た同じ。

無く亦た受想行識の得可き無し。(g)眼處乃[ろ]至意處。(g)色處乃[は]至法處。(g)眼界乃[に]至意界。(g)色界乃[ほ]至法界。(g)眼識界乃[へ]至意識界。(g)眼觸乃[と]至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃[ち]至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃[り]至識界。(g)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(g)無明乃[ぬ]至老死愁歎苦憂惱。(g)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(g)布施波羅蜜多乃[を]至般若波羅蜜多。(g)内空乃[わ]至無性自性空(g)四念住乃[か]至八聖道支。(g)四靜慮乃[た]至四無色定。(g)八解脫乃[れ]至十遍處。(g)陀羅尼門、三摩地門。(g)極喜地乃[そ]至法雲地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(g)三十二大士相、八十隨好。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃[な]至一切相智。(g)預流果乃[ら]至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。菩薩摩訶薩行を行ずる者の得可き無く亦た無上正等菩提を行ずる者の得可き無ければなり。善現、是の如き諸法は皆世俗の言說に依りて施設し勝義に依らず。善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して初發心より極めて猛利に諸の有情の爲に菩提行を行ずと雖も而かも此の心に於て都て所得無く諸の有情に於ても亦た所得無く大菩提に於ても亦た所得無く佛菩薩に於ても亦た所得無しと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法都て所有無く皆得可からずんば云何が菩薩摩訶薩は菩提行を行じ云何が能く無上菩提を得るやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝先時に於て斷界に依止し諸の煩惱を斷じて無漏根を得、[六]無間定に住して預流果若しは一來果若しは不還果若しは阿羅漢果を得たり。汝彼の時に於て頗し有情の若しは心若しは道若しは諸の道果の得可き有りと見しや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。

[七]佛言はく、善現、若し汝彼の時都て所得無かりしならば云何が阿羅漢果を得たりと言ふやと。善現答へて言はく、世俗の說に依りて勝義に依らず。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。世俗の說に依つて菩提行を行じ及び無上正等

【六】無間定。四定の一、世第一法位に於て上品の如實智を發し所取、能取の空なることを印可する定なり。

【七】諸法の施設は勝義に依るに非ずして世俗の說に依るものなりと說く。

修して滿ぜしめず、一切智に住せず道相智一切相智に住し久しく修して滿ぜしめず、菩薩の殊勝神通に住し、有情を成熟し佛土を嚴淨し久しく修して滿ぜしめずして無上正等菩提を得る無からんと。

佛言はく、不なり善現、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は行處無しと雖も而かも諸の菩薩摩訶薩は要らず布施乃至般若波羅蜜多に住し久しく修して滿ぜしめ(e)乃至要らず菩薩の殊勝神通に住し有情を成熟し佛土を嚴淨し久しく修して滿ぜしめ乃ち無上正等菩提を得。善現、若し菩薩摩訶薩諸の善根を修するも未だ極めて圓滿せざれば終に所求の無上正等菩提を得ること能はざるなり。

【四】復た次に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば(f)應に色の本性空に住すべく應に受想行識の本性空に住すべし。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(f)緣より生ずる所の諸法。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)陀羅尼門、三摩地門。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)三十二大士相、八十隨好。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。應に一切法の本性空に住すべく應に一切有情の本性空に住すべし。諸の功德を修して圓滿せしめ已らば便ち無上正等菩提を證せん。善現、是の諸法の本性空及び有情の本性空は最極寂靜にして少法も能く增し能く減じ能く生じ能く滅し能く斷に能く常に能く染し能く淨め得果し能く現觀する有ること無し。善現、當に知るべし菩薩摩訶薩は世俗の言說に依りて法を施設すと。故に般若波羅蜜多を修し如實に本性空を了知し已らば無上正等菩提を證得すと說く。【五】眞勝義には非ず。何を以ての故に、眞勝義の中には(g)色の得可き

(e) 前の問ひの場合と同じ諸法を繰返へすのみなる故「乃至」として略せり。

【四】 無上菩提を得んと欲する菩薩は本性空に住すべきを說く。

(f)「應住色本性空應住受想行識本性空」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【五】 眞勝義。第一義に同じ、究竟の眞理なり。

(g)「無色可得無受想行識可得」右も(f)の場合と同方法により以下略す。

ば、世尊、豈に菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を行ぜず淨戒(わ)乃至般若波羅蜜多を行ぜず、內空(わ)乃至無性自性空を行ぜず、四念住(わ)乃至八聖道支を行ぜず、苦聖諦(わ)乃至道聖諦を行ぜず、四靜慮(わ)乃至四無色定を行ぜず、八解脫(わ)乃至十遍處を行ぜず、一切陀羅尼門、一切三摩地門を行ぜず、空解脫門(わ)乃至無願解脫門を行ぜず、菩薩の正性離生に入らず、極喜地(わ)乃至法雲地を行ぜず、五眼、六神通を行ぜず、佛の十力(わ)乃至十八佛不共法を行ぜず、三十二大士相、八十隨好を行ぜず、無忘失法、恒住捨性を行ぜず、一切智(わ)乃至一切相智を行ぜず、菩薩の殊勝神通に住し、有情を成熟し佛土を嚴淨せずして無上正等菩提を得ざらんかと。

佛言はく、不なり善現、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は行處無しと雖も而かも諸の菩薩摩訶薩は要らず布施(わ)乃至般若波羅蜜多を行じ(d)乃至要らず菩薩の殊勝神通に住し、有情を成熟し佛土を嚴淨してのち無上正等菩提を得と。

時に具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は若し行處無くんば將に菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に住せず淨戒(わ)乃至般若波羅蜜多に住し久しく修して滿ぜしめず、內空に住せず外空(わ)乃至無性自性空に住し久しく修して滿ぜしめず、四念住に住せず四正斷(わ)乃至八聖道支に住し久しく修して滿ぜしめず、苦聖諦に住せず集滅道聖諦に住し久しく修して滿ぜしめず、四靜慮に住せず四無量四無色定に住し久しく修して滿ぜしめず、八解脫に住せず八勝處(わ)乃至十遍處に住し久しく修して滿ぜしめず、一切陀羅尼門に住せず一切三摩地門に住し久しく修して滿ぜしめず、空解脫門に住せず無相無願解脫門に住し久しく修して滿ぜしめず、菩薩の正性離生に入らず、極喜地に住せず離苦地(わ)乃至法雲地に住し久しく修して滿ぜしめず、五眼に住せず六神通に住し久しく修して滿ぜしめず、佛の十力に住せず四無所畏(わ)乃至十八佛不共法に住し久しく修して滿ぜしめず、三十二大士相に住せず八十隨好に住し久しく修して滿ぜしめず、無忘失法に住せず恒住捨性に住し久しく

(わ) 六度の場合の如く分說すべきも今便宜上本文の如く略す以下も同じ。

(d) 前の問ひの場合と同じ諸法を繰返へすのみなる故「乃至」として略せり。

れて生ずる所の諸受。(b)地界(a)乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明(a)乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多(a)乃至般若波羅蜜多。(b)內空(a)乃至無性自性空。(b)四念住(a)乃至八聖道支。(b)苦聖諦(a)乃至道聖諦。(b)四靜慮(a)乃至四無色定。(b)八解脫(a)乃至十遍處。(b)陀羅尼門、(a)乃至三摩地門。(b)空解脫門(a)乃至無願解脫門。(b)極喜地(a)乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力(a)乃至十八佛不共法。(b)三十二大士相、八十隨好。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智(a)乃至一切相智。(b)預流果(a)乃至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

【二】復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は取の故に行ずるに非ず、捨の故に行ずるに非ずと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩の所有る菩提は取の故に行ずるに非ず捨の故に行ずるに非ずば諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は當に何處に行ずべきやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、諸佛の化身の所有る菩提は當に何處にか行ずべき、取の爲の故に行ずるや捨の爲の故に行ずるやと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。諸佛の化身は實に所有無し。如何が所有る菩提は所行の處の若しは取若しは捨有りと說く可けんやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、諸の阿羅漢の夢中の菩提は當に何處にか行ずべき、取の爲の故に行ずるや捨の爲の故に行ずるやと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の阿羅漢は諸漏永く盡き惛沈睡眠【三】蓋纏倶に滅し畢竟じて夢無し。云何が當に夢中の菩提有りて所行の處の若しは取若しは捨有るべけんやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を修行する時の所有る菩提も亦復た是の如し、取の故に行ずるに非ず、捨の故に行ずるに非ず都て行處無し、本性空の故にと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時所有る菩提は取の故に行ずるに非ず捨の故に行ずるに非ず都て行處無く、謂ゆる色に於て行ぜず亦た受想行識に於て行ぜず(c)乃至一切の菩薩摩訶薩行に於て行ぜず、亦た諸佛の無上正等菩提に於て行ぜずん

【二】佛菩提の行處を明す。

【三】蓋纏。煩惱のこと。善心を覆蓋し纏縛して自由ならしめざればなり。

(c) 前の(a)の場合と全然同一方法によりて略すべき所なる故、その諸法も亦た全等なる故今「乃至」として全部省略せり。

能く無上正等菩提を證するやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸佛の無上正等菩提は二行相無く二行相に非ずして能く無上正等菩提を證す。何を以ての故に、善現、菩提は二無く亦た分別無ければなり。若し菩提に於て二相を行じ分別有らば必ず能く證せざるなり。善現、諸の菩薩摩訶薩は菩提に於て二相を行ぜず亦た分別せず都て所住無くして無上正等覺の心を發起す。諸の菩薩摩訶薩一切法に於て二相を行ぜず亦た分別せず都て所行無くんば則ち能く廣大の無上正等菩提を趣證す。善現、諸の菩薩摩訶薩の求むる所の無上正等菩提は二相を行ずるに非ずして而かも能く證得す。善現、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は都て所行無し。謂ゆる(a)色に於て行ぜず亦た受想行識に於て行ぜず。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、一切の菩薩摩訶薩行に於て行ぜず亦た諸佛の無上正等菩提に於て行ぜざるなり。

何を以ての故に、善現、諸の菩薩摩訶薩の所有る菩提は名聲に緣りて我我所に執せざればなり、謂ゆる是の念を作さず、我れ色に於て行じ我れ受想行識に於て行ずと。(b)亦た是の念を作さず、我れ眼處に於て行じ我れ耳鼻舌身意處に於て行ずと。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜら

(a)「不於色行亦不於受想行識行」右も前卷(e)の場合に準じ以下略出す。

(b)「亦不作是念我行於眼處我行於耳鼻舌身意處」右の「六處」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(a)の場合に同じ。

法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)三十二大士相、八十隨好。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

善現、譬へば虛空の虛空を壞せず、內虛空界の外虛空界を壞せず、外虛空界の內虛空界を壞せざるが如く、是の如く(e)善現、色は空を壞せず空は色を壞せず受想行識は空を壞せず空は受想行識を壞せず、何を以ての故に、是の如き諸法は俱に自性無く相壞す可からざればなり、謂ゆる此れは是れ空此れは是れ不空なりと。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(e)緣より生ずる所の諸法。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)陀羅尼門、三摩地門。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)三十二大士相、八十隨好。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百九十

初分不可動品第七十之五

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、若し一切法皆本性空なれば本性空の中には都て差別無し。諸の菩薩摩訶薩は何の所に住せんが爲に無上正等菩提を發起して是の願を作して言ふや、我れ當に廣大の無上正等菩提を趣證すべしと。世尊、諸佛の無上正等菩提は二行相無く二行相に非ずして

(e)「善現色不壞空空不壞色受想行識不壞空……謂此是空此是不空」右も(d)の場合と同方法により以下略出す。

【一】菩薩無無分別法に住し無所行を以て能く無上菩提を趣證する所以を明す。

す、知らざるに由るが故に便ち色に執著し受想行識に執著す。執著するに由るが故に便ち色に於て我我所を計し、受想行識に於て我我所を計す。妄りに計するに由るが故に内外の物に著して後身[一]の色受想行識を受く。此れに由りて諸趣の生死病死愁憂苦惱より解脫すること能はず三有[二]に往來し輪轉すること窮り無し。是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は本性空波羅蜜多に住して般若波羅蜜多を修行し。(c)色を執受せず亦た色の若しは空若しは不空を壞せず受想行識を執受せず亦た受想行識の若しは空若しは不空を壞せず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)緣より生ずる所の諸法。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)陀羅尼門、三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地、(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)三十二大士相、八十隨好。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。所以は何ん、(d)善現、色は空を壞せず、空は色を壞せず。謂ゆる此れは是れ色此れは是れ空なりと、受想行識は空を壞せず空は受想行識を壞せず、此れは是れ受想行識此れは是れ空なりと。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(d)緣より生ずる所の諸法。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)陀羅尼門、三摩地門。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至

【一】後身の色等。色等五蘊假和合する所から、我が後生となり、後身後々身となる。
【二】三有。有は生死の果報なり。三界の生死を云ふ。
(c)「不執受色……………亦不壞受想行識若空若不空」右も(b)の場合と同方法により以下略す。
(d)「善現色不壞空……………此是受想行識此是空」右も(c)の場合と同じ方法により以下略す。

摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼。六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)無忘失法、恒住捨性、(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、善現、一切の菩薩摩訶薩行は本性空に異らず、本性空は一切の菩薩摩訶薩行に異らず、一切の菩薩摩訶薩行は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提は本性空に異らず、本性空は諸佛の無上正等菩提に異らず、諸佛の無上正等菩提は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ諸佛の無上正等菩提なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法は皆本性空なりと觀じて無上正等菩提を證得す。

何を以ての故に、善現、本性空を離れては一法も是れ實是れ常たり壞す可く斷ず可きなること有ること無く、本性空の中にも亦た一法も是れ實是れ常なり壞す可く斷ず可きたること無ければなり。唯だ諸の愚夫は迷謬顚倒して別異の想を起すのみ、謂ゆる色は本性空に異ると執し或は受想行識は本性空に異ると執し。(b)或は眼處は本性空に異ると執し或は耳鼻舌身意處法本性空に異ると執し。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界、(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の法。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)陀羅尼門、三摩地門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)三十二大士相、八十隨好。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、或は一切の菩薩摩訶薩行は本性空に異ると執し或は諸佛の無上正等菩提は本性空に異ると執す。

善現、是の諸の愚夫は諸法、本性空に異ると執し已て如實に色を知らず如實に受想行識を知ら

(b)「或執眼處異本性空或執耳鼻舌身意處異本性空」右も(a)の場合の如く「六處」のある所に以下の諸法を代入して以下略出す。

諸受。(e)地界乃至識界。(e)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(e)緣より生ずる所の諸法。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)陀羅尼門、三摩地門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法、(e)三十二大士相、八十隨好。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、善現、若し一切の菩薩摩訶薩行は本性空に異り、本性空は一切の菩薩摩訶薩行に異り、一切の菩薩摩訶薩行は本性空に非ず、本性空は一切の菩薩摩訶薩行に非ず、諸佛の無上正等菩提は本性空に異り、本性空は諸佛の無上正等菩提に異り、諸佛の無上正等菩提は本性空に非ず、本性空は諸佛の無上正等菩提に非ずんば則ち諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切皆本性空なりと觀じて無上正等菩提を證得すべからず。

卷の第三百八十九

初分不可動品第七十之四

(a)善現、色は本性空に異らず、本性空は色に異らず、色は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ色、受想行識は本性空に異らず、本性空は受想行識に異らず、受想行識は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ受想行識なるを以て、(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)陀羅尼門、三

(a)「善現以色不異本性空本性空不異色……本性空卽是受想行識」
右も前卷(e)の場合と同方法により以下略す。

三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)三十二大士相、八十隨好。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。一切の菩薩摩訶薩行は即ち是れ本性空、本性空は即ち是れ一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提は即ち是れ本性空、本性空は即ち是れ諸佛の無上正等菩提なりと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の菩薩摩訶薩は甚だ僞れ希有なり。一切法の皆本性空を行ずと雖も而かも本性空に於て曾て失壞無し。(d)善現、色は本性空に異らず、本性空は色に異らず、色は即ち是れ本性空、本性空は即ち是れ色、受想行識は本性空に異らず、本性空は受想行識に異らず、受想行識は即ち是れ本性空、本性空は即ち是れ受想行識なり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(d)緣より生ずる所の諸法。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)陀羅尼門。三摩地門、(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)三十二大士相、八十隨好。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

[三]復た次に(e)善現、若し色は本性空に異り、本性空は色に異り、色は本性空に非ず、本性空は色に非ず、受想行識は本性空に異り、本性空は受想行識に異り、受想行識は本性空に非ず、本性空は受想行識に非ず。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の

(d)「善現色不異本性空本性空不異色……本性空即是受想行識」右も(c)の場合と同方法により以下略出す。

【三】一切法本性空なりと觀ずるが故に無上菩提を得可きも然らざれば得ざるなりと說く。

(e)「善現若色異本性空本性空異色……本性空非受想行識」右も(d)の場合と同方法により以下略す。

と欲せば應に正しく本性空の理に安住して般若波羅蜜多及び餘の菩薩摩訶薩行を修行すべし。若し正しく本性空の理に安住して般若波羅蜜多及び餘の菩薩摩訶薩行を修行せば終に一切智智より退失せずと。

〔二〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は甚だ爲れ希有なり、一切法の皆本性空なるを行ずと雖も而かも本性空に於て曾て失壞無し。謂ゆる(b)色は本性空に異ると執せず亦た受想行識は本性空に異ると執せず。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(む)至意界。(b)色界乃(う)至法界(b)眼識界乃(ゐ)至意識界。(b)眼觸乃(の)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)極喜地乃(く)至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)三十二大士相、八十隨好。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。一切の菩薩摩訶薩行は本性空に異ると執せず亦た諸佛の無上正等菩提は本性空に異ると執せざるなり。

世尊、(c)色は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ色、受想行識は卽ち是れ本性空、本性空は卽ち是れ受想行識なり。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(む)至意界。(c)色界乃(う)至法界。(c)眼識界乃(ゐ)至意識界。(c)眼觸乃(の)至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)緣より生ずる所の諸法。(c)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切

【二】本性空に住して而も諸法を壞せざるを明す。
(b)「不執色異本性空亦不執受想行識異本性空」右の「五蘊」の所に次下に出す諸法を代入して略すること前例の如し。
(c)「色卽是本性空本性空卽是色受想行識卽是本性空本性空卽是受想行識」右も(b)の場合と同じくして以下略す。

至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。色非色法の得可き無く亦た有見無見有對無對有漏無漏有爲無爲法の得可き無し。三十二大士相の得可き無く亦た八十隨好の得可き無しと。善現、諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提道の爲の故に無上正等菩提を求趣せず、唯だ諸法の本性空の爲の故に無上正等菩提を求趣するのみ。

善現、是の本性空の前後中際は常に本性空にして未だ曾て空ならざるなし。諸の菩薩摩訶薩は本性空波羅蜜多に住し諸の有情類の有情想及び法想に執せるを解脫せしめんと欲するが爲の故に道相智を行ず。是の菩薩摩訶薩は道相智を行ずる時卽ち一切道の謂ゆる聲聞道若しは獨覺道若しは菩薩道若しは如來道を行ず。善現、是の菩薩摩訶薩は一切道に於て圓滿するを得已て便ち能く所化の有情を成熟し亦た能く所求の佛土を嚴淨し、諸の壽行を留めて無上正等菩提を趣證す。既に無上正等菩提を證せば能く佛眼をして常に斷壞無からしむ。何をか佛眼と謂ふ、卽ち【一】本性空を名づけて佛眼と爲す。善現、過去の如來應正等覺は一切皆本性空を以て佛眼と爲し、未來の如來應正等覺も一切皆本性空を以て佛眼と爲し、現在十方無邊世界の所有る如來應正等覺も一切皆本性空を以て佛眼と爲す。善現、定めて如來應正等覺は本性空を離れて出世する者無く、諸佛出世せば皆本性空の義を說かざる無し。所化の有情も要らず佛の本性空の理を說きたまふを聞きて乃ち聖道に入り聖道の果を證す。本性空を離れては別に方便無し。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せん

【一】本性空を名づけて佛眼と爲す。具足して法性を覺了する故にかく名づくるなり。

からしめ。(d)亦た解脫して色色想無からしめ解脫して受想行識受想行識想無からしめ。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界、(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(d)緣より生ずる所の諸法。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)陀羅尼門、三摩地門。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、亦た解脫して色非色法色非色法想無く、有見無見有對無對有漏無漏有爲無爲法有見無見乃至有爲無爲法想無からしめ、亦た解脫して三十二大士相三十二大士想無く、八十隨好八十隨好想無からしめ、亦た五取蘊等の諸の有漏法より解脫せしめ、亦た四念住等の諸の無漏法より解脫せしむ。何を以ての故に、善現、四念住等の諸の無漏法も亦た勝義諦の如く無生無滅無相無爲無戲論無分別なるに非ざればなり。亦た應に解脫すべし。勝義諦とは卽ち本性空なり。此の本性空は卽ち是れ諸佛所證の無上菩提なり。

卷の第三百八十八

初分不可動品第七十之三

善現當に知るべし、此の中我の得可き無く亦た有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者見者の得可き無し。(a)色の得可き無く亦た受想行識の得可き無し。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃

(d)「亦令解脫無色色想無受想行識受想行識想」右も(c)の場合と同方法により以下略出す。

(a)「無色可得亦無受想行識可得」右も前卷(d)と同方法により以下略出す。

の故に、是の諸の化衆は都て實事無く、無實の法は得果有る可きに非ざればなりと。

〔二〕佛言はく、善現、諸法も亦た爾なり。皆本性空にして都て實事無し。中に於て何等の菩薩摩訶薩、何等の有情の爲に何等の法を說きて預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提或は復た無上正等菩提を得せしむ可けんや。善現、諸の菩薩摩訶薩は有情の爲に種種本性空の法を宣說すと雖も而かも諸の有情は實には得可からず。彼れ顚倒の法に墮せるを哀愍するが故に拔濟して無顚倒の法に住せしむ。顚倒無き者は謂ゆる分別無く、分別無き者は顚倒無きが故に。若し分別有らば則ち顚倒有り、彼れ等流なるが故に。善現、諸の無分別無顚倒の中には我無く有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者見者無く、(c)亦た色無く受想行識無く、(c)眼處乃至意處、(c)色處乃至法處、(c)眼界乃至意界、(c)色界乃至法界、(c)眼識界乃至意識界、(c)眼觸乃至意觸、(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(c)地界乃至識界、(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)緣より生ずる所の諸法。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地、(c)五眼、六神通、(c)佛の十力乃至十八佛不共法、(c)無忘失法、恒住捨性、(c)一切智乃至一切相智、(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、亦た色非色法無く有見無見有對無對有漏無漏有爲無爲法無く、亦た三十二大士相無く八十隨好無し。

善現、此の無所有は卽ち本性空なり。諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時此の中に安住して諸の有情の顚倒想に墮せるを見方便善巧して解脫を得せしむ、謂ゆる解脫して我我想無く、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者見者有情乃至見者想無

【二】有情顚倒想に墮せるを示し、菩薩能く方便して解脫を得せしむるを說く。

(c)「亦無色無受想行識」右も(b)の場合と全く同方法により以下略す。

れ一切法の本住する所の性なり。諸の菩薩摩訶薩は其の中に安住して無上正等菩提を求趣し、諸法の發趣する所有り發趣する所無きを見ず、一切法都て無所住なるを以ての故に法住と名づく。諸の菩薩摩訶薩は此の中に安住して般若波羅蜜多を修行し、一切法の本性空なるを見已て定めて無上正等菩提に於て不退轉を得。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は法の能く障礙を爲す有るを見ざればなり。一切法の障礙無きを見るが故に便ち無上正等菩提に於て疑惑を生ぜず、是の故に退せざるなり。復た次に善現、本性空の中には我得可からず有情得可からず有情施設得可からず命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者起者使起者受者使受者知者見者も亦た得可からず。(b)善現、本性空の中には色得可からず受想行識も亦た得可からず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)緣より生ずる所の諸法。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)内空乃至無性自性空。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。善現、本性空の中には色非色法得可からず有見無見有對無對有漏無漏有爲無爲法も亦た得可からず。善現、本性空の中には三十二大士相得可からず八十隨好も亦た得可からず。善現、佛、四衆の所謂苾芻苾芻尼[10]鄔波索迦鄔波斯迦を化作し假使ひ化佛百千倶胝那庾多劫に彼の四衆の爲に法要を宣說するが如き、意に於て云何、是の如き化衆頗し能く預流果を得或は一來果を得或は不還果を得或は阿羅漢果を得或は獨覺菩提を得或は無上正等菩提を得ること有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝。何を以て

b)「善現本性空中色不可得受想行識不可得」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること前の諸例の如くす。

【10】鄔波索迦（Upāsaka）。舊に優婆塞と稱す。淸信士、近事男などと譯す。鄔波斯迦（Upāsikā）。舊に優婆夷と稱す。淸信女、近事女などと譯す。

四無所畏四無礙解十八佛不共法の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時が實に諸の力無畏無礙解不共法の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、大慈大悲大喜大捨の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時の實に諸の大無量の本性空なりと了知し已て本性空に住し、諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、三十二大士相、八十隨好の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の相隨好の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、無忘失法、恒住捨性の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に無忘失法恒住捨性の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、一切智[七]乃至一切相智の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き諸智の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、預流果乃[七]至阿羅漢果獨覺菩提の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に聲聞乘果獨覺菩提の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提の永く一切の煩惱の習氣相續を斷ずる本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の菩薩行菩提涅槃の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。

[八]復た次に善現、若し內空性の本性空ならず若し外空[一〇]乃至無性自性空性も亦た本性空ならざれば則ち諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時諸の有情の爲に一切法は皆本性空なりと說くべからず。若し是の說を作さば本性空を壞するなり。然かも本性空の理は壞す可からず常に非ず斷に非ず。所以は何ん、本性空の理は方無く處無く從て來る所無く亦た去る所無ければなり。是の如き空理は亦た[九]法住と名づく。是の中法無く聚無く散無く減無く增無く生無く滅無く染無く淨無し。是

【八】法住に就て明す。

【九】法住。性空の故に集散なきが故に一切法の本住する所の性なるが故に無所住なるが故に名づく。

現、布施波羅蜜多乃至(よ)般若方便善巧妙願力智波羅蜜多の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の到彼岸[七]の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、四靜慮乃至(た)四無色定の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き靜慮無量無色の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、四念住乃至(そ)八聖道支の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に四念住等の菩提分法の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、空解脫門乃至(つ)無願解脫門の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の解脫門の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、內空乃至(ね)無性自性空の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き空性の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、苦聖諦乃至(る)道聖諦の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き聖諦の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。

善現、八解脫乃至(れ)十遍處の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に解脫勝處諸定遍處の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、一切陀羅尼門、一切三摩地門の本性空なれは菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に陀羅尼門三摩地門の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、菩薩の極喜地乃至(く)法雲地の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に菩薩の諸地の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空を宣說す。善現、五眼、六神通の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の眼神通の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、佛の十力、

【七】到彼岸。波羅蜜多(Paramita)の譯、或は究竟、度無極、度などともいふ。菩薩の大行に名く。菩薩の大行に乘じて能く生死の此岸より涅槃の彼岸に至るの義なり。

〔六〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆本性空ならば本性空の中には有情及び法俱に得可からず、此れに由りて中に於て亦非法無し。云何が菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に無上正等菩提を求證して常に饒益を作すやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の所有る法は皆本性空なり。本性空の中には有情及び法俱に得可からず、此れに由りて中に於て亦た非法無し。善現、若し一切法の本性空ならざれば諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時本性空の理に安住して無上正等菩提を修證し有情を饒益せんが爲に本性空の法を說くべからず。善現、一切法は皆本性空なるを以て是の故に菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法の本性空の理に住して無上正等菩提を修證し有情を饒益せんが爲に本性空の法を說く。善現、何等の諸法か本性皆空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に本性空を了知し已て本性空に住し已て他の爲に法を說く。善現、色の本性空、受想行識の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き諸蘊の本性空なりと了知し已て本性空に住して諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、眼處乃至意處(ろ)の本性空、色處乃至法處(ろ)の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き諸處の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、眼界乃至意界(ろ)の本性空、色界乃至法界(ろ)の本性空、眼識界乃至意識界(ろ)の本性空、眼觸乃至意觸(ろ)の本性空、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至(ろ)意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の本性空、地界乃至識界(ろ)の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き諸界の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善現、因緣、等無間緣所緣緣增上緣の本性空、緣より生ずる所の諸法の本性空、無明乃至老死愁歎苦憂惱(ろ)の本性空なれば菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の如き緣起の本性空なりと了知し已て本性空に住し諸の有情の爲に是の如き本性空の法を宣說す。善

【六】一切法の本性空不可得にして有情を饒益するを說く。

(ろ)「五蘊」の場合の如く分說すべきも今略を旨とするが故に本文の如く略す以下も同じ。

無相無願を修し亦た他に常に空無相無願を修するを勸め、自ら常に布施乃至般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を修し亦た他に常に布施乃至般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を修するを勸め、自ら常に內空乃至無性自性空に住し亦た他に常に內空乃至無性自性空に住するを勸め、自ら常に眞如乃至不思議界に住し亦た他に常に眞如乃至不思議界に住するを勸め、自ら苦集滅道聖諦に住し亦た他に常に苦集滅道聖諦に住するを勸め、自ら常に八解脫乃至十遍處を修し亦た他に常に八解脫乃至十遍處を修するを勸め、自ら常に一切陀羅尼門一切三摩地門を修し亦た他に常に一切陀羅尼門一切三摩地門を修するを勸め、自ら常に諸の菩薩地を修し亦た他に常に諸の菩薩地を修するを勸め、自ら常に五眼、六神通を學し亦た他に常に五眼、六神通を學するを勸め、自ら常に佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を學し亦た他に常に佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を學するを勸め、自ら常に大慈大悲大喜大捨を學し亦た他に大慈大悲大喜大捨を學するを勸め、自ら常に三十二大士相八十隨好を學し亦た他に常に三十二大士相八十隨好を學するを勸め、自ら常に無忘失法恒住捨性を學し亦た他に常に無忘失法恒住捨性を學するを勸め、自ら常に一切智乃至一切相智を學し亦た他に常に一切智乃至一切相智を學するを勸め、自ら常に預流果智を起して而かも其の中に住せず亦た常に他に預流果智を起すを勸めて或は安住せしめ、自ら常に一來不還阿羅漢果智を起して而かも其の中に住せず亦た常に他に一來不還阿羅漢智を起すを勸めて或は安住せしめ、自ら常に獨覺菩提智を起して而かも其の中に住せず亦た常に他に獨覺菩提智を起すを勸めて或は安住せしめ、自ら常に無上正等菩提を起して道を行じ亦た他に常に無上正等菩提を起して道を行ずるを勸む。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧して自ら善業を修して常に懈廢無く、諸の有情類を敎授敎誡し善業を修せしめて常に懈廢無し。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時方便善巧すと名づく、諸の菩薩摩訶薩は此の方便善巧力に由るが故に有情を實際の中に安立して而かも能く實際の相を壞せざるなりと。

菩薩摩訶薩は此の殊勝の異熟神通に住し恒に有情に勝利樂の事を作す。諸趣の生死輪廻を經と雖も而かも勝神通常に退滅無し。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して本性空に住し方便善巧して能善く諸の有情類を利樂す。[四]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが故に本性空に住し、有情類の智慧薄少に愚癡にして顚倒し諸の惡業を造るを見ば方便して勝智慧門に引入して是の言を作す。善男子、應に般若波羅蜜多を修して一切法の本性空寂なるを觀ずべし。汝等若し能く此の般若を修して一切法の本性皆空なるを觀ぜば諸の修行する所の身語意業皆甘露に趣き甘露の果を得必ず[五]甘露を以て後邊を作さん。諸の善男子、是の一切法は皆本性空なり。本性空の中には有情及び法得可からずと雖も而かも修行する所亦た退失すること無し。何を以ての故に、善男子、本性空の中には增減する法無く增減する者無ければなり。所以は何ん、本性空の理は自性有るに非ず自性無きに非ず諸の分別を離れ諸の戲論を絶するが故なり。此の中增無く減無く、斯れに由りて修す所終に退失すること無し。是の故に汝等應に般若波羅蜜多を修して本性空を觀じて作すべき所を作すべし。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して諸の有情類を教授教誡して般若波羅蜜多を修し本性空を觀じ諸の善業を修せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如く有情を教授教誡して諸の善業を修せしめ常に懈廢すること無し。所謂自ら常に十善業道を行じ亦た他に常に十善業道を行ずるを勸め、自ら常に五戒を受持し亦た他に常に五戒を受持するを勸め、自ら常に八戒を受持し亦た他に常に八戒を受持するを勸め、自ら常に出家戒を受持し亦た他に常に出家戒を受持するを勸め、自ら常に四靜慮を修し亦た他に常に四靜慮を修するを勸め、自ら常に四無量を修し亦た他に常に四無量を修するを勸め、自ら常に四無色定を修し亦た他に常に四無色定を修するを勸め、自ら常に四念住(七)乃至八聖道支を修し亦た他に常に四念住(七)乃至八聖道支を修するを勸め、自ら常に空

【四】六に般若空に就て明す。

【五】甘露を以て後邊等。もはや流轉することなき無量壽を得ること。

性空の中には法の得可く散亂と名づく可く或は一心と名づくる無ければなり。汝等若し能く此の勝定に住せば作す所の善事皆速に成滿し亦た欲する所に隨ひて本性空に住せん。云何が名づけて作す所の善事と爲す。謂ゆる勝淨の身語意業を起し、若しは布施乃至般若波羅蜜多を修し、若しは四念住乃至八聖道支を修し、若しは空無相無願解脱門を修し、若しは內空乃至無性自性空に住し、若しは眞如乃至不思議界に住し、若しは苦集滅道聖諦に住し、若しは四靜慮乃至四無色定を修し、若しは八解脱乃至十遍處を修し、若しは一切陀羅尼門、一切三摩地門を修し、若しは菩薩の正性離生に趣き、若しは菩薩摩訶薩地を修し、若しは五眼、六神通を修し、若しは佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を修し、若しは大慈大悲大喜大捨を修し、若しは三十二大士相八十隨好を修し、若しは無忘失法、恒住捨性を修し、若しは一切智乃至一切相智を修し、若しは聲聞道獨覺道菩薩如來道を修し、若しは預流果一來果不還果阿羅漢果獨覺菩提及び佛の無上正等菩提を修し、若しは有情を成熟し、若しは佛土を嚴淨し、是の如き一切の勝淨の善法、勝定力に由りて皆速に成辨し及び願ふ所に隨ひて本性空に住せん。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に初發心より乃至究竟まで求めて善利を作して常に間斷無く、諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に一佛土より一佛土に至りて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し諸佛の所に於て正法を聽受し身を捨て身を受け無數劫を經て乃ち無上正等菩提に至るまで其の中間に於て終に忘失せず。善現、是の菩薩は陀羅尼を得、身語意根常に退減無し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は恒に一切智智を具し善く修し、諸の所作有るは能善く思惟すればなり。一切智智を具し善く修し諸の所作有るは能善く思惟するに由りて一切道に於て悉く能く修習す。謂ゆる聲聞道若しは獨覺道若しは菩薩道若しは如來道若しは勝天道若しは勝人道若しは諸の菩薩の勝神通道なり。諸の菩薩摩訶薩は此の殊勝の神通道に由るが故に常に饒益を作し曾て退失すること無し。是の

卷の第三百八十七

初分不可動品第七十之二

復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し本性空に依り諸の有情類を教授教誡して勤め精進せしめ是の言を作す、善男子、汝善法に於て當に勤め精進すべし、(a)若し布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修する時は此の諸法に於て[一]二及び不二の相を思惟すること勿れ。(a)四靜慮(c)乃至四無色定。(a)四念住(c)乃至八聖道支。(a)空無相無願解脫門。(a)內空(c)乃至無性自性空。(a)眞如(c)乃至不思議界。(a)苦集滅道聖諦。(a)八解脫(c)乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)極喜地(c)乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)三十二大士相八十隨好。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智(c)乃至一切相智。若し諸餘の一切の佛法を修する時は此の諸法に於て二及び不二の相を思惟すること勿れ。何を以ての故に、善男子、是の如き諸法は皆本性空なればなり。本性空の理は二不二を思惟すべからざるが故にと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して菩薩行を行じ有情を成熟す。諸の有情類既に成熟し已らば其の應ずる所に隨ひて漸次に安立して或は預流果に住せしめ或は一來果に住せしめ或は不還果に住せしめ或は阿羅漢果に住せしめ或は獨覺菩提に住せしめ或は菩薩摩訶薩位に住せしめ或は無上正等菩提に住せしむ。

[二]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが故に諸の有情の心多く散動し諸欲の境に於て寂靜なる能はざるを見、方便して勝三摩地に入らしめ謂ゆる是の言を作す。來れ善男子、汝應に[三]勝三摩地を修習すべし。散亂及び等持想を起すこと勿れ。何を以ての故に、善男子、是の一切法は皆本性空なればなり。本

(a)「若修布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時於此諸法勿思惟二及不二相」右の文中「六度」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「若修」の代りに「若住」の語を以てするものとす。

【一】二相。智淨相（眞如法身を證了したる相）と不思議用相（利益衆生の相の）稱、又は同相（世俗の一切現象界は本體的方面より云へば一切平等の眞如の相なること）異相（現象的方面にては差別界なること）の稱。

【二】五に靜慮空に就て明す。

【三】勝三摩地。勝定を修して散亂も等持想も起さざれと云ふ、靜まらんとして靜なるを得ざるものも此本性空起勝足によりて安定すべきなり。

の有情を饒益せんと欲するが爲の故に此の實際本性空の理に依りて般若波羅蜜多を修行する時有情を得ず亦復た有情施設をも得ず。何を以ての故に、善現、一切法は有情を離るるを以ての故なり。

[一〇] 復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが故に諸の有情の身心懈怠にして精進を退失せるを見ば方便勸導し其れをして身心の精進を發起して諸の善法を修せしめ、是の言を作す、善男子、本性空の中には懈怠の法無く、懈怠の者無く、懈怠の處無く、懈怠の時無く、此の事に由りて懈怠を發生する無し。是の一切法は皆本性空にして空理を越えず、汝等應に身心の精進を發して諸の懈怠を捨てて善法を勤修すべし、謂ゆる布施波羅蜜多を修し若しは淨戒波羅蜜多を修し乃至[一]若しは般若波羅蜜多を修し、若しは四靜慮[二]乃至四無色定を修し、若しは四念住[三]乃至八聖道支を修し、若しは空無相無願解脫門を修し、若しは內空[四]乃至無性自性空に住し、若しは眞如[五]乃至不思議界に住し、若しは苦集滅道聖諦に住し、若しは八解脫[六]乃至十遍處を修し、若しは一切陀羅尼門一切三摩地門を修し、若しは極喜地[七]乃至法雲地を修し、若しは五眼、六神通を修し、若しは佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を修し、若しは大慈大悲大喜大捨を修し、若しは三十二大士相八十隨好を修し、無しは無忘失法恒住捨性を修し、若しは一切智[八]乃至一切相智を修し、若しは諸餘の一切の佛法を修して懈怠を生ずること勿れ。若し懈怠を生ぜば苦を受くること窮り無けん。諸の善男子、是の一切法は本性皆空にして諸の障礙無し。汝等應に本性空理無障礙の中には懈怠の法無く懈怠の者無く、此の處時緣も亦た得可からずと觀ずべしと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧して有情を安立して諸法の本性空の理に住せしむ、安住せしむと雖も而かも二想無し。所以は何ん、本性空理は二無く二分無ければなり。無二法は其の中に於て二想を作す可きに非ざるなり。

【一〇】四に精進空に就て明す。

涅槃すべき、若しは今涅槃する、若しは涅槃者、若しは此れに由るが故に般涅槃を得る、是の如き一切は都て所有無く皆畢竟空なり。畢竟空の性は即ち是れ涅槃なり、此の涅槃を離れて別に法有ること無し。[九]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが故に諸の有情の心、瞋恚多きを見て深く慈愍を生じ方便教誡して是の言を作す、善男子、應に安忍を修して安忍の法を樂ひ其の心を調伏して安忍の行を受くべし。汝が瞋る所の法は自性皆空なり、云何が中に於て而かも瞋恚を起すや。汝等復た應に審諦に觀察すべし、我れ何の法に由りて瞋恚を起し、誰れか能く瞋恚し、誰を瞋恚するや。是の如き諸法は本性皆空なり、本性空の法は未だ嘗て空ならざるなし。是の如き空性は如來の作に非ず、獨覺の作に非ず、聲聞の作に非ず、菩薩の作に非ず亦た天龍諸神藥叉健達縛阿素洛掲路荼緊捺洛莫呼洛伽人非人の作にも非ず、亦た四大王衆天三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天の作にも非ず、亦た梵衆天梵輔天梵會天大梵天の作にも非ず、亦た光天少光天無量光天極光淨天の作にも非ず、亦た淨天少淨天無量淨天遍淨天の作にも非ず、亦た廣天少廣天無量廣天廣果天の作にも非ず、亦た無想天の作にも非ず、亦た無繁天無熱天善現天善見天色究竟天の作にも非ず、亦た空無邊處天識無邊處天無所有處天非想非非想處天の作にも非ずと。汝等復た應に如實に觀察すべし、是の如き瞋恚は何に由りて生じ、誰れに屬すと爲し、復た誰れに於て起し、當に何の果を獲現に何の利を得べきか。是の一切法は本性皆空なり、空性の中には瞋恚有る可きに非ず、故に應に安忍して以て自ら饒益すべしと。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧して有情を性空の理性空の因果に於て安立し漸く無上正等菩提を以て示現勸導讃勵慶喜し、善く安住して速に能く證得せしむ。善現、是の如く世俗に依りて說く勝義に依らず。所以は何ん、本性空の中にては、能得、所得、得處、得時、一切有に非ざればなり。善現、是れを實際本性空の理と名づく。諸の菩薩摩訶薩は諸

【九】三に安忍空に就て明す。

を作す、善男子、汝等今諸の有情に於て應に深く慈愍して斷生命を離れ、不與取を離れ、欲邪行を離れ、虛誑語を離れ、離間語を離れ、麁惡語を離れ、雜穢語を離れ、貪欲を離れ、瞋恚を離れ、邪見を離れしむべし。何を以ての故に、善男子、是の如き諸法は都て自性無ければなり。汝等分別し執著すべからず、汝等復た應に審諦に觀察すべし、何の法か欲を生じて其の命を斷ずと名づけ復た何に緣るが故に而かも彼の命を斷ずる、何の法か與へざる所の物と爲し其の物を取らんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に而かも彼の物を取る。何の法か邪を行ずる所の境と爲し邪行を行ぜんと欲すと名くる。復た何に緣るが故に而かも邪行を行ずる。何の法か虛誑に應ずる境と爲し虛誑を行ぜんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に虛誑語を說く。何の法か離間に應ずる境と爲し離間を行ぜんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に離間語を說く。何の法か毀辱に應ずる境と爲し毀辱を行ぜんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に麁惡語を說く。何の法か諸の雜穢事を爲し雜穢說を欲すと名づくる。復た何に緣るが故に雜穢語を說く。何の法か貪るべき所の物と爲し貪欲を起さんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に貪欲を起す。何の法か瞋に應ずる所の境と爲し瞋恚を起さんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に瞋恚を起す。何の法か邪見する所の境と爲し邪見を起さんと欲すと名づくる。復た何に緣るが故に邪見を起すと。是の如き一切の自性は皆空なりと。

善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時是の如き方便善巧を成就して能善く諸の有情類を成就し爲に布施及び淨戒の果俱に得可からざるを說きて布施及び淨戒の果の自性俱に空なるを知らしむ。彼れ既に修する所の布施及び淨戒の果の自性空なりと知り已らば能く其の中に於て執著を生ぜず、執著せざるに由りて心散亂無し。散亂無きが故に能く妙慧を發す。此の妙慧に由りて永く隨眠及び諸の纏[八]を斷じ已つて無餘依般涅槃界に入る。善現、是の如く世俗に依りて說く勝義に依らず。所以は何ん、空の中には少法も得可き有ること無ければなり。若しは已に涅槃せる、若しは當に

【八】纏。煩惱の異名。煩惱能く人の心身を自在ならしめざればなり。

故に有情を布施の中に安立し既に安立し已らば布施の[四]前後中際差別相無きを說かんが爲に是の言を作す、善男子、是の如き布施の前後中際は一切皆空なり、施者受者施より得る所の果も亦復た皆空なり。是の如き一切は實際の中に於て都て所有無く得可からず、汝等[五]布施に異の施者受者施果の實際有り亦た各異り有りと執すること勿れ。汝等若し能く布施施者受者施果實際各異り有りと執せずんば修する所の施福は則ち[六]甘露に趣き甘露を得必ず甘露を以て而かも後邊を作すと。復た是の言を作す、諸の善男子、汝等此の修する所の布施を以て。(g)色を取ること勿れ受想行識を取ること勿れ、(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(g)緣より生ずる所の諸法。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)四靜慮乃至四無色定。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)八解脫乃至十遍處。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)極喜地乃至法雲地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)三十二大士相、八十隨好。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(g)世間法、出世法、(g)有漏法、無漏法、有爲法を取ること勿れ無爲法を取ること勿れ、何を以ての故に、一切の布施は布施性空、一切の施者は施者性空、一切の受者は受者性空、一切の施果は施果性空なればなり。空の中には布施得可からず施者得可からず受者得可からず施果得可からず。何を以ての故に、是の如き諸法及び餘の諸法の所有る自性は畢竟空なるが故に、畢竟空の中には是の如き諸法は得可からざるが故なりと。[七]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが故に有情を淨戒の中に安立し、既に安立し已らば是の言

【四】　前後中際。過去、未來、現在の三世。

【五】　布施に異の等。布施に布施の別法ありとするを云ふ。

【六】　甘露（Amṛta）。不滅卽ち涅槃を云ふ。

(g)「勿取色勿取受想行識」右の「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(e)の場合に同じ。

【七】　二に持戒空に就て明す。

初分不可動品第七十之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し諸の有情及び有情施設皆畢竟得可からずんば諸の菩薩摩訶薩は誰れの爲の故に般若波羅蜜多を修行するやと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は實際を以て量と爲すが故に般若波羅蜜多を修行す。善現、若し有情際と實際と異らば諸の菩薩摩訶薩は則ち般若波羅蜜多を修行すべからず、有情際は實際に異らざるを以て是の故に菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に般若波羅蜜多を修行す。復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時實際法を壞せざるを以て有情を實際の中に安立すと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し有情際即ち是れ實際ならば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時實際法を壞せざるを以て有情を實際の中に安立するや。世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時有情を實際の中に安立せば則ち實際を實際に於て安立すと爲す。世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時實際を實際に於て安立せば則ち爲れ自性を自性に於て安立するなり。然かも自性を自性に於て安立すべからず。世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時實際法を壞せざるを以て有情を實際の中に安立すと說く可けんと。佛、善現に告げたまはく、實際を實際に於て安立す可からず亦た自性を自性に於て安立す可からず、然かも諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧して能く有情を實際の中に安立し、而かも有情際は實際に異らず、是の如く善現、有情際と實際とは二無く二分無しと。[二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて諸の菩薩摩訶薩の方便善巧と爲し、諸の菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時此の方便善巧力に由るが故に有情を實際の中に安立し而かも能く實際の相を壞せざるやと。[三]佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より是の如き方便善巧を成就し、此の方便善巧力に由るが

【一】有情不可得なれども實際の故に能く有情の爲に般若を行ずるを明す。

【二】菩薩方便善巧力を以ての故に有情を實際中に安立し而も實際相を壞せざるを明す。

【三】方便般若に於て一に布施空を明す。

受持するを勸め無倒に五戒を受持する法を稱揚し歡喜して五戒を受持する者を讃歎し、自ら八戒を受持し亦他に八戒を受持するを勸め無倒に八戒を受持する法を稱揚し歡喜して八戒を受持する者を讃歎し、自ら[五]出家戒を受持し亦た他に出家戒を受持するを勸め無倒に出家戒を受持する法を稱揚し歡喜して出家戒を受持する者を讃歎し、(f)自ら四靜慮四無量四無色定に住し亦た他に四靜慮四無量四無色定を修するを勸め無倒に四靜慮四無量四無色定を修する法を稱揚し歡喜して四靜慮四無量四無色定を修する者を讃歎し、(f)四念住乃至八聖道支。(f)空無相無願解脫門。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦集滅道聖諦。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)三十二大士相八十隨好。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。

善現、若し眞法界の初中後位に差別有らば則ち諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時方便善巧して眞法界を說き有情を成熟し佛土を嚴淨し諸の菩薩摩訶薩行を修し無上正等菩提を證得すること能はず、眞法界の初中後位に常に差別無きを以て是の故に菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く方便善巧して眞法界を說き有情を成熟し佛土を嚴淨し諸の菩薩摩訶薩行を修し無上正等菩提を證得すと。

【五】出家戒。出世間戒なり。前出の五戒、八戒の世間戒に對して名づく。沙彌の十戒を云ふ。

(f)「自修四靜慮四無量四無色定……………歡喜讃歎修四靜慮四無量四無色定者」右の文中「四靜慮乃至四無色定」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(f)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「四靜慮」等とある所を「住內空」と改むるものとす又「三十二大士相八十隨好」の所のみは「圓滿三十二大士相」と改むるものとす。

四靜慮乃(た)至四無色定を修行し、四念住乃(そ)至八聖道支を修行し、空無相無願解脫門を修行し、學して內空乃(わ)至無性自性空に住し、學して眞如乃(か)至不思議界に住し、學して苦集滅道聖諦に住し、菩薩の正性離生に趣入し、極喜地乃(く)至法雲地を修行し、八解脫乃(れ)至十遍處に遊戲し、一切陀羅尼門、一切三摩地門に遊戲し種種殊勝の神通を引發し大光明を放ちて諸の世界を照らし佛土を嚴淨し有情を成熟して種種の諸佛の功德を修行せるを現じ、或は復た如來應正等覺の三十二大丈夫相八十隨好を具し圓滿莊嚴して十力四無所畏四無礙解十八佛不共法大慈大悲大喜大捨無忘失法恒住捨性一切智道相智一切相智等無量無邊不可思議希有の功德を成就せるを幻作す。善現、是の如き幻師或は彼の弟子、他を惑はさんが爲の故に衆人の前に於て此れ等諸の幻化の事を幻作するに、其の中無智の男女大小は是の事を見已つて咸く驚歎して言はん、奇なる哉此の人衆伎を妙解して能く種種の甚だ希有の事を作し乃至能く如來の身の相好莊嚴して諸の功德を具せるを作し衆をして歡樂して自ら伎樂を顯さしむと。其の中智有るは此の事を見已つて是の思惟を作す、甚だ爲れ奇異なり、云何が此の人能く是の事を現ずるや。此の中實事の得可き有ること無きも而かも衆人をして迷謬し歡樂して無實の物に於て實物の想を起さしむるが如し。

善現、菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、般若波羅蜜多を修行する時法の眞法界を離るゝ有るを見ず亦た法界の諸法を離るゝを見ず亦た有情及び彼の施設の實事にして得可きを見ずと雖も而かも能く種種に善巧方便して自ら布施波羅蜜多を行じ亦た他に布施波羅蜜多を行ずるを勸め無倒に布施波羅蜜多を行ずる法を稱揚し歡喜して布施波羅蜜多を行ずる者を讃歎し、乃(よ)至自ら般若波羅蜜多を行じ亦た他に般若波羅蜜多を行ずるを勸め無倒に般若波羅蜜多を行ずる法を稱揚し歡喜して般若波羅蜜多を行ずる者を讃歎し、自ら十善業道を受持し亦た他に十善業道を受持するを勸め無倒に十善業道を受持する法を稱揚し歡喜して十善業道を受持する者を讃歎し、自ら五戒を受持し亦た他に五戒を

(よ) 六度の各〻就き布施波羅蜜多の如く繰返へすべきも今略を簡びて本文の如く略す。

法、此れは是れ有爲法、無爲法、此れは是れ布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多、此れは是れ四靜慮乃至四無色定、此れは是れ四念住乃至八聖道支、此れは是れ空解脱門乃至無願解脱門、此れは是れ內空乃至無性自性空、此れは是れ眞如乃至不思議界、此れは是れ苦聖諦乃至道聖諦、此れは是れ八解脱乃至十遍處、此れは是れ一切陀羅尼門一切三摩地門、此れは是れ極喜地乃至法雲地、此れは是れ五眼、六神通、此れは是れ佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法、此れは是れ大慈、大悲大喜大捨、此れは是れ無忘失法、恒住捨性、此れは是れ一切智乃至一切相智、此れは是れ三十二大士相、八十隨好、此れは是れ預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、此れは是れ一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提なりと。〔二〕善現、巧なる幻師或は彼の弟子、少物を執持し衆人の前に於て種種異類の色相を幻作す、謂ゆる或は男女の大小象馬牛羊駝驢鷄等の種種の禽獸を幻作し、或は復た城邑聚落園林池沼種種莊嚴して甚だ愛樂す可きを幻作し、或は復た衣服飲食房舍臥具香花瓔珞種種の珍寶を幻作し、或は復た無量種類の伎樂俳優を幻作し、無量の人をして歡娛し樂を受けしめ、或は復た種種の形相を幻作して布施を行ぜしめ或は持戒せしめ或は忍を修せしめ或は精進せしめ或は定を修せしめ或は慧を修せしめ、或は復た刹帝利大族に生ずるを現じ、或は復た婆羅門大族に生ずるを現じ、或は復た長者大族に生ずるを現じ、或は復た居士大族に生ずるを現じ、或は復た諸山大海〔三〕妙高山王〔四〕輪圍山等を幻作し、或は復た四大王衆天三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天に生ずるを現じ、或は復た梵衆天梵輔天梵會天上梵天に生ずるを現じ、或は復た光天少光天無量光天極光淨天に生ずるを現じ、或は復た淨天少淨天無量淨天遍淨天に生ずるを現じ、或は復た廣天少廣天無量廣天廣果天に生ずるを現じ、或は復た無想天に生じ或は無繁天無熱天善現天善見天色究竟天に生ずるを現じ、或は復た空無邊處天識無邊處天無所有處天非想非非想處天に生ずるを現じ、或は復た預流一來不還阿羅漢獨覺と作るを現じ、或は復た菩薩摩訶薩と作りて初發心より布施乃至般若波羅蜜多を修行し、

【二】幻師の比喩を說き菩薩の能く菩薩道を行ずる所以を明す。

【三】妙高山王。妙高山は蘇迷盧(Sumeru)の譯、舊に須彌山といふ。妙高山は山中最高なれば妙高山王と名く。

【四】輪圍山。鐵輪圍山なり。鹹海を圍遶して一小世界を區劃する鐵山なり。

愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃[よ]至般若波羅蜜多。(e)四靜慮乃[た]至四無色定。

卷の第三百八十六

初分諸法平等品第六十九之四

(e)四念住乃[そ]至八聖道支。(e)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(e)内空乃[ね]至無性自性空。(e)苦聖諦乃[な]至道聖諦。(e)八解脫乃[れ]至十遍處。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)極喜地乃[こ]至法雲地。(e)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(e)大慈、大悲大喜大捨。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃[な]至一切相智。(e)三十二大士相、八十隨好。(e)預流果乃[ら]至阿羅漢果獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(e)世間法、出世法。(e)有漏法、無漏法。善現、有爲法は法界に非ず亦た有爲法を離れて別に法界有るに非ず。無爲法は法界に非ず亦た無爲法を離れて別に法界有るに非ず。有爲法は法界に即し法界は有爲法に即す、無爲法は法界に即し法界は無爲法に即す。善現、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を修行する時若し法の法界を離るゝ者有るを見ば便ち正しく所求の無上正等菩提に趣くに非ず。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法は法界を離れずと知る。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法は法界に即すと知り方便善巧無名相の法を以て諸の有情の爲に名相に寄せて說く、謂ゆる此れは是れ色此れは是れ受想行識、此れは是れ眼處乃[ろ]至意處、此れは是れ色處乃[は]至法處、此れは是れ眼界乃[に]至意界、此れは是れ色界乃[ほ]至法界、此れは是れ眼識界乃[へ]至意識界、此れは是れ眼觸乃[と]至意觸、此れは是れ眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受[ち]乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受、此れは是れ地界乃[り]至識界、此れは是れ因緣、等無間緣所緣緣增上緣、此れは是れ緣より生ずる所の諸法、此れは是れ無明乃[ぬ]至老死愁歎苦憂惱、此れは是れ世間法、出世法、此れは是れ色法、非色法、此れは是れ[一]有見法、無見法、此れは是れ有漏法、無漏

(e) 前卷と同意。

(ろ) 五蘊の場合の如く分說すべきを今簡を主とするが故に本文の如く略す。

【一】 有見法等。有に執著するを有見、無に執著するを無見、共に邪見なり。又十八界に就て分別せば色界は有見、他は皆無見なり。

無戲論の中にて諸の戲論を起す無しとするや。何を以ての故に、世尊、眞法界の中には都て分別戲論の事無きが故なり。

(d)世尊、法界は色に非ず亦た色を離れず法界は受想行識に非ず亦た受想行識を離れず、法界は色に即し色は法界に即す。法界は受想行識に即し受想行識は法界に即す。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣せられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣せられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣、(d)緣より生ずる所の諸法。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)內空乃至無性自性空。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)三十二大士相、八十隨好。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(d)世間法、出世法。(d)有漏法、無漏法。世尊、法界は有爲法に非ず亦た有爲法を離れず、法界は無爲法に非らず亦た無爲法を離れず。法界は有爲法に即し有爲法は法界に即す。法界は無爲法に即し無爲法は法界に即すと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。眞法界の中には一切種の分別戲論無し。(e)善現、色は法界に非ず亦た色を離れて別に法界有るに非ず受想行識は法界に非ず亦た受想行識を離れて別に法界有るに非ず。色は法界に即し法界は色に即す、受想行識は法界に即し、法界は受想行識に即す。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(e)緣より生ずる所の諸法。(e)無明乃至老死

(d)「世尊法界非色亦不離色法界非受想行識亦不離受想行識……受想行識即法界」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(e)「善現色非法界亦不離色別有法界受想行識非法界亦不離受想行識別有法界色即法界法界即受想想行識即法界法界即受想行識」右も(d)の場合と同方法により以下略出す。

定。(c)四念住乃[た]至八聖道支。(c)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(c)八解脫乃[れ]至十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)內空乃[わ]至無性自性空。(c)眞如乃[か]至不思議界。(c)苦聖諦乃[そ]至道聖諦。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃[な]至一切相智。云何が菩薩摩訶薩は當に三十二大士相を圓滿するを學し亦た八十隨好を圓滿するを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に刹帝利大族婆羅門大族長者大族居士大族に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に四大王衆天三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に梵衆天梵輔天梵會天大梵天に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に光天少光天無量光天極光淨天に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に淨天少淨天無量淨天遍淨天に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に廣天少廣天無量廣天廣果天に生ずるを學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に無想有情天に生ずる法を學して而かも彼れに生ずるを樂はざるべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に無繁天無熱天善現天善見天色究竟天に生ずる法を學して而かも彼れに生ずるを樂はざるべきや。云何が菩薩摩訶薩は空無邊處天識無邊處天無所有處天非想非非想處天に生ずる法を學して而かも彼れに生ずるを樂はざるべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に初發菩提心を學すべきや亦た當に第二第三第四第五第六第七第八第九第十發菩提心を學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に初菩薩地を學し亦た第二第三第四第五第六第七第八第九第十菩薩地を學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に聲聞地を學して而かも證を作さゞるべきや亦た當に獨覺地を學して而かも證を作さゞるべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に菩薩の正性離生を學すべきや亦た當に成熟有情嚴淨佛土を學すべきや。云何が菩薩摩訶薩は當に陀羅尼無礙辯を學し亦た菩薩摩訶薩道諸佛の無上正等菩提を學し是の如く學し已つて一切智智を得て一切法一切種相を得べきや。世尊、法界の中には是の如き等の種種の分別有るに非ず。世尊、將に菩薩は此の分別に由りて顚倒を行じ

住捨性。(b)一切智乃至(c)一切相智。豈に嚴淨佛土を以て法界を壞し亦た成熟有情を以て法界を壞せざる耶。何を以ての故に、法界は二無く差別無きが故に。豈に諸餘の無量無邊の佛法を以て法界を壞せざる耶。何を以ての故に、法界は二無く差別無きが故にと。佛、善現に告げたまはく、若し法界を離れて餘の法得可くんば彼の法能く法界を壞すと言ふ可けん。然かも法界を離れて法の得可き無きが故に餘の法能く法界を壞する無し。何を以ての故に、善現一切の如來應正等覺及び諸の菩薩獨覺聲聞は法界を離れては法の得可き無しと知ればなり。既に法の法界を離るゝこと無しと知るが故に亦た他の爲に施設し宣說せず。是の故に法界は能く壞する者無し。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に法界の無二無別不可壞相を學すべしと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩法界を學せんと欲せば當に何に於て學すべきやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩法界を學せんと欲せば當に一切法に於て學すべし。何を以ての故に、善現、一切法は皆法界に入るを以ての故にと。[六]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に一切法は皆法界に入ると說きたまふやと。佛言はく、善現、如來は出世し若しは出世せざるも諸法は[七]法爾として皆法界に入り差別相無し、佛說に由らず。所以は何ん、善現、一切の善法若しは非善法、若しは[八]有記法若しは無記法、若しは有漏法若しは無漏法、若しは世間法若しは出世法、若しは有爲法若しは無爲法は皆無相無爲性空法界に入らざる無し。是の故に善現、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時法界を學せんと欲せば當に一切法を學すべし。若し一切法を學せば卽ち法界を學するなりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆法界に入りて二無く別無くんば。(c)云何が菩薩摩訶薩は當に般若波羅蜜多を學し亦た靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を學すべきや。(c)初靜慮、第二第三第四靜慮。(c)慈無量、悲喜捨無量。(c)空無邊處定識無邊處無所有處非想非非想處

【六】一切法卽法界にして眞法界中一切種の分別戲論無きを明す。

【七】法爾。自爾、法然又は自然と言ふに同じ。他の造作を假らず法の持ち前として自ら然るなり。

【八】有記法等。善惡の性を記別し得るものを有記法とし、然らざるものを無記法となす。

(c)「云何菩薩摩訶薩當學般若波羅蜜多亦學靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(b)の場合に同じ。

現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に嚴淨佛土は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習し、如實に成熟有情は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く嚴淨佛土成熟有情を學すと爲すと。〔四〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く諸の餘の無量無邊の佛法を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に諸の餘の無量無邊の佛法は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く諸の餘の無量無邊の佛法を學すと爲すと。

〔五〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に五蘊等の法の展轉して差別せるを了知せば、(b)豈に色蘊を以て法界を壞し亦た受想行識蘊を以て法界を壞せざる耶。何を以ての故に、法界は二無く別無きが故に。(b)眼處乃至(ち)意處。(b)色處乃至(り)法處。(b)眼界、色界眼識界及び眼觸眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)耳界、聲界耳識界及び耳觸耳觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)鼻界、香界鼻識界及び鼻觸鼻觸に緣ぜられて生ずる所の諸受 (b)舌界、味界舌識界及び舌觸舌觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)身界、觸界身識界及び身觸身觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)意界、法界意識界及び意觸意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界(ぬ)乃至識界。(b)苦聖諦乃至(る)道聖諦。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)諸緣より生ずる所の種種法。(b)無明乃至(を)老死愁歎苦憂惱。(b)內空乃至(わ)無性自性空。(b)眞如乃至(か)不思議界。(b)布施波羅蜜多乃至(よ)般若方便善巧妙願力智波羅蜜多。(b)極喜地乃至(こ)法雲地。(b)四念住乃至(え)八聖道支。(b)四靜慮乃至(た)四無色定。(b)八解脫乃至(れ)十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)空解脫門乃至(つ)無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)如來の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒

【四】十三に諸餘の無量無邊の佛法。

【五】諸法差別に就て法界を壞せざるを說き法界を辨ず。(b)「豈不以色蘊壞法界亦以受想行識蘊壞法界耶何以故法界無二無差別故」右の文中「五蘊」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に眞如は戲論無く分別無しと知りて而かも能く安住し、如實に法界乃至不思議界は戲論無く分別無しと知りて而かも能く安住せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く眞如乃至不思議界を學すと爲すと。

卷の第三百八十五

初分諸法平等品第六十九之三

[一]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く布施淨戒安忍精進靜慮般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に布施波羅蜜多は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習し、如實に淨戒乃至智波羅蜜多は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く布施乃至智波羅蜜多を學すと爲すと。[二](a)具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く極喜地乃至法雲地を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に極喜地は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知つて而かも能く修習し、如實に離垢地乃至法雲地は增無く減無く染無く淨無く自性無く得可からずと知りて而かも能く修習せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く極喜地乃至法雲地を學すと爲すと。(a)四念住乃至八聖道支。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈大悲大喜大捨。(a)無忘失法恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。[三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く嚴淨佛土成熟有情を學するやと。佛、善

【一】十に布施乃至智波羅蜜多。

【二】十一に極喜乃至法雲地。(a)「具壽善現白佛言世尊云何菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多時能學極喜地……法雲地佛告善現……善現是爲菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多時能學極喜地乃至法雲地。」右の文中「極喜地乃至法雲地」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】十二に嚴淨佛土成熟有情。

遠離すと知らば、善現、是れを如實に所緣緣を知ると名づく。(二)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に增上緣を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に增上緣は是れ不礙相にして自性本空なり、二法を遠離すと知らば、善現、是れを如實に增上緣を知ると名づく。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く四緣を學すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く緣より生ずる所の法を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に一切の緣より生ずる所の法は生ぜず滅せず斷ならず常ならず一ならず異ならず來らず去らず諸の[二七]戲論を絕し本性淡白なりと知らば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く緣より生ずる所の諸法を學すと爲すと。[二八]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く十二緣起を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に無明は生無く滅無く染無く淨無く自性本空にして二法を遠離すと知り、如實に行識名色六處觸受愛取有生老死愁歎苦憂惱は生無く滅無く染無く淨無く自性本空にして二法を遠離すと知らば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く十二緣起を學すと爲すと。

[二九]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く內空乃(わ)至無性自性空を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に內空は無自性不可得なりと知りて而かも能く安住し、如實に外空乃至無性自性空は無自性不可得なりと知りて而かも能く安住せば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く內空乃至無性自性空を學すと爲すと。[三〇]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く眞如乃(か)至不思議界を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩

(二) 增上緣。これ不礙相。

【二七】戲論。無義、非理の言論。又は愛論(情意的迷執)見論(現知的迷執)を云ふ。

【二八】七に十二緣起に就て明す。十二緣起とは無明乃至生老死法次第展轉緣起すとするも般若行者はその無生無滅にして本空なるを觀るなり。

【二九】八に內空乃至無性自性空に就て明す。

【三〇】九に眞如乃至不思議界に就て明す。

眞如は卽ち集にして二無く別無し、唯だ眞の聖者のみ能く如實に知ると知らば、善現、是れを如實に集聖諦を知ると名づく。(ハ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に滅聖諦を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に滅は是れ寂靜相にして自性本空なり二法を遠離するは是れ聖者の諦なり、滅は卽ち眞如、眞如は卽滅にして二無く別無し、唯だ眞の聖者のみ能く如實に知ると知らば、善現、是れを如實に滅聖諦を知ると名づく。(ニ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に道聖諦を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に道は是れ出離相にして自性本空なり、二法を遠離するは是れ聖者の諦なり、道は卽ち眞如、眞如は卽ち道にして二無く別無し、唯だ眞の聖者のみ能く如實に知るを知らば、善現、是れを如實に道聖諦を知ると名づく。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く四聖諦を學すと僞すと。

二六　具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く四緣を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に因緣を知り、如實に等無間緣を知り、如實に所緣緣を知り、如實に增上緣を知らば、是れを能く四緣を學すと僞す。(イ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に因緣を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に因緣は是れ種子相にして自性本空なり、二法を遠離すと知らば、善現、是れを如實に因緣を知ると名づく。(ロ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に等無間緣を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に等無間緣は是れ開發相にして自性本空なり、二法を遠離すと知らば、善現、是れを如實に等無間緣を知ると名づく。(ハ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に所緣緣を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に所緣緣は是れ任持相にして自性本性なり、二法を

(ハ)　滅聖諦。

(ニ)　道聖諦。

【二六】　六に四緣に就て明す。四緣とは總て諸法生起の過程に因と緣と果とがある中の緣を四種に分ちし稱、緣は助成の義にて因を助けて果を生ぜしむる作用をなすものなり。

(イ)　因緣。これ種子相

(ロ)　等無間緣。これ開發相

(ハ)　所緣緣。これ任持相

に香界鼻識界及び鼻觸鼻觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は香界乃至鼻觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性空なりと知り、如實に舌界は舌界の自性空なりと知り如實に味界舌識界及び舌觸舌觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は味界乃至舌觸に緣ぜられて生ずる所の自性空なりと知り、如實に身界は身界の自性空なりと知り如實に觸界身識界及び身觸身觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は觸界乃至身觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性空なりと知り、如實に意界は意界の自性空なりと知り如實に法界意識界及び意觸意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は法界乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性空なりと知らば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く十八界を學すと爲すと。[二三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く六界を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に地界は地界の自性空なりと知り如實に水火風空識界は水火風空識界の自性空なりと知らば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く六界を學すと爲すと。

[二四]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く四聖諦を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に苦聖諦を知り如實に集聖諦を知り如實に滅聖諦を知り如實に道聖諦を知らば、是れを能く四聖諦を學すと爲す。(イ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に苦聖諦を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に苦は是れ逼迫相にして自性本空なり、[二五]二法を遠離するは是れ聖者の諦なり、苦は卽ち眞如、眞如は卽ち苦にして二無く別無し、唯だ眞の聖者のみ能く如實に知ると知らば、善現、是れを如實に苦聖諦を知ると名づく。(ロ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に集聖諦を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に集に是れ生起相にして自性本空なり、二法を遠離するは是れ聖者の諦なり、集は卽ち眞如、

【二三】四に六界に就て明す。

【二四】五に四聖諦に就て明す。

(イ)苦聖諦。

【二五】二法。苦樂等の差別を云ふ。

(ロ)集聖諦。

薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に識の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも滅法相應すと知らば、善現、是れを如實に識の滅を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に識の眞如を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に識の眞如は生無く滅無く來無く去無く染無く淨無く增無く減無く、常に是の性の如く虛妄ならず變易せず、故に眞如と名づくと知らば、善現、是れを如實に識の眞如を知ると名づく。[二〇]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色は色の自性空なりと知り、如實に受は受の自性空なりと知り、如實に想は想の自性空なりと知り、如實に行は行の自性空なりと知り、如實に識は識の自性空なりと知らば善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く五蘊を學すと爲すと。

[二一]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く十二處を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に眼處は眼處の自性空なりと知り如實に耳鼻舌身意處は耳鼻舌身意處の自性空なりと知り、如實に色處は色處の自性空なりと知り如實に聲香味觸法處は聲香味觸法處の自性空なりと知り、如實に內處は內處の自性空なりと知り如實に外處は外處の自性空なりと知らば、善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時能く十二處を學すと爲すと。[二二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時能く十八界を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時眼界は眼界の自性空なりと知り如實に色界眼識界及び眼觸眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は色界乃至眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性空なりと知り、如實に耳界は耳界の自性空なりと知り如實に聲界耳識界及び耳觸耳觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は聲界乃至耳觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性空なりと知り、如實に鼻界は鼻界の自性空なりと知り如實

【二〇】上來五蘊の各各に就て說き最後にその自性いづれも空なりと結ぶ。

【二一】二に十二處に就て明す。

【二二】三に十八界に就て明す。

を如實に行の相を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に行の生を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも生法相應すと知らば、善現、是れを如實に行の生を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行の滅を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも滅法相應すと知らば。善現、是れを如實に行の滅を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に行の眞如を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行の眞如は生無く滅無く來無く去無く染無く淨無く增無く減無く、常に其の性の如く虛妄ならず變易せず、故に眞如と名づくと知らば、善現、是れを如實に行の眞如を知ると名づく。(ホ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に識を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に識の相を知り、如實に識の生を知り、如實に識の滅を知り、如實に識の眞如を知らば是れを如實に識を知ると爲す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に識の相を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に識は猶ほ幻事の如く衆緣和合して假りに有りと施設するも實には得可からず、謂ゆる幻師或は彼の弟子四衢道に於て四軍の所謂象軍馬軍車軍步軍を幻作し或は復た諸の餘の色類を幻作するに相有るに似たりと雖も而かも其れ實には無きが如く識も亦た是の如く實に得可からずと知る。善現、是れを如實に識の相を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に識の生を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に識の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも生法相應すと知らば、善現、是れを如實に識の生を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に識の滅を知るや。善現、若し菩

(ホ) 識の相、生、滅、眞如を明す。

眞如を知ると名づく。(八)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に想を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に想の相を知り、如實に想の生を知り、如實に想の滅を知り、如實に想の眞如を知らば、是れを如實に想を知ると爲す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に想の相を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に、想は猶ほ〔九〕陽焔水の不可得、虛妄なるに渇愛して而かも是の想を起して有なりと假りに施設し假りの言說を發すが如しと知らば善現、是れを如實に想の相を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に想の生を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に想の來るに從る所無く去るに趣く所無く無來無去なりと雖も而かも生法相應すと知らば、善現、是れを如實に想の生を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に想の滅を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に想の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも滅法相應すと知らば、善現、是れを如實に想の滅を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に想の眞如を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に想の眞如は生無く滅無く來無く去無く染無く淨無く增無く減無く、常に其の性の如く虛妄ならず變易せず、故に眞如と名づくと知らば、善現、是れを如實に想の眞如を知ると名づく。(一〇)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に行を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行の相を知り、如實に行の生を知る、如實に行の滅を知り、如實に行の眞如を知らば、是れを如實に行を知ると爲す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に行の相を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に行は猶ほ芭蕉の葉葉析除するに實に得可からざるが如く明無明等は衆緣の成ずる所、業煩惱等は和合の假立なりと知らば、善現、是れ

(八)　想の相、生、滅、眞如を明す。

〔九〕　陽焔水等。陽焔は「かげらふ」なり。渇せる鹿はこの「かげらふ」を見て水となし走て之に趣くと云ひ、維摩經方便品に「是身如レ燄。從二渇愛一生。」とあり、同註に「渇見二陽燄一。惑以爲レ水。」とあり。參照すべし。

(一〇)　行の相、生、滅、眞如を明す。

を如實に色の生を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に色の滅を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも滅法相應すと知らば、善現是れを如實に色の滅を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に色の眞如を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色の眞如は生無く滅無く來無く去無く染無く淨無く增無く減無く、常に其の性の如く虛妄ならず變易せず、故に眞如と名づくと知らば、善現、是れを如實に色の眞如を知ると名づく。(ロ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修する時如實に受を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に受の相を知り、如實に受の生を知り、如實に受の滅を知り、如實に受の眞如を知らば是れを如實に受を知ると爲す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に受の相を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に受は畢竟癰の如く畢竟前の如く猶ほ浮泡の虛僞にして住せず速に起り速に滅するが若しと知らば、善現、是れを如實に受相を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に受の生を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に受の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも生法相應すと知らば、善現、是れを如實に受の生を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に受の滅を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に受の來るに從る所無く、去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも滅法相應すと知らば善現、是れを如實に受の滅を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に受の眞如を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時受の眞如は生無く滅無く來無く去無く染無く淨無く增無く減無く、常に其の性の如く虛妄ならず變易せず。故に眞如と名づくと知らば善現、是れを如實に受の

(ロ) 受の相、生、滅、眞如を明す。

勝の善法も生長せざるが故に。

一七 復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如き三解脫門を學せば則ち能く五蘊を學し、亦た能く十二處を學し、亦た能く十八界を學し、亦た能く六界を學し、亦た能く四聖諦を學し、亦た能く四緣を學し、亦た能く緣より生ずる所の諸法を學し、亦た能く十二緣起を學し、亦た能く內空乃至無性自性空を學し、亦た能く眞如乃至不思議界を學し、亦た能く布施乃至般若方便善巧妙願力智波羅蜜多を學し、亦た能く極喜地乃至法雲地を學し、亦た能く四念住乃至八聖道支を學し、亦た能く四靜慮乃至四無色定を學し、亦た能く八解脫乃至十遍處を學し、亦た能く一切陀羅尼門一切三摩地門を學し、亦た能く五眼六神通を學し、亦た能く如來の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を學し、亦た能く大慈大悲大喜大捨を學し、亦た能く無忘失法恒住捨性を學し、亦た能く一切智乃至一切相智を學し、亦た能く嚴淨佛土成熟有情を學し、亦た能く諸の餘の無量無邊の佛法を學するなりと。

一八 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を學する時能く五蘊を學するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を學する時如實に色受想行識を知らば是れを能く五蘊を學すと爲す。(イ)善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に色を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色の相を知り、如實に色の生を知り、如實に色の滅を知り、如實に色の眞如を知らば是れを如實に色を知ると爲す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に色の相を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色は畢竟孔有り畢竟隙有ること猶ほ聚沫の性堅固ならざるが如しと知らば、善現、是れを如實に色の相を知ると名づく。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に色の生を知るや。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時如實に色の來るに從る所無く去るに趣く所無く、無來無去なりと雖も而かも生法相應すと知らば、善現、是れ

【一七】以下に三解脫門を學して諸善法に通達するを廣說す。

【一八】一に五蘊に就て明す。五蘊即ち色受想行識の各各の相、生、滅、眞如に就て說く。
(イ) 色の相、生、滅、眞如を明す。

共法、此れは是れ不共法、此れは是れ聲聞法、此れは是れ獨覺法、此れは是れ菩薩法、此れは是れ如來法なりとのたまへる耶と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、世間等の法と無相等の無漏法性と異り有りと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、聲聞等の法と無相等の無漏法性と異り有りと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、世間等の法豈に是の無相念等の無漏法性に卽せざらんやと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝と。[一五]佛、善現に告げたまはく、若しは預流果若しは一來果若しは不還果若しは阿羅漢果若しは獨覺菩提若しは諸の菩薩摩訶薩法若しは佛の無上正等菩提豈に是の無相念等の無漏法性に卽せざらんやと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝と。佛、善現に告げたまはく、此の因緣に由りて當に知るべし一切法は皆是れ無相等なりと。善現、菩薩摩訶薩一切法は皆是れ無相無念無作意なりと學する時常に能く所行の善法を增益す、所謂布施乃至般若波羅蜜多、若しは四靜慮乃至四無色定、若しは四念住乃至八聖道支、若しは內空乃至無性自性空、若しは眞如乃至不思議界、若しは苦集滅道聖諦、若しは空無相無願解脫門、若しは八解脫乃至十遍處、若しは一切陀羅尼門一切三摩地門、若しは極喜地乃至法雲地、若しは五眼六神通、若しは佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法、若しは大慈大悲大喜大捨、若しは無忘失法恒住捨性、若しは一切智乃至一切相智、諸の是の如き等の一切の佛法は皆無相無念無作意なりと學するに由りて增益することを得。所以は何ん、[一六]善現、菩薩摩訶薩は空無相無願解脫門を除いて更に餘の學すべき所の法を要すること無ければなり。何を以ての故に、善現、三解脫門は能く一切の妙善法を攝するが故なり。所以は何ん、善現、空解脫門は一切法の自相皆空なりと觀じ、無相解脫門は一切法の諸相を遠離するを觀じ、無願解脫門は一切法の所願を遠離するを觀ずればなり。此の三門に由りて能く一切の殊勝の善法を攝す。此の三門を離れては修習すべき所の殊

【一五】無相の故に三乘諸道あるを以て三乘と說くを難ずべからずとなり。

【一六】要するに三解脫門にて足り方便たる餘の四念住等を要せずとなり。

他をして善法を增進せしめざるべし。善現、諸法の中に少しくも實事無く但だ諸の名及び相を假立することと有るのみなるを以て是の故に菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時無相を以て方便と爲して能く般若波羅蜜多を圓滿し、無相を以て方便と爲して能く靜慮波羅蜜多を圓滿し、無相を以て方便と爲して能く精進波羅蜜多を圓滿し、無相を以て方便と爲して能く安忍波羅蜜多を圓滿し、無相を以て方便と爲して能く淨戒波羅蜜多を圓滿し、(c)無相を以て方便と爲して能く布施波羅蜜多を圓滿し。(c)四靜慮乃[三]至四無色定。(c)四念住乃[三]至八聖道支。(c)空無相無願解脫門。(c)內空乃[六]至無性自性空。(c)眞如乃[二]至不思議界。(c)苦集滅道聖諦。(c)八解脫乃[七]至十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)極喜地乃[一]至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃[五]至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃[三]至一切相智、無相を以て方便と爲して諸の善法に於て自ら圓滿し已て亦た能く他をして善法を圓滿せしむ。是の如く善現、一切法は少しくも實事無く但だ諸の名及び相を假立することと有るのみなるを以て諸の菩薩摩訶薩は中に於て顚倒執著を起さず、諸の善法に於て能く自ら增進し亦た能く他をして善法を增進せしむ。復た次に善現、若し諸法の中毛端の量も實法相有らば則ち菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時一切法に於て無相無念亦た無作意無漏性を覺知し已て無上正等菩提を證得し有情を無漏法に安立すべからず。何を以ての故に、善現、諸の無漏法は皆無相無念無作意なるが故なり。是の如く善現、菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる時有情を無漏法に安立するを乃ち眞實に他事を饒益すと名づくと。

[一一]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法眞に無漏性にして無相無念亦た無作意ならば何に緣りて世尊は嘗て是の如き數は此れは是れ世間法、此れは是れ出世法、此れは是れ有漏法、此れは是れ無漏法、此れは是れ有爲法、此れは是れ無爲法、此れは是れ有罪法、此れは是れ無罪法、此れは是れ有諍法、此れは是れ[一二]無諍法、此れは是れ[一三]流轉法、此れは是れ[一四]還滅法、此れは是れ

(c)「以無相爲方便能圓滿布施波羅蜜多」右の文中「布施波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(b)の場合に同じ。

【一一】諸法差別を說くと雖も實に一切法無相なるを明す。

【一二】無諍法、空無相無願を無諍の法と說く。

【一三】流轉法。還滅法の對、業を造りて生死の果を受くるもの。四諦中苦集これなり。

【一四】還滅法。流轉法の對、道を修し迷妄を破つて覺性の本源たる寂滅に還るもの。四諦中滅道これなり。

亦た實有に非ず。愚夫異生は中に於て妄執す。菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧し敎へて遠離せしめ、是の如き言を作す、名は是れ分別妄想の起す所なり亦た是れ衆緣和合の假立なり。汝等中に於て執著すべからず。名は實事無く自性皆空なり。有智者は空法に執著するに非ずと。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧して諸の有情の爲に離名の法を說く。善現、是れを爲れ名と謂ふ。云何が相と爲す。善現、[六]相に二種有り。愚夫異生は中に於て執著す。何等をか二と爲す。一には色相、二には無色相なり。何をか色相と謂ふ。善現、諸の所有る色の若しは過去若しは未來若しは現在、若しは內若しは外、[七]若しは麁若しは細、若しは劣若しは勝若しは遠若しは近、此の刹那の諸の空法の中に於て愚夫異生は分別し執著す。是れを色相と名づく。何をか無色相と謂ふ。善現、謂ゆる諸の所有る[八]無色法の中にて愚夫異生は相を取りて分別し諸の煩惱を生ず。是れを無色相と名づく。菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧して諸の有情に敎へて二相を遠離せしめ復た敎へて無相界の中に安住せしむ。無相界の中に安住せしむと雖も而かも其れをして二邊執に墮せしめず、[九]謂ゆる此れは是れ相、此れは是れ無相なりと。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧して諸の有情をして衆相を遠離し無相界に住して執著無からしむと。

[一〇]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法は但だ名相のみ有り、所有る名相は皆是れ假立にして分別の起す所、實有性に非ずんば云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の善法に於て能く自ら增進し、亦た能く他をして善法を增進せしめ、自ら善法增進するを得るに由るが故に能く諸地をして漸次に圓滿せしめ亦た能く諸の有情類を安立し其の應ずる所に隨つて三乘の果を得せしむるやと。佛、善現に告げたまはく、若し諸法の中に少しくも實事有り但だ假立して名相有るのみに非ざれば則ち菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に善法に於て自ら增進せず亦た

【六】二に相を明す。相を色相、無色相の二種に分ちて說く。

【七】若しは麁若しは細。肉眼所見を麁色となし、微塵を細となす。

【八】無色法。受想行識の法を云ふ。

【九】相と無相とを執すれば二邊執に墮するなり。

【一〇】一切法に於て實事無く名相假立なるが故に菩薩能く無相を以て方便となして善法に於て自他を增進せしむるを明す。

數劫にも諸の有情の爲に菩薩行を修し佛土を嚴淨し有情を成熟すべからず。菩薩摩訶薩、一切法に於て如實に皆幻化の如く都て實有に非ずと了知するを以ての故に無數劫に諸の有情の爲に菩薩行を修し佛土を嚴淨し有情を成熟すと。

[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法夢の如く幻の如く響の如く像の如く光影の如く陽焔の如く變化事の如く尋香城の如くんば所化の有情の何れの處に住在せるを、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて拔濟して出でしむるやと。佛、善現に告げたまはく、所化の有情の名相虛妄分別に住在せるを、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて彼の名相虛妄分別より拔濟して出でしむと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何をか爲れ名と謂ひ、何をか爲れ相と謂ふやと。佛言はく、善現、[四]名は皆是れ客、皆是れ假立、皆施設に屬す。謂ゆる此れを色と名づけ、此れを受想行識と名づけ、此れを眼處と名づけ此れを耳鼻舌身意處と名づけ、此れを色處と名づけ此れを聲香味觸法處と名づけ、此れを眼界と名づけ此れを耳鼻舌身意界を名づけ、此れを色界と名づけ此れを聲香味觸法界と名づけ、此れを眼識界と名づけ此れを耳鼻舌身意識界と名づけ、此れを男と名づけ此れを女と名づけ、此れを小と名づけ此れを大と名づけ、此れを地獄と名づけ此れを傍生と名づけ此れを鬼界と名づけ此れを人と名づけ此れを天と名づけ、此れを世間法と名づけ此れを出世法と名づけ、此れを有漏法と名づけ此れを無漏法と名づけ、此れを有爲法と名づけ此れを無爲法と名づけ、此れを預流果と名づけ此れを一來果と名づけ此れを不還果と名づけ此れを阿羅漢果と名づけ此れを獨覺菩提と名づけ、此れを一切の菩薩摩訶薩行と名づけ此れを諸佛の無上正等菩提と名づけ、此れを異生と名づけ此れを聲聞と名づけ此れを獨覺と名づけ此れを菩薩と名づけ此れを如來と名づく。善現、是の如き等の[五]一切の名は皆是れ假立なり。諸義を表はさんが爲に諸名を施設せるなり。故に一切の名は皆實有に非ず。諸の有爲法も亦た但だ名のみ有り。此れに由りて無爲も

【三】名相の假立施設たるを說きて無相を明す。

【四】先づ名を明す。

【五】一切の名等。一微塵だに實なく皆假に和合せるのみ。この假の法に假に名字を設けて諸法として認むる故に、名は假の假なり。

(a)眼識界乃至(る)意識界。(a)眼觸乃至(の)意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至(ま)意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至(れ)識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)緣より生ずる所の諸法。(a)無明乃至(を)老死愁歎苦憂惱。(a)世間法、出世間法。(a)有漏法、無漏法。(a)有爲法、無爲法。諸の所變化は皆實に雜染法無く亦た實に淸淨法無し。諸の所變化は皆實に五趣生死に輪廻すること無く亦た實に五趣生死より解脫すること無し。云何が菩薩摩訶薩は諸の有情よりも勝士たるの用有らんと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、諸の菩薩摩訶薩は本菩薩の道を行ぜし時頗る有情の地獄傍生鬼界人天趣より脫す可きを見しや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、諸の菩薩摩訶薩は本菩薩の道を行ぜし時有情の三界より脫す可きを見ず。何を以ての故に、善現、諸の菩薩摩訶薩は一切法に於て皆幻化の如く都て實有に非ずと知見し通達すればなりと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩一切法に於て皆幻化の如く都て實有に非ずと知見し通達せば菩薩摩訶薩は(b)何の事の爲の故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行するや。(b)四靜慮乃至(た)四無色定。(b)四念住乃至(そ)八聖道支。(b)空無相無願解脫門。(b)八解脫乃至(ね)十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)極喜地乃至(こ)法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至(ね)十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至(な)一切相智。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。何事の爲の故に佛土を嚴淨するや。何事の爲の故に有情を成熟するやと。佛、善現に告げたまはく、若し諸の有情一切法に於て自ら皆幻化の如く都て實有に非ずと了知せば則ち菩薩摩訶薩は無數劫にも諸の有情の爲に菩薩道を行ずべからず。[二]諸の有情一切法に於て自ら皆幻化の如く都て實有に非ずと知る能はざるを以て是の故に菩薩摩訶薩は無數劫に於て諸の有情の爲に菩薩道を行ずるなり。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩一切法に於て如實に皆幻化の如く都て實有に非ずと知らずんば則ち無

(b)「爲何事故修行布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右も(a)の場合と同方法により以下略す。

【二】　諸の有情等。有情一切法の幻化を知らざるが故に起惡罪受苦するなり。

摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸法皆實事無しと通達するやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、彼の諸の如來應正等覺の所變化者は實事有り斯の實事に依りて染有り淨有り及び五趣に輪廻すること有りと爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の如來應正等覺の所變化者は少しくも實事有るに非ず、彼の事に依りて染有り淨有るに非ず亦た五趣生死に輪廻すること無しと。佛言はく、善現、[四]菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる時一切法に於て善く實相に達するも亦復た是の如し。諸法都て實事無しと通達すと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、一切の色は皆化の如しと爲すや不や、一切の受想行識も亦た化の如くなりや不や。(g)一切の眼處は皆化の如くなりや不や一切の可鼻舌身意處も亦た化の如くなりや不や。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)因緣　等無間緣所緣緣增上緣。(g)緣より生ずる所の諸法。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。是の如く乃至一切の世間法は皆化の如くなりや不や、一切の出世法も亦た化の如くなりや不や。一切の有漏法は皆化の如くなりや不や、一切の無漏法も亦た化の如くなりや不や。一切の有爲法は皆化の如くなりや不や、一切の無爲法も亦た化の如くなりや不やと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。一切法は皆化の如しと。

卷の第三百八十四

初分諸法平等品第六十九之二

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆化の如くんば(a)諸の所變化は皆實に色無く亦た實に受想行識無し。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。

【四】煩惱六道皆前世虛誑顚倒の因緣に生ずとして空なり如化なりとして隨逐せざるなり。

(g)「一切眼處皆如化不一切耳鼻舌身意處亦如化不」右の文中「眼處乃至意處」の所に𣴎下の諸法を代入して略すること(f)の場合に同じ。

(e)佛善現の問に對して菩薩の有情成熟を明す。

(a)「諸所變化皆無實色亦無實受想行識」右も前卷(q)の場合の如くして以下略す。

初分諸法平等品第六十九之一

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時一切法に於て善く實相に達するやと。佛言はく、善現、諸の如來應正等覺の所變化者の貪を行ぜず瞋を行ぜず癡を行ぜず、(f)色を行ぜず亦た受想行識を行ぜず。(f)眼處(る)乃至意處。(f)色處(は)乃至法處。(f)眼界(い)乃至意界。(f)色界(う)乃至法界。(f)眼識界(ろ)乃至意識界。(f)眼觸(の)乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(お)乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界(に)乃至識界。(f)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(f)諸緣より生ずる所の法。(f)無明(を)乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多(よ)乃至般若波羅蜜多。(f)四靜慮(に)乃至四無色定。(f)四念住(そ)乃至八聖道支。(f)空解脫門(つ)乃至無願解脫門。(f)內空(わ)乃至無性自性空。(f)眞如(か)乃至不思議界。(f)苦聖諦(ろ)乃至道聖諦。(f)八解脫(れ)乃至十遍處。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)極喜地(く)乃至法雲地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(f)大慈、大悲大喜大捨。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智(た)乃至一切相智。(f)三十二大士相、八十隨好。(f)預流果(ら)乃至阿羅漢果獨覺菩提、(f)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(f)內空、外法。(f)隨眠、纏。(f)世間法、出世間法。(f)有漏法、無漏法。(f)、有爲法、無爲法、道を行ぜず亦た道果を行ぜざるが如く善現、菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる時も亦復た是の如し、一切法に於て都て行ずる所無し。是れを善く諸法の實相に達すと爲す、謂ゆる法性に於て分別する所無きなりと。

時に具壽善現復た佛に白して言さく。世尊、云何が如來應正等覺の所變化者は聖道を修するを現ずるやと。佛、善現に告げたまはく、彼の諸の如來應正等覺の所變化者は聖道を修するに依りて染ならず淨ならず亦た[三]五趣の生死に輪廻せずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩

【一】法性無分別、平等なるを明す。

【二】菩薩一切諸法の實相に善達するを明す。

(f)「不行於色亦不行於受想行識」右も(e)の場合に準じ以下略出す。

【三】五趣。五道卽ち地獄餓鬼、畜生、人、天を云ふ。

性空の故に或は自性空の故に或は無性自性空の故にと。

善現、是の菩薩摩訶薩は自ら諸法に於て執著する所無く亦た能く他に教へて諸法の中に於て執著する所無からしむ。謂ゆる布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多に於て若しは四靜慮乃至四無色定に於て、若しは內空乃至無性自性空に於て、若しは眞如乃至不思議界に於て、若しは四念住乃至八聖道支に於て、若しは苦集滅道聖諦に於て、若しは空無相無願解脫門に於て、若しは八解脫乃至十遍處に於て、若しは一切陀羅尼門一切三摩地門に於て、若しは菩薩の十地に於て、若しは五眼、六神通に於て、若しは佛の十力乃至十八佛不共法に於て、若しは無忘失法、恒住捨性に於て、若しは一切智乃至一切相智に於て、皆執著無からしむ。執著無きが故に一切處に於て皆無礙を得。諸の如來應正等覺の所變化者は(e)布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずと雖も而かも彼の果に於て受けず、著せず。唯だ有情の般涅槃せんが爲の故のみ。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)四念住乃至八聖道支。(l)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦道聖諦。(e)空無相無願解脫門。(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。一切智道相智一切相智等を行ずと雖も而かも彼の果に於て受けず著せず、唯だ有情の般涅槃せんが爲の故なるが如く、善現、菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、深般若波羅蜜多を行ずる時一切法の若しは世間若しは出世間若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲に於て皆住する所無く亦た礙ふる所無し。何を以ての故に、善く諸法の如實相に達するが故なり。

(e)「雖行布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多而於彼果不受不著唯爲有情般涅槃故」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

ては道及び道果得可からざるが故なり。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時有情の爲に聖果の種種の差別を安立すと雖も而かも是の如き聖果は有爲界或は無爲界に在りて差別を安立すと分別せざるなり。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し是の如き聖果は有爲界或は無爲界に在りて差別を安立すと分別せずば云何が世尊は[八]三結を斷ずるを預流果と名づけ、欲貪瞋を薄くする一來果と名づけ、[九]順下分五結を斷じて永く盡くるを不還果と名づけ、[一〇]順上分五結を斷じて永く盡くるを阿羅漢果と名づけ、所有る集法をして皆滅法を成ぜしむるを獨覺菩提と名づけ、永く一切の習氣相續を斷ずるを名づけて無上正等菩提を爲すと說きたまふや。世尊、[一一]我れ云何してか佛の所說の義、謂ゆる是の如き聖果は有爲界或は無爲界に在りて差別を安立すと分別せずと云ふを知らんかと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、說く所の預流一來不還阿羅漢果獨覺菩提諸佛の無上正等菩提、是の如き聖果は是れ有爲と爲すや是れ無爲と爲すやと。善現答へは言はく、是の如き聖果は皆是れ無爲なり、是れ有爲に非ずと。佛、善現に告げたまはく、無爲法の中には分別有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、汝が意云何、若し善男子善女人等一切の有爲無爲に通達せば皆同じく一相にして所謂無相なり。是の善男子善女人等は爾の時に當つて頗し諸法に於て此れは是れ有爲或は無爲なりと分別する所有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。深般若波羅蜜多を行ずる時有情の爲に諸法を宣說すと雖も而かも所說の法相を分別せず、謂ゆる內空の故に或は外空の故に或は內外空の故に或は空空の故に或は大空の故に或は勝義空の故に或は有爲空の故に或は無爲空の故に或は畢竟空の故に或は無際空の故に或は散空の故に或は無變異空の故に或は本性空の故に或は自相空の故に或は共相空の故に或は一切法空の故に或は不可得空の故に或は無

【八】三結。結は繫縛の義、煩惱の異名なり。その三とは見結、戒取結、疑結を云ふ。

【九】順下分五結。五下分結なり。欲界に於て起す五種の結惑即ち貪結、瞋結、身見結戒取結疑結を云ふ。これが爲に欲界を超脫すること能はざれば下分結と名く。

【一〇】順上分五結。五上分結なり。色界無色界に於て起す五種の結惑即ち色愛結、無色愛結、掉結、慢結、無明結、を云ふ。これが爲に色界無色界を離るることを得ざらしむれば上分結と名く。

【一一】前例の如きは聖果分別が有爲無爲に於ける差別と見え、佛の分別せずとするに反するを問ふ。

乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)三十二大士相、八十隨好。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(d)世間法、出世間法。(d)有漏法、無漏法。(d)有爲法、無爲法。

時に具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、若し世俗諦に依るが故に因果差別を安立し勝義諦に依らずんば則ち一切の愚夫異生皆應に預流果有るべく、或は應に一來果有るべく、故は應に不還果有るべく、或は應に阿羅漢果有るべく、或は應に獨覺菩提有るべく、或は應に阿耨多羅三藐三菩提有るべしと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、一切の愚夫異生は如實に世俗諦及び勝義諦を知ると爲すや不や。若し如實に知らば彼れは應に預流果有るべく、或は應に一來果有るべく、或は應に不還果有るべく、或は應に阿羅漢果有るべく、或は應に獨覺菩提有るべく、或は應に阿耨多羅三藐三菩提有るべし。然かも諸の愚夫異生は如實に世俗諦及び勝義諦を知らざれば、聖道無く聖道を修する無し。彼れに云何が聖果の差別有らん。唯だ諸の聖者のみ能く如實に世俗諦及び勝義諦を知れば聖道有り聖道を修する有り。是の故に聖果差別有ることを得と。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し聖道を修せば聖果を得るや不やと。佛言はく、不なり善現、聖道を修して能く聖果を得るに非ず、亦た聖道を修せずして能く聖果を得るに非ず、聖道を離れて能く聖果を得るに非ず、亦た聖道の中に住して能く聖果を得るに非ず。何を以ての故に、善現、勝義諦の中に

【五】世俗諦に依らば凡夫皆世俗なるが故に聖果を得べし、然らざるは聖道聖果は勝義にして世俗ならざるべしと問ふなり。

【六】二諦は聖者の事實なるを明す。

【七】聖者の事實とせるが故に重ねて聖道を修め聖果を得べきかを決擇す。

好。(b)預流果乃至(ら)阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(b)世間法、出世間法。(b)有漏法、無漏法。(b)有爲法、無爲法。

時に具壽善現、復た佛に白して言さく、(c)世尊、若し色は法界眞如實際に異らず受想行識も亦た法界眞如實際に異らず。(c)眼處乃至(ろ)意處。(c)色處乃至(は)法處。(c)眼界乃至(む)意界。(c)色界乃至(う)法界。(c)眼識界乃至(ゐ)意識界。(c)眼觸乃至(の)意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至(お)意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至(ね)識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)諸緣より生ずる所の法。(c)無明乃至(そ)老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至(よ)般若波羅蜜多。(c)內空乃至(わ)無性自性空。(c)苦聖諦乃至(る)道聖諦。(c)四靜慮乃至(た)四無色定。(c)四念住乃至(そ)八聖道支。(c)空解脫門乃至(つ)無願解脫門。(c)八解脫乃至(れ)十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)極喜地乃至(く)法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至(な)一切相智。(c)三十二大士相、八十隨好。(c)預流果乃至(ら)阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(c)世間法、出世間法。(c)有漏法、無漏法。世尊、若し有爲法は法界眞如實際は異らず無爲法も亦た法界眞如實際に異らずんば云何が世尊、[二]黑法の黑[三]異熟所謂地獄傍生鬼界を感ずるを安立し、[四]白法の白異熟、所謂人天を感ずるを安立し、黑白法の黑白異熟、所謂一分傍生鬼界及び一分人天を感ずるを安立し、非黑非白法の非黑非白異熟、所謂預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提或は復た無上正等菩提を感ずるを安立するやと。佛言はく、善現、世俗諦に依りて是の如き因果差別を安立す。勝義に依らず。勝義諦の中には因果差別有りと說く可からず。所以は何ん、善現、勝義諦の中には一切の法性分別す可からず、說く無く示す無し。云何が當に因果差別有るべけん。(d)善現、勝義諦の中には色は生無く滅無く染無く淨無く受想行識も亦た生無く滅無く染無く淨無し。畢竟空無際空なるを以ての故に。(d)眼處乃至(ろ)意處。(d)色處乃至(は)法處。(d)眼界

(c)「世尊若色不異法界眞如實際受想行識亦不異法界眞如實際」右も(b)の場合の如くして以下略す。

【二】黑法。惡法の異名。
【三】異熟。舊に果報と譯す。過去の善惡に依て得たる果報の總名。
【四】白法。善法の異名。

(d)「善現勝義諦中色無生無滅無染無淨受想行識亦無生無滅無染無淨以畢竟空無際空故」右も(c)の場合と同方法により以下略す。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し眞に法界眞如實際轉越すること無くんば色と法界眞如實際と異り有りと爲すや不や受想行識と法界眞如實際と異り有りと爲すや不や。(a)世尊、眼處と法界眞如實際と異り有りと爲すや不や耳鼻舌身意處と法界眞如實際と異り有りと爲すや不や。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)諸緣より生ずる所の法。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)內空乃至無性自性空。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)三十二大士相、八十隨好。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(a)世間法、出世間法。(a)有漏法、無漏法。(a)有爲法、無爲法。

佛言はく、不なり(b)善現、色は法界眞如實際に異らず受想行識も亦た法界眞如實際に異らず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)諸緣より生ずる所の法。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)內空乃至無性自性空。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)三十二大士相、八十隨

【一】法界眞如實際轉越せざれば諸法平等なるも俗諦に善惡あるを明す。

(a)「世尊眼處與法界眞如實際爲有異有耳鼻舌身意處與法界眞如實際爲有異」右の文中「眼處乃至意處」のある所に次下に出す諸法を代入せば他に皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(b)「善色不異法界眞如實際受想行識不異法界眞如實際」右も(a)の場合の如くして以下略出す。

生ずる所の法。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至若般波羅蜜多。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)內空乃至無性自性空。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)三十二大士相、八十隨好。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(d)世間法、出世間法。(d)有漏法、無漏法。(d)有爲法、無爲法。善現、[五]無性法は無性法に住するに非ず、有性法は有性法に住するに非ず、無性法は有性法に住するに非ず、有性法は無性法に住するに非ず、自性法は自性法に住するに非ず、他性法は他性法に住するに非ず、自性法は他性法に住するに非ず、他性法は自性法に住するに非ず。何を以ての故に、是の一切法は皆不可得なればなり。不可得法は當に何の所にか住すべけん。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時、是の諸空を以て諸法を修遣し亦た能く如實に有情に說示す。善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば佛菩薩獨覺聲聞一切の聖衆に於て皆過失無し。何を以ての故に、諸の佛菩薩獨覺聲聞一切の聖衆は、是の法性に於て皆能く隨覺すればなり。既に隨覺し已らば諸の有情の爲に無倒に宣說す。有情の爲に諸法を宣說すと雖も而かも法性に於て轉ずる無く越ゆる無し。何を以ての故に、善現、諸法の實性は卽ち是れ法界眞如實際にして是の如き法界眞如實際は皆轉ず可からず越ゆ可からざるが故なり。所以は何ん、是の如き法界眞如實際は皆自性にして而かも轉越す可きもの無ければなりと。

卷の第三百八十三

初分諸功德相品第六十八之五

【五】無性法等。自法にも他法にも共法にも住せず、有無自他に住せざるを明す。

是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時有情の爲に諸法を宣說すと雖も而かも有情及び諸法の性に於て都て所得無し。何を以ての故に、諸の有情及び一切法は不可得なるを以ての故なり。

[四]復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時無所住たるを以て方便を爲すが故に一切法の無所得の中に住す。謂ゆる(c)無所住を以て方便と爲すが故に色空に住し無所住を以て方便と爲すが故に受想行識空に住す。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)諸緣より生ずる所の法。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)內空乃至無性自性空。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)三十二大士相、八十隨好。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(c)世間法、出世間法。(c)有漏法、無漏法。(c)有爲法、無爲法。

(d)善現、色は住する所無く受想行識も亦た住する所無し。色空は住する所無く受想行識空も亦た住する所無し。何を以ての故に、善現、色は無自性にして得可からず受想行識も亦た無自性にして得可からず。色空は無自性にして得可からず受想行識空も亦た無自性にして得可からざればなり。無自性不可得の法は所住有るに非ざるが故に。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(d)諸緣より

【四】菩薩無所住を方便と爲し一切法無所得中に住するを明す。

(c)「以無所住爲方便故住色空以無所住爲方便故住受想行識空」。右も(b)の場合と同方法により以下略出す。

(d)「善現色無所住受想行識亦無所住色空無所住受想行識空亦無所住……非無自性不可得法有所住故」右も「色乃至識」の所に次下に出す諸法を代入して略すること(c)の場合と同じ。

法、恒住捨性、(a)一切智乃(た)至一切相智、(a)三十二大士相、八十隨好、或は預流果を證得せしめ或は一來不還阿羅漢果獨覺菩提を證得せしめ、或は菩薩の勝位を證得せしめ或は諸佛の無上正等菩提を證得せしむるが如き、善現、汝が意に於て云何、是の時化佛及び所化の衆、頗し諸法に於て分別する所有り破壞する有り不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、諸の所變化は分別無きが故にと。

[二]佛言はく、善現、此の因縁に由りて當に知るべし菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。深般若波羅蜜多を行じて諸の有情の爲に應ずるが如く法を說き、法相を分別破壞せずと雖も而かも能く如實に有情を安立し其れをして應ずる所の住地に安住せしむ。有情及び一切法に於て都て所得無しと雖も而かも有情をして妄想顚倒執著より解脫せしむ。[三]無縛無脫にして方便を爲すが故に。所以は何ん、(b)善現、色の本性は無縛無脫、受想行識の本性も亦た無縛無脫なり。色の本性無縛無脫なれば則ち色に非ず受想行識の本性も亦た無縛無脫なれば則ち受想行識に非ず。何を以ての故に、色乃(い)至識は畢竟淨なるが故なり。(b)眼處乃(う)至意處。(b)色處乃(ほ)至法處。(b)眼界乃(む)至意界。(b)色界乃(う)至法界。(b)眼識界乃(る)至意識界。(b)眼觸乃(の)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(に)至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)諸緣より生ずる所の法。(b)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)極喜地乃(く)至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)三十二大士相、八十隨好。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(b)世間法、出世間法。(b)有漏法、無漏法。(b)有爲法、無爲法。

【二】菩薩無縛無脫を方便として有情を妄想顚倒執著より解脫せしむ。

【三】無縛無脫等。諸法本來淸淨にして繫縛なければ解脫もなし。然るに衆生妄想して有無を立て、縛繫せらる、故に說きて解脫せしむ、もと無脫なるが故に解脫あり、說きて脫せしむるも方便なるを得る所以なり。

(b)「善現色本性無縛無脫受想行識本性無縛無脫………何以故色乃至識畢竟淨故」右の文中「色乃至識」のある所に次下に出す諸法を代入して略すること(a)の場合に同じ以下その諸法のみ略出す。

(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)菩薩摩訶薩の正性離生。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。當に知るべし一切の佛土空なりと。當に知るべし成熟有情空なりと。當に知るべし三十二大士相空なりと當に知るべし八十隨好空なりと。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時一切法皆悉く空なりと見已て諸の有情の爲に諸法を宣說して顚倒を離れしむ。有情の爲に諸法を宣說すと雖も而かも有情に於て都て所得無く一切法に於ても亦た所得無し。諸の空相に於て增さず減ぜず取る無く捨つる無し。是の因緣に由りて諸法を說くと雖も而かも說く所無し。善現、是の菩薩摩訶薩は一切法に於て是の如く觀る時一切法に於て無障智を得。此の智に由るが故に諸法を壞せず二分別無く諸の有情の爲に如實に宣說して妄想顚倒執著を離れ其の應ずる所に隨て三乘の果に趣かしむ。

卷の第三百八十二

初分諸功德相品第六十八之四

[一]復た次に善現、如來應正等覺有りて一佛を化作す、是の佛復た能く無量百千俱胝那庾多の衆を化作する時彼の化佛、所化の衆は敎へて或は布施波羅蜜多を修行せしめ或は淨戒波羅蜜多を修行せしめ或は安忍波羅蜜多を修行せしめ或は精進波羅蜜多を修行せしめ或は靜慮波羅蜜多を修行せしめ或は般若波羅蜜多を修行せしめ、(a)或は四靜慮を修行せしめ或は四無量四無色定を修行せしめ、(a)四念住乃至八聖道支、(a)空解脫門乃至無願解脫門、(a)內空乃至無性自性空、(a)眞如乃至不思議界、(a)苦聖諦乃至道聖諦、(a)八解脫乃至十遍處、(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門、(a)極喜地乃至法雲地、(a)五眼、六神通、(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法、(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失

【一】佛の所化衆諸法に於て分別破壞せざるを明す。
(a)「或令修行四靜慮或令修行四無量四無色定」
右の文中「四靜慮乃至四無色定」の所に次下に出す諸法を代入して略すること前卷(d)の場合の如し但し「內空眞如苦聖諦」のみは「修行」の代りに「安住」の語を以てするものとす。

脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)陀羅尼門、三摩地門。(c)極喜地乃(く)至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃(た)至一切相智。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(c)二十二大士相、八十隨好。

(二九)世尊、一切有情法及び施設既に得可からず都て所有無くして云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の有情の爲に諸法を宣說するや。世尊、菩薩摩訶薩は自ら不正法に安住して諸の有情の爲に不正法を說き、諸の有情に不正法に住するを勸め、顚倒法を以て有情を安立すと謂ふこと勿れ。何を以ての故に、世尊、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時尙ほ菩提すら得ず、況んや菩(三〇)提分法の而かも得可き者有らんや。尙ほ菩薩摩訶薩すら得ず、況んや菩薩摩訶薩法の而かも得可き者有らんやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。一切有情は皆得可からず、一切有情施設も亦た得可からず、一切法は皆得可からず一切法施設も亦得可からず、得可からざるに由りて都て所有無し。無所有なるが故に當に知るべし內空なりと、當に知るべし外空乃(わ)至無性自性空なりと。當に知るべし眞如空なりと當に知るべし法界乃(か)至不思議界空なりと。當に知るべし菩薩諦空なりと、當に知るべし集滅道聖諦空なりと。(d)色乃(い)至識。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至意界。(d)色界乃(う)至法界。(d)眼識界乃(る)至意識界。(d)眼觸乃(の)至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)因緣等無間緣所緣緣增上緣。(d)緣より生ずる所の諸法。(d)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(d)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者智者見者。(d)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。

【二九】所有なくし正法を宣說し妄想顚倒執著を離れしむるを明す。

【三〇】菩提分法。四念住、四正斷、四神足、五根、五力、七覺支、八聖道支の三十七道品の總稱なり。この道行菩提に順趣するの故にかく名づく。

(d)「當知苦聖諦空當知集滅道聖諦空」右の文中「四聖諦」のある所に次下の諸法を代入して略すること(a)の場合に同じ。

(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)三十二大士相、八十隨好。云何が菩薩摩訶薩は異熟生六神通に住し已て諸の有情の爲に正法を宣說するや。

二八　世尊、一切有情は皆得可からず有情施設も亦た得可からず、(b)一切有情得可からざるが故に色得可からず受想行識も亦た得可からず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)一切の緣より生ずる所の法。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(b)三十二大士相、八十隨好。

世尊、不可得の中には有情無く有情施設無く、(c)色無く色施設無く受想行識無く受想行識施設無し。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)諸緣より生ずる所の諸法。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解

【二八】人も人とすることも一切諸法も所有なくして菩薩正法を說く所以を問ふ。

(b)「一切有情不可得故色不可得受想行識亦不可得」右も「色乃至識」の五蘊の所に以下に出す諸法を代入して略すること(a)の場合と同じ。

(c)「無色無色施設無受想行識無受想行識施設」右も(b)の場合と全く同方法により以下略す。

せしむ。善現、菩薩摩訶薩は能く是の如き布施愛語利行同事を以て諸の有情を攝す。是れを甚奇希有の法と爲す。[二六]復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ諸餘の菩薩を教授教誡して是の言を作す、善男子、汝應に善く學して諸字陀羅尼門を引發すべし。謂ゆる應に善く一字二字三字四字五字六字七字八字九字十字是の如く乃至二十三十四十五十六十七十八十九十若しは百若しは千乃至無數を學し引發すること自在なるべし。又た應に善く一切の語言は皆一字に入り、或は二字に入り、或は三字に入り、或は四字に入り、或は五字に入り、或は六字に入り、或は七字に入り、或は八字に入り、或は九字に入り、或は十字に入り是の如く乃至二十三十四十五十六十七十八十九十百千乃至無數に入るを學し引發すること自在なるべし。又た應に善く一字の中に於て一切字を攝し、一切字の中に一字を攝するを學し引發すること自在なるべし。又た應に善く一字能く四十二字を攝し、四十二字能く一字を攝するを學すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は應に是の如く善く四十二字一字に入り、一字も亦た四十二字に入るを學すべし。是の如く學し已らば諸字の中に於て引發すること善巧なり、引發字に於て善巧を得已らば復た無字に於て引發すること善巧なり。諸の如來應正等覺の法に於て善巧に字に於て善巧なるが如く諸法諸字に於て善巧なるを以て無字の中に於ても亦た善巧を得。善巧に由るが故に能く有情の爲に有字法を說き無字法を說き、無字法の爲に有字法を說く。所以は何ん、善現、字無字を離るるは佛法に異る無く、一切字に過ぐるを眞佛法と名づくればなり。何を以ての故に、善現、一切法一切有情は皆畢竟空無際空なるを以ての故なりと。

[二七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法一切有情皆畢竟空無際空なるが故に諸字を超えなば則ち一切法一切有情の自性畢竟皆得可からず、(a)云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行するや。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)四念住乃至八聖道支。

【二六】字法を說く。

【二七】法空にして諸法を行ずるを明す。

(a)「云何菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多修行靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右の文中般若乃至布施波羅蜜多」の六度のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「修行」の代りに「安住」の語を以てするものとす。

照らして遍滿せざる無し。若し作意する時は卽ち能く普ねく無量無邊無數の世界を照らしたまふ。然かも爲に諸の有情を憐愍するが故に光を攝して常に面を照らしたまふこと各一尋なり。若し身光を縱(ほしいまゝ)にせば卽ち日月等の所有る光明も皆常に現ぜず、諸の有情類は便ち晝夜半月月時歲數を知ること能はず、作す所の事業成ずるを得ざること有り。佛の聲は任運に能く三千大千世界に遍ず。若し作意する時は卽ち能く無量無邊無數の世界に遍滿す。然かも諸の有情を利樂せんが爲の故に聲は衆の量に隨ひて減ぜず增さず。善現、是の如き功德勝利は我れ先に菩薩位にて般若波羅蜜多を修行せし時已に能く成辦せしが故に相好をして圓滿莊嚴ならしめ、一切有情の見る者歡喜して皆殊勝の利益安樂を獲。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く財法二種の布施を以て諸の有情を攝す。是れを甚奇希有の法と爲す。

〔二五〕善現、云何が菩薩摩訶薩は能く愛語を以て諸の有情を攝する。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時柔軟の音を以て有情類の爲に先に布施波羅蜜多を說き方便して攝受し、次に淨戒波羅蜜多を說き方便して攝受し、次に安忍波羅蜜多を說き方便して攝受し、次に精進波羅蜜多を說き方便して攝受し、次に靜慮波羅蜜多を說き方便して攝受し、後に般若波羅蜜多を說き方便して攝受す。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時柔軟の音を以て多く此の六波羅蜜多を說いて有情類を攝す。何を以ての故に、此の六種波羅蜜多は普ねく能く諸の善法を攝受するに由るが故なり。善現、云何が菩薩摩訶薩は能く利行を以て諸の有情類を攝する。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時長夜の中に於て種種に方便して諸の有情に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び餘の種種の殊勝の善法を精勤して修習するを勸め常に懈廢すること無し。善現、云何が菩薩摩訶薩は能く同事を以て諸の有情類を攝する。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時勝神通及び大願力を以て現に地獄傍生鬼界人天等の中に處して彼の事業に同じ、方便して攝受し殊勝の利益安樂を獲

【二五】四攝法の愛語利行同事の三を略說して四法を結ぶ。

是れ五十七。世尊の顏貌は舒泰にして光顯し【二一】念笑して先に言ひ【二二】唯だ向ふのみにして背かず、是れ五十八。世尊の面貌は光澤熙怡ありて顰蹙青赤等の過を遠離す、是れ五十九。世尊の身皮は清淨無垢にして常に臭穢無し、是れ第六十。世尊の所有る諸の毛孔の中よりは常に如意微妙の香を出す、是れ六十一。世尊の面門は常に最上殊勝の香を出す、是れ六十二。世尊の首相は周圓妙好にして【二三】末達那の如く亦た猶ほ天蓋のごとし、是れ六十三。世尊の身毛は紺青の光淨きこと孔雀の項の如く、紅暉綺飾の色赤銅に類す、是れ六十四。世尊の法音は衆の大小に隨ひて增さず減ぜず理に應じて差ふ無し、是れ六十五。世尊の頂相は能く見る者無し、是れ六十六。世尊の手足の指約して分明に莊嚴妙好なること赤銅色の如し、是れ六十七。世尊の行きたまふ時其の足地を去ること四指量にして印文を現ず、是れ六十八。世尊は自ら持して他の衞りを待ちたまはず身傾動すること無く亦た透迤せず、是れ六十九。世尊の威德は遠く一切に震ひ惡心も見て喜び恐怖も見て安んず、是れ第七十。世尊の音聲は高からず下くからず衆生の意に隨ひて和悅して與に言りたまふ、是れ七十一。世尊は能く諸の有情類の言音意樂に隨て爲に法を說きたまふ、是れ七十二。世尊は一音もて正法を演說し有情類に隨て各得解せしめたまふ。是れ七十三。世尊は法を說きたまふには咸次第に依り必ず因緣有りて善からざる無しと言ふ、是れ七十四。世尊は諸の有情類を業觀し善を讚め惡を毀りたまふも而かも愛憎無し、是れ七十五。世尊の爲したまふ所は先に觀じ後に作し軌範具足して善淨を識らしめたまふ、是れ七十六。世尊の相好は一切の有情の能く觀じ盡くす無し、是れ七十七。世尊の頂骨は堅實圓滿なり、是れ七十八。世尊の顏容は常に少くして老いず好く舊處に巡る。是れ七十九。世尊の手足及び胸臆の前倶に【二四】吉祥の喜旋德相有り文は綺畫に同じ色は朱丹に類す、是れ第八十なり。善現、是れを八十隨好と名づく。

善現、如來應正等覺は是の如き諸の相好を成就したまふが故に身の光任運に能く三千大千世界を

【二一】念笑等。先づ和顏愛語の出づるを云ふ。
【二二】唯だ向ふ等。八方眞向きなり。
【二三】末達那(Madana)。果の名、醉果と譯す之を食すれば人をして醉はしむといふ。
【二四】吉祥等。卍字相なり。

足下安平なり、是れ二十六。世尊の手文は深長明直潤澤にして斷えず、是れ二十七世尊の脣色は光潤丹暉にして[一九]頻婆果の如く上下相稱ふ、是れ二十八。世尊の面門は長からず短かからず大ならず小ならず量の如くにして端嚴なり、是れ二十九。世尊の舌相は軟薄廣長にして赤銅色の如し、是れ第三十。世尊の發聲したまふに威深遠に震ふこと象王の吼ゆるが如く明朗淸徹す、是れ三十一。世尊の音韻の美妙具足せること深谷の響の如し、是れ三十二。世尊の鼻は高脩にして且つ直く其の孔現れず、是れ三十三。世尊の諸齒は方整鮮白なり、是れ三十四。世尊の諸牙は圓白光潔にして漸次鋒利なり、是れ三十五。世尊の眼は淨く青白分明なり、是れ三十六。世尊の眼相の脩高なること譬へば青蓮華葉の甚だ愛樂す可きが如し。是れ三十七。世尊の眼睫は上下齊整し稠密にして白からず、是れ三十八。世尊の雙眉は長くして白からず緻にして細軟なり、是れ三十九。世尊の雙眉は綺靡して順次紺瑠璃色なり、是れ第四十。世尊の雙眉は高顯し光潤ありて形初月の如し、是れ四十一。世尊の耳は厚く廣大脩長にして輪埵成就す、是れ四十二。世尊の兩耳は綺麗齊平にして衆の過失を離る、是れ四十三。世尊の容儀は能く見る者をして損する無く染する無く皆愛敬を生ぜしむ、是れ四十四。世尊の額は廣く圓滿平正にして形相殊妙なり、是れ四十五。世尊の身分の上半圓滿せること師子王の威嚴對無きが如し、是れ四十六。世尊の首髮は脩長紺青稠密にして白からず、是れ四十七。世尊の首髮は香潔細軟潤澤ありて旋轉す、是れ四十八。世尊の首髮は齊整して亂るる無く亦た交雜せず、是れ四十九。世尊の首髮は堅固にして斷ぜず永く褫落無し、是れ第五十。世尊の首髮は光滑殊妙にして塵垢著かず、是れ五十一。世尊の身分は堅固充實せること[二〇]那羅延に逾ゆ、是れ五十二。世尊の身體は長大端直なり、是れ五十三。世尊の諸竅は淸淨にして圓好なり、是れ五十四。世尊の身支の勢力は殊勝にして與に等しき者無し、是れ五十五。世尊の身相は衆の觀るを樂ふ所にして嘗て厭足すること無し、是れ五十六。世尊の面輪は脩廣にして所を得皎潔光淨なること秋の滿月の如し、

【一九】頻婆果（Bimba）。頻婆樹の果實にして其色赤し。

【二〇】那羅延（Nārāyaṇa）天上の力士の名なり。

十二大士相と名づく。

〔一六〕善現、云何が如來應正等覺の八十隨好なる。善現、世尊の指爪の狹長にして薄く潤ひ光潔鮮淨なること花赤銅の如し、是れを第一と爲す。世尊の手足の指は圓く纖長傭直柔軟にして節骨現れず、是れを第二と爲す。世尊の手足は各等しくして差無く諸の指間に於て悉く皆充密す、是れを第三と爲す。世尊の手足は圓滿にして意の如く軟く淨き光澤色蓮華の如し、是れを第四と爲す。世尊の筋脈盤結堅固にして深く隱れて現れず、是れを第五と爲す。世尊の兩踝は倶に隱れて現れず、是れを第六と爲す。世尊の行步は直進し庠審なること龍象王の如し、是れを第七と爲す。世尊の行步威容の齊肅なること師子王の如し、是れを第八と爲す。世尊の行步安平庠序として過ぎず減ぜざること猶ほ牛王の如し、是れを第九と爲す。世尊の行步進止の儀、雅なること猶ほ鵝王の如し、是れを第十と爲す。世尊は迴顧したまふには必ず皆右旋すること龍象王の身を擧げて隨轉するが如し、是れ第十一。世尊の支節は漸次傭圓して妙善安布す、是れ第十二。世尊の骨節は交結し隙無きこと猶ほ龍盤の若し、是れ第十三。世尊の膝輪は妙善安布し堅固圓滿なり、是れ第十四。世尊の隱處其の文妙好にして威勢具足し圓滿淸淨なり、是れ第十五。世尊の身支は潤滑柔軟に光悅鮮淨にして塵垢著かず、是れ第十六。世尊の身容は敦肅にして畏れ無く常に怯弱ならず。是れ第十七。世尊の身支は堅固稠密にして善相屬著す。是れ第十八。世尊の身支は安定敦重にして曾て掉動せず、圓滿にして無壞なり是れ第十九。世尊の身相は猶ほ仙王の如く周匝端嚴なり光淨くして翳を離るゝ是れ第二十。世尊の身には周匝せる圓光有り行等の時に於て恒に自ら照曜す、是れ二十一。世尊の腹形は方正にして缺くる無く柔軟にして現れず衆相もて莊嚴す、是れ二十二。世尊の臍は深くして右旋し圓妙淸淨の光澤あり、是れ二十三。世尊の臍は厚くして〔一七〕窊ならず凸ならず周匝妙好なり、是れ二十四。世尊の皮膚は〔一八〕疥癬を遠離し亦た黶點疣贅等の過無し、是れ二十五。世尊の手掌は充滿し柔軟にして

〔一六〕二に八十隨好を明す。八十隨好とは三十二相に附屬し細觀して八十種となせるもの、隨好とは三十二の形相に隨ふ好の意なり。

〔一七〕窊ならず等。窪まず出入なき好相を云ふ。

〔一八〕疥癬等。皮膚病のこせ、かさなく、くぼ、あといば、こぶなどなきなり。

尊の雙臂傭直膸圓にして象王の鼻の如く平立して膝を摩す。是れを第九と爲す。世尊の陰相勢峯藏密にして其れは猶ほ龍馬の如く亦た象王の如し、是れを第十と爲す。世尊の毛孔は各一毛生じ、柔潤紺靑にして右旋宛轉す、是れ第十一。世尊の髮毛の端は皆上靡右旋し宛轉柔潤紺靑にして嚴金色身甚だ愛樂す可し。是れ第十二。世尊の身皮は細かく薄く潤ひ滑かにして塵垢水等の皆住まらざる所なり、是れ第十三。世尊の身皮は皆眞金色にして光潔晃曜せること妙金臺の衆寶もて莊嚴せるが如く衆の見んと樂ふ所なり、是れ第十四。世尊の兩足二手の掌中頸及び雙肩の七處は充滿せり。是れ第十五。世尊の肩項は圓滿殊妙なり、是れ第十六。世尊の髆腋は皆充實せり、是れ第十七。世尊の容儀は圓滿端直なり、是れ第十八。世尊の身相は脩廣端嚴なり、是れ第十九。世尊の體相は縱廣の量等しく周匝圓滿にして[一三]諾瞿陀の如し、是れ第二十。世尊の頷臆幷に身の上半は威容廣大にして師子王の如し。是れ二十一。世尊は常に光面各一尋なり、是れ二十二。世尊の齒相は四十齊平淨密にして根深く白きこと珂雪に逾ゆ、是れ二十三。世尊の四牙は鮮白鋒利なり、是れ二十四。世尊は常に味中の上味を得。喉脈直きが故に能く身中の諸支節の脈を引き風熱痰病も爲に雜ふること能はず。彼の脈を雜へず沈浮延縮壞損癰曲等の過を離れ能く正しく呑咽し津液流出するに由るが故に身心適悅して常に上味を得、是れ二十五。世尊の舌根は薄淨廣長にして能く面輪を覆ひて耳髮の際に至る、是れ二十六。世尊の梵音は詞韻弘雅にして衆の多少に隨ひて等しく聞えざる無く、其の聲洪震すること猶ほ天鼓の如く發言婉約にして[一四]頻迦の音の如し、是れ二十七。世尊の眼睫は猶ほ牛王の若く紺靑齊整にして相雜亂せず、是れ二十八。世尊の眼睛は紺靑鮮白にして紅環間飾せること皎潔分明なり、是れ二十九。世尊の面輪其れは猶ほ滿月のごとく眉相皎淨にして天帝弓の如し、是れ第三十。世尊の眉間に白毫相有り右旋し柔軟なること覩羅綿の如く、鮮白光淨にして珂雪等に逾ゆ、是れ三十一。世尊の頂上の[一五]烏瑟膩沙高顯周圓なること猶ほ天蓋の如し、是れ三十二なり。善現、是れを三

【一三】諾瞿陀（Nyagrodha）。樹名、榕樹なり。

【一四】頻迦。鳥の名、迦羅頻迦（Kalavinka）の略、好聲、和雅などと譯す。

【一五】烏瑟膩沙（Uṣṇīṣa）。佛頂、肉髻等と譯す。

覺は種種想無し、是れを第五佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は擇捨せざる無し、是れを第六佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は志欲無退なり、是れを第七佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は精進無退なり、是れを第八佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は憶念無退なり、是れを第九不共法と爲す。一切の如來應正等覺は般若無退なり、是れを第十佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は解脫無退なり、是れを第十一佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は解脫智見無退なり、是れを第十二佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺の若しは智若しは見は過去世に於て無著無礙なり、是れを第十三佛の不共法と爲す。一切の如來應正等覺の若しは智若しは見は現在世に於て無著無礙なり、是れを第十四佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺若しは智若しは見は未來世に於て無著無礙なり。是れを第十五佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺一切の身業は智前導を爲し智に隨て轉ず、是れを第十六佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺の一切の語業は智前導を爲し智に隨て轉ず、是れを第十七佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺の一切の意業は智前導を爲し智に隨て轉ず、是れを第十八佛不共法と爲す。善現、是れを十八佛不共法と名づく。

[九]善現、云何が如來應正等覺の三十二大士相なる。善現、世尊の足下に平滿相有りて妙善安住すること猶ほ[一〇]奩底の如く、地高下すと雖も足の踏む所に隨ひて皆悉く坦然として業觸せざる無し、是れを第一と爲す。世尊の足下は千輻輪文輞轂の衆相圓滿せざる無し、是れを第二と爲す。世尊の手足は皆悉く柔軟にして[一一]覩羅綿の如く一切に勝過す、是れを第三と爲す。世尊の手足の一一の指間は猶ほ鴈王の如く咸く輓網有りて金色交絡の文綺畫に同ず、是れを第四と爲す。世尊の手足の所有る諸指は圓滿纖長にして甚だ愛樂す可し。是れを第五と爲す。世尊の足跟は廣長圓滿にして、趺と相稱ひ餘の有情に勝る。是れを第六と爲す。世尊の足趺は脩高充滿し柔軟妙好にして跟と相稱ふ。是れを第七と爲す。世尊の雙腨は漸次纖圓して[一二]瑿泥邪仙鹿王の腨の如し、是れを第八と爲す。世

【九】次に生身の相好の勝徳を說く。一に三十二相を明す。
【一〇】奩底。箱の底なり。
【一一】覩羅綿。柳絮の如きもの。
【一二】瑿泥邪仙鹿王瑿泥邪は鹿の梵名、鹿と云ふに同じ。

如來應正等覺は、自ら我れ諸の弟子衆の爲に、能障の法染せば必ず障と爲ると說くと稱す。設ひ沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間有りて法に依りて難を立て、或は此の法に染する有らんも障と爲る能はずと憶念せしむるも、我れ彼の難に於て正しく緣無きを見る。彼の難に於て正しく緣無きを見るを以て安隱住を得て怖無く畏無く自ら我れ大仙尊位に處すと稱し、大衆の中に於て正しく師子吼して大梵輪を轉ず。一切の沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間には決定して能く法の如く轉ずる者無し。是れを第三と爲す。[五]一切の如來應正等覺は自ら我れ諸の弟子衆の爲に出離道を說く、諸聖修習せば決定して出離し決定して通達し正しく衆苦を盡くし苦邊際を作すと稱す。設ひ沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間有りて法に依りて難を立て、或は此の道を修すること有るも正しく出離するに非ず正しく通達するに非ず正しく苦を盡くすに非ず苦邊際を作すに非ずと憶念せしむるも、我れ彼の難に於て正しく緣無きを見る。彼の難に於て正しく緣無きを見るを以て安隱住を得て怖無く畏無く自ら大仙尊位に處すと稱して大衆の中に於て正しく師子吼して大梵輪を轉ず。一切の沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間には決定して能く法の如く轉ずる者無し。是れを第四と爲す。善現。是れを四無所畏と名づく。

[六]善現、云何が名づけて四無礙解と爲す。善現、義無礙解、法無礙解、詞無礙解、辯無礙解なり。善現、是れを四無礙解と名づく。善現、云何が義無礙解なる。謂ゆる[七]義に緣る無礙智なり。善現、云何が法無礙解なる。謂ゆる法に緣る無礙智なり。善現、云何が詞無礙解なる。謂ゆる詞に緣る無礙智なり。云何が辯無礙解なる。謂ゆる辯に緣る無礙智なり。[八]善現、云何が名づけて十八佛不共法と爲す。善現、一切の如來應正等覺は終に誤失無し是れを第一佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は卒暴の音無し、是れを第二佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は忘失の念無し、是れを第三佛不共法と爲す。一切の如來應正等覺は不定心無し、是れを第四佛不共法と爲す。一切の如來應正等

【五】說出道無所畏。

【六】三に四無礙解を明す。四無礙解とは菩薩說法に於ける無礙自在なる四智なり。

【七】義に緣る。意義、性相、因故に關することなり。

【八】四に十八佛不共法を明す。十八佛不共法とは他の二乘菩薩に共同せざる佛のみの有する十八種の功德法なり。小乘に十八不共を十力四無礙三念位等を擧ぐるに同じからず。

胝生或は百倶胝生或は千倶胝生或は百千倶胝那庾多生、或は一劫或は百劫或は千劫或は百千劫、或は一倶胝劫或は百倶胝劫或は千倶胝劫或は百千倶胝那庾多劫乃至前際の所有る諸行諸說諸相に於て皆如實に知る、是れを第九と爲す。一切の如來應正等覺は諸の漏盡[六一]無漏心解脫無漏慧解脫に於て皆如實に知り、自ら漏盡きて眞解脫法に於て身證し通慧具足して住し[六二]如實に覺受し、我が生已に盡き梵行已に立ち所作已に辦じ[六三]後有を受けず、是れを第十と爲す。善現、是れを如來の十力と名づく。

卷の第三百八十一

初分諸功德相品第六十八之三

[一]善現、云何が名づけて四無所畏と爲す。善現、[二]一切の如來應正等覺は自ら我れは是れ正等覺者なりと稱す、設ひ沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間有りて法に依りて難を立て、或は佛は是の法に於て正等覺せるに非ずと憶念せしむるも、我れ彼の難に於て正しく緣無きを見る。彼の難に於て正しく緣無きを見るを以て安隱住を得て怖無く畏無く、自ら我れ大仙尊位に處せりと稱し大衆の中に於て正しく師子吼して大梵輪を轉ず。一切の沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間には決定して能く法の如く轉ずる者無し。是れを第一と爲す。[三]一切の如來應正等覺は自ら我れ已に永く諸漏を盡くせりと稱す。設ひ沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間有りて法に依りて難を立て、或は佛は是の漏に於て未だ永く盡くすを得ずと憶念せしむるも、我れ彼の難に於て正しく緣無きを見る。彼の難に於て正しく緣無きを見るを以て安隱住を得て怖無く畏無く自ら我れ大仙尊位に處せりと稱し大衆の中に於て正しく師子吼して大梵輪を轉ず。一切の沙門若しは婆羅門若しは天魔梵若しは餘の世間には決定して能く法の如く轉ずる者無し。是れを第二と爲す。[四]一切の

【六一】漏盡。三乘の極果に至り聖智を以て煩惱を斷盡するを云ふ。
【六二】如實に覺受等。實相に眞生して今に三世一切を充實するなり、過去盡き未來なしとする斷滅の觀方は當らず。
【六三】後有。未來の果報なり。
【一】二に四無所畏を明す。四無所畏とは佛、說法に當つて何ら畏れを感ぜざる四種の智德なり。菩薩にも此四無所畏あり。
【二】正等覺無所畏。
【三】漏永盡無所畏。
【四】說法障無所畏。

力、智波羅蜜多なり。善現、是れを波羅蜜多と名づく。[五四]善現、云何が名づけて諸空等の智と爲す。善現、內空智(七)乃至無性自性空智、若しは眞如智(七)乃至不思議界智なり。善現、是れを諸空等の智と名づく。[五五]善現、云何が名づけて菩薩の十地と爲す。善現、極喜地(八)乃至法雲地なり。善現、是れを菩薩の十地と名づく。[五六]善現、云何が五眼と名づくる。善現、肉眼天眼聖慧眼法眼佛眼なり。善現、是れを五眼と名づく。[五七]善現、云何が六神通と名づくる。善現、神境智證通、天眼智證通、天耳智證通、他心智證通、宿住隨念智證通、漏盡智證通なり。善現、是れを六神通と名づく。

[五八]善現、云何が名づけて如來の十力と爲す。善現、一切の如來應正等覺は[五九]是處は如實に是處なりと知り、非處は如實に非處なりと知る。是れを第一と爲す。一切の如來應正等覺は[六〇]諸の有情の過去未來現在の諸業及び諸法受處因異熟に於て皆如實に知る、是れを第二と爲す。一切の如來應正等覺は諸の世間の一に非ざる界種種界に於て皆如實に知る是れを第三と爲す。一切の如來應正等覺は諸の世間の一に非ざる勝解種種勝解に於て皆如實に知る、是れを第四と爲す。一切の如來應正等覺は諸の有情補特伽羅の諸根の勝劣に於て皆如實に知る、是れを第五と爲す。一切の如來應正等覺は一切の遍趣行に於て皆如實に知る是れを第六と爲す。一切の如來應正等覺は諸の根力覺支道支靜慮解脫等持等至雜染清淨に於て皆如實に知る、是れを第七と爲す。一切の如來應正等覺は淨天眼の人に超過せるを以て諸の有情の死時生時に諸の善惡の事により、是の如き有情は身語意三種の惡行に因り、諸の邪見に因り、賢聖を謗るに因りて諸の惡趣に墮し、是の如き有情は身語意三種の妙行に因り、諸の正見に因り、賢聖を讃するに因りて諸の善趣に昇りて諸天の中に生ずるを見、復た天眼の清淨にして人に過ぐるを以て諸の有情の死時生時に好色惡道により此より復た善趣惡趣に生ずるを見、諸の有情に於て業の勢力に隨て善惡趣に生ずるを皆如實に知る。是れを第八と爲す。一切の如來應正等覺は諸の有情の過去無量の諸の宿住事、或は一生或は百生或は千生或は百千生、或は一倶

【五四】次に諸空等の智を明す。
【五五】次に菩薩の十地を明す。
【五六】次に五眼を明す。
【五七】次に六神通を明す。
【五八】次に佛力に就て說く。一に佛の十力を明す。
【五九】十力の第一、總力にして當否を知り適材適處ならしむ、正法律の根據なり。
【六〇】道德意志の世界に於て業因果一切を正しく知る力なり。

是れを第一解脫と爲す。內色想無く外諸色を觀る、是れを第二解脫と爲す。[五〇]淨勝解身もて證を作す、是れを第三解脫と爲す。一切の色想を超え有對想を滅し、種種想を思惟せず、無邊空空無邊處定に入り具足して住する、是れを第四解脫と爲す。一切の空無邊處を超え無邊識識無邊處定に入り具足して住する、是れを第五解脫と爲す。一切の識無邊處を超え無少所有無所有處定に入り具足して住する是れを第六解脫と爲す。一切の無所有處を超え非想非非想處定に入り具足して住する、是れを第七解脫と爲す。一切の非想非非想處を超え想受滅定に入り具足して住する、是れを第八解脫と爲す。善現、是れを八解脫と名づく。[五一]善現、云何が名づけて九次第定と爲す。善現、謂ゆる一類有り、欲惡不善法を離れ有尋有伺にして離に生ずる喜樂に初靜慮具足して住する、是れを第一と爲す。復た一類有り。尋伺寂靜に內等淨心一趣性、無尋無伺にして定に生ずる喜樂に第二靜慮具足して住する、是れを第二と爲す。復た一類有り、喜を離れ捨に住し正念正知にして身樂を受け唯だ諸の聖者のみ能く說く捨に應じて念樂住を具し第三靜慮に具足して住する、是れを第三と爲す。復た一類有り、樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し不苦不樂捨念淸淨にして第四靜慮に具足して住する、是れを第四と爲す。復た一類有り、一切の色想を超え有對の想を滅し種種想を思惟せず無邊空なる空無邊處定に入り具足して住する、是れを第五と爲す。復た一類有り、一切の空無邊處を超え無邊識なる識無邊處定に入り具足して住する、是れを第六と爲す。復た一類有り、一切の識無邊處を超え少しの所有無き無所有處定に入り具足して住する、是れを第七と爲す。復た一類有り、一切の無所有處を超え非想非非想處定に入り具足して住する、是れを第八と爲す。復た一類有り、一切の非想非非想處を超え想受滅定に入り具足して住する、是れを第九と爲す。善現、是れを九次第定と名づく。[五二]善現、云何が名づけて四聖諦智と爲す。善現、苦智集智滅智道智なり。善現、是れを四聖諦智と名づく。

[五三]善現、云何が名づけて波羅蜜多と爲す。善現、布施、淨戒、安忍、精進、靜慮、般若、方便善巧、妙願、

【五〇】淨勝解身作證。物を超越せる心地を體證する、外相に拘らざるなり。

【五一】三に九次第定を明す。九次第定とは四禪、四無色、滅受想定の九種の禪定を他心を雜へず次第に一定より一定に入る法なり。

【五二】次に四聖諦智を明す。

【五三】次に波羅蜜多を明す。

策心持心を起す、是れを第一と爲す。已に生ぜし惡不善法をして斷ぜしめんが爲の故に發勤精進せんと欲して策心持心を起す、是れを第二と爲す。未だ生ぜざる善法をして生ぜしめんが爲の故に發勤精進せんと欲して策心持心を起す、是れを第三と爲す。已に生ぜし善法をして堅く住して修滿し倍增するを忘れず廣大智もて證を作さしめんが爲の故に發勤精進せんと欲して策心持心を起す、是れを第四と爲す。善現、是れを四正勤と名づく。[四〇]善現、云何が四神足と名づくる。善現、欲三摩地もて斷行成就し神足を修習し、[四一]依止厭ひ依止離れ依止滅して捨に廻向する、是れを第一と爲す。勤三摩地もて斷行成就し神足を修習し、依止厭じ依止離れ依止滅して捨に廻向する、是れを第二と爲す。心三摩地もて斷行成就し神足を修習し、依止厭じ依止離れ依止滅して捨に廻向する、是れを第三と爲す。觀三摩地もて斷行成就し神足を修習し、依止厭じ依止離れ依止滅して捨に廻向する、是れを第四と爲す。善現、是れを四神足と名づく。[四二]善現、云何が五根と名づくる。善現、信根精進根念根定根慧根なり。善現、是れを五根と名づく。[四三]善現、云何が五力と名づくる。善現、信力精進力念力定力慧力なり。善現、是れを五力と名づく。[四四]善現、云何が七等覺支と名づくる。善現、念等覺支擇法等覺支精進等覺支喜等覺支輕安等覺支定等覺支捨等覺支なり。善現、是れを七等覺支と名づく。

[四五]善現、云何が八聖道支と名づくる。善現、正見正思惟正語正業正命正精進正念正定なり。善現、是れを八聖道支と名づく。[四六]善現、云何が三解脫門と名づくる。善現、空解脫門無相解脫門無願解脫門なり。善現、是れを三解脫門と名づく。善現、云何が空解脫門と名づくる。善現、若し[四七]空行相無我行相虛僞行相無自性行相もて心一境なる性、善現、是れを空解脫門と名づく。善現、云何が無相解脫門と名くる。善現、若し滅行相寂靜行相遠離行相もて心一境なる。善現、是れを無相解脫門と名づく。善現、云何が無願解脫門と名づくる。善現、若し苦行相無常行相顚倒行相もて心一境なる性、善現、是れを無願解脫門と名づく。[四八]善現、云何が八解脫と名づくる。善現、[四九]色有り諸色を觀る、

【四〇】三に四神足に就て明す。欲、勤、心、觀なり。

【四一】依止厭ひ等、所依に繫縛されず厭離止滅するなり。

【四二】四に五根に就て明す。信の決定する忍淨が進み、相續し統一し、開發する五相を云ふ。

【四三】五に五力。五根增上する相なり。

【四四】六に七等覺支。

【四五】七に八聖道支。

【四六】次に解脫門に就て說く。一に三解脫門を明す。

【四七】空、無我、虛僞、無自性にて心一境なるを空解脫と云ふ。

【四八】二に八解脫を明す。八解脫とは三界の煩惱に違背し之を捨離して其繫縛を解脫する八種の禪定。

【四九】有色觀諸色。外物ありとして色差別を觀る最も低き常識の相初禪の基調なり。

後に世間の善法を遠離して出世無漏の聖法に安住せしめ乃至一切智智を得しむ。[三六]善現、何等をか名づけて出世の聖法と爲す。諸の菩薩摩訶薩の諸の有情の爲に宣說開示分別顯了するを說いて法施と名づく。善現、一切の異生の善法と共ならず若し正しく修習せば諸の有情をして世間に超出して安隱に而かも住せしむ。故に出世と名づく。謂ゆる四念住乃至八聖道支、三解脫門、八解脫、九次第定、四聖諦智、波羅蜜多諸空等の智、菩薩の十地、五眼六神通、如來の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法大慈大悲大喜大捨、三十二大士相八十隨好、一切陀羅尼門一切三摩地門、諸の是の如き等の無漏の善法一切皆出世の聖法と名づく。[三七]善現、云何が四念住と名づくる、善現、謂ゆる[三八]內身に於て循身觀に住し、外身に於て循身觀に住し、內外身に於て循身觀に住し、正勤正知正念を具足して世の貪憂を除き、身集觀に住し、身滅觀に住す。彼れ身に於て循身觀に住し身集觀に住し身滅觀に住するに由りて依止する所無く諸の世間に於て執受する所無し。是れを第一と爲す。內受に於て循受觀に住し、外受に於て循受觀に住し、內外受に於て循受觀に住し、正勤正知正念を具足して世の貪憂を除き受集觀に住し受滅觀に住す。彼れ受に於て循受觀に住し受集觀に住し受滅觀に住するに由りて依止する所無く、諸の世間に於て執受する所無し。是れを第二と爲す。內心に於て循心觀に住し、外心に於て循心觀に住し、內外心に於て循心觀に住し、正勤正知正念を具足して世の貪憂を除き心集觀に住し心滅觀に住す。彼れ心に於て循心觀に住し心集觀に住し心滅觀に住するに由りて依止する所無く諸の世間に於て執受する所無し。是れを第三と爲す。內法に於て循法觀に住し、外法に於て循法觀に住し、內外法に於て循法觀に住し、正勤正知正念を具足して世の貪憂を除き法集觀に住し法滅觀に住す。彼れ法に於て循法觀に住し法集觀に住し法滅觀に住するに由りて依止する所無く諸の世間に於て執受する所無し。是れを第四と爲す。善現、是れを四念住と名づく。[三九]善現、云何が四正斷と名づくる。善現、未だ生ぜざる惡不善法をして生ぜざらしめんが爲の故に發勤精進せんと欲して

【三六】次に出世間法施に就て說く。

【三七】最初に三十七道品に就て明す。一に四念住に就て明す。

【三八】內身に於て等。身の現相より四諦觀を行ふなり。

【三九】二に四正斷に就て明す。

五眼六神通、如來の十力乃至十八佛不共法、無忘失法、恒住捨性、一切智乃至一切相智等の諸の無漏法なり。善現、聖法の果とは謂ゆる預流果一來果不還果阿羅漢果獨覺菩提諸佛の無上正等菩提なり。復た次に善現、菩薩摩訶薩の聖法とは謂ゆる預流果智乃至阿羅漢果智、獨覺菩提智、諸佛の無上正等菩提智、四念住智乃至八聖道支智、空解脫門智乃至無願解脫門智、四靜慮智乃至四無色定智、八解脫智乃至十遍處智、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多智、一切陀羅尼門智一切三摩地門智、苦聖諦智乃至道聖諦智、內空智乃至無性自性空智、眞如智乃至不思議界智菩薩の十地智、五眼六神通智、如來十力智乃至十八佛不共法智、無忘失法智恒住捨性智、一切智智乃至一切相智智、及び餘の一切世間出世間法智、有漏無漏法智、有爲無爲法智、是れを聖法と名づく。聖法の果とは謂ゆる永く一切の煩惱の習氣相續を斷ずるなり、是れを聖法の果と名づくと。[三五]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩も亦た能く一切相智を得る耶と。佛言はく、是の如し是の如し、菩薩摩訶薩も亦た能く一切相智を得と。善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩も亦た能く一切相智を得ば諸の如來應正等覺と何の差別有るやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は名づけて隨得一切相智と爲し、一切の如來應正等覺は名づけて已得一切相智と爲す、所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩心と諸の如來應正等覺とは條然たる異り有るに非ざればなり。謂ゆる諸の菩薩摩訶薩衆と諸の如來應正等覺と俱に諸法無差別性に住して諸の法相に於て正遍知を求め菩薩摩訶薩衆の爲に若し究竟に至るを說かば卽ち如來應正等覺と名づく。一切法の自相共相に於て照了して闇無く淸淨具足す。因位に住する時は名づけて菩薩摩訶薩衆と爲し、若し果位に至れば卽ち如來應正等覺と名づく。是の故に菩薩摩訶薩と諸の如來應正等覺とは俱に一切相智を得と名づくと雖も而かも差別有り。善現。是れを菩薩摩訶薩の世間法施と名づく。諸の菩薩摩訶薩は是の如き世間法施に因依りて復た能く出世の法施を修行す。謂ゆる諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ方便善巧して先に有情に世間の善法を敎へ、

【三五】佛菩薩俱に一切相智を得と雖も自ら差別あるを說く。

に安住するを勸め、或は眞如に安住するを勸め或は法界乃至不思議界に安住するを勸め、或は一切陀羅尼門を修行するを勸め或は一切三摩地門を修行するを勸め、或は極喜地を修行するを勸め或は離苦地乃至法雲地を修行するを勸め、或は五眼を修行するを勸め或は六神通を修行するを勸め、或は如來の十力を修行するを勸め或は四無所畏四無礙解十八佛不共法を修行するを勸め、或は大慈を修行するを勸め或は大悲大喜大捨を修行するを勸め、或は無忘失法を修行するを勸め或は恒住捨性を修行するを修行するを勸め、或は一切智を修行するを勸め、或は道相智一切相智を修行するを勸め、或は三十二大士相を修行するを勸め或は八十隨好を修行するを勸め、或は預流果を修行するを勸め或は一來不還阿羅漢果獨覺菩提を修行するを勸め、或は一切の菩薩摩訶薩行を修行するを勸め或は諸佛の無上正等菩提を修行するを勸む。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ方便善巧して諸の有情に於て財施を行じ已て復た善く諸の有情類を安立して無上安隱の法の中に住せしめ乃至一切智智を得せしむ。善現、是れを菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多の所有る甚奇希有の法を行ずと爲す。

[三〇] 善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く法施を以て諸の有情を攝するや。善現、菩薩摩訶薩の法施に二種有り。何等をか二と爲す。一には世間法施、二には出世間法施なり。[三一] 善現、云何が名づけて菩薩摩訶薩の世間法施と爲す。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の有情の爲に世間諸法を宣說開示分別顯了す。謂ゆる[三二]不淨觀、若しは[三三]持息念、若しは四靜慮、若しは[三四]四梵住、若しは四無色定、若しは餘の世間異生と共なる法なり。是の如きを名づけて世間法施と爲す。善現、是の菩薩摩訶薩は世間法施を行じ已て種種に方便して有情を化導して聖法及び聖法の果に住せしむ。善現、云何が聖法及び聖法の果なる。善現、聖法とは謂ゆる四念住乃至八聖道支、空無相無願解脫門、布施乃至般若波羅蜜多、八解脫九次第定、陀羅尼門三摩地門、菩薩の十地、

【三〇】 次に法施に就て說く。
【三一】 二種法施の中、一に世間法施を明す。
【三二】 不淨觀。五停心觀の一、貪欲の心を治する爲に身の不淨の相を觀ずること。これに死想乃至分散想の九想あり。
【三三】 持息念。五停心觀の一、數息觀ともいふ。出入の呼吸を數へ念持して散亂心を停むること。
【三四】 四梵住。梵堂とも云ふ慈悲喜捨の四無量なり。

を以て諸の有情を攝す、何等をか二と爲す。一には財施、二には法施なり。[二三]善現、云何が菩薩摩訶薩は能く財施を以て諸の有情を攝するや。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く種種の金銀眞珠末尼珊瑚吠瑠璃寶[二四]頗胝迦寶[二五]珂貝璧玉帝青大青石藏杵藏紅蓮寶等の色の染す可きを生ずるを以て諸の有情に施し、或は種種の衣服飮食殿閣樓臺房舍臥具車乘香花燈明伎樂寶幢幡蓋及び瓔珞等を以て諸の有情に施し、或は妻妾男女僮僕及び侍衞者を以て諸の有情に施し、或は象馬牛羊驢等の諸の傍生類を以て諸の有情に施し、或は種種の財物庫藏城邑聚落及び王位等を以て諸の有情に施し、或は身分手足支節頭目髓腦を以て諸の有情に施す。是の菩薩摩訶薩は種種の物を以て[二六]四衢道に置き高臺の上に昇りて是の如き言を唱ふ、一切有情の須つ所有る者は恣意に來りて取り疑難を生ずること勿れ、己れの物を取るが如く異想を作すこと莫れと。是の菩薩摩訶薩は諸の有情の須つ所の物を施て已て復た佛法僧寶に歸依するを勸め、或は[二七]近事五戒を受持するを勸め、或は[二八]近住八戒を受持するを勸め、或は十善業道を受持するを勸め、或は初靜慮を修行するを勸め或は第二第三第四靜慮を修行するを勸め、或は慈無量を修行するを勸め或は悲喜捨無量を受持するを勸め、或は空無邊處定を修行するを勸め或は識無邊處無所有處非想非非想處定を修行するを勸め、或は佛隨念を修行するを勸め或は法隨念僧隨念戒隨念捨隨念天隨念を修行するを勸め、或は[二九]無常苦想苦無我想不淨想厭食想一切世間不可樂想死想斷想離滅想を修行するを勸め、或は四念住を修行するを勸め或は[三〇]四正斷乃至八聖道支を修行するを勸め、或は空三摩地を修行するを勸め或は無相無願三摩地を修行するを勸め、或は空解脫門を修行するを勸め、或は無相無願解脫門を修行するを勸め、或は八解脫を修行するを勸め、或は[三一]八勝處乃至十遍處を修行するを勸め、或は布施波羅蜜多を修行するを勸め、或は[三二]淨戒乃至般若方便善巧願力智波羅蜜多を修行するを勸め、或は苦聖諦に安住するを勸め、或は集滅道聖諦に安住するを勸め、或は內空に安住するを勸め或は[三三]外空乃至無性自性空

[二三] 二種布施中、先づ財施を明す。

[二四] 頗胝迦(Sphaṭika)。玻璃のこと。

[二五] 珂貝。螺屬なり。古は貨幣に用ひらる。

[二六] 四衢道等。四つ辻に臺上大言するは廣告法なり。

[二七] 近事五戒。近事とは在家の男女にして三寶に親近し奉事するもの。五戒は不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不飮酒なり。

[二八] 近住八戒。近住は近事に同じ。在家が出家と同じ生活により修養する場合なり八戒は五戒に不坐高廣大床戒、不著花鬘瓔珞戒、不習歌舞戯樂戒を加へしもの。

[二九] 無常苦想等。九想なり。

覺安樂に入らしむ。

[一七]復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は或は四大王衆天の爲に正法を宣說し、或は三十三天の爲に正法を宣說し、或は夜摩天の爲に正法を宣說し、或は覩史多天の爲に正法を宣說し、或は樂變化天の爲に正法を宣說し、或は他化自在天の爲に正法を宣說す。是の諸の天衆は菩薩の所に於て正法を聞き已つて漸く三乘に依りて正行を勤修し、應に隨つて三無餘依涅槃界に趣入すべし。善現、彼の天衆の中に諸の天子有りて天上[一八]五妙の欲樂及び居止する所の衆寶の宮殿に耽著す。是の菩薩摩訶薩火の起るを示現して其の宮殿を燒きて厭怖を生ぜしめ因みに爲に法を說きて是の言を作す、諸の天子、應に審に諸行の無常苦空非我にして保信す可からざるを觀察すべし、誰れか智者の斯れに於て樂著する有らんやと。時に諸の天子此の法音を聞き皆五欲に於て深く厭離を生じ、自ら身命の虛僞無常なるを觀ずること猶ほ芭蕉電光陽焰の如く諸の宮殿を觀ずること譬へば牢獄の如し。是の觀を作し已つて漸く三乘に依りて正行を勤修して滅度を取る。

[一九]復た次に善現、我れ無障淸淨の佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに、諸の菩薩摩訶薩は諸の[二〇]梵天の諸の見趣に著せるを見、方便化導して其れをして遠離せしめんと、告げて言はく、天仙、汝等云何が空無相虛妄不實の一切法の中に於て是の如き諸の惡見趣を發起するや。當に疾く之を捨てゝ正法を信受すべし、汝をして無上の[二一]甘露を獲得せしめんと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は大悲に安住して諸の有情の爲に正法を宣說す、善現、是れを菩薩摩訶薩の所有る甚奇希有の法と爲す。

[二二]復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は四攝事を以て諸の有情を攝す。何等をか四と爲す、一には布施、二には愛語、三には利行、四には同事なり。善現、云何が菩薩摩訶薩は能く布施を以て諸の有情を攝するや。善現、菩薩摩訶薩は二種の施

【一七】諸天を敎化法施を說く。一に欲界天に就て明す。

【一八】五妙の欲樂。色、聲、香味、觸の五境能く諸欲を惹起する故に五妙欲と云ふ。

【一九】二に色界天に就て明す。

【二〇】梵天の諸の見趣に著せるを見等。梵天は衆生の父、一切を造り、自ら常住なりとする見趣殊に强しといふ、婆羅門甘尊を梵天なり。

【二一】甘露。アミタは甘き甘露たると同時に無量壽の不滅を意味す。

【二二】四攝事別して布施を强說す。

深心に愛樂し愛樂せざるに非ず、深心に恭敬し恭敬せざるに非ず、是の菩薩摩訶薩は諸の如來應正等覺所說の正法に於て恭敬聽聞し受持讀誦し乃至無上正等菩提まで終に忘失せず、聞く所の法に隨て能く有情の爲に無倒に解說して殊勝の利益安樂を獲せしめ乃至無上正等菩提まで常に懈廢すること無し。

[一五]復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は傍生趣の中に諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に自ら身命を捨つ。是の菩薩摩訶薩は諸の傍生の饑火に逼られ相殘害せんと欲するを見て慈愍の心を起し、自ら身分を割き諸の支節を斷ち十方に散擲して恣に食噉せしむ。諸の傍生類の此の菩薩身の肉を得て食ふ者は皆菩薩に於て深く愛樂慚愧の心を起す。此の因緣に由りて傍生趣を脫して天上に生じ或は人中に生じて如來應正等覺に值遇することを得、正法を說くを聞きて理の如く修行し漸く三乘に依りて度脫することを得。謂ゆる證に隨て聲聞獨覺及び無上乘の三無餘依般涅槃界に入る。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は能く世間の爲に作し難き事を作し饒益する所多し、謂ゆる諸の有情を利樂せんが爲の故に自ら無上正等覺の心を發し亦た他をして發さしめ、生死を厭離して菩提心を求め、自ら種種如實の正行を行じ亦た他をして行ぜしめて漸く三乘般涅槃界に入る。

[一六]復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は餓鬼界中の諸の有情類を饒益せんと欲するが爲に故を以て思願して彼の界中に往き方便して饑渴等の苦を息除す。彼の諸の餓鬼、衆苦旣に息まば此の菩薩に於て深く愛敬慚愧の心を起す。此の善根に乘じて餓鬼趣を脫して天上に生じ或は人中に生じて常に如來應正等覺に遇ひたてまつることを得て恭敬供養し正法音を聞き漸次に三乘の正行を修行し乃至三無餘依般涅槃界に入ることを得。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は有情類に於て大悲に安住して無邊の方便善巧を發起し拔濟して三乘涅槃の畢

【一五】二に傍生に就て明す。

【一六】三に餓鬼に就て明す。

を作し已つて歡喜踊躍して自ら支節を解きて之を授與し、復た自ら慶びて言はく、今大利を獲たりと。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に是の如く學すべし。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩乞者有るを見て便ち是の念を作さん、今此の中に於て誰れか施し誰れか受け、施す所何物ぞ、何に由りて而かも施し、何の爲に而かも施し、云何して施すや。諸法の自性は皆得可らず。所以は何ん、是の如き諸法は皆畢竟空なればなり。空に非ざる法の中には與有り奪有りと。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に是の如く學すべし。諸法は皆空なりと、謂ゆる或は內空に由るが故に空(わ)乃至或は無性自性空に由るが故に空なりと。是の菩薩摩訶薩は此の空の中に住して布施を行じ恒時無間に布施波羅蜜多を圓滿す。布施波羅蜜多圓滿するを得るに由るが故に他の爲に內外の物を割截する時其の心都て瞋恨分別無く、但だ是の念を作すのみ、有情及び法は一切皆空なり、誰れか我れを割截し、誰れか割截を受け、誰れか復た空を觀ずるあらんと。

〔二〕復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は諸の有情類を利樂せんと欲するが爲に、〔三〕故思願を以て大地獄に入り、入り已つて〔四〕三種示導を發起す。何等をか三と爲す、一には神通示導、二には記說示導、三には敎誡示導なり。是の菩薩摩訶薩は神通示導を以て地獄の湯火刀等の種種の苦具を滅除し、記說示導を以て彼の有情の心の所念を記して爲に法を說き、敎誡示導を以て彼れに於て大慈大悲大喜大捨を發起して爲に法を說き、彼の地獄の諸の有情類をして菩薩の所に於て淨信心を生ぜしむ。此の因緣に由りて地獄より出でて天上に生じ或は人中に生じ漸く三乘に依りて苦邊際を作すことを得るなり。

復た次に善現、我れ佛眼を以て遍ねく十方無量殑伽沙等の世界を觀るに諸の菩薩摩訶薩は諸佛世尊に承事供養せり。是の菩薩摩訶薩、佛世尊に承事供養する時深心に歡喜し、歡喜せざるに非ず、

(わ)「或由內空故空」の語を十八空につき繰返へすのみなる故「乃至」として略せり。

【二】以下三惡道の敎化法施を說く。一に地獄に就て明す。
【三】故思願を以て。特に思願しての意。
【四】三種示導。三示現、三種神變、三神足なども云ひ、佛が衆生敎化の爲に示現する微妙なる三作用卽ち神通、記說、敎誡に名づく、

欲にして足れるを喜び斷生命を離れ不與取を離れ、欲邪行を離れ虛誑語を離れ離間語を離れ麁惡語を離れ雜穢語を離れ亦た貪欲瞋恚邪見を離る。此の因緣に由りて刹帝利大族或は婆羅門大族或は長者大族或は居士大族に生じ或は餘の[八]隨一の富貴の處に生じ豐饒の財寶もて諸の善業を修し、或は此の施の攝益の因緣に由りて漸く三乘に依りて度脫することを得、謂ゆる聲聞獨覺及び無上乘の三無餘依般涅槃界に趣入せしむるなり。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩餘の怨敵或は諸の有情有りて其の所に來至し損害せんが爲の故に或は匱乏の故に求索する所有らんに是の菩薩摩訶薩は終に[九]分別異心を發起せず、此れは應に施與すべく此れは施すべからずと。但だ常に平等の心を發起し求索する所に隨ひて悉く皆施與するのみ。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は普ねく諸の有情を利樂せんが爲の故に無上正等菩提を求趣すればなり。若し當に分別異心を發起して、此れは應に施與すべく此れは施すべからずとせば便ち如來應正等覺及び諸の菩薩獨覺聲聞世間の天人阿素洛等の共に呵責する所と爲らん。誰れが汝に菩提心を發して、誓て普ねく諸の有情類を利樂し歸依無き者には爲に歸依と作り、救護無き者には爲に救護と作り、室宅無き者には爲に室宅と作り、洲渚無き者には爲に洲渚と作らんと、而るに[一〇]簡別して施不施有らしむることを要請せんや。

[一一]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時人非人有りて其の所に來至して身分手足支節を求索せば是の菩薩摩訶薩は二心を起して施不施を爲さず。唯だ是の念を作すのみ、求索する所に隨ひて皆當に之を施すべしと。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作せばなり。我れ諸の有情を利樂せんが爲の故に此の身を受く。諸の來り求る有らば定めて當に施與すべく施さゞるべからずと。故に乞者を見ば便ち是の念を起す、吾が今此の身本他の爲に受く、彼れ來り取らざるも尙ほ應に自ら送るべし、況んや來りて求索するに而かも當に與へざるべけんをやと。是の念

【八】隨一。孰れかなり。

【九】分別異心。排他、差別の心、施すべし、施すべからずとするなり。

【一〇】菩薩弘誓を發して一切衆生を救ふ、何ぞ簡別あらん。

【一一】布施行に於て二心を起すべからざるを說く。

阿羅漢に諸の供養具を施すが如く諸の不還に施すも亦復た是の如し。不還に諸の供養具を施すが如く諸の一來に施すも亦復た是の如し。一來に諸の供養具を施すが如く諸の預流に施すも亦復た是の如し。預流に諸の供養具を施すが如く諸の[三]正至正行に施すも亦復た是の如し。正至正行に諸の供養具を施すが如く[四]持戒者に施すも亦復た是の如し。持戒者に諸の供養具を施すが如く犯戒者に施すも亦復た是の如し。犯戒者に諸の供養具を施すが如く諸の[五]外道に施すも亦復た是の如し。外道に諸の供養具を施すが如く餘の人趣に施すも亦復た是の如し。人趣に諸の供養具を施すが如く諸の非人に施すも亦復た是の如し。非人に諸の供養具を施すが如く諸の傍生に施すも亦復た是の如し。諸の有情に於て其の心平等にして差別想無くして布施を行じ、上諸佛より下傍生に至るまで平等なり。平等にして分別する所無し。何を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩は諸法及び諸の有情の自相皆空にして都て差別無しと了達するが故に異想無く分別する所無くして布施を行ずればなり。是の菩薩摩訶薩は異想無く分別する所無くして布施を行ずるに由るが故に當に無異無分別果を得べし。謂ゆる一切相智及び餘の無量の諸佛の功德を圓滿することを得。[六]善現、若し菩薩摩訶薩[七]乞匃者を見ば便ち是の心を起す、若し是れ如來應正等覺なれば是れ福田なるが故に我れ應に供養を施與して恭敬すべし、若し傍生等なれば福田に非ざるが故に須つ所の資具を施與すべからずと。是の菩薩摩訶薩是の如き心を起すは菩薩法に非ず。所以は何ん、善現、諸の菩薩摩訶薩は菩提心を發し無上正等菩提を求趣するに、要らず自心を淨めて福田方に淨まればなり。諸の乞者を見て念言を作すべからず、是の如き有情は我れ應に布施して爲に饒益を作すべく、是の如き有情は我れ施すべからず饒益を作さずと。本發す所の菩提心に違ふが故に。謂ゆる諸の菩薩は菩提心を發せり。我れ有情の爲に當に依怙洲渚舍宅救護の處と作るべしと。諸の乞者を見ては應に念言を作すべし。此の有情をして貧窮孤露ならしむ。我れ當に施を以て之を攝益すべし、彼れ此の緣に由りて亦た能く轉じて施し少

【三】正至正行。聖道に直往する行善者

【四】持戒者等。戒善者を擧げ持犯次す。

【五】外道。佛道に入らざる世俗の外人。廣つて世善者を云ふ。

【六】佛、傍生を差別するは分別門にして、空門に於ては平等無差別なるを說く。

【七】乞匃者。乞丐者に同じ。貧困にして物を人に乞ふもの。

て之を攝益し、應に初靜慮を以て攝益すべき者は則ち初靜慮を以て之を攝益し、應に第二第三第四靜慮を以て攝益すべき者は則ち第二第三第四靜慮を以て之を攝益し、應に空無邊處定を以て攝益すべき者は則ち空無邊處定を以て之を攝益し、應に識無邊處無所有處非想非非想處定を以て攝益すべき者は則ち識無邊處無所有處非想非非想處定を以て之を攝益し、應に慈無量を以て攝益すべき者は則ち慈無量を以て之を攝益し、應に悲喜捨無量を以て攝益すべき者は則ち悲喜捨無量を以て之を攝益し、應に四念住を以て攝益すべき者は則ち四念住を以て之を攝益し、應に四正斷[一]乃至八聖道支を以て攝益すべき者は則ち四正斷乃至八聖道支を以て之を攝益し、應に空三摩地を以て攝益すべき者は則ち空三摩地を以て之を攝益し、應に無相無願三摩地を以て攝益すべき者は則ち無相無願三摩地を以て之を攝益し、應に諸餘の種種の善法を以て攝益すべき者は則ち諸餘の種種の善法を以て之を攝益するなりと。

二　具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時異熟生の布施[二]乃至般若波羅蜜多、五妙神通、三十七種菩提分法、陀羅尼門三摩地門、四靜慮[三]乃至四無色定、四無礙解、八解脫[四]乃至十遍處、空無相無願三摩地等無量の功德に住して布施等を以て有情を攝益するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の有情に、須つ所の物を施す、食を須つには食を與へ、飲を須つには飲を與へ、衣服を須つには衣服を與へ、車乘を須つには車乘を與へ、香花を須つには香花を與へ、幢幡蓋を須つには幢幡蓋を與へ、坐臥具を須つには坐臥具を與へ、瓔珞等の諸の莊嚴具を須つには瓔珞等の諸の莊嚴具を與へ、舍宅を須つには舍宅を與へ、燈明を須つには燈明を與へ、伎樂を須つには伎樂を與へ、醫藥を須つには醫藥を與へ、諸の須つ所の種種の資具に隨ひて悉く皆施與して匱乏無からしめ、如來應正等覺に諸の供養具を施すが如く諸の獨覺に施すも亦復た是の如し。獨覺に諸の供養具を施すが如く阿羅漢に施すも亦復た是の如し。

【二】布施、行平等能く諸衆生を利益することを明す。

く變化事の如く都て實有に非ず皆無性を以て自性と爲し自相皆空なりと知ると雖も而かも能く是れ善是れ非善、是れ有漏是れ無漏、是れ世間是れ出世間、是れ有爲是れ無爲等なりと安立して皆雜亂すること無しと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、諸の菩薩摩訶薩は甚奇希有なり。深般若波羅蜜多を行じ、諸法は皆是れ畢竟無際空性なりと知ると雖も而かも能く善非善等に安立して相雜亂せず。善現、汝等若し諸の菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる等の所有る甚奇希有の法を知らんか聲聞獨覺の皆有するに非ざる所にして測量すること能はざるなり。汝等一切の聲聞獨覺すら諸の菩薩摩訶薩に於て猶も尙ほ報ゆること能はず、況んや餘の有情にして能く酬報せんをやと。

卷の第三百八十

初分諸功德相品第六十八之二

[一]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる時の所有る甚奇希有の法は聲聞獨覺の皆有るに非ざる所と爲すやと。佛、善現に告げたまはく、諦かに聽け諦かに聽きて善く之を思念せよ。吾れ當に汝が爲に分別し解說すべし。菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行ずる時の所有る甚奇希有の法とは、善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時異熟生の布施乃至般若波羅蜜多、五妙神通、三十七種菩提分法、陀羅尼門三摩地門、四靜慮乃至四無色定、四無礙解、八解脫乃至十遍處、空無相無願等の無量の功德に住して十方界に往き、若し諸の有情の應に布施を以て攝益すべき者は則ち布施を以て之を攝益し、應に淨戒を以て攝益すべき者は則ち淨戒を以て之を攝益し、應に安忍を以て攝益すべき者は則ち安忍を以て之を攝益し、應に精進を以て攝益すべき者は則ち精進を以て之を攝益し、應に般若を以て攝益すべき者は則ち般若を以

【一】般若を行じて諸道を敎化する甚奇希有なるを明す。

果の爲にすること有らば諸の方便を以て安慰し拔濟して無餘般涅槃界に住せしむ。(k)淨戒及果。(k)安忍及び果。(k)精進及び果。(k)靜慮及び果。(k)般若及び果。(k)四念住乃至八聖道支。(k)空無相無願解脫門。(k)八解脫乃至十遍處。(k)陀羅尼門、三摩地門。(k)四聖諦空等の觀。(k)四靜慮乃至四無色定。(k)菩薩の十地。(k)五眼、六神通。(k)佛の十力乃至十八佛不共法。(k)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。

是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して[七]無色無見無對の眞無漏法を成就し其の中に安住し、若し諸の有情の應に預流果を得べき者には方便し拔濟して預流果に住せしめ、若し諸の有情の應に一來果を得べき者には方便し拔濟して一來果に住せしめ、若し諸の有情の應に不還果を得べき者には方便し拔濟して不還果に住せしめ、若し諸の有情の應に阿羅漢果を得べき者には方便し拔濟して阿羅漢果に住せしめ、若し諸の有情の應に獨覺菩提を得べき者には方便し拔濟して獨覺菩提に住せしめ、若し諸の有情の應に無上正等菩提を得べき者には方便し拔濟して爲に種種の大菩提道を說き、示現勸導讃勵慶喜して無上正等菩提に住せしむ。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ畢竟無際二空を觀察し、畢竟無際二空に安住して諸法は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如く都て實有に非ず皆無性を以て自性と爲し自相皆空なりと知ると雖も而かも能く是れ善是れ非善、是れ有漏是れ無漏、是れ世間是れ出世間、是れ有爲是れ無爲、是れ預流果是れ能證預流果是れ一來果是れ能證一來果、是れ不還果是れ能證不還果、是れ阿羅漢果是れ能證阿羅漢果、是れ獨覺菩提是れ能證獨覺菩提、是れ諸佛の無上正等菩提是れ能證諸佛の無上正等菩提なりと安立して皆雜亂すること無しと。爾の時具壽善現佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は甚奇希有なり。深般若波羅蜜多を行じ畢竟無際二空を觀察し畢竟無際二空に安住して諸法は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如

【七】無色無見無對の眞無漏。色の體も相性もなく能見もなく所對もなく、一切の無相無漏なり。

して起す所の諸業に異熟の攝受する所なり。汝等何爲ぞ是の虚妄にして實事無き法に於て實事の想を起すやと。是の時菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し方便善巧して若し諸の有情の慳貪有る者は方便し拔濟して慳貪を離れしむ。是の諸の有情慳貪を離れ已らば敎へて布施波羅蜜多を修せしむ。是の諸の有情は布施に由るが故に大財位富貴を得ること自在なり、復た是の處より方便し拔濟し敎へて淨戒波羅蜜多を修せしむ。是の諸の有情は淨戒に由るが故に善趣尊貴に生ずること自在なることを得、復た是の處より方便し拔濟し敎へて安忍波羅蜜多を修せしむ。是の諸の有情は安忍に由るが故に速に能く無生法忍を獲得し、復た是の處より方便し拔濟し敎へて精進波羅蜜多を修せしむ。是の諸の有情は精進に由るが故に乃至無上正等菩提まで諸の善法に於て復た退轉せず、復た是の處より方便し拔濟し敎へて靜慮波羅蜜多を修せしむ。是の諸の有情は靜慮に由るが故に（六）梵世に生ずることを得、初靜慮の安住に於て自在なり。初靜慮より方便し拔濟して復た第二靜慮に安住せしめ、第二靜慮より方便し拔濟して復た第三靜慮に安住せしめ、第三靜慮より方便し拔濟して復た第四靜慮に安住せしめ、第四靜慮より方便し拔濟して復た空無邊處定に安住せしめ、空無邊處定より方便し拔濟して復た識無邊處定に安住せしめ、識無邊處定より方便し拔濟して復た無所有處定に安住せしめ、無所有處定より方便し拔濟して復た非想非非想處定に安住せしめ、復た是の處より方便し拔濟して三乘に住せしめ、或は四念住（え）乃至八聖道支に住せしめ、或は空無相無願解脫門に住せしめ、或は八解脫（こ）乃至十遍處に住せしめ、或は陀羅尼門、三摩地門に住せしめ、或は苦集滅道聖諦に住せしめ、或は布施（い）乃至般若波羅蜜多に住せしめ、或は內空（ろ）乃至無性自性空に住せしめ、或は眞如（は）乃至不思議界に住せしめ、或は極喜地（に）乃至法雲地に住せしめ、或は五眼六神通に住せしめ、或は佛の十力（ほ）乃至十八佛不共法に住せしめ、或は無忘失法恒住捨性に住せしめ、或は一切智（へ）乃至一切相智に住せしむ。是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行し方便善巧して、(k)若し諸の有情の耽著して布施及び

【六】梵世。色界諸天の總稱。

(k)「若諸有情耽著有爲布施及果以諸方便安慰拔濟令住無餘般涅槃界」
右の文中「布施及果」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(k)にて略し以下其の諸法のみ略出す。

爲法。

又た是の言を作す、汝等當に知るべし、(h)色は夢の如く都て自性無く受想行識は夢の如く都て自性無し、色は響の如く像の如く光影の如く陽焔の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如く都て自性無く受想行識は響の如く乃至變化事の如く都て自性無し。(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界。(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼識に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(h)地界乃至識界。(h)因縁、等無間縁所經縁增上縁。(h)縁より生ずる法。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)有漏法、無漏法。(h)有爲法、無爲法。

又た是の言を作す、汝等當に知るへし、此の中(i)色無く亦た受想行識無し。(h)眼處乃至意處。(i)色處乃至法處。(i)眼界乃至意界。(i)色界乃至法界。(i)眼識界乃至意識界。(i)眼觸乃至意觸。(i)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(i)地界乃至識界。(i)因縁、等無間縁所縁縁增上縁。(i)諸縁より生ずる所の諸法。(i)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(i)有漏法、無漏法。(i)有爲法、無爲法。(i)夢、見夢者。(i)響、聞響者。(i)像、見像者。(i)光影、見光影者。(i)陽焔、見陽焔者。(i)幻事・見幻事者。(i)尋香城・見尋香城者。(i)變化事・見變化事者。

又た是の言を作す、汝等當に知るべし、是の一切法は皆實事無く皆無性を以て自性と爲す。汝等の虚妄の分別力の故に(j)無色中色有りと見、無受想行識中受想行識有りと見。(j)眼處乃至意處。(j)色處乃至法處。(j)眼界乃至意界。(j)色界乃至法界。(j)眼識界乃至意識界。(j)眼觸乃至意觸。(j)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受、(j)地界乃至識界。(j)因縁。等無間縁所縁縁增上縁。(j)諸縁より生ずる所の諸法。(j)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(j)有漏法、無漏法、無有爲法中有爲法有りと見、無爲法中無爲法有りと見るなりと。

又た是の言を作す、汝等當に知るべし、[五]蘊界處等の一切の法性は皆衆縁の和合より建立す。顚倒

(h)「色如夢都無自性……受想行識如夢都無自性……受想行識如響乃至如變化事都無自性」右も(g)の場合と全く同方法により以下略す。

(i)「無色亦無受想行識」右も(h)の場合と同じ方法にて以下略す。

(j)「無色中見有色無受想行識中有受想行識」右も(i)と同方法により以下略出す。

【五】蘊界處。五蘊、十八界、十二處のこと。

初分諸功德相品第六十八之一[一]

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が夢の如く響の如く緣の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き諸法は都て實事無く皆無性を以て自性と爲し、自相皆空にして而かも是れ善是れ非善、是れ有漏是れ無漏、是れ世間是れ出世間、是れ有爲是れ無爲、是の如く乃至是れ預流果是れ能く預流果を證す、是れ一來果是れ能く一來果を證す、是れ不還果是れ能く不還果を證す、是れ阿羅漢果是れ能く阿羅漢果を證す、是れ獨覺菩提是れ能く獨覺菩提を證す、是れ諸佛の無上正等菩提是れ能く諸佛の無上正等菩提を證すと安立す可き耶と。佛、善現に告げたまはく、世間の愚夫無聞の異生は夢を得、夢を見る者を得、響を得、響を聞く者を得、像を得、像を見る者を得、光影を得、光影を見る者を得、陽焰を得、陽焰を見る者を得、幻事を得、幻事を見る者を得、尋香城を得、尋香城を見る者を得、變化事を得、變化事を見る者を得。是の諸の愚夫無聞の異生は夢を得、夢を見る者を得已り乃至變化事を得て變化事を見る 者を得已て 顚倒して 執著し、身語意の [三]善行不善行を造り、或は身語意の福行非福業不動行を造る。諸行に由るが故に生死に往來して流轉窮り無し。諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて [四]畢竟無際二空を觀察す。畢竟無際二空に安住して彼の有情の爲に正法を宣說す。謂ゆる是の言を作す、汝等當に知るべし(g)色は是れ空にして我我所無く受想行識は是れ空にして我我所無し。(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(g)此の諸緣より生ずる所の法。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)有漏法、無漏法。(g)有爲法、無

【一】 諸功德相。菩薩般若を行ずる希有の功德を述ぶ。

【二】 二空にして而も諸法を分別するの甚深希有なることを明す。

【三】 善行不善行等。罪福を信じて三業善あり、これを信ぜずして三業不善あり、善福は欲界中の善喜樂果報あるに名け、不善は憂悲苦惱の果報あるに名け、不動は色無色界を生ずる因緣業を云ふ。

【四】 畢竟無際二空。人法の二空なり。畢竟空は諸法を破し、無際空は衆生相を破す。(g)「色是空無我我所受想行識是無我我所」右も(f)の場合と同方法により以下略出す。

緣ぜられて生ずる所の諸受、若しは地界乃至(二)識界、若しは因緣、等無間緣所緣緣增上緣、若しは緣より生ずる所の法、若しは無明乃至(三)老死愁歎苦憂惱、若しは欲界、色無色界、若しは善、非善、若しは有漏、無漏、若しは世間、出世間、若しは有爲・無爲是の如く乃至若しは預流果乃至(四)阿羅漢果獨覺菩提、若しは諸の菩薩摩訶薩行、佛の無上正等菩提、是の如き等の諸法の自性に於て皆所得無かりき。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで將に無上正等菩提を證せんとして常に應に善く諸法の自性を知るべし。若し能善く諸法の自性を知らば則ち能善く大菩提道を淨め、亦た能く諸の菩薩行を圓滿し有情を成熟し佛土を嚴淨し、是の法に安住して疾く無上正等菩提を證し、妙法輪を轉じ三乘の法を以て方便して諸の有情類を調伏し、三有(五)に於て速に解脫を得せしむ。是の如く善現、菩薩摩訶薩は無所得を以て方便と爲して應に般若波羅蜜多を學し速に能く一切の佛法を圓滿すべしと。

【五】　三有。欲有色有無色有、三界の生死なり。

の無上正等菩提。

是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時著せざるに由るが故に能く初地を圓滿し而かも其の中に於て貪著を生ぜず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は初地を得ず、云何が中に於て而かも貪著を起さんや。著せざるに由るが故に能く第二第三第四第五第六第七第八第九第十地を圓滿し而かも其の中に於て貪著を生ぜず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は第二地乃至第十地を得ず、云何が中に於て貪著を起さんや。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行すと雖も而かも般若波羅蜜多を得ず、般若波羅蜜多を得ざるに由るが故に亦た一切法を得ず。般若波羅蜜多を觀じて一切法を攝すと雖も而かも是の法に於て都て得る所無し。何を以ての故に、是の如き諸法と此の般若波羅蜜多とは二無く別無ければなり。所以は何ん、一切の法性は分別す可からず、說いて眞如と爲し說いて法界乃至(か)不思議界と爲す。議法は雜無く差別無きが故なりと。

【四】時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切の法性皆雜無く差別無くんば云何が是れ善是れ非善、是れ有漏是れ無漏、是れ世間是れ出世間、是れ有爲是れ無爲なりと、諸の是の如き等の無量の法門を說く可けんと。佛、善現に告げたまはく、汝が意に於て云何、一切法の實性中、法の是れ善是れ非善、是れ有漏是れ無漏、是れ世間是れ出世間、是れ有爲是れ無爲、是の如く乃至是れ預流果是れ一來果是れ不還果是れ阿羅漢果是れ獨覺菩提、是れ諸の菩薩摩訶薩行、是れ佛の無上正等菩提なりと說く可き有るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、此の因緣に由りて當に知るべし、一切法は無雜無差別無相無生無滅無礙無說無示なりと。善現當に知るべし、我れ本菩薩の道を修行せし時法の自性に於て都て所得無かりき。謂ゆる若しは色若しは受想行識、若しは眼處(ろ)乃至意處、若しは色處乃至法處、若しは眼界乃至意界、若しは色界乃至法界、若しは眼識界乃至意識界、若しは眼觸乃至意觸、若しは眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に

【四】佛善現の問ひを反問し、無相の法を以て般若を修學すべきを說く。

(ろ) 五蘊の如く分說すべきも今便宜上本文の如く略す。

ての故に、夢、夢を見る者、響、響を聞く者、像、像を見る者、光影、光影を見る者、陽焰、陽焰を見る者、幻事、幻事を見る者、尋香城、尋香城を見る者、變化事、變化事を見る者は皆是れ愚夫異生の顚倒して執著する所なるが故なり。諸の阿羅漢獨覺菩薩及び諸の如來應正等覺は皆夢を見ず亦た夢を見る者を見ず、皆響を聞かず亦た響を聞く者を見ず、皆像を見ず亦た像を見る者を見ず、皆光影を見ず亦た光影を見る者を見ず、皆陽焰を見ず亦陽焰を見る者を見ず、皆幻事を見ず亦幻事を見る者を見ず、皆尋香城を見ず亦た尋香城を見る者を見ず、皆變化事を見ず亦た變化事を見る者を見ず。何を以ての故に、一切法は皆無性を以て自性と爲し[三]非成非實無相無爲にして非實有性と涅槃と等しければなり。若し一切法皆無性を以て自性と爲し非成非實無相無爲にして非實有性と涅槃と等しくば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法に於て有性の想成想實想有相有爲にして實有性の想の寂滅に非ずとの想を起さんや、若し是の想を起すとせば是の處有ること無し。何を以ての故に、若し一切法に少しにても自性有り成有り實有り相有り爲有り實性の寂滅に非ずして得可き者有れば則ち修行する所の甚深般若波羅蜜多は應に般若波羅蜜多に非ざるべければなり。是の如く菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時(f)色に著せず受想行識に著せず、(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)欲界、色無色界(f)。四靜慮乃至四無色定。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛

【三】非成非實。多法集りて成就するにあらず、一有の實在せるにもあらず。

(f)「不著色不著受想行識」一右も(e)の場合と同方法により以下略出す。

菩薩摩訶薩は是の如き等の無行無得無説無示を以て無所得と爲す。卽ち無所得を説いて離生と名づく。善現、是れを菩薩摩訶薩の生及び離生と爲す。諸の菩薩摩訶薩は正性離生位に入り已て一切の靜慮解脫等持等至を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は尙ほ定の勢力に隨ひてすら生ぜず況んや貪等の煩惱の勢力に隨はんをや。是の菩薩摩訶薩若し此の中に住して諸業を造作し業の勢力に由りて四靜慮を生じ諸趣に流轉すとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は幻の如き諸の行聚の中に住し諸の有情に如實に饒益を作すと雖も而かも幻及び諸の有情を得ず。是の菩薩摩訶薩は是の如き事に於て所得無き時有情を成熟し佛土を嚴淨し疾く無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度す。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に能く無相靜慮波羅蜜多を圓滿す。此の靜慮波羅蜜多速に圓滿するに由るが故に疾く無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度す。是の如き法輪を無所得と名づけ、亦た名づけて空無相無願と爲し、能く有情に無上の饒益を作す。

[一]復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して般若波羅蜜多を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は如實に一切法は皆夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと了知し已て便ち能く無相般若波羅蜜多を圓滿すと。[二]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は如實に一切法は皆夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと了知するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時夢を見ず夢を見る者を見ず、響を聞かず響を聞く者を見ず、像を見ず像を見る者を見ず、光影を見ず光影を見る者を見ず、陽焰を見ず陽焰を見る者を見ず、幻事を見ず幻事を見る者を見ず、尋香城を見ず尋香城を見る者を見ず、變化事を見ず變化事を見る者を見ず。何を以

【一】六に般若波羅蜜多に就て明す。

【二】一切法無所有自性無生を明す。

處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)因縁、等無間縁所縁縁增上縁。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。菩薩摩訶薩は是の如き等の有所得を以て生と爲す。善現、無所得とは謂ゆる菩薩摩訶薩は是の如き一切法に於て行無く得無く說無く示無し。謂ゆる(e)菩薩摩訶薩は色に於て行無く得無く說無く示無く、受想行識に於て行無く得無く說無く示無し。何を以ての故に、色の自性乃至識の自性は皆行得說示す可からざるが故なり。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。

卷の第三百七十九

初分無雜法義品第六十七之二

(e)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)因縁、等無間縁所縁縁增上縁。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

(e)「一菩薩摩訶薩於色無行無得無說無示於受想行識無行無得無說無示何以故色自性乃至識自性皆不可行得說示故」右も(d)の場合と全く同方法により以下略出す。

(e)　前卷と同意。

の中に住して如來三摩地を除き諸餘の一切の三摩地若しは聲聞三摩地と共に若しは獨覺三摩地若しは餘の無量三摩地と共に、是の如き一切皆能く身に證し具足して住す。然かも是の如き靜慮無量無色等の諸の三摩地に於て味著を生ぜず、亦た彼の得る所の果に貪著せず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は如實に、(へ)靜慮無量無色定等の諸の三摩地及び一切法は皆實相無く無性を以て自性と爲す。無相の法を以て無相の法に味著すべからず、亦た無性を自性と爲す法を以て無性を自性と爲す法に味著すべからずと了知すればなり。三摩地に味著せざるに由るが故に是の菩薩摩訶薩は終に靜慮無量無色定等の諸の三摩地の勢力に隨順して色無色界を生ぜず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切の界に於て都て所得無く、入定者及び所入定、由此入定に於ても亦た所得無ければなり。是の菩薩摩訶薩は一切法に於て所得無きが故に速に能く無相靜慮波羅蜜多を圓滿す。此の靜慮波羅蜜多に由りて諸の聲聞及び獨覺地を超ゆと。時に具壽善現、佛に白して言さく世尊是の菩薩摩訶薩は云何が無相靜慮波羅蜜多を圓滿して諸の聲聞及び獨覺地を超ゆるやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は善く內空を學するが故に、善く外空乃至(ト)無性自性空を學するが故に是の菩薩摩訶薩は是の諸空の中に於て一切法を得ず、此の中に安住して預流果を得ず、一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得ず、一切の菩薩摩訶薩行を得ず、諸佛の無上正等菩提を得ず。何を以ての故に、是の諸空の性も亦た皆空なるが故なり。是の菩薩摩訶薩は此の空に住するに由りて諸の聲聞及び獨覺地を超え菩薩の正性離生に證入すと。【三〇】具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は何を以て生と爲し、何を以て離生と爲すやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は一切の有所得を以て生と爲し、一切の無所得を以て離生し爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は何を以て有所得と爲し、何を以て無所得と爲すやと。佛言はく、善現。菩薩摩訶薩は一切法を以て有所得と爲す。謂ゆる(d)菩薩摩訶薩は色を以て有所得と爲し受想行識を以て有所得と爲す。(d)眼處乃(ゑ)至意

【三〇】菩薩の生及び離生を說く。

(d)「菩薩摩訶薩以色爲有所得以受想行識爲有所得」右の文中「五蘊」のある所に次下の諸法を代入して略すること(c)の場合と同じ。

多を圓滿し中に於て具さに能く諸の善法を攝す、謂ゆる四念住[一]乃至八聖道支、空無相無願解脫門、四靜慮[二]乃至四無色定、八解脫[三]乃至十遍處、苦集滅道聖諦、布施[四]乃至般若波羅蜜多、五眼六神通、三摩地門陀羅尼門、極喜地[五]乃至法雲地、內空[六]乃至無性自性空、眞如[七]乃至不思議界、佛十力[八]乃至十八佛不共法、無忘失法恒住捨性、一切智[九]乃至一切相智なり。是の菩薩摩訶薩は此の中に安住して能く一切相智を圓滿す。一切相智圓滿するを得るに由るが故に永く一切の習氣相續を斷ず。永く一切の習氣相續を斷ずるに由るが故に諸相隨好成就し圓滿す。諸相隨好成就し圓滿するに由り無上正等菩提を證得し大光明を放ちて遍ねく三千大千世界を照らし、諸の世界をして[二七]六種に變動せしめ、正法輪を轉じて三十二相を具す。此の三千大千世界の諸の有情類光の照觸を蒙るに由りて斯の變動を覩、正法の音を聞き皆三乘に於て不退轉を得。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して精進波羅蜜多を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住して能く自他の多饒益事を辦じ速に能く一切の佛法を圓滿し無上正等菩提を證得す。

[二八]復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して靜慮波羅蜜多を圓滿す。善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して靜慮波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時如實に是の五取蘊は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如く實相無しと了知し已て初靜慮に入り具足して住し、第二第三第四靜慮に入り具足して住し、慈無量に入り具足して住し、悲喜捨無量に入り具足して住し、空無邊處定に入り具足して住し、識無邊處無所有處非想非非想處定に入り具足して住し、空三摩地を修し無相無願三摩地を修し、如電三摩地を修し[二九]聖正三摩地金剛喩三摩地を修す。金剛喩三摩地

【二七】六種に變動す。說法の際大地震動の瑞相なり。六種は動、起、涌、震、吼、擊を云ふ。

【二八】五に靜慮波羅蜜多に就て明す。

【二九】聖正三摩地。無漏聖道に安立するなり。

菩薩摩訶薩の忍と名づけ、諸の阿羅漢の若しは智若しは斷も亦た菩薩摩訶薩の忍と名づけ、一切の獨覺の若しは智若しは斷も亦た菩薩摩訶薩の忍と名づく。復た菩薩摩訶薩の忍有り。謂ゆる諸法は畢竟不生なりと忍(みとむ)るなり。是れを差別と爲す。善現、諸の菩薩摩訶薩は是の如き殊勝の忍を成就するが故に一切の聲聞獨覺に超勝す、善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き殊勝の異熟無生忍の中に安住し菩薩道を行じて能く道相智を圓滿す。能く道相智を圓滿するに由るが故に常に四念住四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を遠離せず、亦た空無相無願解脫門を遠離せず、亦た異熟神通を遠離せず。是の菩薩摩訶薩は異熟神通を遠離せざるに由り一佛土より一佛土に至りて諸佛世尊を供養恭敬し、有情を成熟し佛土を嚴淨す。是の菩薩摩訶薩は成熟有情嚴淨佛土圓滿するを得るに由るが故に一刹那相應の妙慧を以て無上正等菩提を證得す。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に能く無相安忍波羅蜜多を圓滿す。無相安忍波羅蜜多圓滿するを得るが故に便ち能く一切智智を證得し一切の佛法圓滿せざる無し。

[二五] 復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して如實に是の五取蘊は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如く實相無しと了知し已つて勇猛を發起して身心靜進す。是の菩薩摩訶薩は勇猛を發起して[二六]身精進するが故に殊勝の迅速神通を引發し、此の神通に由りて十方界に往きて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、諸佛の所に於て衆の德本を殖えて無量の有情を利益安樂し、亦た能く種種の佛土を嚴淨す。是の菩薩摩訶薩は身の精進に由り有情を成熟して其の宜しき所に隨ひ方便して三乘法に安立し各究竟せしむ。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し身の精進に由りて能く速に無相精進波羅蜜多を圓滿す。善現、是の菩薩摩訶薩は勇猛を發起して心精進するが故に諸聖の無漏道支所攝の精進を引發して精進波羅蜜

【二五】四に精進波羅蜜多に就て明す。

【二六】身精進。身に勇猛精進の潑溂たる活力を出すが萬行成就の根本なり。神通となり供養となる。

如き惡業を發起す。我れ今彼れを瞋恨すべからずと。復た是の念を作す。我れ怨家の諸蘊を攝受し、彼の有情をして我れに於て是の如き惡業を發起せしむるに由り但だ應に自ら責むべく彼を瞋るべからずと。菩薩の是の如く審に觀察する時は彼の有情に於て深く慈愍を生ず。是の如き等の類を安受忍と名づく。觀察忍とは謂ゆる諸の菩薩摩訶薩是の思惟を作さん、諸行は幻の虛妄なるが如く實ならず自在を得ず、亦た虛空の無なるが如く我有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者皆得可からず、唯だ是れ虛妄分別の起す所なり。誰れか我れを呵毀し、誰れか我れを罵詈し、誰れか我れを凌辱し、誰れか種種の瓦石刀杖を以て我れに害を加へ、誰れか復た彼の毀辱加害を受けん。皆是れ自心虛妄の分別なり。我れ今執著を橫起すべからずと。是の如く諸法は自性空勝義空に由るが故に都て所有無し。菩薩の是の如く審に觀察する時如實に諸行の空寂を了知し、一切法に於て異想を生ぜず。是の如き等の類を觀察忍と名づく。是の菩薩摩訶薩は是の如き二種忍を修習するが故に便ち能く無相安忍波羅蜜多を圓滿す。能く無相安忍波羅蜜多を圓滿するに由りて卽便ち無生法忍を獲得すと。時に[二三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が名づけて無生法忍と爲し、此れ何の斷ずる所、復た何の智なるやと。佛言はく、善現、此の勢力に由りて乃至少分の惡不善法も亦た生ずるを得ず、是の故に說いて無生法忍と名づく。此れは一切の我及び我所慢等の煩惱をして究竟して寂滅せしめ如實に諸法は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと忍受せしむ。此の忍を智と名づく。此の智を得るが故に說いて無生法忍を獲得すと名づくと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、聲聞獨覺の無生法忍と菩薩摩訶薩の無生法忍と何の差別有るやと。[二四]佛言はく、善現、諸の預流者の若しは智若しは斷も亦た菩薩摩訶薩の忍と名づけ、諸の一來者の若しは智若しは斷も亦た菩薩摩訶薩の忍と名づけ、諸の不還者の若しは智若しは斷も亦た

【二三】善現無生法忍に就て佛と問答す。

【二四】菩薩の無生法忍智斷を說くを以て預流者等の智斷と同異を明す。

を投け已て方に涅槃に入る。彼の佛の化身は種種有情を饒益する事を作すと雖も而かも得る所無し。所謂色を得ず受想行識を得ず、眼處を得ず耳鼻舌身意處を得ず、色處を得ず聲香味觸法處を得ず、眼界を得ず耳鼻舌身意界を得ず、色界を得ず聲香味觸法界を得ず、眼識界を得ず耳鼻舌身意識界を得ず、眼觸を得ず耳鼻舌身意觸を得ず、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受を得ず耳鼻舌身意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受を得ず、一切の有漏無漏法及び有情を得さるが如し。是の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。所作有りと雖も而かも所得無し。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して淨戒波羅蜜多を圓滿す。此の淨戒波羅蜜多圓滿するを得るに由るが故に便ち能く一切の佛法を攝受す。

[一〇] 復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して安忍波羅蜜多を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は如實に是の五取蘊は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと了知し已て便ち能く無相安忍波羅蜜多を圓滿す。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して如實に是の五取蘊は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと了知し已て便ち能く無相安忍波羅蜜多を圓滿するや。善現、是の菩薩摩訶薩は如實に是の五取蘊は實相無しと了知するが故に二種忍を修して便ち能く無相安忍波羅蜜多を圓滿す。何等をか二と爲す。一には[一一]安受忍、二は[一二]觀察忍なり。安受忍とは謂ゆる諸の菩薩摩訶薩初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て假使ひ一切有情の類競ひ來りて呵毀し麁惡の言を以て罵呰凌辱し、復た瓦石刀杖を以て害を加ふるも、是の菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多を滿さんが爲に乃至一念瞋恨を生ぜず、亦復た加報の心を起さず、但だ是の念を作すのみ、彼の諸の有情は深く憐愍す可し、煩惱を増上し其の心を撞擊して自在を得ず、我れに於て是の

【一〇】三に安忍波羅蜜多に就て明す。

【一一】安受忍。二忍の一、諸苦を安受して心を動かさゞるもの、即ち衆生忍なり。
【一二】觀察忍。二忍の一、諸法の深理を觀察して安然忍可するもの、即ち無生法忍なり。

るべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に廣天に生じ、或は少廣天に生じ、或は無量廣天に生じ、或は廣果天に生じて富貴自在なるべしと。是の念を作さず我れ此の戒に由りて當に無繁天に生じ、或は無熱天に生じ、或は善現天に生じ、或は善見天に生じ、或は色究竟天に生じて富貴自在なるべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に空無邊處に生じ、或は識無邊處に生じ、或は無所有處に生じ、或は非想非非想處に生じて富貴自在なるべしと。[一八]是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に預流果を得、或は一來果を得、或は不還果を得、或は阿羅漢果を得、或は獨覺菩提を得、或は菩薩の正性離生に入り、或は菩薩の無生法忍を得、或は無上正等菩提を得べしと。所以は何ん、是の諸法は皆無相にして咸く同一相所謂無相なればなり。無相の法は無相を得ず、有相の法は有相を得ず、無相の法は有相を得ず、有相の法は無相を得ず、是の因緣に由りて都て得可からざればなり。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に能く無相淨戒波羅蜜多を圓滿して菩薩の正性離生に證入せん。既に菩薩の正性離生に入らば復た菩薩の無生法忍を得ん。既に菩薩の無生法忍を得ば道相智を修行して一切相智に趣き異熟の五神通を得、復た五百三摩地門を得亦た五百陀羅尼門を得、此の中に安住して復た能く四無礙解を證得し、一佛土より一佛土に至りて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し有情を成熟し佛土を嚴淨せん。是の菩薩摩訶薩は有情を化せんが爲に流轉を現じて諸の生死に趣くと雖も而かも彼の煩惱業報諸障の染する所と爲らず。譬へば化人行住坐臥等の事を現ずと雖も而かも眞實には往來等の業無きが如く、種種に有情を饒益するを現ずと雖も而かも有情及び彼の施設に於て都て得る所無し。如來應正等覺有りて[一九]蘇扇多と名づく、無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じ無量の衆を度して生死を脫して涅槃を證得せしめ而かも有情の受くるに堪へ次いで無上正等菩提の記を得る者無し。時に彼の如來化佛を化作して世に久住せしめ、自ら壽行を捨てて無餘依般涅槃界に入る。彼の化佛の身一劫を住し已て一菩薩に無上正等菩提の記

【一八】獨り上述の三界富樂を願はざるのみならず四果三乘佛果を得んともせず。

【一九】蘇扇多 (Suśānta)。佛名、譯して妙息災と云ふ。

く善現菩薩摩訶薩は一切法皆無相なりと知るが故に如實に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も皆亦無相なりと了知し、如實に諸餘の佛法も亦皆無相なりと了知す。是の因縁に由りて普ねく能く一切の佛法を圓滿す。

[九]復た次に善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊の中に安住して淨戒波羅蜜多を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は如實に是の五取蘊は夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如しと了知し已て便ち能く無相淨戒波羅蜜多を圓滿す。是の如き淨戒は無缺無隙無瑕無穢にして取著する所無く應に供養を受け、智者の讃むる所、妙善受持し妙善究竟すべし。是れ聖無漏にして、是れ出世間道支の攝する所なり。此の戒に安住して能善く受持せば[一〇]施設戒、[一一]法爾得戒、[一二]律儀戒、[一三]有表戒、[一四]無表戒、[一五]現行戒・不現行戒、[一六]威儀戒、非威儀戒を受く。是の菩薩摩訶薩は是の如き諸戒を具し成就するも而かも取著無く、[一七]是の念を作さず。我れ是の戒に由りて當に刹帝利大族に生じて富貴自在ならん、或は婆羅門大族に生じて富貴自在ならん、或は長者大族に生じて富貴自在ならん、或は居士大族に生じて富貴自在なるべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に小王と爲り、或は大王と爲り、或は轉輪聖王と爲りて富貴自在なるべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に四大王衆天に生じ、或は三十三天に生じ、或は夜摩天に生じ、或は覩史多天に生じ、或は樂變化天に生じ、或は他化自在天に生じて富貴自在なるべしと是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に梵衆天に生じ、或は梵輔天に生じ、或は梵會天に生じ、或は大梵天に生じて富貴自在なるべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に光天に生じ、或は少光天に生じ、或は無量光天に生じ、或は極光淨天に生じて富貴自在なるべしと。是の念を作さず、我れ此の戒に由りて當に淨天に生じ、或は小淨天に生じ、或は無量淨天に生じ、或は遍淨天に生じて富貴自在な

[九] 二に淨戒波羅蜜多に就て明す。

[一〇] 施設戒。その時に應じ罪に從ひ隨制する遮戒。
[一一] 法爾得戒。性得の戒、本質的に戒德たるもの。
[一二] 律儀戒。身口七支の戒、又律制の十戒二百五十戒等、訓練制裁を主とするもの。
[一三] 有表戒。身口の表業に屬する戒。
[一四] 無表戒。作法によりて結得する制裁力、肉體に伴ふも物肉ならず。
[一五] 現行戒。隨行細相の定まりて行はるゝべきもの。
[一六] 威儀戒。起居等細相の定まるもの、三千威儀八萬威儀等なり。
[一七] 是の念を作さず等。戒善を小果に廻向せざるなり。

安住せば則ち能く四靜慮乃至四無色定を圓滿し亦た能く四念住乃至八聖道支を圓滿し、亦た能く空無相無願解脫門を圓滿し、亦た能く內空乃至無性自性空を圓滿し、亦た能く眞如乃至不思議界を圓滿し、亦た能く苦集滅道聖諦を圓滿し、亦た能く八解脫門乃至十遍處を圓滿し、亦た能く五百三摩地門五百陀羅尼門を圓滿し、亦た能く五眼六神通を圓滿し、亦た能く佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿し、亦た能く無忘失法恒住捨性を圓滿し、亦た能く一切智乃至一切相智を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は是の如き異熟生の聖無漏の諸法の中に安住し神通力を以て十方殑伽沙等の諸佛世界に往到し、復た種種上妙の衣服飲食臥具湯藥香花寶幢幡蓋燈明伎樂及び餘の須つ所を以て諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、諸の有情に利益安樂を作し、應に布施を以て攝益すべき者には即ち布施を以て之を攝益し、應に淨戒を以て攝益すべき者には即ち淨戒を以て之を攝益し、應に安忍を以て攝益すべき者には即ち安忍を以て之を攝益し、應に精進を以て攝益すべき者には即ち精進を以て之を攝益し、應に靜慮を以て攝益すべき者には即ち靜慮を以て之を攝益し、應に般若を以て攝益すべき者には即ち般若を以て之を攝益し、應に諸餘の種種の善法を以て攝益すべき者には即ち即ち諸餘の種種の善法を以て之を攝益し、應に一切殊勝の善法を以て攝益すべき者には即ち一切殊勝の善法を以て之を攝益す。是の菩薩摩訶薩は是の如き無量の善法を成就し、生死を受くと雖も生死の過失の染する所と爲らず。諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に人天の富貴自在を攝受し、此の富貴自在の威力に由りて能く有情の諸の利樂事を作し[八]四攝事を以て之を攝受す。是の菩薩摩訶薩は一切法皆無相なりと知るが故に預流果を知ると雖も而かも預流果に住せず、一來果を知ると雖も而かも一來果に住せず、不還果を知ると雖も而かも不還果に住せず、阿羅漢果を知ると雖も而かも阿羅漢果に住せず、獨覺菩提を知ると雖も而かも獨覺菩提に住せず。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は如實に一切法を了知し已て一切相智を證得せんと欲するが爲に一切の聲聞獨覺と共ならされぱなり。是の如

【八】四攝事。菩薩衆生を救度せんとするに當りて衆生を攝招する四種の行法なり。一に布施攝、二に愛語攝、三に利行攝、四に同事攝。

初分無[一]雜法義品第六十七之二

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が一切の[三]無雜無相自相空の法の中に於て能く布施(三)乃至般若波羅蜜多を圓滿し修するや。云何が一切の無漏無差別の法の中に於て是の如き諸法の差別を施設し及び了知す可きや。云何が般若波羅蜜多の中に於て一切の布施(三)乃至般若波羅蜜多を攝受し、一切の內空(七)乃至無性自性空を攝受し、一切の眞如(八)乃至不思議界を攝受し、一切の四念住(九)乃至八聖道支を攝受し、一切の空無相無願解脫門を攝受し、一切の苦集滅道聖諦を攝受し、一切の四靜慮(十)乃至四無色定を攝受し、一切の八解脫(十)乃至十遍處を攝受し、一切の三摩地門陀羅尼門を攝受し、一切の五眼六神通を攝受し、一切の佛の十力(十)乃至十八佛不共法を攝受し、一切の無忘失法恒住捨性を攝受し、一切の一切智(な)乃至一切相智を攝受し、一切の世出世法を攝受するや。云何が一切の異相法の中に於て一相の所謂無相を施設し、及び一相無相法の中に於て種種差別の法相を施設するやと。

[四]佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く[五]尋香城の如く變化事の如き[六]五取蘊の中に於て布施(三)乃至般若波羅蜜多を修行して如實に夢の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く幻事の如く尋香城の如く變化事の如き五取蘊皆無相なりと了知す。所以は何ん、諸の夢響像光影陽焰幻事尋香城變化事は皆自性無し。若し法自性無ければ是の法は則ち相無し。若し法相無ければ則ち是の法は一相所謂無相なり。[七]善現、此の因緣に由りて當に知るべし、一切の布施は無相、施者は無相、受者は無相、施物は無相なりと。若し是の如く知りて布施を行ぜば則ち能く布施波羅蜜多を圓滿し修行す。若し能く布施波羅蜜多を圓滿し修行せば則ち淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を遠離せず。是の如き布施(三)乃至般若波羅蜜多に

【一】重ねて無相にして諸法なる義を明す。
【二】無相法中六度を差別し修行する所以を明す。
【三】無雜。一相、無相と云ふに同じ。純一なり。
【四】六波羅蜜多圓滿を明す。
【五】尋香城。乾闥婆城の譯、蜃氣樓に同じ。
【六】五取蘊。有漏の五蘊を云ふ。
【七】一に布施波羅蜜多如幻無相に就て明す。

有情をして衆妙の珍寶を受用せしめんと欲せば其の樂ふ所に隨ひて皆滿足せしむ。是の菩薩摩訶薩は一世界より一世界に至りて無量の有情を利益し安樂し諸の世界の嚴淨の相を見、能く自ら意に隨ひて樂ふ所の嚴淨佛土を攝受する譬へば他化自在諸天の諸の須つ所有る衆妙の樂具を心に隨ひて現ずるが如く、是の如く菩薩は意に隨ひて種種の嚴淨無量佛土を攝受す。是の菩薩摩訶薩は異熟生の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び異熟生の諸妙神通並びに異熟生の菩薩道に由るが故に道相智を行ず。道相智に由りて成熟を得るが故に復た能く一切相智を證得す。此の智を得るに由りて一切法に於て攝受する所無し。謂ゆる色を攝受せず受想行識を攝受せず、眼處(ろ)乃至意處を攝受せず、色處(ろ)乃至法處を攝受せず、眼界(ろ)乃至意界を攝受せず、色界(ろ)乃至法界を攝受せず、眼識界(ろ)乃至意識界を攝受せず、眼觸(ろ)乃至意觸を攝受せず、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(ろ)乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受を攝受せず、一切の善法非善法世間法出世間法有漏法無漏法有爲法無爲法有罪法無罪法を攝受せず、亦た所證の無上正等菩提を攝受せず、亦た一切の佛土に受用せらるる物を攝受せず、其の中の有情も亦た攝受する無し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は先に一切法を攝受せざるが故に、一切法に於て所得無きが故に、諸の有情の爲に[二]無倒に一切の法性は攝受する無しと宣說するが故なり。是の如く善現菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸相を離るる無漏の心力に由り能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て般若波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿すと。

(ろ)　五蘊の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す以下亦た同じ。

【二】　無倒。一切の顛倒を離れたる正見を云ふ。

三摩地門陀羅尼門を圓滿し、亦た能く五眼六神通を圓滿し、亦た能く佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を圓滿し、亦た能く無忘失法、恒住捨性を圓滿し、亦た能く一切智乃至(な)一切相智を圓滿し、亦た能く三十二大士相八十隨好を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は異熟法の菩提の中に住して復た能く布施乃至(よ)般若波羅蜜多を圓滿し、亦た能く內空乃至(わ)無性自性空を圓滿し、亦た能く眞如乃至(か)不思議界を圓滿し、亦た能く四念住乃至(そ)八聖道支を圓滿し、亦た能く苦集滅道聖諦を圓滿し、亦た能く四靜慮乃至(た)四無色定を圓滿し、亦た能く八解脫乃至(れ)十遍處を圓滿し、亦た能く一切三摩地門陀羅尼門を圓滿し、亦た能く空無相無願解脫門を圓滿し、亦た能く五眼六神通等の無量の功德を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は是の如き菩提道を圓滿し已て諸の闇障を離れて佛道の中に住し、異熟生の勝神通力に由り方便して諸の有情類を饒益し、應に布施を以て攝受すべき者には即ち布施を以て之を攝受し、應に淨戒を以て攝受すべき者には即ち淨戒を以て之を攝受し、應に安忍を以て攝受すべき者には即ち安忍を以て之を攝受し、應に精進を以て攝受すべき者には即ち精進を以て之を攝受し、應に靜慮を以て攝受すべき者には即ち靜慮を以て之を攝受し、應に般若を以て攝受すべき者には即ち般若を以て之を攝受し、應に解脫を以て攝受すべき者には即ち解脫を以て之を攝受し、應に解脫智見を以て攝受すべき者には即ち解脫智見を以て之を攝受し、應に預流果に安住せしむべき者には方便して預流果に住せしめ、應に一來果に安住せしむべき者には方便して一來果に住せしめ、應に不還果に安住せしむべき者には方便して不還果に住せしめ、應に阿羅漢果に安住せしむべき者には方便して阿羅漢果に住せしめ、應に獨覺菩提に安住せしむべき者には方便して獨覺菩提に住せしめ、應に阿耨多羅三藐三菩提に安住せしむべき者には方便して阿耨多羅三藐三菩提に安住せしむ。是の菩薩摩訶薩は能く種種の神通變現を作し、殑伽沙等の世界に往かんと欲せば意に隨ひて能く往き、往く所の諸の世界の中の種種の珍寶を現ぜんと欲せば意に隨ひて能く現じ、往く所の諸の世界の中の

【一】異熟生。果報として生ずる眼耳鼻舌身意の六識を云ふ。

眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受の自性を得ず、一切の有漏法の自性を得ず一切の無漏法の自性を得ず。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し一切法に於て皆無性を以て自性と爲し深く信解を生ず。是の菩薩摩訶薩は是の如き事に於て信解を生じ已て能く內空乃至無性自性空を行ず。是の菩薩摩訶薩は是の如く行ずる時一切法に於て都て執著せず。謂ゆる(c)色に執著せず受想行識に執著せず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。

卷の第三百七十八

初分無相無得品第六十六之六

(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

是の菩薩摩訶薩無性を自性と爲して甚深般若波羅蜜多を行ずる時は能く菩薩道を圓滿す。謂ゆる能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し、亦た能く內空乃至無性自性空を圓滿し、亦た能く眞如乃至不思議界を圓滿し、亦た能く四念住乃至八聖道支を圓滿し、亦た能く苦集滅道聖諦を圓滿し、亦た能く四靜慮乃至四無色定を圓滿し、亦た能く八解脫乃至十遍處を圓滿し、亦た能く一切

(c)「不執著色不執著受想行識」右も(b)の場合と同方法により以下略出す。

(c) 前卷と同意。

中に安住して永く一切の習氣相續を斷ず。是の菩薩摩訶薩は能く永く一切の習氣相續を斷ずるが故に能く正しく自ら利し亦た正しく他を利す。是の菩薩摩訶薩は能く正しく自ら利し正しく他を利するが故に便ち一切世間の天人阿素洛等の與に〔三〕淨福田と作り一切世間の天人阿素洛等の供養恭敬を受くるに堪ふ。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の相を離るる無漏の心力に由りて能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て靜慮波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿す。

〔三〕復た次に善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て般若波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏の心を以て般若を修す。是の菩薩摩訶薩は少法も實に成就する有るを見ず。謂ゆる(b)色の實に成就する有るを見ず受想行識の實に成就する有るを見ず、色の生ずるを見ず受想行識の生ずるを見ず、色の滅するを見ず受想行識の滅するを見ず、色是れ增益門なりと見ず受想行識是れ增益門なりと見ず、色是れ損減門なりと見ず受想行識是れ損減門なりと見ず、色の積集有るを見ず受想行識の積集有るを見ず、色の離散有るを見ず受想行識の離散有るを見ず、如實に色は是れ虛妄にして堅實ならず自在無しと觀じ如實に受想行識は是れ虛妄にして堅實ならず自在無しと觀ず。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至意界。(b)色界乃(ほ)至法界。(b)眼識界乃(へ)至意識界。(b)眼觸乃(と)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(ち)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)一切の有漏法、一切の無漏法。

是の菩薩摩訶薩は是の如く觀ずる時色の自性を得ず受想行識の自性を得ず、眼處の自性乃(ろ)至意處の自性を得ず、色處の自性乃(は)至法處の自性を得ず、眼界の自性乃(に)至意界の自性を得ず、色界の自性乃(ほ)至法界の自性を得ず、眼識界の自性乃(へ)至意識界の自性を得ず、眼觸の自性乃(と)至意觸の自性を得ず、

【三】淨福田。應に供養すべき者に於て之を供養すれば能く諸の福報を受くるの故にかく名く。

【三】六に般若に就て明す。

(b)「不見色實有成就不見受想行識實有成就…………如實觀受想行識是虛妄不堅實無自在」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下其の諸法のみ略出す。

(ろ)五蘊の場合の如く分說すべきを今略を簡びて本文の如く略す以下も同じ。

の正性離生位に證入し已らば諸の地行を修して佛地を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は諸地に於て漸次に修して超ゆと雖も而かも中間に於て果證を取らず乃至未だ一切相智を得ず。是の菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住し一佛土より一佛土に至りて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、諸佛の所に於て衆の善本を殖ゑ有情を成熟し佛土を嚴淨し、一世界より一世界に趣きて有情を饒益するに身心倦むこと無く、或は布施を以て諸の有情を攝し、或は淨戒を以て諸の有情を攝し、或は安忍を以て諸の有情を攝し、或は精進を以て諸の有情を攝し、或は靜慮を以て諸の有情を攝し、或は般若を以て諸の有情を攝し、或は解脫を以て諸の有情を攝し、或は解脫智見を以て諸の有情を攝し、或は有情に敎へて預流果に住せしめ、或は有情に敎へて一來果に住せしめ、或は有情に敎へて不還果に住せしめ、或は有情に敎へて阿羅漢果に住せしめ、或は有情に敎へて獨覺菩提に住せしめ、或は有情に敎へて菩薩摩訶薩位に安住せしめ、或は有情に敎へて無上正等菩提に安住せしめ、諸の有情の善根勢力に隨ひて善法增長し種種に方便して其れをして安住せしむ。是の菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して能く一切三摩地門を引き能く一切陀羅尼門を引き、能く殊勝の四無礙解を得、能く殊勝の異熟神通を得。是の菩薩摩訶薩は殊勝の異熟神通を得るに由り決定して復た母胎に入らず、決定して復た婬欲の業を受けず、決定して復た受生業〔一〇〕を攝せず、亦復た生過〔一一〕の染する所と爲らず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切の法性は皆幻化の如しと善く見善く達すればなり。諸行皆幻化の如しと知ると雖も而かも悲願に乘じて有情を饒益す。悲願に乘じて有情を饒益すと雖も而かも有情及び彼の施設皆得可からずと達す。有情及び彼の施設皆得可からずと達すと雖も而かも能く一切の有情を安立し其れをして不可得の法に安住せしめ、世俗の理に依りて義勝に依らず。是の菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住し一切の靜慮解脫等持等至を修行し乃至所求の無上正等菩提を圓滿して常に修する所の靜慮波羅蜜多を捨離せず。是の菩薩摩訶薩は道相智を行じ方便して一切相智を引發し其の

【一〇】受生業。性により生誕する因業。

【一一】生過。出生より汚れや愛欲煩惱に染まるを云ふ。廣くは生死流轉の過失なり。

[八]復た次に善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て靜慮波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏の心を以て靜慮を修す。是の菩薩摩訶薩は[九]如來定を除き諸の餘の定に於て皆能く圓滿す。是の菩薩摩訶薩は能く欲惡不善法を離れ有尋有伺にして離に生ずる喜樂に初靜慮に入り具足して住す。尋伺寂靜にして內等淨心一趣性なり。無尋無伺にして定に生ずる喜樂に第二靜慮に入り具足して住す。喜を離れ捨に住し正念正知にして身樂を受け聖說捨に應じ第三靜慮に入り具足して住す。樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し、不苦不樂捨念清淨にして第四靜慮に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は慈俱心を以て普ねく一方乃至十方一切世間に緣じ具足して住し、悲俱心を以て普ねく一方乃至十方一切世間に緣じ具足して住し、喜俱心を以て普ねく一方乃至十方一切世間に緣じ具足して住し、捨俱心を以て普ねく一方乃至十方一切世間に緣じ具足して住す。是の菩薩摩訶薩は諸の色想を超え有對想を滅し種種想を思惟せず無邊空空無邊處に入り具足して住し、一切種の空無邊處を超えて無邊識識無邊處に入り具足して住し、一切種の識無邊處を超えて無所有無所有處に入り具足して住し、一切種の無所有處を超えて非想非非想處定に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住し八解脫に於て能く順逆に入り具足して住し、八勝處に於て能く順逆に入り具足して住し、九次第定に於て能く順逆に入り具足して住し、十遍處に於て能く順逆に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は能く空三摩地に入り具足して住し、無相三摩地に入り具足して住し、無願三摩地に入り具足して住し、無間三摩地に入り具足して住し、如電三摩地に入り具足して住し、聖正三摩地に入り具足して住し、金剛喩三摩地に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住し三十七菩提分の法及び道相智を修して皆圓滿せしめ、道相智を用て一切の三摩地を攝受し已て漸次に修して淨觀地種性地第八地見地薄地離欲地已辦地獨覺地を超えて菩薩の正性離生に證入す。既に菩薩

【八】五に靜慮に就て明す。

【九】如來定。如來所得の悟定に入りて無作の妙用を起すこと。

無きが故なり。是の菩薩摩訶薩は勇猛を成就し心精進するが故に諸の有情を饒益する事を作して身命を顧ずと雖も而かも有情に於て都て所得無く、能く修する所の精進波羅蜜多を圓滿すと雖も而かも精進波羅蜜多に於て都て所得無く、能く一切の佛法を圓滿すと雖も而かも佛法に於て都て所得無く、能く一切の佛土を嚴淨すと雖も而かも佛土に於て都て所得無し。是の菩薩摩訶薩は是の如き身心精進を成就し能く一切の惡法を遠離し亦た能く一切の善法を攝受すと雖も而かも取著無し。取著無きが故に一佛土より一佛土に至り、一世界より一世界に至りて諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に示現せんと欲する所の諸の神通事皆能く自在に示現して無礙なり。謂ゆる或は示現して衆の妙花を雨し、或は復た示現して衆の名香を散じ、或は復た示現して諸の伎樂を作し、或は復た示現して大地を震動し、或は復た示現して衆妙の七寶もて世界を莊嚴し、或は復た示現して身より光明を放ち盲冥の衆生悉く開曉を蒙り、或は復た示現して身より妙香を出し諸の臭穢者を皆香潔ならしめ、或は復た示現して大詞記を設け中に於て諸の有情類を惱さず斯の化導に因りて無邊の有情を正道に入らしめ、[七]斷正命を離れ、不與取を離れ、欲邪行を離れ、虛誑語を離れ、離間語を離れ、麁惡語を離れ、雜穢語を離れ、貪欲を離れ、瞋恚を離れ、邪見を離れ、或は布施を以て諸の有情を攝し、或は淨戒を以て諸の有情を攝し、或は安忍を以て諸の有情を攝し、或は精進を以て諸の有情を攝し、或は靜慮を以て諸の有情を攝し、或は般若を以て諸の有情を攝し、諸の有情を饒益せんと欲するが爲の故に或は財寶を捨て、或は妻子を捨て、或は王位を捨て、或は支節を捨て、或は身命を捨て、諸の有情の應に是の如きを以て是の如く方便して饒益し得べきに隨つて卽ち是の如きを以て是の如く方便して之を饒益す。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸相を離るゝ無漏の心力に由りて能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て精進波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿す。

【七】斷正命を離れ等。斷正命を離れ乃至邪見を離れるを十善業道と名く。十善の行業に之れに相應せる善道に趣生するの故なり。

心精進するが故に速に能く諸の〔二〕聖無漏道及び道支所攝の精進波羅蜜多を圓滿す。此れに由りて能く一切不善の身語意業をして起り得るを容るる無からしむ。是の菩薩摩訶薩は(a)終に色の若しは常若しは無常、若しは樂若しは苦、若しは我若しは無我、若しは淨若しは不淨、若しは寂靜若しは不寂靜、若しは遠離若しは不遠離に取著せず亦た受想行識の若しは常若しは無常、若しは樂若しは苦、若しは我若しは無我、若しは淨若しは不淨、若しは寂靜若しは不寂靜、若しは遠離若しは不遠離に取著せず。(a)眼處(ろ)乃至意處。(a)色處(は)乃至法處。(a)眼界(に)乃至意界。(a)色界(ほ)乃至法界。(a)眼識界(へ)乃至意識界。(a)眼觸(と)乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(ち)乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界(り)乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)無明(ぬ)乃至老死愁歎苦憂惱。(a)有爲界、無爲界。(a)欲界、色無色界。(a)有漏界、無漏界。(a)初靜慮、第二第三第四靜慮。(a)慈無量、悲喜捨無量。(a)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非非想處定。(a)四念住(る)乃至八聖道支。(a)空解脫門(を)乃至無願解脫門。(a)布施波羅蜜多(わ)乃至般若波羅蜜多。(a)內空(か)乃至無性自性空。(a)眞如(よ)乃至不思議界。(a)苦聖諦(た)乃至道聖諦。(a)八解脫(れ)乃至十遍處。(a)一切三摩地門、一切陀羅尼門、(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智(そ)乃至一切相智。(a)預流果(つ)乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。是の菩薩摩訶薩は終に是れ預流者、是れ一來者、是れ不還者、是れ阿羅漢、是れ獨覺、是れ菩薩、是れ如來なりと取著せず、亦た是の如き有情は〔三〕見具足せるが故に預流者と名づけ、是の如き有情は〔四〕下結薄きが故に一來者と名づけ、是の如き有情は下結〔五〕盡くるが故に不還者と名づけ、是の如き有情は〔六〕上結盡くるが故に阿羅漢と名づけ、是の如き有情は獨覺道を得るが故に名づけて獨覺と爲し、是の如き有情は道相智を得るが故に名づけて菩薩と爲し、是の如き有情は一切相智を得るが故に名づけて如來と爲すと取著せず。何を以ての故に、取著する所の法及び諸の有情皆自性の取著す可き

【二】聖無漏道。三乘の人の煩惱の垢染を離れたる戒定慧を云ふ、四聖諦中の道聖諦なり。

(a)「終不取著色若常若無常……亦不取著受想行識若常若無常………若遠離若不遠離」

右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下の諸法を代入せば他に皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】見具足。無漏聖道を證見する、その道流に預るを預流と云ひ入見と云ふ。

【四】下結。欲界の結惑を云ふ。これに五結を立て、五下分結と名く。一往來して欲惑盡くべきを云ふ。

【五】下結盡。欲界に還沒せざるが故に不還とす。

【六】上結。色界無色界の結惑なり。これに五結を立て、五上分結と名く。上結盡くれば三界繫縛を離る、が故に阿羅漢(殺賊應供者)となる。

卷の第三百七十七

初分無相無得品第六十六之五

[一]復た次に善現。云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て精進波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏の心を以て精進を修す。是の菩薩摩訶薩は勇猛を成就し身心精進し此れに由りて能く初靜慮に入り具足して住し能く第二第三第四靜慮に入り具足して住す。第四靜慮に依り無量種の神通變現を起し、乃至手を以て日月を摩捫し自在に廻轉し以て難しと爲さず。勇猛を成就し身精進するが故に神通力を以て須臾の頃を經て能く他方無量百千の諸佛世界に至り、復た種種上妙の飲食衣服臥具醫藥香花幡蓋燈明珍財伎樂を以て諸佛世尊を恭敬供養尊重讃歎す。此の善根に由りて果報盡くる無く乃至漸次に無上正等菩提を證得す。此の善根に由りて菩提を得已て復た無量世間の天人阿素洛等の爲に無量種上妙の飲食衣服臥具醫藥香花幡蓋燈明珍財伎樂を以て恭敬供養尊重讃歎す。此の善根に由り般涅槃して後自らの設利羅及び諸の弟子すら猶ほ無量世間の天人阿素洛等に供養恭敬尊重讃歎せらる。是の菩薩摩訶薩は復た神力を以て能く他方無量百千の諸佛世界に至り、諸佛の所に於て正法を聽聞し、聞き已て受持し終に忘失せず乃ち無上正等菩提に至る。是の菩薩摩訶薩は復た神力を以て有情を成熟し佛土を嚴淨し精勤して一切相智を修學す。一切相智圓滿するを得已らば無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じて無量の衆を度す。是の如く善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し勇猛を成就し身精進するが故に能く精進波羅蜜多をして速に圓滿することを得せしむ。善現、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し勇猛を成就し心精進するが故に能く精進波羅蜜多をして速に圓滿することを得せしむるや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し勇猛を成就し

【一】四に精進に就て明す。

滿し、亦た能く眞如(七)乃至不思議界を圓滿し、亦た能く苦集滅道聖諦を圓滿し、亦た能く四靜慮(八)乃至四無色定を圓滿し、亦た能く八解脫(九)乃至十遍處を圓滿し、亦た能く一切三摩地門陀羅尼門を圓滿し、亦た能く五眼、六神通を圓滿し、亦た能く佛の十力四無所畏四無礙解を圓滿し、亦た能く大慈大悲大喜大捨を圓滿し、亦た能く無忘失法、恒住捨性を圓滿し、亦た能く一切智(十)乃至一切相智を圓滿し、亦た能く三十二大士相八十隨好を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は是の如き諸の佛法に安住し已て聖無漏出世に於て一切の聲聞獨覺と共ならず神通皆自在を得。是の如き勝神通に安住し已て是の菩薩摩訶薩は淨天眼を以て恒に十方無邊世界、現在の諸佛の安隱に住持し諸の有情の爲に正法を宣說するを見る。見已て乃至無上正等菩提を證得するに至るまで佛隨念を起して常に間斷無し。是の菩薩摩訶薩は淨天耳を以て恒に十方諸佛の說法を聞き、聞き已て受持し常に忘失せずして諸の有情の爲に如實に宣說す。是の菩薩摩訶薩は淸淨の他心智を以て能く正しく十方諸佛の心心所法を測量し、亦た能く正しく一切の菩薩獨覺聲聞の心心所法を知り、亦た能く正しく一切有情の心心所法を知りて其の應ずる所に隨ひて爲に正法を說かん。是の菩薩摩訶薩は宿住隨念智を以て諸の有情の宿し種ゑし善根の種種の差別を知り、知り已て方便して示現勸導讃勵慶喜して殊勝の利益安樂を獲せしむ。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し善巧方便して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に能く一切相智を具足し無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じて無量の衆を度せん。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸相を離るる無漏の心力に由りて能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て安忍波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿す。

せしむ。要を以て之を言はば、是の菩薩摩訶薩は在在處處に諸の有情の堪能差別に隨ひ方便善巧して其れをして諸の善法の中に安住せしむ。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸相を離るる無漏の心力に由りて能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て淨戒波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿す。

[七]復た次に善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て安忍波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏の心を以て安忍を修す。是の菩薩摩訶薩は初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中假使ひ一切の有情各種種の瓦石刀杖を以て競ひ來て害を加へんも是の菩薩摩訶薩は一念忿恨の心を起さず。爾の時菩薩應に[八]二忍を修すべし。何等をか二と爲す。一には應に一切有情の罵辱加害を受くべけんも忿恨を生ぜずして瞋恚を伏する忍なり。二には應に無生法忍を起すべし。是の菩薩摩訶薩は若しは種種に惡言罵辱せられ或は種種の刀杖もて害を加へらるるも應に審（あきら）かに思惟し籌量し觀察すべし、誰れか能く罵辱し、誰れか能く加害し、誰れか罵辱を受け、誰れか加害を受け、誰れか忿恨を起し、誰れか應に忍受すべきぞと。復た應に一切の法性皆畢竟空なりと觀察すべし、法すら尙ほ得可からず況んや當に法性有るべけんをや、尙ほ法性すら無し況んや有情有らんをやと。是の如く觀ずる時は若しは能罵辱若しは所罵辱・若しは能加害若しは所加害皆有るを見ず乃至分分に身支を割截せんも其の心安忍して都て異念無く、諸の法性に於て如實に觀察し、復た能く無生法忍を證得す。云何が名づけて無生法忍と爲す。謂ゆる煩惱をして畢竟生ぜざらしめ及び諸法畢竟起らずと觀じて微妙の妙慧常に間斷無きなり。是の故に名づけて無生法忍と爲す。是の菩薩摩訶薩は是の如き二種の忍の中に安住して速に能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し、亦た能く四念住乃至八聖道支を圓滿し、亦た能く空無相無願解脫門を圓滿し、亦た能く內空[一〇]乃至無性自性空を圓

【七】三に安忍に就て明す。

【八】二忍。衆生忍と無生法忍を云ふ。

四大王衆天に取著せず亦た三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天に取著せず、梵衆天に取著せず亦た梵輔天梵會天大梵天に取著せず、光天に取著せず亦た少光天無量光天極光淨天に取著せず、淨天に取著せず、亦た少淨天無量淨天遍淨天に取著せず廣天に取著せず亦た少廣天無量廣天廣果天及び無想天に取著せず、無繁天に取著せず亦た無熱天善現天善見天色究竟天に取著せず、空無邊處天に取著せず亦た識無邊處天無所有處天非想非非想處天に取著せず、預流果に取著せず亦た一來不還阿羅漢果獨覺菩提に取著せず、轉輪王位に取著せず亦た諸餘の王位及び諸の宰官富貴の自在なるに取著せず、但だ是の如く護る所の淨戒を以て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無相無得無二を以て方便と爲して廻向する有るのみ。有相有得有二を方便と爲して廻向する有るに非ず、勝義に非ざるが故に。此の因緣に由りて一切の佛法圓滿せざる無し。是の菩薩摩訶薩は此の淨戒波羅蜜多に由りて淸淨方便善巧を圓滿し四靜慮勝進分を起し。味著無きを方便と爲すが故に諸の神通を發さん。是の菩薩摩訶薩は異熟生の淸淨の天眼を用て恒に十方無邊世界、現在の諸佛の安隱に住持し諸の有情の爲に正法を宣說せるを見る。見已て乃至無上正等菩提を證得するまで能く忘失せず。是の菩薩摩訶薩は人に超過せる淸淨の天耳を用て恒に十方諸佛の說法を聞き、聞き已て乃至無上正等菩提を證得するまで能く忘失せず、聞く所の法に隨て能く自他の諸の利樂事を作して空過する者無し。是の菩薩摩訶薩は他心差別智を用て十方の佛及び諸の有情の心心所法を知り、知り已て能く一切有情の諸の利樂事を起さん。是の菩薩摩訶薩は宿住隨念智を用て諸の有情の先に造りし所の業、造りし所の業失壞せざるに由るが故に彼れ彼の處に生じて諸の苦樂を受くるを知り、知り已て爲に本業因緣を說き其れをして憶知せしめて饒益事を作す。是の菩薩摩訶薩は[五]漏盡智を用て有情を安立して或は預流果に住せしめ、或は一來果に住せしめ、或は不還果に住せしめ、或は阿羅漢果に住せしめ、或は獨覺菩提に住せしめ、或は菩薩摩訶薩位に住せしめ、或は[六]阿耨多羅三藐三菩提に住

【五】漏盡智。煩惱滅盡による智見。我儘なき見方。
【六】阿耨多羅三藐三菩提。Anuttara samyak sambodhi 無上等正覺なり。

至十遍處、(r)一切三摩地門、陀羅尼門、(r)五眼、六神通、(r)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法、(r)大慈、大悲大喜大捨、(r)無忘失法、恒住捨性、(r)一切智乃至[二]一切相智、亦た能く三十二大士相八十隨好を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は能く是の如く布施波羅蜜多を圓滿すと雖も而かも施の異熟果を攝受せず。施の異熟果を攝受せずと雖も而かも布施波羅蜜多善清淨なるに由るが故に意に隨て能く一切の財物を辦ず。譬へば他化自在の諸天一切の須つ所、意に隨ひて皆現ずるが如く是の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。諸の須つ所有るは意に隨ひて能く辦ず。此の布施に由りて勢力を增上し能く種種上妙の供具を以て諸佛世尊を供養恭敬尊重讚歎し、亦た能く世間の天人阿素洛等の欲する所の資具を充足す。是の菩薩摩訶薩は此の布施波羅蜜多に由りて諸の有情を攝し方便善巧して三乘の法を以て之を安立し、宜しき所に隨て各利樂を得せしむ。是の如く善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の相を離るる無漏の心力に由りて能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て布施波羅蜜多を圓滿し亦た能く諸餘の功德を圓滿す。

[三]復た次に善現、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く一切の無相無覺無得無影無作の法の中に於て淨戒波羅蜜多を圓滿するや。善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏の心を以て淨戒を受持す。所謂[四]聖無漏道支所攝法爾所得善清淨戒なり。是の如き淨戒は缺無く隙無く瑕無く穢無く取著する所無し。應に供養を受け、智智の讚むる所妙善受持し妙善究竟し勝定に隨順して屈伏す可からざるべし。此の淨戒に由らば一切法に於て取著する所無し。謂ゆる色に取著せず亦た受想行識に取著せず、眼處に取著せず亦た耳鼻舌身意處に取著せず、色處に取著せず亦た聲香味觸法處に取著せず、眼界に取著せず耳鼻舌身意界に取著せず、色界に取著せず亦た聲香味觸法界に取著せず、眼識界に取著せず亦た耳鼻舌身意識界に取著せず、三十二大士相に取著せず亦た八十隨好に取著せず、刹帝利大族に取著せず亦た婆羅門大族長者大族居士大族に取著せず、

【三】二に淨戒に就て明す。

【四】聖無漏等。無漏の聖道に屬する自然に得らるゝ善淨戒なり、隨犯隨制の律儀に同じからず。

如き施を爲さば今世後世諸の苦惱多しと訶毀せんも是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるが故に其の言を聞くと雖も而かも退屈せず。但だ是の念を作すのみ、彼の人來りて我れを訶毀すと雖も而かも我れ心に憂悔を生ずべからず、我れ當に勇猛に諸の有情の須つ所の財物を施し身心倦むこと無かるべしと。是の菩薩摩訶薩は此の施福を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて是の如く布施し及び廻向する時其の相を見ず、所謂誰れが施し、誰れが受け、施す所何物なる、何に於て施し、何に由りて施し、何の爲の故に施し、云何が施を行ずるかを見ず、亦復た誰れか能く廻向し、何所に廻向し何に於て廻向し、何に由りて廻向し、何の爲に廻向し、云何が廻向なるかを見ず。是の如き等の一切の事物に於て皆悉く見ざるなり。何を以ての故に、是の如き諸法は或は內空に由るが故に空、或は外空に由るが故に空、或は內外空に由るが故に空、或は空空に由るが故に空、或は大空に由るが故に空、或は勝義空に由るが故に空、或は有爲空に由るが故に空、或は無爲空に由るが故に空、或は畢竟空に由るが故に空、或は無際空に由るが故に空、或は散空に由るが故に空、或は無變異空に由るが故に空、或は本性空に由るが故に空、或は自相空に由るが故に空、或は共相空に由るが故に空、或は一切法空に由るが故に空、或は不可得空に由るが故に空、或は無性空に由るが故に空、或は自性空に由るが故に空、或は無性自性空に由るが故に空なればなり。是の菩薩摩訶薩は一切法空ならざる無しと觀じ已て復た是の念を作す、誰れか能く廻向し、何所に廻向し、何に於て廻向し、何に由りて廻向し、何の爲に廻向し、云何が廻向なる、是の如き等の法は皆得可からずと。是の菩薩摩訶薩の是の如き觀及び是の如き念に由りて作す所の廻向を善廻向離毒廻向と名づけ、亦た悟入法界廻向と名づく。此れに由りて復た能く佛土を嚴淨し有情を成熟し、(r)亦た能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し、(r)四念住乃至八聖道支、(r)空無相無願解脫門、(r)內空乃至無性自性空、(r)眞如乃至不思議界、(r)苦集滅道聖諦、(r)四靜慮乃至四無色定、(r)八解脫乃

(r)「亦能圓滿布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の(q)の場合と同方法により以下略出す。

一切智乃(三)至一切相智。

善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て三十二大士相八十隨好を引かん、所謂我れ能く三十二大士相八十隨好を引く、我れ能く此れを捨し此れに於て此れに由り此れが爲にすと見ざるなり。是の如く三十二大士相八十隨好を引かば是の離相無漏心の中に住し染無く著無くして三十二大士相八十隨好を引くなり。爾の時引く所の三十二大士相八十隨好を見ず、亦復た此の無漏心を見ず乃至一切の佛法を見ず。是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して三十二大士相八十隨好を引くなりと。

一爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時一切の無相無覺無得無影無作法の中に於て(q)云何が能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し、(q)四念住乃(三)至八聖道支、(q)空無相無願解脫門、(q)內空乃(三)至無性自性空、(q)眞如乃(三)至不思議界、(q)苦集滅道聖諦、(q)四靜慮乃(三)至四無色定、(q)八解脫乃(三)至十遍處、(q)一切三摩地門陀羅尼門、(q)五眼六神通、(q)佛十力四無所畏四無礙解十八佛不共法、(q)大慈大悲大喜大捨、(q)無忘失法、恒住捨性、(q)一切智乃(三)至一切相智、云何が能く三十二大士相八十隨好を圓滿するやと。二佛善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時能く離相無漏心を以て布施を行じ、若し諸の有情の食を須つには食を與へ、飮を須つには飮を與へ、衣服を須つには衣服を與へ、臥具を須つには臥具を與へ、車乘を須つには車乘を與へ、僮僕を須つには僮僕を與へ、珍寶を須つには珍寶を與へ、財穀を須つには財穀を與へ、香華を須つには香華を與へ、舍宅を須つには舍宅を與へ、莊嚴具を須つには莊嚴具を與へ、乃至彼の須つ所に隨て資具悉く皆施與す。若し內頭目髓腦皮肉支節筋骨身命を須つこと有らば亦た皆施與し、若し外國城妻子愛する所の親屬種種の莊嚴を須つこと有らば歡喜して施與す。是の如く施す時、設ひ人有り來りて現前に、咄なる哉大士、何すれぞ此の益無き施を行ずるを用ふるや、是の

【一】菩薩無相無作法中に於て六度諸法を圓滿することを詳說す。
(q)「云何能圓滿布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「六度」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(q)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【二】一に布施に就て明す。

の中に住し染無く著無くして精進波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の精進を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず。是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して精進波羅蜜多を行ずるなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て靜慮波羅蜜多を修行せん、所謂我れ能く定を修す、我れ能く此れを捨し、此れに於て定を修し、此れに由りて定を修し、此れが爲に定を修すと見ざるなり。是の如く定を修せば是の離相無漏心の中に住し染無く著無くして靜慮波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の靜慮を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず、是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して靜慮波羅蜜多を行ずるなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て般若波羅蜜多を修行せん、所謂我れ能く慧を修す、我れ能く此れを捨し、此れに於て慧を修し、此れに由りて慧を修し、此れが爲に慧を修すと。是の如く慧を修せば是の離相無漏心の中に住し染無く著無くして般若波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の般若を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず、是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して般若波羅蜜多を行ずるなり。

(p)善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て四靜慮四無量四無色定を修行せん、所謂我れ能く四靜慮四無量四無色定を修するを見ず、我れ能く此れを捨し、此れ於て此れに由り此れが爲にすと見ざるなり。是の如く四靜慮四無量四無色定を修せは是の離相無漏心の中に住し染無く著無くして四靜慮四無量四無色定を修するなり。爾の時修する所の四靜慮四無量四無色定を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず、是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して四靜慮四無量四無色定を修するなり。(p)四念住乃至八聖道支。(p)空解脫門乃至無願解脫門。(p)苦聖諦乃至道聖諦。(p)八解脫乃至十遍處。(p)一切三摩地門、陀羅尼門。(p)內空乃至無性自性空。(p)眞如乃至不思議界。(p)五眼、六神通。(p)佛十力四無所畏四無礙解。(p)大慈大悲大喜大捨。(p)無忘失法、恒住捨性。(p)

(p)「善現若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多時以離想修行四靜慮四無量四無色定……如是菩薩摩訶薩住無漏心而修四靜慮四無量四無色定」
右の文中「四靜慮乃至四無色定」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(p)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空、眞如、若聖諦」のみは「修行四靜慮」等とある所を「住內空」等と改め「能修」「如是修」「而修」「所修」止る所を夫夫「能住」「如是住」「而住」「所住」と改むるものとす。

(一)如乃至不思議界。(○)五眼、六神通。(○)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(○)大慈、大悲大喜大捨。(○)無忘失法、恒住捨性。(○)一切智乃至(三)一切相智。世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するが故に三十二大士相を引く時無漏心に住して三十二大士相を引き、八十隨好を引く時無漏心に住して八十隨好を引くやと。佛善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て布施波羅蜜多を修行せん、所謂我れ能く施を行す、我れ能く此れを捨す、此れに於て施を行じ、此れに由るが故に施し、此れが爲の故に施すと見ざるなり。是の如く施を行ぜば是の離相無漏心の中に住して愛を離れ慳を離れて布施波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の布施を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず。是の如く菩薩摩訶薩は無漏心に住して布施波羅蜜多を行ず。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て淨戒波羅蜜多を修行せん、所謂我れ能く持戒す、我れ能く此れを捨し、此れに於て持戒し、此れに由りて持戒し、此れが爲に持戒すと見ざるなり。是の如く持戒せば是の離相無漏心の中に住して染無く苦無くして淨戒波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の淨戒を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず。是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して淨戒波羅蜜多を行ずるなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心に以て安忍波羅蜜多を修行せん、所謂我れ能く忍を修す、我れ能く此れを捨し、此れに於て忍を修し、此れに由りて忍を修し、此れが爲に忍を修すと見ざるなり。是の如く忍を修せば是の離相無漏心の中に住し染無く著無くして安忍波羅蜜多を行ずるなり。爾の時行ずる所の安忍を見ず、亦復た此の無漏心を見ず、乃至一切の佛法を見ず。是の如き菩薩摩訶薩は無漏心に住して安忍波羅蜜多を行ずるなり。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時離相心を以て精進波羅蜜多を修行せん。所謂我れ能く精進す、我れ能く此れを捨し、此れに於て精進し、此れに由りて精進し、此れが爲に精進すと見ざるなり。是の如く精進せば是の離相無漏心

智。(m)三十二大士相、八十隨好。

復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するが故に若し布施波羅蜜多を行ずる時は無漏心に住して布施波羅蜜多を行じ、若しは淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時は無漏心に住して淨戒乃至般若波羅蜜多を行ず。是の故に布施乃至般若波羅蜜多を行ずと雖も、而かも二想無し。(n)善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するが故に若し四靜慮を修する時は無漏心に住して四靜慮を修し、若し四無量四無色定を修する時は無漏心に住して四無量四無色定を修す。是の故に四靜慮四無量四無色定を修すと雖も而かも二想無し。(n)四念住乃至八聖道支。(n)空解脫門乃至無願解脫門。(n)苦聖諦乃至道聖諦。(n)八解脫乃至十遍處。(n)一切三摩地門、一切陀羅尼門。

卷の第三百七十六

初分無相無得品第六十六之四

(n)內空乃至無性自性空。(n)眞如乃至不思議界。(n)五眼、六神通。(n)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(o)大慈、大悲大喜大捨。(n)無忘失法、恒住捨性。(n)一切智乃至一切相智。(n)三十二大士相、八十隨好。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するが故に布施波羅蜜多を行ずる時無漏心に住して布施波羅蜜多を行じ、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時無漏心に住して淨戒乃至般若波羅蜜多を行ずるや。(o)世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するが故に四靜慮を修する時無漏心に住して四靜慮を修し、四無量四無色定を修する時無漏心に住して四無量四無色定を修するや。(o)四念住乃至八聖道支。(o)空解脫門乃至無願解脫門。(o)苦聖諦乃至道聖諦。(o)八解脫乃至十遍處。(o)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(o)內空乃至無性自性空。(o)眞

【一】菩薩離相無漏心に住して六度諸法を行ずるを說く。

(n)「善現是菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多故若修四靜慮時住無漏心而修四靜慮若修四無量四無色定時住無漏心而修四無量四無色定是故雖修四靜慮四無量四無色定而無二想」右の文中「四靜慮乃至四無色定」のある所に次下の諸法を代入せば他の皆同文なり故に之を符號(n)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「若修」又は「雖修」とある所を「若住」「雖住」とし「三十二大士相」は「差引」「雖引」と改むるものとす。

(n) 前卷と同意。

(o)「世尊云何菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多故修四靜慮時住無漏心而修四靜慮修四無量四無色定時住無漏心而修四無量四無色定」右も(n)と全く同方法により以下諸法のみ略出す。「修四靜慮」等とある所は同じく(n)の如く「內空、眞如苦聖諦」のみは「住內空」等と改むるものとす。

(m)善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿せんと欲するが爲の故に卽ち淨戒乃至般若波羅蜜多の中に於て一切の布施乃至般若波羅蜜多を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の四靜慮乃至四無色定を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の四念住乃至八聖道支を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の空無相無願解脫門を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の苦集滅道聖諦を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の八解脫乃至十遍處を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の三摩地門陀羅尼門を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の內空乃至無性自性空を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の眞如乃至不思議界を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の五眼、六神通を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の佛十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の大慈大悲大喜大捨を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の無忘失法、恒住捨性を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の一切智乃至一切相智を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行じ、一切の三十二大士相八十隨好を攝受して淨戒乃至般若波羅蜜多を行ず。是の因緣に因りて二想無し。

(m)四靜慮乃至四無色定。(m)四念住乃至八聖道支。(m)空解脫門乃至無願解脫門。(m)苦聖諦乃至道聖諦。

(m)八解脫乃至十遍處。(m)一切三摩地門。

卷の第三百七十五

初分無相無得品第六十六之三

(m)一切陀羅尼門。(m)內空乃至無性自性空。(m)眞如乃至不思議界。(m)五眼、六神通。(m)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(m)大慈、大悲大喜大捨。(m)無忘失法、恒住捨性。(m)一切智乃至一切相

(m)「善現菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多時爲欲圓滿淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多故卽於淨戒乃至般若波羅蜜多中……
……由是因緣而無二想」
右の文中「淨戒乃至般若波羅蜜多」のある所に次下に出す諸法を六度の場合の如く夫々代入せば他は皆同文なる故之を符號(m)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(m)前卷と同意。

羅尼門。(k)內空乃至無性自性空。(k)眞如乃至不思議界。(k)五眼、六神通。(k)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(k)大慈、大悲大喜大捨。(k)無忘失法、恒住捨性。(k)一切智乃至一切相智。引く所の三十二大士相皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に二想を遠離し、引く所の八十隨好皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に二想を遠離すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時(l)布施波羅蜜多を行ずと雖も而かも二想無く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずと雖も而かも二想無く、(l)四靜慮乃至四無色定、(l)四念住乃至八聖道支、(l)空解脫門乃至無願解脫門、(l)苦聖諦乃至道聖諦、(l)八解脫乃至十遍處、(l)一切三摩地門、一切陀羅尼門、(l)內空乃至無性自性空、(l)眞如乃至不思議界、(l)五眼、六神通、(l)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法、(l)大慈、大悲大喜大捨、(l)無忘失法、恒住捨性、(l)一切智乃至一切相智、三十二大士相を引くと雖も而かも二想無く八十隨好を引くと雖も而かも二想無きやと。

佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時布施波羅蜜多を圓滿せんと欲するが爲の故に卽ち布施波羅蜜多の中に於て一切の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受して布施を行じ、一切の四靜慮乃至四無色定を攝受して布施を行じ、一切の四念住乃至八聖道支を攝受して布施を行じ、一切の空無相無願解脫門を攝受して布施を行じ、一切の苦集滅道を攝受して布施を行じ、一切の八解脫乃至十遍處を攝受して布施を行じ、一切の三摩地門、陀羅尼門を攝受して布施を行じ、一切の內空乃至無性自性空を攝受して布施を行じ、一切の眞如乃至不思議界を攝受して布施を行じ、一切の五眼、六神通を攝受して布施を行じ、一切の佛十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を攝受して布施を行じ、一切の大慈大悲大喜大捨を攝受して布施を行じ、一切の無忘失法恒住捨性を攝受して布施を行じ、一切の一切智乃至一切相智を攝受して布施を行じ、一切の三十二大士相八十隨好を攝受して布施を行ず、足の因緣に由りて二想無し。

(l)「雖行布施波羅蜜多而無二想雖行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多而無二想」右も(k)の全く同方法によりて以下略す「雖行」とある所を「內空眞如苦聖諦」の三は「雖住」他は皆「雖修」とすることを亦た(k)に同じ。

若波羅蜜多を離れずんば皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲る。善現、是の如く菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一刹那の心則ち能く布施乃至般若波羅蜜多を具攝し、亦た能く四念住乃至八聖道支を具攝し、亦た能く空無相無願解脱門を具攝し、亦た能く苦集滅道聖諦を具攝し、亦た能く八解脱乃至十遍處を具攝し、亦た能く一切三摩地門一切陀羅尼門を具攝し、亦た能く內空乃至無性自性空を具攝し、亦た能く眞如乃至不思議界を具攝し、亦た能く五眼六神通を具攝し、亦た能く佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を具攝し、亦た能く大慈大悲大喜大捨を具攝し、亦た能く無忘失法恒住捨性を具攝し、亦た能く一切智乃至一切相智を具攝し、亦た能く三十二大士相八十隨好を具攝すと。

二 具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時諸の所作有るは般若波羅蜜多を離れず常に般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に一刹那の心則ち能く布施乃至般若波羅蜜多を具攝し、亦た能く四靜慮乃至四無色定を具攝し、亦た能く四念住乃至八聖道支を具攝し、亦た能く空解脱門乃至無願解脱門を具攝し、亦た能く苦集滅道聖諦を具攝し、亦た能く八解脱乃至十遍處を具攝し、亦た能く一切三摩地門一切陀羅尼門を具攝し、亦た能く內空乃至無性自性空を具攝し、亦た能く眞如乃至不思議界を具攝し、亦た能く五眼、六神通を具攝し、亦た能く佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を具攝し、亦た能く大慈大悲大喜大捨を具攝し、亦た能く無忘失法、恒住捨性を具攝し、亦た能く一切智乃至一切相智を具攝し、亦た能く三十二大士相八十隨好を具攝するやと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時(k)行ずる所の布施波羅蜜多皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に二想を遠離し、行ずる所の淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に二想を遠離す。(k)四念住乃至八聖道支。(k)空解脱門乃至無願解脱門。(k)苦聖諦乃至道聖諦。(k)八解脱乃至十遍處。(k)一切三摩地門、一切陀

【二】 六度諸法般若に攝受さるるの故に二想を遠離するを明す。

(k)「所行布施波羅蜜多皆爲般若波羅蜜多所攝受故遠離二想所行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多皆爲般若波羅蜜多所攝受故遠離二想」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なる故に之を符號(k)にて略し以下諸法のみ略出す但し「所行」とある所を「內空、眞如、不思議界」のみは「所住」とし他は皆「所修」と改むるものとす。

を行ずべし。善現、若し菩薩摩訶薩是の如き無所得の般若波羅蜜多を行ぜば一切の惡魔及び彼の眷屬皆壞すること能はずと。

(六)爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一心に布施乃至般若波羅蜜多を具攝し、亦た能く四靜慮乃至四無色定を具攝し、亦た能く四念住乃至八聖道支を具攝し、亦た能く空無相無願解脫門を具攝し、亦た能く苦集滅道聖諦を具攝し、亦た能く八解脫乃至十遍處を具攝し、亦た能く一切三摩地門一切陀羅尼門を具攝し、亦た能く內空乃至無性自性空を具攝し、亦た能く眞如乃至不思議界を具攝し、亦た能く五眼六神通を具攝し、亦た能く佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を具攝し、亦た能く大慈大悲大喜大捨を具攝し、亦た能く無忘失法、恒住捨性を具攝し、亦た能く一切智乃至一切相智を具攝し、亦た能く三十二大士相八十隨好を具攝するやと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時、(j)行ずる所の布施波羅蜜多、般若波羅蜜多を離れずんば皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲り、行ずる所の淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多、般若波羅蜜多を離れずんば皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲る。(j)四靜慮乃至四無色定。(j)四念住乃至八聖道支、(j)空解脫門乃至無願解脫門。(j)苦聖諦乃至道聖諦。(j)八解脫乃至十遍處。(j)一切三摩地門、一切陀羅尼門。

卷の第三百七十四

初分無相無得品第六十六之二

(j)內空乃至無性自性空。(j)眞如乃至不思議界。(j)五眼、六神通。(j)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(j)大慈、大悲大喜大捨。(j)無忘失法、恒住捨性。(j)一切智乃至一切相智。引く所の三十二大士相 般若波羅蜜多を離れずんば皆般若波羅蜜多の攝受する所と爲り、引く所の八十隨好般

【六】一心に六度萬行を具攝する義を明す。

(j)「所行布施波羅蜜多不離般若波羅蜜多皆爲般若波羅蜜多之所攝受所行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多不離般若波羅蜜多皆爲般若波羅蜜多之所攝受」

右の文中「六度」のある所に次下の諸法を代入して略すこと(j)の場合に同じ但し「所行」とある所は「內空、眞如、苦聖諦」のみは「所住」とし他は皆「所修」と改むるものとす。

(j) 前卷と同意。

【一】般若を離れずんば。般若を遠離せざれば諸法無礙にして一心中に萬德を行ずるなり。

此れに由るが故に菩薩摩訶薩の無生法忍有るを得、即ち此れに由るが故に異熟生の神通有るを得、即ち此れに由るが故に異熟生の布施(二)乃至般若波羅蜜多有るを得、即ち此れに由るが故に菩薩摩訶薩是の如き異熟生の法に安住して有情を成熟し佛土を嚴淨し諸の佛所に於て上妙の飲食衣服華鬘塗散等の香車乘瓔珞寶幢幡蓋房舍臥具伎樂燈明及び餘の種種の人天の資具を恭敬供養し乃ち無上正等菩提に至るまで獲る所の善根、果と與に盡くる無く展轉して乃至般涅槃して後自らの設利羅及び諸の弟子すら猶ほ種種の供養恭敬を得、善根の勢力仍ち未だ滅盡せざること有るを得るなりと。(五)爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無所得なれば布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び諸の神通は何の差別か有らんと。佛言はく、善現、無所得なれば布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び諸の神通皆差別無し、彼の有所得者をして染著を離れしめんと欲するが爲の故に方便して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び諸の神通差別相有りと宣說するのみと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に無所得なれば布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多及び諸の神通皆差別無きやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時布施を得ず、施者を得ず、受者を得ず、所施を得ずして而かも布施を行じ、淨戒を得ずして而かも淨戒を護り、安忍を得ずして而かも安忍を修し、精進を得ずして而かも精進を修し、靜慮を得ずして而かも靜慮を修し、般若を得ずして而かも般若を修し、神通を得ずして而かも神通を修し、(i)四念住を得ずして而かも四念住を修し四正斷(二)乃至八聖道支を得ずして四正斷乃至八聖道支を修し、(i)空解脫門乃至無願解脫門。(i)四靜慮(二)乃至四無色定。(i)八解脫(二)乃至十遍處。(i)一切三摩地門。一切陀羅尼門。(i)菩薩の十地、五眼、(i)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(i)大慈、大悲大喜大捨。(i)無忘失法、恒住捨性、(i)一切智(二)乃至一切相智。有情を得ずして有情を成熟し佛土を得ずして佛土を嚴淨し、一切の佛法を得ずして無上正等菩提を證す。善現、菩薩摩訶薩は應に是の如き無所得の般若波羅蜜多

【五】一切法無所得の故に六度各各差別なし、差別あるは唯方便のみなることを說く。

(i)「不得四念住而修四念住不得四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道而修四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支」右の文中「四念住乃至八聖道支」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(i)にて略し以下その諸法のみ略出す。

初分[一] 無相無得品第六十六之一

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲さば菩薩摩訶薩は何等の義を見て諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を求趣するやと。佛言はく、善現、一切法皆無性を以て自性と爲すを以ての故に菩薩摩訶薩は諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を求趣す。何を以ての故に、善現、諸の有情類は斷常の見を具し有所得に住し調伏す可きこと難く、愚癡にして顚倒し解脫す可きこと難ければなり。善現、有所得に住する者は有所得想に由りて得無く現觀無く亦た無上正等菩提無しと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、無所得の者は得有り現觀有り無上正等菩提有りと爲すや不やと。佛言はく、善現、若し無所得なれば卽ち是れ得、卽ち是れ現觀、卽ち是れ無上正等菩提なり。法界を壞せざるを以ての故に。善現、若し是の無所得の中に於て有所得を欲し現觀を得んと欲し無上正等菩提を得んと欲すること有らば當に知るべし彼れ法界を壞せんと欲すと爲すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し無所得卽ち是れ得、卽ち是れ現觀、卽ち是れ無上正等菩提なれば無所得の中には得無く現觀無く亦た無上正等菩提無き者なり。云何が菩薩摩訶薩の極喜地乃至法雲地有るを得、云何が菩薩摩訶薩の無生法忍有るを得、云何が[三]異熟生の神通有るを得、云何が異熟生の布施乃至般若波羅蜜多有るを得、云何が菩薩摩訶薩是の如き異熟生の法に安住して有情を成熟し佛土を嚴淨し諸の佛所に於て上妙の飲食衣服華鬘塗散等の香車乘瓔珞寶幢幡蓋房舍臥具妓樂燈明及び餘の種種の人天の資具を恭敬供養して獲る所の善根乃ち無上正等菩提に至るまで果と與に盡くる無く展轉して乃至般涅槃して後自らの[四]設利羅及び諸の弟子猶ほ種種の供養恭敬を得、善根の勢力仍ち未だ滅盡せざること有るを得るやと。佛言はく善現、一切法無所得なるを以ての故に菩薩摩訶薩の極喜地乃至法雲地有るを得、卽ち

【一】無性の故に定相なく別得なし、無相無得とす。

【二】無所得卽ち道果たるを明す。

【三】異熟生。異熟果に同じ。

【四】設利羅。舍利の新譯。佛の身骨を云ふも或は總じて死屍に名くるなり。

故に戒を破し見を破し威儀を破し[一六]淨命を破す、戒見威儀淨命を破するに由りて當に地獄傍生鬼界に墮し諸の劇苦を受け生死に輪廻して解脱すること得難かるべし。我れ未來を觀ずるに當に是の如き怖畏す可き事有るべし。故に如來應正等覺に是の如き深義を問ひたてまつる。然かも我れ此れに於て惑無く疑無しと。佛言はく、善現、善哉善哉、是の如し是の如し、汝が所説の如し、一切法皆無性を以て自性と爲す中に於ては有性無性倶に得可からず、此れに於て有無の性に執すべからずと。

【一六】淨命。淸淨の活命即ち正命なり。八正道の一にて身口意の三業を淸淨にし正　に順ひ五の邪命を離るるを云ひ、本來は正しき治業、渡世の法なり。

菩提、(g)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、應に佛無く亦た法僧も無かるべし、應に道無く亦た果も無かるべく、應に雜染無く亦た清淨も無かるべく、應に行無く亦た得無く現觀無かるべく乃至一切法皆應に是れ無かるべしと。佛言はく、善現、汝が意に於て云何、一切法に於て皆無性を以て自性と爲す中、有性無性得可しと爲すや不やと。善現、答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、一切法に於て皆無性を以て自性と爲す中、有性無性倶に得可からずと。佛言はく、善現、若し一切法皆無性を以て自性と爲す中、有性無性倶に得可からずんば云何が汝今是の問ひを爲す可けんや。若し一切法皆無性を以て自性と爲さば則ち(h)應に色無く亦た受想行識無かるべく、(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界。(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受、(h)地界乃至識界。(h)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)四念住乃至八聖道支。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)極喜地乃至法雲地。(h)五眼、六神通。(h)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(h)大慈、大悲大喜大捨。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(h)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提、應に佛無く亦た法僧無かるべく、應に道無く亦た果無かるべく、應に雜染無く亦た清淨無かるべく、應に行無く亦た得無く現觀無かるべく乃至一切法皆應に是れ無かるべしと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、我れ是の法に於て惑無く疑無し。然かも當來世に[一五]苾芻等の或は聲聞乘を求め或は獨覺乘を求め或は菩薩摩訶薩乘を求むる有りて彼れ是の說を作さん、佛は一切法皆無性を以て其の自性と爲すと說きたまへり。若し一切法皆無性を以て自性と爲さば誰れか染、誰れか淨、誰れか縛、誰れか解なると。彼れ染淨に於て及び縛解に於て了知せざるが

(h)「應無色亦無受想行識」右も(g)の場合と同方法により以下略出す。

【一五】苾芻(Bhikṣu)。比丘なり。

自性と爲すと覺す。中に於ては尙ほ少念すら得可き無し。(f)況んや念色念受想行識有らんをや。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多(f)內空乃至無性自性空。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(f)空解脫門乃至無願解脫門(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼、六神通。(f)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(f)大慈、大悲大喜大捨。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(f)一切菩薩摩訶薩行、諸佛無上正等菩提。是の如き諸念及び所念法若し少しにても實有りとせば是の處有ること無し。善現、是の如く菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも其の中に於ては所有る一切の心所行業、心所行學、心所行行皆悉く轉ぜず、一切法皆無性を以て自性と爲すを以ての故にと。

一四 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲さば則ち(g)應に色無く亦た受想行識無かるべく。(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)內空乃至無性自性空。(g)四念住乃至八聖道支。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(g)空解脫門乃至無願解脫門、(g)極喜地乃至法雲地、(g)五眼、六神通、(g)佛十力、四無所畏無礙十八佛不共法、(g)大慈、大悲大喜大捨、(g)無忘失法、恒住捨性、(g)一切智乃至一切相智、(g)預流果乃至阿羅漢果獨覺

(f)「況有念色念受想行識」一右の文中五蘊の處に次下の諸法を代入して略すること(e)の場合の如し。

【一四】 善現諸法自性無性と爲さば無道無果なりやと問ふに對し、佛擘躪の見證する所實有等とすべきやを反問す。(g)「應無色亦無受想行識」右も(f)の場合と同方法により以下略出す。

んや念捨有らんをや。

三

善現、云何が天隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時無性を以て自性と爲す方便力の故に天隨念を修して預流等を觀じ四大王衆天或は三十三天或は夜摩天或は覩史多天或は樂變化天或は他家自在天に生ずと雖も而かも得可からず思惟すべからず。不還等を觀じ色界天或は無色界天に生ずと雖も而かも得可からず思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き諸天は皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを天隨念と爲せばなり。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く天隨念を修すべし。若し是の如く天隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如く漸次業を作し是の如く漸次學を修し是の如く漸次行を行ずる時は則ち能く四念住を圓滿し……[三]善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く天隨念を修すべし、謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況んや念天有らんをやと。善現、是れを菩薩摩訶薩六隨念を修するに依り漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずるを圓滿せんと欲するが爲に(e)無性を以て自性と爲す方便力の故に應に內空を學すべし應に外空乃至無性自性空を學すべし。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)布施波羅蜜多乃至般若方便善巧願力智波羅蜜多。(e)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(e)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(e)大慈・大悲大喜大捨。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切三摩地門、一切陀羅尼門。善現、是の菩薩摩訶薩是の如く菩提道を修學する時は一切法皆無性を以て其の

【三】六に天隨念に就て明す。

【三】以下(甲)に同じ。

(e)「以無性爲自性方便力故應學內空應學外空…………無性自性空」右の「內空乃至無性自性空」の ある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

無くして應に供養を受け、智者の讃むる所、妙善受持し妙善究竟し勝定に隨順して此の戒を思惟し無性を以て自性と爲すべし。此の因緣に由りて思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き淨戒は都て自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを戒隨念と爲せばなり。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く戒隨念を修すべし。若し是の如く戒隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、是の菩薩摩訶薩是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずる時は則ち能く四念住を圓滿し………[九]

善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く戒隨念を修すべし、謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況んや念戒有らんをや。

[一〇]善現、云何が菩薩摩訶薩は捨隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時無性を以て自性と爲す方便力の故に捨隨念を修す。若しは捨財若しは捨法倶に心を起さず、我れ施し我れ施さず、我れ捨し我れ捨せずと。若し所有る身分支節を捨するも亦た心を起さず、我れ施し我れ施さず、我れ捨し我れ捨せずと。亦た捨する所與ふる所及び捨施の福を思惟せず。何を以ての故に、善現、是の如き諸法は皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを捨隨念と爲せばなり。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く捨隨念を修すべし。若し是の如く捨隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずる時は則ち能く四念住を圓滿し……
……[一一]

善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く捨隨念を修すべし、謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況

【九】以下（甲）に同じ。

【一〇】五に捨隨念に就て明す。

【一一】以下（甲）に同じ。

皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを法隨念と爲せばなり。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く法隨念を修すべし。若し是の如く法隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、是の菩薩摩訶薩是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずる時は則ち能く四念住を圓滿し………[三]

善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く法隨念を修すべし。謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況んや念法有らんをや。

[四]善現、云何が菩薩摩訶薩僧隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の念を作すべし。佛の弟子衆は淨戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊を具するも[五]四雙八隻の補特伽羅は一切皆是れ無性にして顯はす所皆無性を以て其の自性と爲す、是の因緣に由りて思惟すべからずと。何を以ての故に、善現、佛の弟子衆は皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し、若し所有無くんば則ち念す可からず。何には何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを僧隨念と爲せばなり。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く僧隨念を修すべし。若し是の如く僧隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、是の菩薩摩訶薩是の如く漸次業を作し漸次學を作し漸次行を行ずる時は則ち能く四念住を圓滿し……[六]

善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く僧隨念を修すべし、謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況んや念僧有らんをや。

[七]善現、云何が菩薩摩訶薩戒隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで恒に[八]淨戒に住し缺無く隙無く瑕無く穢無く取著する所

【三】以下前卷(甲)に同じ。

【四】三に僧隨念に就て明す。

【五】四雙八隻の補特伽羅。阿含には人天沙門婆羅門魔梵比丘比丘尼を云ひ、又此には小乘の四向四果の聖者を云ふ。

【六】以下(甲)に同じ。

【七】四に戒隨念に就て明す。

【八】淨戒に住し等。淨戒などすべて無所得の無盡淸淨の戒を念ずるなり。

處定を圓滿し、則ち能く八解脫を圓滿し亦た能く八勝處九次第定十遍處を圓滿し、則ち能く一切三摩地門を圓滿し亦た能く一切陀羅尼門を圓滿し、則ち能く布施波羅蜜多を圓滿し亦能く淨戒乃至般若波羅蜜多を圓滿し、則ち能く內空を圓滿し亦た能く外空乃至無性自性空を圓滿し、則ち能く眞如を圓滿し、亦た能く法界乃至不思議界を圓滿し、則ち能く五眼を圓滿し亦た能く六神通を圓滿し、則ち能く佛十力を圓滿し亦た能く四無所畏四無礙解十八佛不共法を圓滿し、則ち能く大慈を圓滿し亦た能く大悲大喜大捨を圓滿し、則ち能く無忘失法を圓滿し亦た能く恒住捨性を圓滿し、則ち能く一切智を圓滿し亦た能く道相智一切相智を圓滿し、此れに由りて一切智智を證得す。善現、是の菩薩摩訶薩は無性を以て自性と爲す方便力の故に一切法皆自性無しと覺り其の中有想無く亦復た無想無し。善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く佛隨念を修すべし、謂ゆる其の中に於ては尙ほ少念すら無し況んや念佛有らんをや。

卷の第三百七十三

初分三漸次品第六十五之二

[一]善現、云何が菩薩摩訶薩は法隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時善法を思惟すべからず、不善法を思惟すべからず、無記法を思惟すべからず、世間法を思惟すべからず、出世間法を思惟すべからず、有愛染法を思惟すべからず、無愛染法を思惟すべからず、有諍法を思惟すべからず、無諍法を思惟すべからず、聖法を思惟すべからず、非聖法を思惟すべからず、有漏法を思惟すべからず、無漏法を思惟すべからず、[二]欲界繋法を思惟すべからず、色界繋法を思惟すべからず、無色界繋法を思惟すべからず、有墮法を思惟すべからず、無墮法を思惟すべからず、有爲法を思惟すべからず、無爲法を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き諸法は

【一】二に法隨念に就て明す。法相分別これ佛敎とするを斥く、諸法無性なればなり。

【二】欲界繋法等。諸法を三界に分て欲界、色界、無色界に繋屬する法をそれぞれ欲界繋法、色界繋法、無色界繋法となす。

る無き、是れを佛道念と爲せばなり。

三〇 復た次に善現、菩薩摩訶薩は戒蘊を以て如來應正等覺を思惟すべからず、定蘊慧蘊解脱蘊解脱智見蘊を以て如來應正等覺を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き諸蘊は皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん。善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを佛隨念と爲せばなり。復た次に善現、菩薩摩訶薩は五眼六神通を以て如來應正等覺を思惟すべからず、佛十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を以て如來應正等覺を思惟すべからず、大慈大悲大喜大捨を以て如來應正等覺を思惟すべからず、無忘失法恒住捨性を以て如來應正等覺を思惟すべからず、一切智道相智一切相智を以て如來應正等覺を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き諸法は皆自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを佛隨念と爲せばなり。

三一 復た次に善現、菩薩摩訶薩は緣起の法を以て如來應正等覺を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、緣起の法は都て自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き是れを佛隨念と爲せばなり。

善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時應に是の如く佛隨念を修すべし。若し是の如く佛隨念を修せば是れを菩薩摩訶薩漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。善現、三二 是の菩薩摩訶薩是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずる時は(甲)則ち能く四念住を圓滿し亦た能く四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を圓滿し、則ち能く空解脱行を圓滿し亦た能く無相無願解脱門を圓滿し、則ち能く初靜慮を圓滿し亦た能く第二第三第四靜慮を圓滿し、則ち能く慈無量を圓滿し亦た能く悲喜捨無量を圓滿し、則ち能く空無邊處定を圓滿し亦た能識無邊處無所有處非想非非想

【三〇】 五分五眼六通十力十八不共法、一切智智を以て佛を念ずべからざるを說く。

【三一】 緣起法にも佛を思惟せざるを明す。緣起によく法を見佛を見るとするを遮す。

【三二】 無性の故に圓滿するを明す。

(甲)「則能圓滿四念住亦能圓滿四正斷 神足五根五力七等覺支八聖道支……善現是菩薩摩訶薩以無性爲自性方便力故覺一切法皆無自性其中無有想亦復無無想」右の文は以下皆(d)の符號にて略すものとす。

巧力に由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正性離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟せん。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず。正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住し已らば生死より解脫して涅槃を證得せん。善現、是の菩薩摩訶薩は般若に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。善現、是れを菩薩摩訶薩六種波羅蜜多を行ずるに依りて漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと爲す。

[二八]復た次に善現、菩薩摩訶薩は漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずる時初發心より一切智智相應の作意を以て諸法無性を以て其の自性と爲すと信解し、先に應に佛隨念を修すべく、次に應に法隨念を修すべく、次に應に僧隨念を修すべく、次に應に戒隨念を修すべく、次に應に捨隨念を修すべく、後に應に天隨念を修すべし。[二九]善現、云何が菩薩摩訶薩佛隨念を修するや。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時色を以て如來應正等覺を思惟すべからず、受想行識を以て如來應正等覺を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、色は自性無く、受想行想も自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず。所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟する無き、是れを佛隨念と爲せばなり。復た次に善現、菩薩摩訶薩三十二大士相を以て如來應正等覺を思惟すべからず、眞金色身を以て如來應正等覺を思惟すべからず、身に常光有り面各一尋なるを以て如來應正等覺を思惟すべからず、八十隨好を以て如來應正等覺を思惟すべからず。何を以ての故に、善現、是の如き相好金光色身は都て自性無ければなり。若し法自性無くんば則ち所有無し。若し所有無くんば則ち念ず可からず、所以は何ん、善現、若し念ずる無く思惟す

【二八】菩薩の次第行學を六隨念に就て說く。佛法僧戒捨天の六念なり。

【二九】一に佛隨念に就て五蘊色身五分佛力緣起等を以て隨念せざるを無性に相應する念佛なることを明す。

し已らば生死より解脫して涅槃を證得せん。善現、是の菩薩摩訶薩は精進に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。

[二五]復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より靜慮波羅蜜多を修行する時應に自ら[二六]四靜慮四無量四無色定に入り、亦た他に四靜慮四無量四無色定に入るを勸め、四靜慮四無量四無色定に入る功德を稱揚し、顯示し、歡喜して四靜慮四無量四無色定に入る者を讚歎すべし。是の菩薩摩訶薩は四靜慮四無量四無色定に安住し能く財物を以て諸の有情に施して皆滿足せしめ、旣に施を行じ已らば戒蘊に安住し、安忍に安住し、精進に安住し、定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊に安住せん。戒定慧解脫解脫智見蘊淸淨なるに由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正性離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟せん。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず。正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住し已らば生死より解脫して涅槃を證得せん。善現、是の菩薩摩訶薩は靜慮に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。

[二七]復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より般若波羅蜜多を修行する時諸の有情に種種の財物を施し戒蘊に安住し、安忍に安住し、精進に安住し、定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊に安住し、自ら布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行じ、亦た他に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずるを勸め、布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多の功德を稱揚し顯示し、歡喜して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる者を讚歎すべし。是の菩薩摩訶薩は布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多方便善

【二五】五に靜慮波羅蜜多に就て明す。

【二六】四靜慮等。四靜慮とは初禪・二禪・三禪・四禪の稱、この四禪定を修して色界の四禪天に生ずとなす。四無量とは慈無量心・悲無量心・喜無量心・捨無量心の稱、この四心は四禪定に依て修する所、之を修すれば色界の梵天に生ずるを得となす。四無色定とは四空定とも云ひ、空無邊處定・識無邊處定・無所有處定・非想非非想處定の稱なり。

【二七】六に般若波羅蜜多に就て明す。

〔三三〕復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より安忍波羅蜜多を修行する時應に自ら安忍波羅蜜多を行じ亦た他に安忍波羅蜜多を行ずるを勸め、安忍波羅蜜多の功德を稱揚し顯示し、歡喜して安忍波羅蜜多を行ずる者を讃歎すべし。是の菩薩摩訶薩は安忍を行ずる時能く財物を以て諸の有情に施して皆滿足せしめ、既に施を行じ已らば戒蘊に安住し、安忍に安住し、定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊に安住せん。戒定慧解脫解脫智見蘊清淨なるに由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正性離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟せん。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず。正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住し已らば生死より解脫して涅槃を證得せん。善現、是の菩薩摩訶薩は安忍に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。

〔三四〕復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より精進波羅蜜多を修行する時應に自ら諸の善法に於て精進波羅蜜多を發勤し、亦た他に諸の善法に於て精進波羅蜜多を發勤するを勸め、諸の善法に於て精進波羅蜜多を發勤する功德を稱揚し顯示し、歡喜して諸の善法に於て精進波羅蜜多を發勤する者を讃歎すべし。是の菩薩摩訶薩は精進を行ずる時能く財物を以て諸の有情に施して皆滿足せしめ、既に施を行じて已らば戒蘊に安住し、安忍に安住し、精進に安住して定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊に安住せん。戒定慧解脫解脫智見蘊清淨なるに由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正性離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟せん。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば、便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず、正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住

〔三三〕三に安忍波羅蜜多に就て明す。

〔三四〕四に精進波羅蜜多に就て明す。

是の菩薩摩訶薩は布施に由るが故に戒蘊を受持して天人の中に生じて大尊貴を得ん。[18]施戒に由るが故に復た定蘊を得ん。[19]施戒定に由るが故に復た慧蘊を得ん。[20]施戒定慧に由るが故に復た解脱蘊を得ん。[21]施戒定慧解脱に由るが故に復た解脱智見蘊を得ん。施戒定慧解脱解脱智見蘊圓滿するに由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正性離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟す。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず。正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住し已らば生死より解脱して涅槃を證得す。善現、是の菩薩摩訶薩は布施に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。

[22]復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より淨戒波羅蜜多を修行する時應に自ら淨戒波羅蜜多を行じ亦た他に淨戒波羅蜜多を行ずるを勸め、淨戒波羅蜜多の功德を稱揚し顯示し、歡喜して淨戒波羅蜜多を行ずる者を讃歎すべし。是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて戒蘊清淨にして天人の中に生じて大尊貴を得、貧窮者に種種の財物を施さん。既に施を行じ已らば戒蘊定蘊慧蘊解脱蘊解脱智見蘊に安住せん。戒定慧解脱解脱智見蘊清淨なるに由るが故に諸の聲聞及び獨覺地を超え菩薩の正性離生に趣入せん。菩薩の正離生位に入り已らば便ち能く佛土を嚴淨し有情を成熟せん。嚴淨佛土成熟有情圓滿することを得已らば便ち能く無上正等菩提を證得せん。無上正等菩提を證得し已らば便ち能く正法輪を轉ず。正法輪を轉ずるに由るが故に有情を三乘法に安立せん。有情三乘法に安住し已らば生死より解脱して涅槃を證得せん。善現、是の菩薩摩訶薩は淨戒に由るが故に能く是の如く漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずと雖も而かも一切都て不可得なりと觀ず。何を以ての故に、一切法の自性無なるを以ての故なり。

【一八】施戒に由るが故に等。單なる財施は戒に依て廣く無惱無畏を施すに如かず、故に施より持戒となり、戒を護るが故に定心を得るなり。
【一九】施戒定に由るが故に等。定心清淨の故に無著無戲論の聖慧分成するなり。
【二〇】施戒定慧に由るが故に等。既に聖慧分成するを以ての故 斷惑解脱を得るなり。
【二一】施戒定慧解脱に由るが故に等。既に斷惑解脱を得るが故に了々見證を得るなり。
【二二】二に淨戒波羅蜜多に就て明す。

賢善の士も亦た無性を以て自性と爲し決定して無性を以て自性と爲す法を信解するが故に賢善の士と名づけしなり。諸餘の有情の一切行一切法も皆無性を以て自性と爲し乃至毛端の量の如きも若しは行若しは法の實に自性有りて得可き者有ること無し。是の菩薩摩訶薩は此の事を聞き已て是の思惟を作す、若し一切有情の一切行一切法皆無性を以て自性と爲し無性を以て自性と爲す法を證得し信解するが故に佛菩薩獨覺聲聞賢善の士と名づくるならば我れ無上正等菩提に於て若しは當に證得すべきも若しは證得せざるも一切有情の一切行一切法常に無性を以て自性と爲すが故に、我れ定めて應に無上正等菩提を發趣すべく、菩提を得已て若し諸の有情有想を行ぜば方便安立して無想に住せしめんと。[一六]善現、是の菩薩摩訶薩は既に思惟し已て無上正等菩提を發趣し、普ねく諸の有情を救度せんが爲の故に漸次業を作し漸次學を修し漸次行を行ずること、過去世の諸の菩薩摩訶薩の無上正等菩提を發趣し、先に漸次業學行を修せしが故に無上正等菩提を證得せるが如く是の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、先に應に布施波羅蜜多を修行すべく、次に應に淨戒波羅蜜多を修行すべく、次に應に安忍波羅蜜多を修行すべく、次に應に精進波羅蜜多を修行すべく、次に應に靜慮波羅蜜多を修行すべく、後に應に般若波羅蜜多を修行すべし。

[一七]善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より布施波羅蜜多を修行する時應に自ら布施波羅蜜多を行じ、亦た他に布施波羅蜜多を行ずるを勸め、布施波羅蜜多の功德を稱揚し顯示し、歡喜して布施波羅蜜多を行ずる者を讃歎すべし。此の因緣に由りて布施圓滿し天人の中に生じて大財位を得、常に布施を行じて慳悋の心を離れ、諸の有情に隨ひて食を須つには食を施し、飲を須つには飲を施し、衣を須つには衣を施し、乘を須つには乘を施し、香華を須つには香華を施し、瓔珞を須つには瓔珞を施し、房舍を須つには房舍を施し、臥具を須つには臥具を施し、燈明を須つには燈明を施し、財寶を須つには財寶を施し、僮僕を須つには僮僕を施し、餘の須つ所に隨ひて種種の資具皆悉く施與せん。

【一六】菩薩の次第行學を六度に就て明す。

【一七】一に布施波羅蜜多に就て明す。

上正等菩提自他性無く但だ無性のみを以て自性と爲すを以ての故に我れ本菩薩行を修行せし時無上正等菩提に通達せり。皆無性を以て自性と爲し已に能く一念相應の妙慧を用て無上正等菩提を證得し、如實に苦集滅道聖諦を覺知して都て所有く無く十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法等の無邊の功德を成就せり。善現、若し諸の有情少しく自性と或は復た他性を自性と爲すこと有らば我れ成佛して、一切の有情皆無性を以て自性と爲し已に三聚有情の差別に安立すと通達すべからず。諸の有情自他性無く但だ無性のみを以て自性と爲すを以ての故に我れ成佛し已て、有情皆無性を以て自性と爲し已に能く三聚有情の差別を立て其の應ずる所に隨ひ方便教導して殊勝の利益安樂を獲せしむと通達すと、

[一三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩、無性を自性と爲す法に依りて四靜慮を起し、五神通を發し、無上正等菩提を證得し、三聚有情の差別に安立し其の應ずる所に隨ひ方便教導して殊勝の利樂事を獲せしめば云何が菩薩摩訶薩は無性を自性と爲す法の中に於て[一四]漸次業、漸次學、漸次行有りて此の漸次業漸次學漸次行に由るが故に無上正等菩提を證得するやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩の最初佛世尊より聞きし所、若しは[一五]已に多く諸佛を供養せる菩薩摩訶薩より聞きし所、若しは獨覺より聞きし所、若しは阿羅漢より聞きし所、若しは不還一來預流より聞きし所は、諸佛世尊は無性を以て自性と爲し究竟して無性を以て自性と爲す法を證得するが故に佛世尊と名づけ、諸の菩薩摩訶薩も亦た無性を以て自性と爲し漸次に無性を以て自性と爲す法を證得するが故に菩薩摩訶薩と名づけ、一切の獨覺も亦た無性を以て自性と爲し漸次に無性を以て自性と爲す法を證得するが故に名づけて獨覺と爲し、諸の阿羅漢も亦た無性を以て自性と爲し漸次に無性を以て自性と爲す法を證得するが故に阿羅漢と名づけ、一切の不還一來預流も亦た無性を以て自性と爲し漸次に無性を以て自性と爲す法を證得するが故に名づけて不還一來預流と爲し、諸の

【一三】菩薩無上菩提を得るに如何に行ずべきかを明す。

【一四】漸次業等。漸次とは麁より細に、易より難に進むの意なり。業・學・行は異語同義なり。この三を三漸次とす。

【一五】已に多く諸佛を供養せる菩薩摩訶薩。觀音・勢至・文殊・彌勒等を云ふ。

佛不共法等無邊の功徳を成就し三聚有情の差別に安立して其の應ずる所に隨ひ方便教導して殊勝の利益安樂を獲せしめきと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が如來應正等覺は能く無性を自性と爲すを起し、四靜慮能く無性を自性と爲すを發し、五神通能く無性を自性と爲すを證し、無上正等菩提能く無性を自性と爲すを立て有情を三聚〔二〕と作し已つて其の應ずる所に隨ひ方便教導して殊勝の利益安樂を獲せしむるやと。佛言はく、善現、若し諸の欲惡不善法等に少しく自性〔三〕とし或は復た他性を自性と爲すこと有らば我れ本菩薩行を修行せし時、一切の欲惡不善法等に通達すべからず。皆無性を以て自性と爲し已に能く初靜慮に入り具足して住し、能く第二第三第四靜慮に入り具足して住せり。諸の欲惡不善法等自他性無く但だ無性のみを以て自性と爲すを以ての故に我れ本菩薩行を修行せし時欲惡不善法等に通達せり。皆無性を以て自性と爲し已に能く欲惡不善法を離れ有尋有伺にして離に生ずる喜樂に初靜慮に入り具足して住せり。尋伺寂靜にして、內等淨心一趣性なり。無尋無伺にして定に生ずる喜樂に第二靜慮に入り具足して住せり。喜を離れ捨に住し正念正知にして身樂を受け聖說捨に應じ第三靜慮に入り具足して住せり。樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し不苦不樂捨念淸淨にして第四靜慮に入り具足して住せり。善現、若し少しく自性とし或は復た他性を自性と爲すこと有らば我れ本菩薩行を修行せし時一切の神通に通達すべからず。皆無性を以て自性と爲し已に種種の自在神通を發起せり。諸の神通自他性無く但だ無性のみを以て自性と爲すを以ての故に我れ本菩薩行を修行せし時神通に通達し皆無性を以て自性と爲し已に能く心をして神境智證通を發起せしめ、亦た心をして天耳他心宿住隨念天眼智證通を發起せしめ諸の境界に於て自在無礙なりき。善現、若し佛の無上正等菩提少しく自性とし或は復た他性を自性と爲すこと有らば我れ本菩薩行を修行せし時諸佛の無上正等菩提に通達すべからず。皆無性を以て自性と爲して已に無上正等菩提を證得せり。佛の無

【二】 三聚。一切衆生をその性質により三類聚に分ちし稱なり。一に正定聚、二に邪定聚、三に不定聚。

【三】 自性或は復た他性。自性は自身不淨性、他性は衣服莊嚴身具の無常なるが如きを云ふ。

るべし、無性は卽ち是れ菩薩摩訶薩の道なり。無性は卽ち是れ菩薩摩訶薩の現觀なりと。善現、此の因緣に由りて應に知るべし一切法は皆法は皆無性を以て其の自性と爲すと。

[四]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲さば云何が如來は一切法に於て無性を性と爲して等正覺を現じ、等覺を現じ已て一切法及び諸の境界に於て皆自在を得るやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、一切法は皆無性を以て自性と爲す。我れ本菩薩の道を修學せし時[五]無倒に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、欲惡不善法を離れ[六]有尋有伺にして離に生する喜樂に初靜慮に入り具足して住せり。尋伺寂靜にして[七]內等淨心一趣性なりき。[八]無尋無伺にして定に生する喜樂に第二靜慮に入り具足して住せり。喜を離れ捨に住し正念正知にして身樂を受け聖說捨に應じ第三靜慮に入り具足して住せり。樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し[九]不苦不樂捨念清淨にして第四靜慮に入り具足して住せり。我れ爾の時に於て諸の靜慮及び靜慮支に於て善く相を取ると雖も而かも執する所無く、諸の靜慮及び靜慮支に於て都て味著無く、諸の靜慮及び靜慮支に於て都て所得無かりき。我れ爾の時に於て諸の靜慮に於て清淨の行相を以て分別する所無く具足し安住せり。我れ爾の時に於て諸の靜慮及び靜慮支に於て善く淳熟し已て心をして[一〇]神境智證通を發起せしめ亦た心をして天耳智證通を發起せしめ亦た心をして他心智證通を發起せしめ、亦た心をして宿住隨念智證通を發起せしめ、亦た心をして天眼智證通を發起せしめき、我れ爾の時に於て發起する所の諸の智證通に於て善く相を取ると雖も而かも執する所無く、發起する所の諸の智證通に於て都て味著無く、發起する所の諸の智證通に於て都て所得無かりき。我れ爾の時に於て發起する所の諸の智證通に於て虛空の如く分別する所無きを見るを以て具足し安住しき。善現、我れ爾の時に於て一刹那相應の妙慧を以て無上正等菩提を證得せり。謂ゆる等覺を現じ、是れ苦聖諦、是れ集聖諦、是れ滅聖諦、是れ道聖諦にして都て所有無しと。十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八

【四】佛、自證を擧げて一切法無性自性を以て智斷證成を明す。

【五】無倒。一切の顚倒を離れたる正見。

【六】有尋有伺離。生喜樂色界の初禪天の定。定心に尋(覺)伺(觀)共に有るもの。離は欲界を離るるを云ひ、之に生ずる喜と樂とに住す。

【七】內等淨心一趣性。平等淸淨の一心支に統一せるもの。

【八】無尋無伺定。生喜樂。尋伺を離れて等持定中の喜と樂と住するもの、

【九】不苦不樂等。不苦不樂と捨と念と一心となり。

【一〇】神境智證通等。神境、天耳、他心、宿住、天眼を五神通と稱す。三乘の聖者の得る神妙不測無礙自在の五種の智慧なり。

界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(b)貪、瞋恚。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(b)菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(b)一切智智、永斷一切煩惱習氣相續。

(c)色想有り色斷想有りと爲すや不や。受想行識想有り受想行識斷想有りと爲すや不や。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)貪、瞋恚。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)三摩地門、陀羅尼門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(c)菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(c)一切智智、所斷一切煩惱習氣相續。

佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時一切法に於て皆有想無く亦た無想無し。善現、若し[三]有想無く亦た無想無くんば當に知るべし即ち是れ菩薩の順忍なり。若し想無く亦た無想無くんば即ち是れ修道なり。若し有想無く亦た無想無くんば即ち是れ得果なりと。善現、當に知

(c)「爲有色想有色斷想不爲有受想行識想有受想行識斷想不」右も(b)の場合と同方法により以下略出す、

【三】有想無想なくして順忍、修道得果成就するを說く。即ち無性の大道なり現觀なり自性なるを示す。

初分三漸次品第六十五之一[一]

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、有想に住する者、若し順忍無く道無く果無く亦た現觀無くんば無想に住する者豈に順忍若しは淨觀地若しは種性地若しは第八地若しは見地若しは薄地若しは離欲地若しは已辦地若しは獨覺地若しは菩薩地若しは如來地若しは聖道を修し、聖道を修するに因りて諸の煩惱或は聲聞相應、或は獨覺相應なるを斷ずること有らんや。斯の煩惱に覆障せらるゝに由るが故に、諸の菩薩摩訶薩豈に能く菩薩の正性離生に入らんや。若し菩薩の正性離生に入る能はずんば豈に能く一切相智を證得せんや。若し一切相智を證得する能はずんば豈に能く永く一切の煩惱の習氣相續を斷ぜんや。世尊、若し一切法都て所有無く生無く滅無く染無く淨無くんば是の如き諸法は既に都て生ぜず。豈に能く一切智智を證得せんやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。無想に住する者も亦た順忍無く淨觀地無く種性地無く第八地無く見地無く薄地無く離欲地無く已辦地無く獨覺地無く菩薩地無く如來地無く聖道を修し聖道を修するに因りて諸の煩惱、或は聲聞相應、或は獨覺相應なるを斷ずること無し。斯の煩惱に覆障せらるゝに由るが故に、諸の菩薩摩訶薩は應に菩薩の正性離生に入ること能はざるべし。若し菩薩の正性離生に入る能はずんば應に一切相智を證得すること能はざるべし、若し一切智智を證得すること能はずんば應に永く一切の煩惱の習氣相續を斷ずること能はざるべし。善現、若し一切法都て所有無く生無く滅無く染無く淨無くんば是の如き諸法は既に都て生ぜず。何ぞ能く一切智智を證得せんやと、

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多を行ずる時有想有り無想有りと爲すや不や、(b)色想有り受想行識想有りと爲すや不や。(b)眼處乃至意處[三]。(b)色處乃至法處[四]。(b)眼

【一】三漸次。漸次業を作し、漸次學を修し漸次行を行ずるを明すを以て名づく。

【二】如何に順忍成佛を得るやを明す。有想の斷證なきが如く無想も亦斷證なきに就て善現の說を印可す。

(b)「爲有色想有受想行識想不」右も(b)の場合と同方法により以下略出す。

卷の第三百七十二

初分遍學道品第六十四之七

[一]善現、此の因緣に由りて當に知るべし一切の二想有る者は定めて布施波羅蜜多無く、亦た淨戒波羅蜜多無く、亦た安忍波羅蜜多無く、亦た精進波羅蜜多無く、亦た靜慮波羅蜜多無く、亦た般若波羅蜜多無く、道無く果無く亦た現觀無く、下[二]順忍に至るまで彼れ尙ほ有に非ず。(a)況んや色遍知有らんをや、況んや受想行識遍知有らんをや。

(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

彼れ尙ほ諸の聖道を修すること能はず況んや預流一來不還阿羅漢果獨覺菩提を得んや。況んや復た能く一切智智を得及び能く永く一切の煩惱の習氣相續を斷ぜんやと。

【一】正しく遍知學道を結說す。

【二】順忍。五忍の一。四地より六地の間にて菩提の道に順じて無生の果に趣向する位に名く。

(a)「況有色遍知況有受想行識遍知」右も前卷(f)の場合の如くして以下略出す。

解脫門乃至無願解脫門。(e)殊勝の四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門一切陀羅尼門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力四無所畏四無礙十八佛不共法。(e)大慈、大悲大喜大捨。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。

[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等か是れ有、何等か是れ非有なりやと佛言はく、善現、二は是れ有・不二は是れ非有なりと。世尊、云何が二と爲し、云何が不二と爲すやと。(f)善現、色想を二と爲し色想空を不二と爲す、受想行識想を二と爲し受想行識想空を不二と爲す、(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(f)大慈、大悲大喜大捨。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流乃至阿羅漢獨覺。(f)菩薩摩訶薩、如來應正等覺。(f)菩薩摩訶薩行、無上正等菩提。(f)有爲界・無爲界。

善現、乃至一切[四]想皆二と爲す。乃至一切の[五]二は皆是れ有なり。乃至一切の有は[六]皆生死有り。生死有る者は生老病死愁歎苦憂惱より解脫すること能はず。善現、諸の想空とは皆無二と爲す。諸の無二とは皆是れ非有なり。諸の非有とは皆生死無し。生死無き者は則ち能く生老病死愁歎苦憂惱より解脫す。

【三】有法非有法を明す。
(f)「善現色想爲二色想空爲不二受想行識想爲二受想行識想空爲不二」
右の文中「五蘊」の處に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(f)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【四】想皆二と爲す。取相し分別するもの悉く二なり。

【五】二は皆是れ有。分別取相する二見悉く存在觀なり。

【六】有皆生死。存在觀に立つものは生死に繫縛せられ迷惑し流轉す。

卷の第三百七十一

初分遍學道品第六十四之六

(d)無明乃(そ)至老死愁歎苦憂惱。(d)阿喻訶湼喻訶。不淨觀。(d)初靜慮、第二第三第四靜慮。(d)慈無量悲喜捨無量。(d)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非非想處定。(d)佛隨念、法隨念僧隨念戒隨念捨隨念天隨念有方便隨念無方便隨念寂靜隨念持入出息隨念。(d)無常想、無常苦想苦無我想不淨想厭食想一切世間不可樂想死想斷想離想滅想。(d)我想、有情想命者想生者想養者想士夫想補特伽羅想意生想儒童想作者想受者想使受者想知者想使知者想見者想使見者想。(d)常非常想、樂非樂想我非我想淨非淨想遠離非遠離想寂靜非寂靜想。(d)四念住乃(え)至八聖道支。(d)空解脫門乃(こ)至無願解脫門。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)有尋有伺三摩地、無尋唯伺三摩地無尋無伺三摩地。(d)苦聖諦乃(ゐ)至道聖諦。(d)苦智、集智滅智道智盡智無生智法智類智世俗智他心智如實智。(d)布施波羅蜜多乃(こ)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)極喜地乃(く)至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(d)一切智乃(た)至一切相智。(d)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(d)一切智智、永斷一切煩惱習氣相續。(d)有爲界、無爲界。

復た次に(e)善現、有想に住する者は定めて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修すること能はず。何を以ての故に、善現、[一]有想に住する者は若し布施乃至般若を修するも必ず當に我及び我所有りと執すべし。此の執に由るが故に便ち二邊に著す。[二]二邊に著するが故に生死を解脫せず道無く涅槃無し。云何が如實に能く布施乃至般若波羅蜜多を修せんや。

(e)四念住乃(え)至八聖道支。內空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(そ)至不思議界。(e)苦聖諦乃(ゐ)至道聖諦。(e)空

(d)　前卷と同意

(e)「善現住有想者定不能修布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多何以故……云何如實能修布施乃至般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「不能修」とある所を「不能住」と改むるものとす。

【一】有想に住す。般若には無法尙無なり、況んや法有りと想するもの般若に應ずべきにあらず。

【二】二邊。中道を離れて一方に傾くを邊といふ。二邊とは有邊無邊の稱なり。有邊とは世間一切の事物の自性存在を執するを云ひなり。無邊とは世間一切の事物自性なく從つて一切法皆無なり、有なしとするを云ふ。又事を行ずれば苦樂の二邊となる、勞苦と享樂となり聖道に精進せず解脫道果なきなり。

想一切世間不可樂想死想斷想離想滅想。(c)我想、有情想命者想生者想養者想士夫想補特伽羅想意生想儒童想作者想使作者想受者想使受者想知者想使知者想見者想使見者想。(c)常非常想、樂非樂想我非我想淨非淨想遠離非遠離想寂靜非寂靜想。(c)四念住乃(え)至八聖道支。(c)空解脫門乃(て)至無願解脫門。(c)八解脫乃(あ)至十遍處。(c)有尋有伺三摩地、無尋唯伺三摩地無尋無伺三摩地。(c)苦聖諦乃(さ)至道聖諦。(c)苦智、集智滅智道智盡智無生智法智類智世俗智他心智如實智。(c)布施波羅蜜多乃(き)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(ゆ)至無性自性空。(c)極喜地乃(め)至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)一切智乃(み)至一切相智。(c)預流果乃(し)至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。(c)一切智智、永斷一切煩惱習氣相續。(c)有爲界、無爲界。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(d)世尊、云何が菩薩摩訶薩色を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなりや、受想行識を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなりやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時若し色有り此の修を遣する有りと念ぜば般若波羅蜜多を修するに非ず、若し受想行識有り此の修を遣する有りと念ぜば般若波羅蜜多を修するに非ず。何を以ての故に、善現、想有る者は能く般若波羅蜜多を修するに非ざればなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩色を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなり、受想行識を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至意界。(d)色界乃(ほ)至法界。(d)眼識界乃(へ)至意識界。(d)眼觸乃(と)至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(ち)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃(り)至識界。(d)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。

(d)「世尊云何菩薩摩訶薩修遣色亦遣此修是修般若波羅蜜多修遣受想行識亦遣此修是修般若波羅蜜多佛言善現……………是故善現若菩薩摩訶薩修遣色亦遣此修是修般若波羅蜜多修遣受想行識亦遣此修是修般若波羅蜜多」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に皆夫夫次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

薩の神通を發すや。若し菩薩の神通を發す能はずんば云何が能く有情を成熟し佛土を嚴淨するや。若し有情を成熟し佛土を嚴淨する能はずんば云何が能く一切智智を得るや。若し一切智智を得ること能はずんば云何が能く正法輪を轉ずるや。若し正法輪を轉ずる能はずんば則ち應に有情を安立して預流一來不還阿羅漢果を得せしむること能はざるべく、亦た應に有情を安立して獨覺菩提を得せしむること能はざるべく、亦た應に有情を安立して無上正等菩提を得せしむること能はざるべく、亦た應に有情を安立して[九]施性福業事に住し或は[一〇]戒性福業事に住し[一一]或は修性福業に住せしめて當に人天の富樂自在なるを得べきこと能はざるべしと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。一切法は有相に非ず無相に非ず一相に非ず異相に非ず、若し菩薩摩訶薩一切法の若しは有相若しは無相若しは一相若しは異相咸同一相にして所謂無相なりと知りて此の無相を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。

[一二]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩の此の無相を修するは是れ般若波羅蜜多を修するなりやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩一切法を[一三]修遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。世尊、云何が菩薩摩訶薩一切法を修遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなりやと。(c)善現、若し菩薩摩訶薩色を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなり、受想行識を修遣し亦た此の修を遣せば是れ般若波羅蜜多を修するなり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)因緣、等無間緣所緣緣增上緣。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)阿喩訶涅喩訶、不淨觀。(c)初靜慮、第二第三第四靜慮。(c)慈無量、悲喜捨無量。(c)空無邊處定。識無邊處無所有處非想非非想處定。(c)佛隨念、法隨念僧隨念戒隨念捨隨念天隨念有方便隨念無方便隨念寂靜隨念持入出息隨念。(c)無常想、無常苦想苦無我想不淨想厭食

【九】施性福業事。三福の一、布施の善業なり。以て大富の福果を感ず。

【一〇】戒性福業事。三福の一、受持三歸、具足衆戒、不犯威儀などの佛戒を護持するなり。以て生天の福果を感ず。

【一一】修性福業。三福の一、禪定を修するなり。以て解脫の福果を感ず。

【一二】佛、前述の修般若の意を詳說す。

【一三】修遣。諸法の相も相なく、無相の相も亦遣して法の取るべき無きなり。

(c)「善現若菩薩摩訶薩修遣色亦遣此修是修般若波羅蜜多修遣受想行識亦遣此修是修般若波羅蜜多」右も(b)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

門、一切陀羅尼門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨、(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。豈に應に苦を知り集を斷じ滅を證し道を修する相に於て學すべく亦た應に順逆緣起觀相に於て學すべからざる耶。豈に應に一切の聖者相に於て學すべく亦た應に一切の聖法相に於て學すべからざる耶。世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き諸の法相に於て學せず亦た應に諸の行相に於て學せずんば諸の菩薩摩訶薩は諸の法相及び諸の行相に於て既に學すること能はず、云何が能く一切の聲聞及び獨覺地を超ゆるや。若し一切の聲聞及び獨覺地を超ゆる能はずんば云何が能く菩薩の正性離生に入るや。若し菩薩の正性離生に入る能はずんば云何が能く一切智智を得るや。若し一切智智を得ること能はずんば云何が能く正法輪を轉ずるや。若し正法輪を轉ずること能はずんば云何が能く聲聞乘の法或は獨覺乘の法或は無上乘の法を以て有情を安立して無邊生死の衆苦を脫せしむるやと。佛言はく、善現、若し一切法實に相有らば諸の菩薩摩訶薩は應に中に於て學すべし。一切法は實に非有相にして色無く見無く對無く一相にして所謂無相なるを以て、是の故に菩薩摩訶薩は有情の法に於て學せず亦復た無相の法に於ても學せざるなり。何を以ての故に、善現、如來は出世し若しは出世せざるも法界は常住にして諸法は一相、所謂無相なればなり。是の如き無相は既に有相に非ず亦た無相に非ざるなりと。

〔八〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆有相に非ず亦た無相に非ずんば應に一相に非ず亦た異相に非ざるべし。若し爾れば云何が菩薩摩訶薩は能く般若波羅蜜多を修するや。若し般若波羅蜜多を修する能はずんば云何が能く一切の聲聞及び獨覺地を超ゆるや。若し一切の聲聞及び獨覺地を超ゆる能はずんば云何が能く菩薩の正性離生に入るや。若し菩薩の正性離生に入る能はずんば云何が能く菩薩の無生法忍を起すや。若し菩薩の無生法忍を起す能はずんば云何が能く菩

【八】一切法無相を知りて無相を修すれば般若を修することを說く

薩迦耶見[五]、戒禁取疑[六]と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、皆欲貪瞋恚と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、皆色愛無愛掉擧[七]慢無明と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、(a)皆初靜慮と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、皆第二第三第四靜慮と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、(a)慈無量、非喜捨無量。(a)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非非想處定。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)八解脫乃至十遍處。(a)五眼、六神通。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)極喜地乃至法雲地。(a)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(a)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智、(a)有爲界、無爲界。善現、彼れを名づけて聖と爲す。此れは是れ聖法毘奈耶なり。是の故に聖法毘奈耶と名づく。何を以ての故に、善現、此の一切法は色無く見無く對無く一相にして所謂無相なるを彼の諸の聖者は如實に現見すればなり。善現、無色と無色とは相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、無見と無見、無對と無對、一相と一相、無相と無相とは亦た相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず。善現、諸の菩薩摩訶薩は此の無色無見無對一相無相の甚深般若波羅蜜多に於て常に應に修學すべし、學し已つて一切の法相を得ずと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は(b)豈に應に色相に於て學すべく亦た應に受想行識相に於て學すべからざる耶。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)初靜慮第二第三第四靜慮。(b)慈無量、非喜捨無量。(b)空無邊處、識無邊處無所有處非想非非想處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)八解脫乃至十遍處。(b)五眼、六神通。(b)一切三摩地

【六】戒禁取疑。非理の戒禁を迷取する邪見、吾が道德信仰を誇るなり。疑は正信なく猶豫不定なるなり。

【七】掉擧。心をして高擧せしめ安靜せしめざる煩惱。

(a)「皆與初靜慮非相應非不相應不合不散皆與第二第三第四靜慮非相應非不相應不合不散」右の文中「初靜慮乃至第四靜慮」一の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

b)「豈不應於色相學亦應於受想行識相學耶」右も「色乃至識」の所に次下の諸法を代入して略すること(a)の場合の如し。

は眼觸乃至意觸、若しは眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受、若しは地界乃至識界、若しは無明乃至老死愁歎苦憂惱、若しは內空乃至無性自性空、若しは眞如乃至不思議界、若しは初靜慮、第二第三第四靜慮、若しは慈無量、悲喜捨無量、若しは空無邊處。識無邊處無所有處非想非非想處、若しは四念住乃至八聖道支、若しは苦聖諦乃至道聖諦、若しは空解脫門乃至無願解脫門、若しは八解脫乃至十遍處、若しは一切三摩地門、一切陀羅尼門、若しは極喜地乃至法雲地、若しは五眼、六神通、若しは佛の十力、四無所畏四無礙解十六佛不共法、若しは大慈、大悲大喜大捨、若しは無忘失法、恒住捨性、若しは一切智乃至一切相智、若しは預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提、若しは一切の菩薩摩訶薩行、永斷一切習氣相續諸佛の無上正等菩提、若しは有爲界若しは無爲界是の如き等の一切法は此の聖法毘奈耶の中に於て皆相應に非ず不相應に非ず合無く散無く色無く見無く對無く一相にして所謂無相なるも、佛諸の有情類を饒益し正解を得て法の實相に入らしめんが爲に世俗を以て說くのみ、勝義を以てするに非ざるなり。善現、諸の菩薩摩訶薩は是の如き一切法に於て應に智見を學すべし、智見を學し已らば如實に、是の如き諸法は應に攝受す可く是の如き諸法は攝受すべからずと通達せんと世尊、菩薩摩訶薩は何等の法に於て智見を學し已らば如實に攝受すべからずと通達し、何等の法に於て智見を學し已らば如實に應に攝受す可しと通達するやと。善現、菩薩摩訶薩は諸の聲聞獨覺地法に於て、智見を學し已らば如實に攝受すべからずと通達し、一切智智相應の諸法に於て、智見を學し已らば如實に一切種相應の攝受す可きに通達す。善現、菩薩摩訶薩は此の聖法毘奈耶の中に於て應に是の如く甚深般若波羅蜜多を學すべしと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛[三]聖法毘奈耶を說くとは何等をか聖法毘奈耶と名づくるやと。佛言はく、善現、若しは諸の聲聞、若しは諸の獨覺、若しは諸の菩薩摩訶薩、若しは諸の如來應正等覺、[四]是の如き一切は皆貪欲瞋恚愚癡と相應に非ず不相應に非ず合せず散ぜず、皆

【一】毘奈耶 Vinaya 佛所說の律を云ふ離行、調伏、滅など譯す。

【二】聖法卽ち般若を說き、相を學せず、無相を修することを明す。

【三】聖法毘奈耶。法律二藏として原始の聖敎とするも、今は般若法を以て之に答ふ。

【四】顚倒なきが故に無所有なり三毒と相應不相應なし。合散なれば又卑他自高無きなり。

【五】薩迦耶見 (Satkāya-dṛṣṭi) 有身見と譯し、五見中の身見なり。五蘊假和合なるを知らず、實我ありと執着する邪見。

起すべき所の諸の道相智と名づく。菩薩摩訶薩は是の如き道相智を修學し已て諸の有情の種種の界性種種の隨眠種種の意樂に於て皆善く悟入す。既に悟入し已らば其の宜しき所に隨て爲に正法を說きて皆利益安樂を獲得し空しく過ごす者無からしむ。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は[三]善く有情の諸根の勝劣に達し如實に諸の有情類の往還生死心心所法趣向の差別を了知すればなり。善現、諸の菩薩摩訶薩は應に是の如き諸道の般若波羅蜜多を行ずべし。何を以ての故に、善現、一切の聲聞の學すべき所の道、一切の獨覺の學すべき所の道、一切の菩薩摩訶薩の學すべき所の道、是の如き一切の菩提分法は皆般若波羅蜜多に攝受せらるるが故なりと。

卷の第三百七十

初分遍學道品第六十四之五

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切種の菩提分の法及び諸の菩提、是の如き一切皆相應に非ず不相應に非ず合無く散無く色無く見無く對無く一相にして所謂無相ならば云何が是の如き菩提分の法は能く菩提を取るや。世尊、皆相應に非ず不相應に非ず合無く散無く色無く見無く對無く一相にして謂ゆる無相法ならば能く餘法に於て取有り捨有るか。世尊、譬へば虛空の一切法に於て取無く捨無きが如きは自相空なるが故なり。諸法も亦た爾なり、自相皆空にして餘法に於て取有り捨有るに非ずば、云何が菩提分の法は能く菩提を取ると說く可けんやと。佛言はく、善現、是の如し、是の如し、汝が所說の如し、一切法は自相皆空にして取無く捨無し。然かも諸の有情は一切法に於て自相空の義を解了すること能はざるを以て彼れを哀愍するが故に方便して宜しく菩提分法能く菩提を取ると說くべし。復た次に善現、若しは色若しは受想行識、若しは眼處乃至意處[ろ]、若しは色處[ろ]乃至法處、若しは眼界[ろ]乃至意界、若しは色界[ろ]乃至法界、若しは眼識界[ろ]乃至意識界、若し

【三】善く有情の諸根等。如來の十不共力なり。

(ろ) 五蘊の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す。

因果を遮障すべし。應に如實に人道因果を知るべく、應に如實に[一五]梵衆天梵輔天梵會天大梵天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[一六]光天少光天無量光天極光淨天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[一七]淨天少淨天無量淨天遍淨天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[一八]廣天少廣天無量廣天廣果天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[一九]無想天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[二〇]無煩天無熱天善現天善見天色究竟天の諸の道因果を知るべく、應に如實に[二一]空無邊處天識無邊處天無所有處天非想非非想處天の諸の道因果を知るべし、知り已て方便して其の應ずる所に隨ひて彼の道及び彼の因果を遮障し、或は勸めて善法を攝受修證し、應に如實に四念住(そ)乃至八聖道支及び彼の因果を知るべく、應に如實に空解脫門(つ)乃至無願解脫門及び彼の因果を知るべく、應に如實に苦集滅道聖諦及び彼の因果を知るべく、應に如實に四靜慮(た)乃至四無色定及び彼の因果を知るべく、應に如實に八解脫(れ)乃至十遍處及び彼の因果を知るべく、應に如實に布施(よ)乃至般若波羅蜜多及び彼の因果を知るべく、應に如實に內空(わ)乃至無性自性空及び彼の因果を知るべく、應に如實に眞如(か)乃至不思議界及び彼の因果を知るべく、應に如實に一切三摩地門一切陀羅尼門及び彼の因果を知るべく、應に如實に五眼六神通及び彼の因果を知るべく、應に如實に菩薩の十地及び彼の因果を知るべく、應に如實に佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法及び彼の因果を知るべく、應に如實に大慈大悲大喜大捨及び彼の因果を知るべく、應に如實に一切智(ね)乃至一切相智及び彼の因果を知るべく、應に如實に諸の聲聞道諸の獨覺道諸の菩薩道及び彼の因果を知るべし。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き道を以て有情を安立す。若し有情類の預流果を得べき者には預流果の法を以て之を安立し、一來果を得べき者には一來果の法を以て之を安立し、不還果を得べき者には不還果の法を以て之を安立し、阿羅漢果を得べき者には阿羅漢果の法を以て之を安立し、獨覺菩提を得べき者には獨覺菩提の法を以て之を安立し、無上正等菩提を得べき者には無上正等菩提の法を以て之を安立す。善現、是れを菩薩摩訶薩の發

【一五】梵衆等。初禪天なり。
【一六】光天等。二禪天なり。
【一七】淨天等。三禪天なり。
【一八】廣天等。四禪天なり。
【一九】無想天。第四禪廣果天に滅想と淨居とを出す、その滅想なり。
【二〇】無煩等。五淨居天なり。
【二一】空無邊等。無色界の四處天なり。

り。善現、是の菩薩摩訶薩は遍ねく聲聞及び獨覺等の諸の所有る道を學し圓滿することを得已て道相智を用て菩薩の正性離性に趣入す。既に菩薩の正性離生位に入り已らば復た一切相智を用て永く一切の習氣相續を斷じて如來地に入り方に一切智智を成就することを得。是の如く善現、菩薩摩訶薩は一切道に於て皆遍ねく修學し圓滿するを得已て方に無上正等菩提を證するなり。既に無上正等菩提を證せば[八]果を以て諸の有情類を饒益すと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の說きたまふ如き一切の道相は若しは聲聞道若しは獨覺道若しは諸の佛道なり。佛道の中に於て諸の菩薩摩訶薩は云何が當に[九]道相智道を起すべきやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は應に一切の淨道相智を起すべしと。世尊、云何が菩薩摩訶薩は當に一切の淨道相智を起すべきやと。善現、若し[一〇]諸の行狀相能く顯發して淨道相智を起さば是の菩薩摩訶薩は遍ねく是の如き諸の行狀相に於て皆[一一]現等覺す。現等覺し已らば如實に他の爲に宣說開示し施設し建立し諸の有情をして無倒解を得せしめ、應に趣向すべきが如く利益し安樂す。善現、是の菩薩摩訶薩は應に一切の音聲語言に於て皆善巧を得べし。此の善巧の音聲語言を用て遍ねく三千大千世界の諸の有情類の爲に正法を宣說し、聞く所を知らしむること谷の響の如し。解了すること有りと雖も而かも執著無し。善現、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて應に諸の道相智を學し圓滿すべし。既に道相智を學し圓滿し已らば應に如實に一切有情の[一二]隨眠意樂の種種の差別を知るべく、應に如實に地獄の有情に[一三]地獄道地獄の因果有るを知り、知り已て方便して彼の道及び彼の因果を遮障すべく、應に如實に傍生の有情に傍生の道傍生の因果有るを知り、知り已て方便して彼の道及び彼の因果を遮障すべく、應に如實に鬼界の有情に鬼界の道鬼界の因果有るを知り、知り已て方便して彼の道及び彼の因果を遮障すべく、應に如實に諸の龍[一四]藥叉阿素洛緊捺洛健達縛揭路茶具霍迦遮魯拏莫呼洛伽持呪神等に各彼の道有り彼の因果有るを知り、知り已て方便して彼の道及び彼の

【八】果を以て。善道現果の道を說きて之を得しむるを云ふ。

【九】道相智道。業道差別を詳かにし淨化向上の一路を明かにするを云ふ。鬼趣事の毘多跋堵 Petavatthu 生天道の毘摩那跋堵 Vimana vatthu 波羅延 Pārāyana Visuddhi magga 等の法門と相並びて菩薩道の行相となれるものなり。

【一〇】諸の行狀相等。無生法忍に住して諸法の實相を得、實相に從て諸法の名相を取り自ら解し他を恰らしむるなり。

【一一】現等覺。無上正等菩提を證するなり。

【一二】隨眠。無明の惑障に伴ふもの。

【一三】地獄道。十不善道なり。

【一四】藥叉等。夜叉修羅八部等の非人趣なり。

正性離生に入るとせば是の處有ること無く、菩薩の正性離生に入らずして而かも能く一切智智を證得すとせば亦た是の處無し。世尊、若し菩薩摩訶薩預流果を成じ、或は一來向を成じ、或は一來果を成じ、或は不還向を成じ、或は不還果を成じ、或は阿羅漢向を成じ、或は訶羅漢果を成じ、或は獨覺菩提を成じ已て能く菩薩の正性離生に入るとせば是の處有ること無く、菩薩の正性離生に入らずして而かも能く一切智智を證得すとせば亦た是の處無し。世尊、云何が我れをして如實に諸の菩薩摩訶薩は一切道に於て要らず遍ねく學し已て方に菩薩の正性離生に入りて理に違はずと了知せしめたまふやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。若し菩薩摩訶薩第八を成じ已て能く菩薩の正性離生に入るとせば是の處有ること無く、菩薩の正性離生に入らずして而かも能く一切智智を證得すとせば亦た是の處無し。若し菩薩摩訶薩預流果を成じ、或は一來向を成じ、或は一來果を成じ、或は不還向を成じ、或は不還果を成じ、或は阿羅漢向を成じ、或は阿羅漢果を成じ、或は獨覺菩提を成じ已て能く菩薩の正性離生に入るとせば是の處有ること無く、菩薩の正性離生に入らずして而かも能く一切智智を證得すとせば亦た是の處無し。然かも諸の菩薩摩訶薩は一切道に於て要らず遍ねく學し已て方に菩薩の正性離生に入り亦た理に違はざるなり。[六]謂ゆる諸の菩薩摩訶薩は初發心より勇猛正勤して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し勝智見を以て八地に超過す。何等をか八と爲す。謂ゆる淨觀地種性地第八地見地薄地離欲地已辦地獨覺地なり。是の菩薩摩訶薩は是の如き所說の八地に於て皆遍ねく修學すと雖も而かも能く勝智見を以て超過し、道相智を用て菩薩の正性離生に入るなり。既に菩薩の正性離生位に入り已て復た一切相智を用て永く一切の習氣相續を斷じて如來地に入る。爾して乃ち一切智智を成就す。善現、[七]是の菩摩摩訶薩の學する所の第八の若しは智若しは斷は皆是れ菩薩摩訶薩の忍なり。是の菩薩摩訶薩の學する所の預流の若しは智若しは斷、及び一來不還阿羅漢獨覺の若しは智若しは斷は亦た是れ菩薩摩訶薩の忍な

【六】謂ゆる諸の菩薩摩訶薩等。遍學入位を明すに三智に依るとなし、勝智見即ち一切智を以て觀じて諸地を超過し、道相智を以て入位し、一切相智に依て斷惑究竟すとなす。

【七】二乘は諸佛菩薩の知慧の少分を得るのみなれば學人の八智無學の十斷皆無生法忍中に攝するなり。

薩若し能く是の如く戲論無き甚深般若波羅蜜多を行ぜば一切法の無自性に達するが故に皆戲論無く便ち菩薩の正性離生に入ると。

[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆自性無く亦た戲論無くして而かも得可しとせば菩薩摩訶薩は何等の道を用て菩薩の正性離生に入ることを得るや、聲聞道を用ふと爲すや、獨覺道を用ふと爲すや、佛道を用ふと爲す耶と。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は聲聞道を用ふるに非ず、獨覺道を用ふるに非ず、佛道を用ふるに非ずして菩薩の正性離生に入ることを得。然かも諸の菩薩摩訶薩は一切道に於て先に遍ねく學し已て菩薩道を用て菩薩の正性離生に入るなり。善現、[四]第八者の先に諸道を學し後自道を用て乃ち能く正性離生に證入し乃至未だ無學果道を起さず、猶ほ未だ阿羅漢果を證得せざるが如く菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。一切道に於て先に遍ねく學し已て菩薩道を用て菩薩の正性離生に入ることを得乃至未だ金剛喩定を起さず猶ほ未だ一切智智を得ること能はず、若し此の定を起こさば一刹那相應の妙慧を以て乃ち能く一切智智を證得すと。

[五]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩一切相智を圓滿せんと欲するが爲に一切道に於て先に遍ねく學し已て菩薩道を用て菩薩の正性離生位に入るとせば、世尊、豈に第八道異り、預流果道異り、一來向道異り、一來果道異り、不還向道異り、不還果道異り、阿羅漢向道異り、阿羅漢果道異り、獨覺道異り、如來道異らざるや。世尊、是の如き諸道既に各異り有り。諸の菩薩摩訶薩は一切相智を圓滿せんと欲するが爲に一切道に於て要らず遍ねく學し已て方に菩薩の正性離生に入る。是の菩薩摩訶薩は若し第八道を起す時は應に第八を成ずべく、若し具見道を起す時は應に預流果を成ずべく、若し進取道を起す時は應に一來向を成ずべく、或は一來果を成じ、或は不還向を成じ、或は不還果を成じ、或は阿羅漢向を成じ、若し無學道を起す時は應に阿羅漢果を成ずべく、若し獨覺道を起す時は應に獨覺菩提を成ずべし。世尊、若し菩薩摩訶薩第八を成じ已て能く菩薩の

【三】菩薩入位の道を明す。

【四】第八者等。聲聞の見諦道中八忍十五心遍學してこの正位に入るも未だ初果を得ざるなり。

【五】一切道を遍學して正性離生位に入る道を明す。

現、(b)色は戲論無く受想行識も戲論無し。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(い)至意界。(b)色界乃(う)至法界。(b)眼識界乃(る)至意識界。(b)眼觸乃(の)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(に)至識界。(b)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)極喜地乃(く)至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)永斷一切煩惱習氣相續。(b)諸佛の無上正等菩提。是の如く諸の菩薩摩訶薩は應に戲論無き甚深般若波羅蜜多を行ずべしと。

〔二〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時云何が一切法は皆戲論無しと觀ずるやと。佛言はく、(c)善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時色は自性無しと觀、受想行識は自性無しと觀る。若し法自性無くんば則ち戲論すべからず。是の故に色は戲論無く受想行識も亦た戲論無し。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(い)至意界。(c)色界乃(う)至法界。(c)眼識界乃(る)至意識界。(c)眼觸乃(の)至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃(に)至識界。(c)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)極喜地乃(く)至法雲地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃(な)至一切相智。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行、永斷一切煩惱習氣相續、諸佛の無上正等菩提。善現、菩薩摩訶

(b)「色無戲論受想行識無戲論」右も(a)の場合の如くして以下略出す。

【二】戲論なき法を觀ることを明す。
(c)「善現菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時觀色無自性觀受想行識無自性若法無自性則不應戲論是故色無戲論受想行識亦無戲論」右も(b)の場合と同方法により以下略出す。

十力は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に四無所畏四無礙解十八佛不共法は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に大慈は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に大悲大喜大捨は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に無忘失法は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に恒住捨性は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に道相智一切相智は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切三摩地門は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に一切陀羅尼門は若しは起すべく若しは起すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切の煩惱の習氣相續は若しは斷ずべく若しは斷ずべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に諸佛の無上正等菩提は若しは證すべく若しは證すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に是の如き等の一切法及び諸の有情を觀て皆戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。

何を以ての故に、善現、一切法の有性は有性を[一]戲論すること能はず、無性は無性を戲論することと能はず、有性は無性を戲論すること能はず、無性は有性を戲論すること能はず、有無の性を離れては法得可からざるを以て、若しは能戲論、若しは所戲論、若しは戲論處都て所有無し。是の故に善

【一】戲論の不應なるは實に不能なるに由る。不能なるは有無等の四句俱に能はざるが爲なり、而して有無四句の外なく四句の内に成立せざれば、能戲論等の三輪も不可得なり無所有なり。

べからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に五眼は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に六神通は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時預流果は若しは超ゆべく若しは超ゆべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に一來不還阿羅漢果獨覺菩提は若しは超ゆべく若しは超ゆべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に布施波羅蜜多は若しは行ずべく若しは行ずべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多は若しは行ずべく若しは行ずべからずと觀て戲論す可からざるが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に內空に若しは住すべく若しは住すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に外空(わ)乃至無性自性空は若しは住すべく若しは住すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に眞如は若しは住すべく若しは住すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に法界(か)乃至不思議界は若しは住すべく若しは住すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に菩薩の正性離生は若しは趣入すべく若しは趣入すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に菩薩の十地正行は若しは圓滿すべく若しは圓滿すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切有情は若しは成熟すべく若しは成熟すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に一切の佛土は若しは嚴淨すべく若しは嚴淨すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩摩薩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に佛の

卷の第三百六十九

初分遍學道品第六十四之四

(a)大慈・大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃(な)至一切相智。(a)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に苦聖諦は若しは遍知すべく若しは遍知すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に集聖諦は若しは永く斷ずべく若しは永く斷ずべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に滅聖諦は若しは作證すべく若しは作證すべからずと觀て戲論すべからざるべきが故に戲論すべからず、應に道聖諦は若しは修習すべく若しは修習すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に四靜慮は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に四無量四無色定は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に四念住は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に四正斷乃(そ)至八聖道支は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に空解脫門は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に無相無願解脫門は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に八解脫は若しは修すべく若しは修すべからずと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に八勝處九次第定十遍處は若しは修すべく若しは修す

(a) 前卷と同意

復た次に(a)善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時應に色は若しは常若しは無常なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論す應からず、應に受想行識は若しは常若しは無常なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は若しは樂若しは苦なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若しは樂若しは苦なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は若しは我若しは無我なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若しは我若しは無我なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は若しは淨若しは不淨なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若し淨若しは不淨なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は寂靜若しは不寂靜なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若しは寂靜若しは不寂靜なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は若しは遠離若しは不遠離なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若しは遠離若しは不遠離なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。應に色は若しは是所遍知若しは非所遍知なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず、應に受想行識は若しは是所遍知若しは非所遍知なりと觀て戲論す可からざるべきが故に戲論すべからず。

(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)内空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。

(a)「善現菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時應觀色若常若無常不可戲論故不應戲論………應觀色若是所遍知若非所遍知不可戲論故不應戲論應觀受想行識若是所遍知若非所遍知不可戲論故不應戲論」前卷(n)の場合と全く同方法によりて以下略出するに止む。

【一】戲論す可からざる應きが故に戲論す應からず。頗はしき重言の如きも、前卷に云へる通り色の常若しは無常なりと觀るは戲論なり、かく觀、かく戲論すべからざる筈なるを以て戲論してはならぬと說示するなり。應觀………不可戲論故不應戲論

さん、應に布施波羅蜜多を行ずべしと、是れを戲論と爲す。應に淨戒乃至般若波羅蜜多を行ずべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に內空に住すべしと、是れを戲論と爲す。應に外空乃至無性自性空に住すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に眞如に住すべしと、是れを戲論と爲す。應に法界乃至不思議界に住すべしと、是れを戲論と爲すと。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に菩薩の正性離生に趣入すべしと、是れを戲論と爲す。應に菩薩の十地正行を圓滿すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に有情を成熟すべしと、是れを戲論と爲す。應に佛土を嚴淨すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に佛の十力を起すべしと、是れを戲論と爲す。應に四無所畏四無礙解十八佛不共法を起すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に大慈を起すべしと是れを戲論と爲す、應に大悲大喜大捨を起すべしと、是れを戲論と爲すと。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に無忘失法を起すべしと、是れを戲論と爲す。應に恒住捨性を起すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を起さん、應に一切智を起すべしと、是れを戲論と爲す。應に道相智一切相智を起すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に一切三摩地門を起すべしと、是れを戲論と爲す。應に一切陀羅尼門を起すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に一切の煩惱の習氣相續を斷ずべしと、是れを戲論と爲す、應に諸佛の無上正等菩提を證すべしと、是れを戲論と爲す。善現是の如き等の類は一切戲論なり。是れを菩薩摩訶薩の所有戲論と爲す。

卷の第三百六十八

初分遍學道品第六十四之三

知若しは非所遍知を觀る是れを戲論と爲す。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、苦聖諦は應に遍ねく知るべしと、是れを戲論と爲す。集聖諦は應に永く斷ずべしと、是れを戲論と爲す。滅聖諦は應に作證すべしと、是れを戲論と爲す。道聖諦は應に修習すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に[二]四靜慮を修すべしと、是れを戲論と爲す。應に四無量四無色定を修すべしと是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に[三]四念住を修すべしと、是れを戲論と爲す、應に[四]四正斷[五]四神足五根五力七等覺支八聖道支を修すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に空解脫門を修すべしと、是れを戲論と爲す。應に無相無願解脫門を修すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に八解脫を修すべしと、是れを戲論と爲す、應に八勝處九次第定十遍處を修すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に五眼を修すべしと、是れを戲論と爲す。應に六神通を修すべしと、是れを戲論と爲す。善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作さん、應に預流果を超ゆべしと、最れを戲論と爲す。應に一來不還阿羅漢果獨覺菩提を超ゆべしと、是れを戲論と爲す善現、菩薩摩訶薩若し是の念を作

【二】四靜慮。四靜慮天に生ずる色界の四禪定を云ふ。初禪は欲界を離るゝ定心にして喜樂相應の知的に專注せる心、粗き覺(尋)と細き觀(伺)との有無にて三を分つ一に有尋有伺定、二に無尋唯伺定、三に無尋無伺定なり。二禪は色界定に於ける喜樂一心相應にて情意の世界なり、第三禪は二禪の喜支を捨てゝ捨支念支樂支慧支一心支の五支相應とす。第四禪は三禪の樂支を除きて不苦不樂支捨支念支一心支の純意界なり。

【三】四念住。常樂我淨の四顚倒を起す對象たる身、受、心、法の四法の妄見を破するため主觀の智を以てする四種の觀法なり。一に身念住、二に受念住、三に心念住、四に法念住。

【四】四正斷。四善根位の援位の修行法なり。一に已に生じたる惡法は爲めに除斷す、二に未だ生ぜざる惡法は生ぜしめず、三に未だ生ぜざる善法は爲に生ぜしむ、四に已に生じたる善法は爲めに增長す。

【五】四神足。三十七科の道品中、四正斷に次いで修する四種の禪定、この四禪定を修せば定慧均等にして所願意の如く得るといふ意にて四如意足とも稱す。一に欲如意足、二に念如意足、三に精進如意足、四に思惟如意足。

卷の第三百六十七

初分遍學道品第六十四之二

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、有性法は能く無性を現證すと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、無性法は能く有性を現證すと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、有證法は能く有性を現證すと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、無證法は能く無性を現證すと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、若し爾れば亦た應に有性は無性を現觀すること能はず、無性は有性を現觀すること能はず、有性は有性を現觀すること能はず、無性は無性を現觀すること能はざるべし。將に世尊現觀を得ずとしたまふこと無きを將るか。佛言はく、善現、現觀を得ること有るも然かも四句を離ると。世尊、云何が現觀を得ること有るも然かも四句を離るるやと。善現、有に非ず無に非ず諸の戲論を絕てる、乃ち現觀と名づく。得も亦た是の如し。是の故に我れ現觀を得ること有るも然かも四句を離ると說くと。爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は何を以て戲論と爲すやと。佛言はく、(a)善現、菩薩摩訶薩色の若しは常若しは無常を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは常若しは無常を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは樂若しは苦を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは樂若しは苦を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは我若しは無我を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは我若しは無我を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは淨若しは不淨を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは淨若しは不淨を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは寂靜若しは不寂靜を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは寂靜若しは不寂靜を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは遠離若しは不遠離を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは遠離若しは不遠離を觀る是れを戲論と爲し、色の若しは是所遍知若しは非所遍知を觀る是れを戲論と爲し受想行識の若しは是所遍

【一】菩薩諸法觀に於ける戲論不戲論を明す。

(a)「善現菩薩摩訶薩觀色若常若無常是爲戲論觀受想行識若常若無常是爲戲論……觀色若是所遍知若非所遍知是爲戲論觀受想行識若是所遍知若非所遍知是爲戲論」右も前卷(ル)の場合の如く五蘊のある所に次下の諸法を代入し以下略すものとす。

初分遍學道品第六十四之一

[一]

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は最勝覺を具し能く是の如き深法を受行すと雖も而かも能く中に於て果報を求めずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の菩薩摩訶薩は最勝覺を具し能く是の如き深法を行ずと雖も而かも其の中に於て果報を求めず。何を以ての故に、善現、諸の菩薩摩訶薩は自性に於て動ずる無きが故なりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は能く何等の自性に於て動ずる無きやと、佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は能く無性自性に於て動ずる無しと。世尊、諸の菩薩摩訶薩は能く何等の諸法の無性自性に於て動ずる無きやと。善現、諸の菩薩摩訶薩は能く、(d)色の無性自性に於て動ずる無く能く受想行識の無性自性に於て動ずる無く。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力、四無畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行、能く諸佛の無上正等菩提の無性自性に於て動ずる無し。何を以ての故に、善現、諸法の自性は卽ち是れ無性、無性は無性を現證すること能はざればなりと。

【一】遍學。證不證を離れて一切を學するなり。有所作は戲論となるべし。

【二】菩薩は諸法の無性自性に於て動ずる無きを明す。

(d)「能於色無性自性無動能於受想行識無性自性無動」右の文中「色乃至識」のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

[23]四無所畏四無礙解[24]十八佛不共法大慈大悲大喜大捨無忘失法恒住捨性一切智道相智一切相智五眼六神通を學するも乃至未だ成熟有情嚴淨佛土を具せず、且つ未だ一切智智を證得せず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法の無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增上するに由るが故に能く佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法大慈大悲大喜大捨無忘失法恒住捨性一切智道相智一切相智五眼六神通を行ず。能く佛の十力乃至六神通を行ずるに由るが故に便ち能く成熟有情嚴淨佛土を圓滿して漸次に一切智智を證得す。善現、是の如きを名づけて方便善巧と爲す。若し菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就せば諸の爲す所有るは定めて能く一切智智を證得す。善現、是の如き方便善巧は皆般若波羅蜜多に由りて成就することを得。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を行じ諸の爲す所有るも果報を求めざるべしと。

【二三】四無所畏。佛、菩薩が說法に當つて何ら畏れを感ぜざる四種の智德なり。
【二四】十八佛不共法。佛のみが有し、二乘や菩薩には共同せざる十八種の功德法なり。

著せず但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脫者を解脫せしめんが爲に諸の靜慮無量無色を修して執受する所無し。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より般若波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て一切の菩提分法を修學せば是の如き方便善巧を成就す。[一七]見修所斷の法道を行ずと雖も而かも預流果を取らず亦復た一來不還阿羅漢果獨覺菩提を取らず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に[一八]三十七菩提分法を行ず。是の如き菩提分法を行ずと雖も而かも聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に證入す。善現、是れを菩薩摩訶薩の無生法忍と名づく。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時は一切智智相應の作意を以て自在順逆に[一九]八解脫定に入出するを得、亦た自在順逆に[二〇]八勝處定に入出するを得、亦た自在順逆に[二一]九次第定に入出するを得、亦た自在順逆に[二二]十遍處定に入出するを得、亦た能く四聖諦觀を修習し自在に三摩地門陀羅尼門三解脫門に入出すと雖も而かも能く方便善巧を成就して預流果を取らず亦た一來不還阿羅漢果獨覺菩提を取らず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く八解脫定八勝處定九次第定十遍處定四聖諦觀三摩地門陀羅尼門三解脫門を行ず。能く八解脫定乃至三解脫門を行ずと雖も而かも聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の不退轉位に證入す。善現、是れを菩薩摩訶薩の無生法忍と名づく。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時は一切智智相應の作意を以て佛の十力

【一七】見修所斷等。理智によりて見惑を斷じ事行によりて修惑を斷ずるを云ふ。

【一八】三十七菩提分法。生死の迷界より涅槃の境に到るべき道法。四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺支、八正道の總稱なり。

【一九】八解脫定。無漏智を起して三界の惑を斷じ、羅漢果を悟る八種の禪定。

【二〇】八勝處定。八解脫定を修して後、觀心純熟して轉變自在に淨不淨の境を觀ずる八種の觀法なり。

【二一】九次第定。智慧深き者の間雜なく次第を追うて修する九種の禪定なり。

【二二】十遍處定。青黃赤白地水火風空識の十法を觀じ、その一々に於て一切處に周遍せしむる禪定なり。

のみ。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より般若波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て般若を修學せば是の菩薩摩訶薩は諸の惡慧無く、他引くこと能はず、一切の[一五]我我所の執を遠離し、一切の我見・有情見・命者見・生者見・養者見・士夫見・補特伽羅見・意生見・儒童見・作者見・受者見・知者見・見者見を遠離し、一切の有無有見諸の惡見趣を遠離し、憍慢無分別無變異を遠離して妙慧を修す。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く般若波羅蜜多を行じて有情を成熟し佛土を嚴淨す。般若を行ずと雖も而かも慧所得の果を忻求せず、謂ゆる慧に由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず、亦た慧に由りて得る所の生死の勝報を耽求せず但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脫者を解脫せしめんと欲して般若波羅蜜多を修行す。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より般若波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て初靜慮に入り第二第三第四靜慮に入り、慈無量に入り悲喜捨無量に入り、空無邊處定に入り、識無邊處無所有處非想非非想處定に入らば、是の菩薩摩訶薩は靜慮無量無色に於て入出自在なりと雖も而かも彼の[一六]異熟果を貪愛せず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は最勝の方便善巧を成就し、此の方便善巧に由るが故に諸の靜慮無量無色の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く靜慮無量無色を行ず。靜慮無量無色を行じ便ち能く自在なるに由りて有情を成熟し佛土を嚴淨す。靜慮無量無色を行ずと雖も而かも彼の所得の果を忻求せず、謂ゆる靜慮無量及び無色定所得の生死の諸の異熟果に貪

【一五】我我所。我と我所なり。我は自我、自身を云ひ、我所とは我に附屬するもの、我によつて執着せらるゝものを云ふなり。

【一六】異熟果。因果が其性を異にして成熟せるもの。善因善果惡因惡果に非ずして、善及び惡の業因が諸種の所緣に依りて非善非惡の無記性の結果を得たるものに名くるなり。

の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して定を念じ舌根を守護す。是の菩薩摩訶薩は身觸を覺し已つて諸の相を取らず隨好を取らず、卽ち是の處に於て身根を防護して放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して身根を守護す。是の菩薩摩訶薩は意法を了し已つて諸の相を取らず隨好を取らず、卽ち是の處に於て意根を防護して放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して定を念じ意根を守護す。是の菩薩摩訶薩は若しは行若しは住若しは坐若しは臥若しは語若しは默、常に[一三]三摩呬多[一四]奢摩他位を捨離せず。是の菩薩摩訶薩は若しは手若しは足倶に饕餮せず、語剛强ならず、言諠雜ならず、眼及び諸根皆紛擾せず、掉はず動ぜず亦た倨傲ならず。身散亂せず、語散亂せず、心散亂せず、身寂靜に語寂靜に心寂靜なり。若しは隱若しは露威儀を異にする無く。諸の飮食衣服臥具病に綠る醫藥及び餘の資產に於て皆喜足を生じ、滿ち易く養ひ易く供す可き事易し。軌則行ずる所調善せざる無く、諠雜に處すと雖も而かも遠離を行じ、利に於て衰に於て樂に於て苦に於て讃に於て毀に於て稱に於て譏に於て活に於て殺に於て平等にして變り無く高からず下からず、怨に於て親に於て善に於て惡に於て憎愛無く喜無く憂無し。諸聖の言に於て非聖の言に於て遠離に於て憒鬧に於て其の心平等にして改易有ること無し。愛す可き色愛す可からざる色に於て諸の隨順違逆の事の中に於て都て分別せず心常に安定す。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法の無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就し恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く靜慮波羅蜜多を行じて有情を成熟し佛土を嚴淨す。靜慮を行ずと雖も而かも定より得る所の果を忻求せず、謂ゆる定に由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず亦た定に由りて得る所の生死の勝報を耽求せず、但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脫者を解脫せしめんと欲して靜慮波羅蜜多を修行する

【一三】三摩呬多 (Samāhita)。禪定の一種、等引と譯す。
【一四】奢摩他 (Śamatha)。禪定七名の一、止、寂靜能滅など譯す。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より精進波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て、正勤して堅固の鎧を被、勇猛にして怯れ無く懈怠懶惰を遠離する心を發起せば是の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を求めんが爲に勇猛正勤して衆苦を懼れず亦た能く方便して遮止制伏す。謂ゆる人の苦阿素洛の苦鬼界の苦傍生の苦地獄の苦及び餘の衆苦に於て皆怯懼せず亦た能く方便して遮止制伏し勤めて善法を修し常に懈廢すること無し。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就し恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く精進波羅蜜多を行じ、有情を成熟し佛土を嚴淨す。精進を行ずと雖も而かも勤めて得る所の果を忻求せず、謂ゆる勤に由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず亦た勤に由りて得る所の生死の勝報を耽求せず、但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脱者を解脱せしめんと欲して精進波羅蜜多を修行するのみ。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より靜慮波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て諸定を修學せば是の菩薩摩訶薩は眼色を見已つて諸の相を取らず隨好を取らず、即ち是の處に於て眼根を防護して放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して定を念じ眼根を守護す。是の菩薩摩訶薩は耳聲を聞き已つて諸の相を取らず隨好を取らず、即ち是の處に於て耳根を防護して放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して定を念じ耳根を守護す。是の菩薩摩訶薩は鼻香を嗅ぎ已つて諸の相を取らず隨好を取らず、即ち是の處に於て鼻根を防護し放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸の煩惱漏を起さしむる勿く、專修して定を念じ鼻根を守護す。是の菩薩摩訶薩は舌味を嘗め已つて諸の相を取らず隨好を取らず、即ち是の處に於て舌根を防護して放逸住ならず、心をして世間の貪愛惡不善法諸

所と爲らず、亦復た隨眠諸纏及び餘の種種の惡不善法菩提を障ふる者の覆蔽する所と爲らず、所謂[一〇]慳悋・惡戒・忿恚・懈怠・劣心・亂心・惡慧・[二]諸慢・過慢・慢過慢・我慢・增上慢・卑慢・邪慢なり。亦た常に聲聞獨覺相應の作意を起さず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相は皆空[三]無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法は無作無能なりと知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就し恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く淨戒波羅蜜多を行じ有情を成熟し佛土を嚴淨し、淨戒を行ずと雖も而かも戒より得る所の果を忻求せず、謂ゆる戒に由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず亦た戒に由りて得る所の生死の勝報を耽求せず、但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脱者を解脱せしめんと欲して淨戒波羅蜜多を修行するのみ。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より安忍波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て安忍を修學せば是の菩薩摩訶薩は乃至自命を護る因緣の爲に亦た一念忿恚惡言も怨恨に加報するの心を發起せず。是の菩薩摩訶薩は假使ひ來りて其の命を害せんと欲し、資財を劫奪し妻室を侵陵し、虛誑罔冒して親友を離間し、麁言罵辱雜穢嘲諧し、或は捶ち或は打ち或は割き或は截り、或は種種不饒益事を爲す有らんも彼の有情に於て都て忿恨無く唯だ彼れに利益安樂を作さんと欲するのみ。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り一切法無作無能なるを知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就し恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く安忍波羅蜜多を行じ有情を成熟し佛土を嚴淨す。安忍を行ずと雖も而かも忍より得る所の果を忻求せず、謂ゆる忍に由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず、亦た忍に由りて得る所の生死の勝報を耽求せず、但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脱者を解脱せしめんと欲して安忍波羅蜜多を修行するのみ。

【一〇】慳悋等。慳悋、惡戒、忿恚、懈怠、亂心、惡慧を六敝と稱す。淨心を覆ふ六種の惡心なり。
【二】諸慢等。諸慢、過慢、慢過慢、我慢增上慢、卑慢、邪慢を七慢と稱す。已を恃て他を凌げりとたかぶる七種の心作用なり。
【三】無起等。生住異滅の四相なきなり。

故に菩薩摩訶薩有りて已に諸佛を恭敬供養し殊勝の善根を種植し圓滿し眞善友に多く攝受せらるゝことを得と雖も而かも一切智智を得ること能はざるやと。佛言はく、善現、彼の菩薩摩訶薩は方[九]便善巧力を遠離するが故に一切智智を證得すること能はず。謂ゆる彼の菩薩摩訶薩は諸佛に從ひて、是の如き方便善巧を說くを聞きて諸佛世尊を恭敬供養し殊勝の善根を種植し圓滿し、眞善知識に親近し供養せざるが故に一切智智を得ること能はざるなりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて方便善巧と爲し、菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就して諸の所爲有らば定めて能く一切智智を證得するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩初發心より布施波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て或は如來應正等覺に施し、或は獨覺に施し、或は聲聞に施し、或は菩薩摩訶薩に施し、或は諸餘の沙門婆羅門に施し、或は外道の梵行を修する者に施し、或は貧窮の道行苦行及び來求者に施し、或は一切の人非人等に施さば是の菩薩摩訶薩は是の如き一切智智相應の作意を成就し、布施を行ずと雖も而かも施相無く受者想無く施者想無く亦た一切の我我所想無し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相は皆空無起無成無轉無滅なりと觀じて諸の法相に入り、一切法は無作無能なりと知りて諸の行相に入ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の如き方便善巧を成就して恒時に殊勝の善根を增長す。勝善根常に增長するに由るが故に能く布施波羅蜜多を行じて有情を成熟し佛土を嚴淨す。布施を行ずと雖も施して得る所の果を祈求せず、謂ゆる施すに由りて得る所の諸の愛す可き境に貪著せず亦た施すに由りて得る所の生死の勝報を耽求せず、但だ無救護者を救護せんが爲に及び未解脫者を解脫せしめんと欲して布施波羅蜜多を修行するのみ。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩初發心より、淨戒波羅蜜多を修行する時一切智智相應の作意を以て淨戒を受持し、其の心貪欲の覆ふ所と爲らず、亦復た瞋恚の覆ふ所と爲らず、亦復た愚癡の覆ふ

【九】方便善巧力。般若波羅蜜多による實行力を云ふなり。

を見已つて復た善く通達し、善く通達し已つて[五]陀羅尼を得、陀羅尼を得已つて[六]無礙解を起し、無礙解を起し已つて乃至一切智智を證得するまで所生の處に隨つて、聞持する所の正法のもん義に於て終に忘失せず。諸佛の所に於て無量廣大の善根を種植し、諸の善根に攝受せらるゝに由るが故に終に惡趣難處に枉生せず。復た善根に攝受せらるゝに由るが故に一切時に於て意樂淸淨なり。意樂淨なるが故に常に能く所求の佛土を嚴淨し亦た常に所化の有情を成熟す。復た善根に攝受せらるゝに由るが故に常に眞善知識を遠離せず。謂ゆる諸の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆獨覺聲聞幷びに餘の能く佛法僧を讃ずる者に常に親近して恭敬供養することを得。是の如く善現、菩薩摩訶薩、諸佛を恭敬供養せば殊勝の善根を圓滿し眞善友に多く攝受せらるゝことを得て速に能く一切智智を證得す。是の故に善現、菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多を行じて疾く一切智智を證得せんと欲せば應に勤めて諸佛を恭敬供養し殊勝の善根を攝受圓滿し常に求めて眞善知識に親近し恒に厭倦無かるべしと。

[七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩諸佛を恭敬供養せず、殊勝の善根を圓滿せず。善友に多く攝受せらるゝことを得ざれば[八]必ず一切智智を得ること能はざるやと。佛言はく、善現、若し諸佛を恭敬供養せず殊勝の善根を圓滿すること能はず善友に多く攝受せらるゝことを得ずんば尙ほ菩薩摩訶薩の名すら得べからず、況や能く一切智智を證得せんをや。何を以ての故に、善現、或は諸佛を恭敬供養し殊勝の善根を種植し圓滿し眞善友に多く攝受せらるゝことを得るも尙ほ一切智智を得ること能はず、況や諸佛を恭敬供養せず殊勝の善根を圓滿すること能はず善友に多く攝受せらるゝことを得ずして能く一切智智を證得せんをや。彼れ若し能く一切智智を得とせば是の處有ること無し。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩、菩薩摩訶薩の名に住せんと欲し、疾く一切智智を證得せんと欲せば當に勤めて諸佛を恭敬供養し、殊勝の善根を種植し圓滿し、眞善知識に親近し供養して厭倦を生ずること勿るべしと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の

あるを云ふ。

【五】陀羅尼（Dhāraṇī）。聞持と實相の二種あり。讀誦憶念して聞持を得、義理に通達して實相を得るなり。

【六】無礙解。菩薩說法の無礙自在なる智辯にて、これに四あり。一に法無礙解、二に義無礙解、三に辭無礙解、四に樂說無礙解なり。

【七】一切智智成就の爲に修する六度善根を明す。

【八】原本豈に作る、今明本に從ふ。

佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩二行を以て行ぜば則ち[二]諸の善法增長するを得ず。何を以ての故に、善現、一切の愚夫異生は皆二に依るが故に起す所の種種の善法增長するを得ざればなり。菩薩摩訶薩は不二を行ずるが故に初發心より乃至最後心の起るまで一切時に於て善法增長す。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩の善根は堅固にして制伏す可からず。世間の天人阿素洛等も破壞して聲聞或は獨覺地に墮せしむること能はず、世間種種の惡不善法も(c)制伏して布施波羅蜜多を行ずる時起す所の善法をして增長するを得ざらしむること能はず、制伏して淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時起す所の善法をして增長するを得ざらしむること能はず。(c)內空[わ]乃至無性自性空。(c)眞如[そ]乃至不思議界。(c)四念住[そ]乃至八聖道支。(c)苦聖諦[る]乃至道聖諦。(c)四靜慮[た]乃至四無色定。(c)三摩地門、陀羅尼門。(c)空解脫門[つ]乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智[な]乃至一切相智。是の故に善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く甚深般若波羅蜜多を行ずべしと。[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は善根の爲の故に深般若波羅蜜多を行ずる耶と。佛言はく、不なり善現、菩薩摩訶薩は善根の爲の故に深般若波羅蜜多を行ぜず亦た不善根の爲の故に深般若波羅蜜多を行ぜず。何を以ての故に、善現、菩薩摩訶薩の法は應に是の如くなるべければなり、若し未だ諸佛を恭敬供養せず、若し未だ殊勝の善根を圓滿せず、若し眞善友未だ多く攝受せずんば終に一切智智を得ること能はずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は諸佛を恭敬供養し殊勝の善根を圓滿し眞善友に多く攝受せらるゝを得ば乃ち能く一切智智を證得するやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は初發心より無量の如來應正等覺を恭敬供養し、諸佛の所に從ひて[四]契經應頌記別伽他自說本事本生方廣希法譬喩論議を說くを聞き、聞き已つて總持し、持ち已つて身語に恭敬供養し轉讀し溫習して善く通利せしめ、既に通利し已つて心善く觀察し、善く觀察し已つて深く意趣を見、意趣

【二】諸の善法增長するを得ず。顚倒の故に善法を增長する能はざるなり。

(c)「不能制伏令行布施波羅蜜多時所起善法不得增長不能制伏令行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時所起善法不得增長」右も(f)の場合に準じ以下略出するものとす。

【三】菩薩は善根の爲に供養等をなすに非ずして無上菩提の爲なることを說く。

【四】契經等。契經乃至論議に緣起を加へて十二部經と稱し、佛の說法に十二の樣式があり、經文中に十二種の體裁

巻の三百六十六

初分巧便行品第六十三之二

(一)佛言はく、善現、(a)菩薩摩訶薩は、深般若波羅蜜多を行ずる時二を以て生せざるが故に布施波羅蜜多を攝受し、二を以てせざるが故に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受す。(a)內空(わ)乃至無性自性空。(a)眞如(か)乃至不思議界。(a)四念住(え)乃至八聖道支。(a)苦聖諦(る)乃至道聖諦。(a)四靜慮(た)乃至四無色定。(a)八解脫(れ)乃至十遍處。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)空解脫門(つ)乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力、四無所畏四無礙十八佛不共法。(a)大慈、大悲大喜大捨。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時二を以てせざるが故に諸の聲聞及び獨覺地を超え、二を以てせざるが故に菩薩の正性離生に趣入し、二を以てせざるが故に菩薩の十地正行を修行し、二を以てせざるが故に無上正等菩提を證得すと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩深般波羅蜜多を行ずる時、(b)二を以てせざるが故に布施波羅蜜多を攝受し二を以てせざるが故に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受し、(b)內空(わ)乃至無性自性空、(b)眞如(か)乃至不思議界、(b)四念住(え)乃至八聖道支、(b)苦聖諦(る)乃至道聖諦、(b)四靜慮(た)乃至四無色定、(b)八解脫(れ)乃至十遍處、(b)三摩地門、陀羅尼門、(b)空解脫門(つ)乃至無願解脫門、(b)五眼、六神通、(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法、(b)大慈、大悲大喜大捨、(b)無忘失法、恒住捨性、(b)一切智(え)乃至一切相智、二を以てせざるが故に諸の聲聞及び獨覺地を超え、二を以てせざるが故に菩薩の正性離生に趣入し、二を以てせざるが故に菩薩の十地正行を修行し、二を以てせざるが故に無上正等菩提を證得すとせば云何が菩薩摩訶薩は初發心より乃至最後心の起るまで一切時に於て善法增長するやと。

【一】菩薩不二法を以ての故に無上菩提を證得し、一切時に於て善法增長し諸惡諸魔の伏する能はざるを明す。

(a)「菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時不以二故攝受布施波羅蜜多不以二故攝受淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右も前卷(g)の場合の如くして以下略出す。

(b)「不以二故攝受布施波羅蜜多不以二故攝受淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右も(a)の場合の如くして以下略出す。

諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脱乃至十遍處。(e)三摩地門、陀羅尼門。(e)空解脱門、無相無願解脱門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(e)大慈、大悲大喜大捨。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。

佛言はく、善現、菩薩摩訶薩菩提の爲の故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時は一切法に於て益無く損無く增無く減無く生無く滅無く染無く淨無し。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脱乃至十遍處。(f)三摩地門、陀羅尼門。(f)空解脱門、無相無願解脱門。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(f)大慈、大悲大喜大捨。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。何を以ての故に、善現、菩薩摩訶薩、菩提の爲の故に深般若波羅蜜多を行ずるに一切法に於て都て無所緣なるに、而かも方便と爲して、益損を爲さず增減を爲さず生滅を爲さず染淨を爲さずして現在前するが故なりと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩菩提の爲の故に深般若波羅蜜多を行ずるに一切法都て無所緣なるに而かも方便と爲して益を爲さず損を爲さず增を爲さず減を爲さず生を爲さず滅を爲さず染を爲さず淨を爲さざるが故に現在前すと爲さば、(g)云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時布施波羅蜜多を攝受し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受するや。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)四念住乃至八聖道支。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脱乃至十遍處。(g)三摩地門、陀羅尼門。(g)空解脱門乃至無願解脱門。(g)五眼、六神通。(g)佛十力、四無所畏四無礙十八佛不共法。(g)大慈、大悲大喜大捨。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時諸の聲聞及び獨覺地を超えて菩薩の正性離生に趣入し菩薩の十地正行を修行して無上正等菩提を證得するやと。

(f)「善現菩薩摩訶薩爲菩提故行布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時於一切法無益無損無增無減無生無滅無染無淨」右も(e)の場合と全く同じき方法により以下略す「行」の「住」及び「修」に改むることも亦た同じ。

(g)「云何菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時攝受布施波羅蜜多攝受淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多―」右も(f)の場合の如く六度の所に代入して略するものとす。

現、佛に白して言さく、世尊、如來は常に佛陀を說きたまふ。佛陀は何の義を以ての故に名づけて佛陀と爲すやと。佛言はく、善現、[五]實義を隨覺するが故に佛陀と名づく。復た次に善現、實法を現覺するが故に佛陀と名づく。復た次に善現、實義に通達するが故に佛陀と名づく。復た次に善現、一切法に於て如實に現覺するが故に佛陀と名づく。復た次に善現、一切法に於て自相共相有相無相自然に開覺するが故に佛陀と名づく。復た次に善現、三世の法及び無爲法の一切種相に於て無障智轉ずるが故に佛陀と名づく。復た次に善現、如實に一切有情を開覺して顚倒惡業の衆苦を離れしむるが故に佛陀と名づく。復た次に善現、能く如實に一切の法相所謂無相を覺するが故に佛陀と名づくと。

[六]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、如來は常に菩提を說きたまふ。菩提は何の義を以ての故に名づけて菩提と爲すやと。佛言はく、善現、法空の義を證するは是れ菩提の義なり、眞如の義を證するは是れ菩提の義なり、實際の義を證するは是れ菩提の義なり、法性の義を證するは是れ菩提の義なり。法界の義を證するは是れ菩提の義なり。復た次に善現、名相を假立し、言說を施設し、能く眞實に最上勝妙を覺するが故に菩提と名づく。復た次に善現、破壞す可からず分別す可からざるが故に菩提と名づく。復た次に善現、法は眞如性、不虛妄性、不變異性、無顚倒性なるが故に菩提と名づく。復た次に善現、唯だ名相のみを假りて謂ゆる菩提と爲し而かも眞實の名相の得可き無きが故に菩提と名づく。復た次に善現、諸佛所有の眞淨妙覺なるが故に菩提と名づく。復た次に善現、諸佛此れに由りて諸法の一切種相を現覺するが故に菩提と名づくと。

[七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(e)世尊、菩薩摩訶薩、菩提の爲の故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時何等の法に於て益を爲し損を爲し增を爲し減を爲し生を爲し滅を爲し染を爲し淨を爲すや。(e)內空乃至無性自性空。(わ) (e)眞如乃至不思議界。(か) (e)四念住乃至八聖道支。(こ) (e)苦聖

【五】實義を隨覺する等。實義を隨覺す。實法を現覺す、實義に通達す、一切法に於て如實に現覺すなど何れも異名同義にて、諸法實相の不生不滅を知るの意なり。唯意義性相を擧ぶと法の體相を直覺するとに區分するのみ。

【六】菩提の義を明す。

【七】菩提の爲に六度乃至一切相智を行ぜば諸法に於て損益、增減、生滅、染淨無きを明す。

(e)「世尊菩薩摩訶薩爲菩提故行布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時於何等法爲益爲損爲增爲減爲生爲滅爲染爲淨」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「行布施等」とある所の「行」の字を「內空眞如苦聖諦」の三は「住」と改め其の他は「修」と改むるものとす。

初分巧便行品第六十三之一[一]

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、如來は常に菩薩の菩薩行を行ずるを說きたまふ。何等をか名づけて菩薩行と爲すやと。佛言はく、善現、菩薩行とは謂ゆる無上正等菩提の爲の故に行ずる是れを菩薩行と名づくと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は當に何處に於て菩薩行を行ずべきやと。佛言はく、善現、(d)菩薩摩訶薩は當に色空に於て菩薩行を行ずべく當に受想行識空に於て菩薩行を行ずべし。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)內法、外法。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)初靜慮、第二第三第四靜慮。(d)慈無量、悲喜捨無量、(d)空無邊處定、識無邊處定無所有處非想非非想處定。(b)四念住乃至八聖道支。(b)和合、不和合。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(b)八解脫乃至十遍處。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(d)大慈、大悲大喜大捨。(d)五眼、六神通。(d)一切三摩地門、一切陀羅尼門。菩薩摩訶薩は當に嚴淨佛土空に於て菩薩行を行ずべく當に成熟有情空に於て菩薩行を行ずべし。菩薩摩訶薩は當に[三]引發辯才陀羅尼空に於て菩薩行を行ずべく當に引發文字陀羅尼空に於て菩薩行を行ずべく當に引發文字陀羅尼空に於て菩薩行と行ずべし。菩薩摩訶薩は當に悟入文字陀羅尼空に於て菩薩行を行ずべく當に悟入無文字陀羅尼空に於て菩薩行を行ずべし。菩薩摩訶薩は當に有爲界空に於て菩薩行を行ずべく當に無爲界空に於て菩薩行を行ずべし。菩薩摩訶薩是の如く菩薩行を行ずる時、佛の無上正等菩提は諸法の中に於て二相を作さざるが如く、善現、若し菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜多を行ずる時は無上正等菩提の爲に菩薩行を行ずと名づくと。[四]爾の時具壽善

【一】空の故にその行ふ所方便善巧となり、能く進化の過程となるを云ふ。

【二】般若卽菩薩行を明す。

(d)「菩薩摩訶薩當於色空行菩薩行當於受想行識空菩薩行」右の文中「色乃至識」の所に大下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】引發辯才陀羅尼等。先づ言說により文字により、進で文義に通じ文底の玄意に徹する四陀羅尼を云ふ。

【四】菩薩行の果報は佛陀なることを說く。

智を修行する時、此の一切智[五]乃至一切相智に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は一切智智を隨證得する時此の一切智智に於て能く隨證得する者、此れに由りて隨證得し、及び隨證得する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は常に是の念を作せばなり、諸法は皆無性を以て性と爲す、[六]是の如き無性は本性自爾として佛の所作に非ず、獨覺作に非ず、聲聞作に非ず亦た餘の作に非ず、一切法は皆作者無く作者を離るるを以ての故なりと。

[七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、豈に諸法は諸法の性を離れざるやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸法は諸法の性を離れざる無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、[八]若し一切法法性を離るれば云何が離法能く離法の若しは有若しは無なるを知るや。何を以ての故に、世尊、無法能く無法を知るべからず、有法能く有法を知るべからず、無法能く有法を知るべからず、有法能く無法を知るべからざればなり。世尊、是の如き一切法は皆無知を性と爲す、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して諸法の若しは有若しは無なるを顯示するやと。[九]佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し世俗に隨ふが故に諸法の若しは有若しは無なるを顯示す、勝義に隨ふに非ずと。世尊、世俗と勝義と異り有りと爲すや不やと。不なり善現、世俗に異りて別に勝義有るに非ず。何を以ての故に、善現、[一〇]世俗眞如は卽ち是れ勝義なればなり。諸の有情類は顚倒し妄執して此の眞如に於て知らず見ず、菩薩摩訶薩は彼れを哀愍するが故に世俗の相に隨ひて諸法の若しは有若しは無なるを顯示す。復た次に善現、諸の有情類は蘊等の法に於て實有の想を起し非有なるを知らず、菩薩摩訶薩彼れを哀愍するが故に諸法の若しは有若しは無なるを分別す、如何してか當に彼の有情類をして蘊等の法皆實有に非ざるを知らしむべきと。善現、諸の菩薩摩訶薩は應に是の如く甚深般若波羅蜜多を行ずべしと。

【六】無性の義を示す。

【七】一切法諸法性を離るゝを說く。

【八】認識の不能なるべきを難ず。

【九】菩薩は世諦を以て諸法の有無を顯示するを明す。

【一〇】事件そのものに變りはなきも我執するが故に我他差別してそのまゝの眞如を見ざるのみ。

此の眞如乃至不思議界に於て能く安住する者、此れに由りて安住し、安住を修する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は四念住(二)乃至八聖道支を修行する時、此の四念住乃至八聖道支に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は苦聖諦集滅道聖諦に安住する時、此の苦聖諦集滅道聖諦に於て能く安住する者、此れに由りて安住し、安住を修する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は四靜慮(二)乃至四無色定を修行する時、此の四靜慮(二)乃至四無色定に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は八解脫(七)乃至十遍處を修行する時、此の八解脫(七)乃至十遍處に於て能く修行する者此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は一切三摩地門一切陀羅尼門を修行する時此の一切三摩地門一切陀羅尼門に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する所、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩摩訶薩薩は空解脫門無相無願解脫門を修行する時、此の空解脫門無相無願解脫門に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず、況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は五眼六神通を修行する時、此の五眼六神通に於て能く修行する者此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は佛の十力(十)乃至十八佛不共法を修行する時、此の佛の十力乃至十八佛不共法に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は無忘失法、恒住捨性を修行する時、此の無忘失法、恒住捨性に於て能く修行する者、此れに由りて修行し、及び修行する處、尙ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は一切智(七)乃至一切相

大悲大喜大捨無忘失法恒住捨性一切智道相智一切の相智を得ざるは皆菩提道を學し未だ圓滿することを得ざるものと名づく。若し此の道に於て已に圓滿することを得ば則ち一切の波羅蜜多に於ても亦た已に圓滿す。波羅蜜多已に圓滿するが故に[三]一刹那相應の妙慧に由りて如來の一切相智を證得す。爾の時一切の微細の煩惱の習氣相續永く生ぜざるが故に無餘斷と名づけ、則ち如來應正等覺と名づく。無障礙清淨の佛眼を以て遍ねく十方三界の諸法を觀ずるに尚ほ無を得ず況んや當に有を得べけんや。

[四]是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を行じ一切法皆無性を以て其の自性と爲すと觀ずべし。善現、是れを菩薩摩訶薩の最勝善巧方便と名づく。謂ゆる般若波羅蜜多を行じ一切法を觀ずるに尚ほ無を得ず況んや當に有を得べけんや。善現、[五]是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行する時、此の布施に於て施者、受者、諸の施す所の物及び菩提心尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。淨戒波羅蜜多を修行する時、此の淨戒に於て淨戒を護る處、淨戒を持つ者、淨戒を守る心尚ほ無とすら觀ぜず、況んや觀じて有と爲さんや。安忍波羅蜜多を修行する時、此の安忍に於て安忍を修する處、能く安忍する者、安忍を修する心、尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。精進波羅蜜多を修行する時、此の精進に於て精進を修する處、能く精進する者、精進を修する心、尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。靜慮波羅蜜多を修行する時、此の靜慮に於て靜慮を修する處、能く靜慮する者、靜慮を修する心、尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。般若波羅蜜多を修行する時、此の般若に於て般若を修する處、般若を修する者、般若を修する心、尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は內空乃至[六]無性自性空に安住する時、此の內空乃至無性自性空に於て能く安住する者、此れに由りて安住し、安住を修する處、尚ほ無とすら觀ぜず況んや觀じて有と爲さんや。善現、是の菩薩摩訶薩は眞如乃至[六]不思議界に安住する時、

【三】一刹那相應の妙慧。最後心斷結の智慧を云ふ。

【四】菩薩般若を行じ、一切法を觀ずるに無法不可得なり、況んや有法をや唯不可得なるを說く。

【五】能、所、果の三輪不可得、清淨なるを明す。

八解脫乃至十遍處。(a)一切三摩地門・一切陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力・四無所畏四無礙解十八佛不共法。(a)大慈・大悲大喜大捨。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。

佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き善巧方便を成就す。謂ゆる修學して一切法は皆無性を以て其の自性と爲すと知ると雖も而かも常に精勤して有情を成熟し佛土を嚴淨し、常に精勤して有情を成熟し佛土を嚴淨すと雖も而かも勤め修學して諸の有情及び諸の佛土は皆無性を以て其の自性と爲すと知ると。善現、是の菩薩摩訶薩は(b)布施波羅蜜多を行じて菩提道を學すと雖も而かも菩提道は無性を自性と爲すと知り、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行じて菩提を學すと雖も而かも菩薩道は無性を自性と爲すと知る。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)初靜慮、第二第三第四靜慮。(b)慈無量、悲喜捨無量。(b)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非非想處定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(b)大慈、大悲大喜大捨。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。

善現、是の菩薩摩訶薩は(c)是の如く布施波羅蜜多を修行して菩提道を學し是の如く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行して菩提道を學し、(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支、(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)初靜慮、第二第三第四靜慮。(c)慈無量、悲喜捨無量。(c)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非非想定、(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通、(c)佛の十力、四無所畏四無礙解十八佛不共法。(c)大慈、大悲大喜大捨、(c)無忘失法、恒住捨性、是の如く一切智を修行して菩提道を學し是の如く道相智一切相智を修行して菩提道を學し、乃至未だ如來の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法大慈

(b)「雖行布施波羅蜜多學菩提道而知菩提道無性爲自性雖行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多學菩提道而知菩提道無性爲自性」右も全く(a)の場合の如くして略す「雖行」とあるを「眞如內空苦聖諦」の三のみは「雖住」と改むることも(a)の場合に同じ。

(c)「如是修行布施波羅蜜多學菩提道如是修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多學菩提道」右も(b)場合に準じ以下諸法のみ略出するものとす、但し「修行」とあるは「內空眞如苦聖諦」の三の所のみは「安住」と改むることと亦た(b)に準ず。

三摩地門一切陀羅尼門。(j)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(j)大慈大悲大喜大捨。(j)無忘失法・恒住捨性。(j)一切智乃至一切相智。(j)初眼第二第三第四第五眼。(j)初神通第二第三第四第五第六神通。(j)有爲界無爲界。善現、是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は應に一切法は皆無性を以て其の自性と爲すと知るべし。

巻の第三百六十五

初分實說品第六十二之三

[一] 復た次に善現、一切法は皆空を以て自性と爲し、一切法は皆無相を以て自性と爲し、一切法は皆無願を以て自性と爲す。善現、是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は應に一切法は皆無性を以て其の自性と爲すと知るべし。復た次に善現、一切法は皆眞如を以て自性と爲し、一切法は皆法界を以て自性と爲し、一切法は皆法性を以て自性と爲し、一切法は皆不虛妄性を以て自性と爲し、一切法は皆不變異性を以て自性と爲し、一切法は皆平等性を以て自性と爲し、一切法は皆離生性を以て自性と爲し、一切法は皆法定を以て自性と爲し、一切法は皆法住を以て自性と爲し、一切法は皆實際を以て自性と爲し、一切法は皆虛空界を以て自性と爲し一切法は皆不思議界を以て自性と爲す。善現、是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は應に一切法は皆無性を以て其の自性と爲すと知るべしと。

[二] 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆無性を以て自性と爲さば初めて無上正等覺の心を發せる菩薩摩訶薩は(a)何等の善巧方便を成就して能く布施波羅蜜多を行じ有情を成熟し佛土を嚴淨し、能く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行じ有情を成熟し佛土を嚴淨するや。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)初靜慮、第二第三第四靜慮。(a)慈無量、悲喜捨無量。(a)空無邊處定、識無邊處無所有處非想非想處定。(a)

【一】 一切法自性空を說く。

【二】 菩薩行に於ける善巧方便を明す。

(a)「成就何等善巧方便能行布施波羅蜜多成熟有情嚴淨佛土能行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多成熟有情嚴淨佛土」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ出す、但し「內空眞如苦聖諦」の三は「能行」の代りに「能住」の語を以てするものとす。

(h)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(h)大慈大悲大喜大捨。(h)無忘失法恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)初眼第二第三第四第五眼。(h)初神通第二第三第四第五第六神通、何に緣りて有爲界無爲界も亦た無性を性と爲すやと。

佛言はく、善現、一切相智の自性無なるが故なり。若し法自性無くんば是の法は無性を性と爲す。(i)色受想行識の自性無なるが故なり。若し法自性無くんば是の法は無性を性と爲す。(i)眼處乃至意處。(i)色處乃至法處。(i)眼界乃至意界。(i)色界乃至法界。(i)眼識界乃至意識界。(i)眼觸乃至意觸。(i)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(i)地界乃至識界。(i)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(i)內法外法。(i)四靜慮乃至四無色定。(i)四念住乃至八聖道支。(i)空解脫門乃至無願解脫門。(i)八解脫乃至十遍處。(i)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(i)內空乃至無性自性空。(i)苦聖諦集滅道聖諦。(i)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(i)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(i)大慈大悲大喜大捨。(i)無忘失法、恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)初眼第二第三第四第五眼。(i)初神通第二第三第四第五第六神通。(i)有爲界無爲界。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何に緣りて一切相智の自性は無なるやと。佛言はく、善現、一切相智は和合の自性無きが故なり。若し法和合の自性無くば是の法は則ち無性を以て性と爲す。(j)世尊、何に緣りて色受想行識は自性無なるやと。善現、色受想行識は和合の自性無きが故なり。若し法和合の自性無くば是の法は無性を以て性と爲す。(j)眼處乃至意處。(j)色處乃至法處。(j)眼界乃至意界。(j)色界乃至法界。(j)眼識界乃至意識界。(j)眼觸乃至意觸。(j)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(j)地界乃至識界。(j)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(j)內法外法。(j)四靜慮乃至四無色定。(j)四念住乃至八聖道支。(j)空解脫門乃至無願解脫門。(j)八解脫乃至十遍處。(j)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(j)內空乃至無性自性空。(j)苦聖諦集滅道聖諦。(j)一切

(i)「色受想行識自性無故若法自性無自性是法無性爲性」右も(h)に準じ以下諸法のみ略出す。

(j)「世尊何緣色受想行識自性無……是法則以無性爲性」右も(i)の場合に準じ以下諸法のみ略出す。

縁ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)內法外法。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(b)八解脫乃至十遍處。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)苦聖諦集滅道聖諦。(f)一切三摩地門一切陀羅尼門。(f)佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法。(f)大慈大悲大喜大捨。(f)無忘失法恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。初眼第二第三第四第五眼も亦た無性を性と爲すと爲すや。初神通第二第三第四第五第六神通も亦た無性を性と爲すと爲すや。有爲界無爲界も亦た無性を性と爲すと爲すやと。

佛言はく、善現、但だ一切相智のみ無性を性と爲すに非ず、(g)色受想行識も亦た無性を性と爲し、(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識住乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)內法外法。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)八解脫乃至十遍處。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)內空乃至無性自性空。(g)苦聖諦集滅道聖諦。(g)一切三摩地門一切陀羅尼門。(g)佛の十力。四無所畏四無礙十八佛不共法。(g)大慈大悲大喜大捨。(g)無忘失法・恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)初眼第二第三第四第五眼。(g)初神通第二第三第四第五第六神通。有爲界無爲界も亦た無性を性と爲すと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何に縁りて一切相智は無性を性と爲し、(h)何に縁りて色受想行識も亦た無性を性と爲し、(h)眼處乃至意處(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界、(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(h)地界乃至識界。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)內法外法、(h)四靜慮乃至四無色定。(h)四念住乃至八聖道支。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)八解脫乃至十遍處。(h)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)苦聖諦集滅道聖諦。(h)一切三摩地門・一切陀羅尼門。

(g)「色受想行識亦無性爲性」右も(f)の場合に準じ以下諸法のみ略出す。

(h)「何縁色受想行識亦無性爲性」右も(g)の場合に準じ以下諸法のみ略出す。

發さんに是の諸の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚は菩薩の正性離生に入る一菩薩摩訶薩の獲る所の福聚に於て百分の一にも及ばず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、倶胝分の一にも及ばず、百倶胝分の一にも及ばず、千倶胝分の一にも及ばず、百千倶胝那庾多分の亦た一にも及ばず。善現、假使ひ三千大千世界に充滿せる一切の有情皆菩薩の正性離生に入らんに是の諸の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚は[12]菩提向を行ずる一菩薩摩訶薩の獲る所の福聚に於て百分の一にも及ばず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、倶胝分の一にも及ばず、百倶胝分の一にも及ばず、千倶胝分の一にも及ばず、百千倶胝那庾多分の亦た一にも及ばず。善現、假使ひ三千大千世界に充滿せる一切の有情皆菩提向を行ぜんに是の諸の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚は[13]一如來應正等覺の獲る所の福聚に於て百分の一にも及ばず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、倶胝分の一にも及ばず、百倶胝分の一にも及ばず、千倶胝分の一にも及ばず、百千倶胝那庾多分の亦た一にも及ばずと。[14]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、初めて無上正等覺の心を發せる菩薩摩訶薩は何をか思惟する所なると。佛言はく、善現、初めて無上正等覺の心を發せる菩薩摩訶薩は恒に正しく一切相智と思惟すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、一切相智は[15]何の性有り、一切相智は何の所緣、何の增上、何の行相、何の相有るやと。佛言はく、善現、一切相智は無性を性と爲し、無相を因と爲し、[16]警覺する所無く生無く現無し。又汝の問ふ所の一切相智は何の所緣、何の增上、何の行相、何の相有るやとは、善現、一切相智は無性を所緣と爲し、[17]正念を增上と爲し、寂靜を行相と爲し、無相を相と爲す。善現、一切相智は是の如き所緣、是の如き增上、是の如き行相、是の如き相なりと。[18]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、但だ一切相智のみ無性を性と爲すと爲すや。(f)色受想行識も亦た無性を性と爲すと爲すや。(f)眼處(い)乃至意處。(f)色處(ろ)乃至法處。(f)眼界(は)乃至意界。(f)色界(に)乃至法界。(f)眼識界(ほ)乃至意識界。(f)眼觸(へ)乃至意觸。(f)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受(と)乃至意觸に

【一二】菩提向。第八地乃至十地、不退に成佛に向ふ菩薩なり。今其の第九位を擧ぐ。

【一三】一如來等。第十如來地なり。

【一四】甚深般若無想得難きを以て初發心の菩薩の思惟すべき一切相智を明す。

【一五】一切相智の性、所緣、增上、行相、相を說く。

【一六】警覺する所無く等。警覺無くば度不度などの分別なきを云ひ、生無くは別法の生起なく、現無しは敎へて示現すべき所も無く、畢竟無所有にして空なり。

【一七】正念を增上と爲し。佛一切相智を得て復思惟せず、難易なく唯遠近所念皆得べきを以て正念を增上とすと云ふなり。

【一八】一切相智の自性無を說く。

(f)「爲色受想行識亦無性爲性」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(f)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(以下(甲)ニ同ジ)

善現、中千世界の一切有情皆聲聞或は獨覺地に趣きて獲る所の福聚を置き假使ひ大千世界に充滿せる……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆聲聞或は獨覺地に趣きて獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[四]淨觀地に住せんに、意に於て云何……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆淨觀地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[五]種性地に住せんに、意に於て云何……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆種性地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千六千世界に充滿せる一切有情皆[六]第八地に住せんに……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆第八地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[七]見地に住せんに……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆見地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[八]薄地に住せんに……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆薄地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[九]離欲地に住せんに、意に於て云何……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆離欲地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界に充滿せる一切有情皆[一〇]已辦地に住せんに……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、大千界の一切有情皆已辦地に住して獲る所の福聚を置き假使ひ三千大千世界の一切有情皆[一一]獨覺地に住せんと……(以下(甲)ニ同ジ)

善現、假使ひ三千大千世界の一切有情皆諸の有情を度脫せんが爲の故に初めて無上正等覺の心を

【四】淨觀地。共の初地淨心觀。

【五】種性地。共の第二地。

【六】第八地。共の第三地。

【七】見地。共の第四、入見得聖。

【八】薄地。共の第五、亦進亦退。

【九】離欲地。共の第六、不還果位。

【一〇】已辦地。共の第七、羅漢果位界繫、惑障離斷し終る。

【一一】獨覺地。第八、聲聞を超えたる獨覺果なり。

如實に有情を成熟す。若し能く如實に有情を成熟せば則ち能く如實に佛土を嚴淨す。若し能く如實に佛土を嚴淨せば則ち能く一切智智を證得す。若し能く一切智智を證得せば則ち能く妙法輪を轉ず。若し能く妙法輪を轉ぜば則ち能く有情を三乘道に安立す。若し能く有情を三乘道に安立せば則ち有情をして無餘依般涅槃界に入らしむ。善現、諸の菩薩摩訶薩は是の如き等の自利利他一切の功德を見て應に無上正等覺の心を發し勇猛精進して般若波羅蜜多を修行し堅固にして退くこと無かるべしと。(三)具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩能く無上正等覺の心を發して說の如く甚深般若波羅蜜多を修行せば世間の天人阿素洛等皆應に稽首し恭敬供養すべしと。佛言はく、善現、是の如し是の如し。汝が所說の如し。若し菩薩摩訶薩能く無上正等覺の心を發して說の如く甚深般若波羅蜜多を修行せば世間の天人阿素洛等皆應に稽首し恭敬供養すべしと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩普ねく諸の有情を度脫せんが爲の故に初めて無上正等覺の心を發さば幾所の福をか得ると。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩普ねく諸の有情を度脫せんが爲の故に初めて無上正等覺の心を發さば其の獲る所の福無量無邊にして算數譬喩も及ぶこと能はざる所なり。善現、(甲)假使ひ小千世界に充滿せる一切の有情皆聲聞或は獨覺地に趣かんに意に於て云何、是の諸の有情其の福多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝彼の獲る所の福は無量無邊なりと。佛言はく、善現、彼の獲る所の福は一切有情を度脫せんが爲に初めて無上正等覺の心を發す一菩薩摩訶薩の獲る所の福聚に於て百分の一にも及ばず、千分の一にも及ばず、百千分の一にも及ばず、倶胝分の一にも及ばず、百倶胝分の一にも及ばず、千倶胝分の一にも及ばず、百千倶胝那庾多分の一にも亦た及ばず。何を以ての故に、善現、聲聞獨覺は皆菩薩摩訶薩に因りて有り、菩薩摩訶薩は諸の聲聞獨覺に因りて有るに非ざればなり。善現、小千世界の一切有情皆聲聞或は獨覺地に趣きて獲る所の福を置き、假使ひ中千世界に充滿せる……

【三】菩薩の恭敬すべく功德多きを說く。

(甲)「假使充滿小千世界一切有情皆趣聲聞獨覺地……百千倶胝那庾多分亦不及一」右の文中「小千世界」の所に次下出す諸世界を代入し、或は「聲聞獨覺地」の所に次下の十地を夫々代入せば他は皆同文なる故之を符號(甲)にて略し以下その相違せる所のみ揭ぐるものとす。

通。(d)佛の十力乃至(七)十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至(九)一切相智。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。若し此の[一]眞如に由りて諸佛の無上正等菩提を施設せば卽ち此の眞如に由りて有爲界を施設す。若し此の眞如に由りて無爲界を施設せば卽ち此の眞如に由りて無爲界を施設す。若し此の眞如に由りて一切の如來應正等覺を施設せば卽ち此の眞如に由りて一切の如來應正等覺を施設す。若し此の眞如に由りて一切の菩薩摩訶薩行を施設せば卽ち此の眞如に由りて一切の菩薩摩訶薩を施設す。若し此の眞如に由りて一切の菩薩摩訶薩行を施設せば卽ち此の眞如に由りて一切の有情を施設す。若し此の眞如に由りて一切の有情を施設せば卽ち此の眞如に由りて一切法を施設す。是の如く善現、一切法眞如、一切有情眞如、一切如來應正等覺眞如、一切菩薩摩訶薩眞如は實に皆異ること無し。異る無きに由るが故に說いて眞如と名づく。諸の菩薩摩訶薩は此の眞如に於て修學し圓滿して無上正等菩提を證得するが故に如來應正等覺と名づく。是の故に善現、應に知るべし、菩薩摩訶薩は卽ち是れ如來應正等覺なりと。一切法一切有情は皆眞如を以て定量と爲すを以ての故なり。

[二]是の如く善現、菩薩摩訶薩は應に眞如甚深般若波羅蜜多を學すべし。善現、諸の菩薩摩訶薩若し眞如甚深般若波羅蜜多を學せば則ち能く一切法眞如を學するなり。若し能く一切法眞如を學せば則ち能く一切法眞如を圓滿す。若し能く一切法眞如を圓滿せば則ち一切法眞如に於て自在に住することを得、若し一切法眞如に於て自在に住することを得ば則ち能善く一切有情の根性勝劣を知る。若し能善く一切有情の根性の勝劣を知らば則ち能く具さに一切有情の勝解差別を知る。若し能く具さに一切有情の勝解差別を知らば則ち有情の自業もて果を受くるを知る。若し有情の自業もて果を受くるを知らば則ち能く願智を具足す。若し能く願智を具足せば則ち能く三世の妙智を淨修す。若し能く三世の妙智を淨修せば則ち能く無倒に菩薩行を行ず。若し能く無倒に菩薩行を行ぜば則ち能く

【一】佛界も有爲界無爲界も眞如に由りて施設さるゝを說く。

【二】般若は眞如を學成し諸法の適正を得べきを說く。

過去未來現在の諸佛無上正等菩提を證得する無く、亦た獨覺の世に出現する無く、亦た阿羅漢の世に出現する無く、亦た不還の世に出現する無く、亦た一來の世に出現する無く、亦た預流の世に出現する無く、亦た能く永く地獄を斷ずること有る無く、亦た能く永く傍生を斷ずること有る無く、亦た能く永く鬼界を斷ずること有る無く、亦た能く永く無暇を斷ずること有る無く、亦た能く永く貧窮を斷ずること有る無く、亦た能く永く劣趣を斷ずること有る無く、亦た能く永く欲界色無色界を斷ずること有る無ければなり。是の故に善現、汝が所說の如く、當に知るべし菩薩摩訶薩は即ち是れ如來應正等覺なりとは是の如し是の如し。應に知るべし菩薩摩訶薩は即ち是れ如來應正等覺なりと。何を以ての故に、善現、若し此の眞如に由りて如來を施設せば即ち此の眞如に由りて獨覺を施設す。若し此の眞如に由りて獨覺を施設せば即ち此の眞如に由りて聲聞を施設す。若し此の眞如に由りて聲聞を施設せば即ち此の眞如に由りて一切の賢聖を施設す。若し此の眞如に由りて一切の賢聖を施設せば即ち此の眞如に由りて色を施設す。(d)若し此の眞如に由りて色を施設せば即ち此の眞如に由りて受想行識を施設す。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界。

卷の第三百六十四

初分實說品第六十二之二

乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神

(d)「若由此眞如施設色即由此眞如施設受想行識」右の文中「色」の所に「受想行識」を、「受想行識」の所に次下の「眼處」を代入し是の如く次第に代入し行けば他は皆同文なる故之を符號(d)にて略し以下次第に代入すべき諸法を略出するに止む。

(d) 前卷と同意。

生じ、或は夜摩天に生じ、或は覩史多天に生じ、或は樂變化天に生じ、或は他化自在天に生じ、或は梵衆天に生じ、或は梵輔天に生じ、或は梵會天に生じ、或は大梵天に生じ、或は光天に生じ、或は少光天に生じ、或は無量光天に生じ、或は極光淨天に生じ、或は淨天に生じ、或は少淨天に生じ、或は無量淨天に生じ、或は遍淨天に生じ、或は廣天に生じ、或は少廣天に生じ、或は無量廣天に生じ、或は廣果天に生じ、或は無煩天に生じ、或は無熱天に生じ、或は善現天に生じ、或は善見天に生じ、或は色究竟天に生じ、或は空無邊處天に生じ、或は識無邊處天に生じ、或は無所有處天に生じ、或は非想非非想處天に生ずるなり。[六]果の饒益とは謂ゆる諸の有情此の佛樹に因りて或は預流果に住し、或は一來果に住し、或は不還果に住し、或は阿羅漢果に住し、或は獨覺菩提に住し、或は無上正等菩提に住するなり。是の諸の有情成佛を得已て復た佛樹の諸の葉花果を用て有情を饒益し諸の有情をして惡趣の苦を脱し人天の樂を得せしめ、漸次に安立して三乘[七]般涅槃界に入らしむ。謂ゆる聲聞乘般涅槃界或は獨覺乘般涅槃界或は無上乘般涅槃界なり。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き大饒益事を作すと雖も而かも都て眞實有情の涅槃を得る者を見ず、唯だ妄想の衆苦寂滅するを見るのみ。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するに有情及び彼の施設を見ず然かも彼の我執顚倒を除かんが爲に無上正等菩提を求趣す。此の因緣に由りて甚だ難事なりと爲すと。

[八]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、當に知るべし菩薩摩訶薩は卽ち是れ如來應正等覺なりと。何を以ての故に、世尊、諸の菩薩摩訶薩に因るが故に便ち能く永く一切の地獄を斷じ、亦た能く永く一切の傍生を斷じ、亦た能く永く一切の鬼界を斷じ、亦た能く永く一切の[九]無暇を斷じ、亦た能く永く一切の貧窮を斷じ、亦た能く永く一切の劣趣を斷じ、亦た能く一切の欲界色無色界を斷ずればなりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所説の如し、應に知るべし菩薩摩訶薩は卽ち是れ如來應正等覺なり。善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を發趣する無くんば世間は則ち

【六】果の饒益等。果の色香味力を聖道果に喩ふるなり。

【七】般涅槃 Parinirvāṇa 入滅。

【八】菩薩は如來の如く眞如相を學成することを明す。

【九】無暇。匆忙にして閑暇なき鬪諍境界。

初分實說品第六十二之一[一]

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は極めて爲れ甚深なり。世尊、諸の菩薩摩訶薩は有情を得ず亦復た有情施設を得ずして而かも有情の爲に無上正等菩提を[三]求趣す、甚だ爲れ難事なり。世尊、譬へば人有り無色無見無對にして依止する所無き空中に於て樹を植うるに彼れ極めて難しと爲すが如し。諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、有情を得ず亦復た有情施設を得ずして而かも有情の爲に無上正等菩提を求趣するは甚だ爲れ難事なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。是の如き般若波羅蜜多は極めて爲れ甚深なり。諸の菩薩摩訶薩は有情を得ず亦復た有情施設を得ずして而かも有情の爲に無上正等菩提を求趣す、甚だ爲れ難事なり。善現、諸の菩薩摩訶薩は眞實の有情及び彼の施設有るを見ずと雖も而かも諸の有情は愚癡顚倒し執して實に有りと爲し、生死に輪廻して苦を受くること窮り無し。彼れを度せんが爲の故に無上正等菩提を求趣し、菩提を得已て彼の我執を斷じ及び生死の衆苦より解脫せしむ。善現、譬へば人有り良田に樹を種うるに是の人復た此の樹の根莖枝葉花果受者を見ずと雖も而かも樹を植ゑ已て隨時に漑灌し勤めて之を守護す。此の樹後時に漸く生長することを得、枝葉花果皆悉く茂盛し衆人受用するに疾を愈やし安きを獲るが如し。善現、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、有情の佛果有るを見ずと雖も而かも有情の爲に無上正等菩提を求趣し漸次に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、既に圓滿し已て無上正等菩提を證得し諸の有情をして佛樹を受用せしむるに諸の葉花果各饒益することを得。善現當に知るべし、[四]葉の饒益とは謂ゆる諸の有情此の佛樹に因りて惡趣の苦を脫するなり。[五]花の饒益とは謂ゆる諸の有情此の佛樹に因りて或は刹帝利大族に生じ、或は婆羅門大族に生じ、或は長者大族に生じ、或は居士大族に生じ、或は四大王衆天に生じ、或は三十三天に

【一】實說。空無相眞如の故に成佛度生するを說く。

【二】種樹を以て喩說し、眞如相を明す。

【三】求趣。上求菩提の動きなり。

【四】葉の饒益等。樹葉蔭涼を與ふることを三惡趣の熱苦を離るるに喩へしなり。

【五】花の饒益等。花色好香淨柔なるを施戒などの人天の福樂を與ふるに喩ふるなり。

と。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は豈に甚深無爲般若波羅蜜多を學するを要せずして乃ち能く一切智智を證得せんや。と佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所説の如し、菩薩摩訶薩は要らず甚深無爲般若波羅蜜多を學し乃ち能く一切智智を證得し、二法を以て方便と爲さずと。世尊、不二法を以て不二法を得と爲す耶と。不なり善現と。世尊、二法を以て不二法を得と爲す耶と。不なり善現と。世尊、若し二法無く、二法不二法を以て得ずんば菩薩摩訶薩は云何が當に一切智智を得べきやと。善現、二不二法俱に得可からず。是の故に得る所の一切智智は有所得の故に得るに非ず、亦た無所得の故に得るに非ず。有所得法、無所得法得可からざるが故なり。若し是の如く知らば乃ち能く一切智智を證得すと。

の與に義非義と爲らざればなり。復た次に善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多甚深の義趣を行ぜんが爲に應に是の念を作すべし、(c)我れ色の義非義を行ずべからず、我れ受想行識の義非義を行ずべからず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。我れ諸佛の無上正等菩提の義非義を行ずべからずと。所以何ん、善現、如來の無上正等菩提を得たる時、法の能く少法の與にも義非義と爲る有るを見ざればなり。善現、如來は出世し若しは出世せざるも諸法の法性法住性定は法爾として常住なり。法の法に於て義非義と爲ること無し。是の如く善現、菩薩摩訶薩は應に義非義を離れて常に般若波羅蜜多甚深の義趣を行ずべしと。具壽善現 佛に白して言さく、世尊、何が故に般若波羅蜜多は諸法の與に義非義と爲らざるやと。佛言はく、善現、甚深般若波羅蜜多は有爲法及び無爲法に於て俱に所作無し。恩に非ず怨に非ず益無く損無し。是の故に般若波羅蜜多は諸法の與に義非義と爲らざるなりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、豈に諸佛及び佛弟子一切の賢聖皆無爲を以て第一義と爲さゞるやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、佛及び弟子一切の賢聖は皆無爲を以て第一義と爲す。然かも無爲法は諸法の與に益と爲り損と爲らず。善現、譬へば虛空眞如の、諸法の與に益と爲り損と爲らざるが如し。菩薩摩訶薩の甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し。諸法の與に益と爲り損と爲らず。是の故に般若波羅蜜多は諸法の與に義非義と爲らず

(c)「我不應行色義非義我不應行受想行識義非義」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ略出す。

蜜多と名づく。復た次に善現、此の般若波羅蜜多に於ては眞如實際法界を包含するが故に般若波羅蜜多と名づく。復た次に善現、此の般若波羅蜜多は少分の法も若しは合若しは散、若しは有色若しは無色、若しは有見若しは無見、若しは有對若しは無對、若しは有漏若しは無漏、若しは有爲若しは無爲有るに非ず。[二四]所以は何ん、善現、是の如き般若波羅蜜多は無色無見無對一相にして所謂無相なるが故に般若波羅蜜多と名づくればなり。復た次に善現、是の如き般若波羅蜜多は能く一切の殊勝善法を生じ、能く一切の智慧辯才を發し、能く一切の世出世の樂を引くが故に般若波羅蜜多と名づく。復た次に善現、是の如き般若波羅蜜多は甚深堅實にして動壞す可からず。若し菩薩摩訶薩是の般若波羅蜜多を行ぜば一切の惡魔及び彼の眷屬、聲聞獨覺外道[二五]梵志惡友怨讎皆壞すること能はず。何を以ての故に、善現、此の般若波羅蜜多は一切法の自相皆空なりと辯じて諸の惡魔等皆得可からざるが故に般若波羅蜜多と名づくるに由るなり。善現、諸の菩薩摩訶薩は應に如實に是の如き般若波羅蜜多甚深の義趣を行ずべし。[二六]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多甚深の義趣を行ぜんと欲せば應に[二七]無常義、苦義、空義、無我義を行ずべく、應に[二八]苦智義、集智義、滅智義、道智義を行ずべく、應に法智義、類智義、世俗智義、他心智義を行ずべく、應に盡智義、無生智義、如説智義を行ずべし。善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多甚深の義趣を行ぜんが爲に應に般若波羅蜜多を行ずべしと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、此の甚深般若波羅蜜多中義と非義と倶に得可からずんば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多甚深の義趣を行ぜんが爲に應に般若波羅蜜多を行ずべきやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多甚深の義趣を行ぜんが爲に應に是の念を作すべし。我れ貪欲の義非義を行ずべからず、我れ瞋恚の義非義を行ずべからず、我れ愚癡の義非義を行ずべからず、我れ邪見の義非義を行ずべからず、我れ邪定の義非義を行ずべからず、我れ諸の惡見趣の義非義を行ずべからずと。所以は何ん、善現、貪欲瞋恚愚癡邪見邪定見趣眞如實際は諸法

【二四】有部等の諸法の分別實有を云ふに異る般若の無分無相を明す。

【二五】梵志(Brahmacārin)。一切外道の出家するものに名く。

【二六】般若波羅蜜多は諸法の奥に義非義と爲らずして甚深義趣を行ふを明す。

【二七】無常義等。無常義乃至無我義は四聖行なり。

【二八】苦智義等。苦智義乃至如説智義は所謂十一智を擧ぐるなり。四諦智四智と一切盡滅皆空と實相無生と權方便施設となり。

顯なりと。世尊、無爲法の中實に預流乃至如來應正等覺の差別の義有りや不やと。不なり善現と。世尊、若し爾れば何が故ぞ佛、預流乃至如來應正等覺は一切皆是れ無爲の所顯なりと說きたまふやと。善現、我れ世俗の言說に依りて顯示す、勝義に依らず、勝義の中には顯示有る可きに非ず。何を以ての故に、善現、勝義の中には語言の路或は分別慧或は復た二種有るに非ず、然かも[二一]彼彼の邊斷じ彼彼の後際を立つと。[二二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、旣に一切法の自相皆空なれば前際すら尙ほ無し況んや後際有らんや、如何が後際有りと立つ可けん耶と。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の所有る法の自相は皆空にして前際すら尙ほ無し況んや後際有らんや、後際有りと立つるは定めて是の處無し。然かも諸の有情は諸の所有る法の自相皆空なるを解了すること能はず。彼れを饒益せんが爲に方便して爲に此れは是れ前際此れは是れ後際なりと說く。然かも一切法の自相空の中前際後際俱に得可からず。是の如く善現、菩薩摩訶薩は一切法の自相空に達し已て應に般若波羅蜜多を行ずべし。善現、若し菩薩摩訶薩一切法の自相空なりと達し般若波羅蜜多を修行せば諸法の中に於て執著する所無し。謂ゆる內法外法、善法非善法、世間法出世間法、有漏無漏法、有爲法無爲法、若しは聲聞法若しは獨覺法、若しは菩薩法、若しは如來法に執著せず、是の如き一切皆執著せざるなりと。

[二三]具壽善現、佛に白して言さく、如來は常に般若波羅蜜多を說きたまふ。般若波羅蜜多は何の義を以ての故に名づけて般若波羅蜜多と爲すやと。佛言はく、善現、是の如き般若波羅蜜多は一切法の究竟彼岸に到るが故に般若波羅蜜多と名づく。復た次に善現、此の般若波羅蜜多に由りて一切の聲聞獨覺菩薩及び諸の如來應正等覺能く彼岸に到るが故に般若波羅蜜多と名づく。復た次に善現、一切の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆は是の般若波羅蜜多を用て勝義理に依りて諸法を分析するに、諸色を析して極微量に至るも猶ほ少しくも實の得可き有るを見ざるが故に般若波羅

【二一】彼彼の邊斷等。言六塵絕の境ながら前法斷じて後法なりとするを云ふ。

【二二】一切法の自相皆空の故に前後際なし、これあるは有情饒益の方便なるを明す。

【二三】般若波羅蜜多の名義を明し、次いで般若行を說く。

解脫を得たるに非ず、然かも我れ漏を盡くし心解脫を得都て住する所無しと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、般若波羅蜜多を修行し都て住する所無くして而かも實際を證せりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何に緣りて一切相智は一切相智と名づくる耶と。佛言はく、善現、一切法皆同一相なりと知る。謂ゆる寂滅相なり。是の故に名づけて一切相智と爲すと。復た次に善現、[一四]諸行の狀相は能く諸法を表し如來は如實に能く遍ねく覺知す、是の故に說いて一切相智と名づくと。[一五]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若しは一切智若しは道相智若しは一切相智、是の如き三智は諸の煩惱の斷ずるに差別有りや不や、有餘斷無餘斷有りや不やと。佛言はく、善現、諸の煩惱の斷ずるに差別有るに非ず、然かも諸の如來應正等覺は一切の煩惱の[一七]習氣相續皆已に永く斷ぜり、聲聞獨覺は習氣相續猶ほ未だ永く斷ぜずと。世尊、諸の煩惱斷ぜば無爲を得るや不やと。是の如し善現と。[一八]世尊、聲聞獨覺は無爲を得ずして煩惱斷ずるや不やと。不なり善現と。世尊、無爲法の中差別有りや不やと。不なり善現と。世尊、若し無爲法差別無くんば佛何が故に一切の如來應正等覺は習氣相續皆已に永く斷じ、聲聞獨覺は習氣相續猶ほ未だ永く斷ぜずと說きたまふやと。善現、習氣相續は實に煩惱に非ず。然るに諸の聲聞及び諸の獨覺は煩惱已に斷ずるも猶ほ少分貪瞋癡に似たる身語意轉ずる有り、卽ち此れを說いて習氣相續と爲す、此れは愚夫異生に在りては相續して能く無義を引くも聲聞獨覺に在りては相續して能く無義を引くに非ず、是の如き一切の習氣相續諸佛には永く無しと。

[二〇]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、道と涅槃とは倶に自性無し。佛何が故ぞ此れは是れ預流此れは是れ一來、此れは是れ不還、此れは是れ阿羅漢、此れは是れ獨覺、此れは是れ菩薩摩訶薩、此れは是れ如來應正等覺なりと說きたまふやと。佛言はく、善現、若しは預流若しは一來若しは不還若しは阿羅漢若しは獨覺若しは菩薩摩訶薩若しは諸の如來應正等覺是の如き一切は無爲の所

【一四】諸行の狀相等。種種の動向の差別は諸法の相となる。
【一五】斷證差別を說く。
【一六】諸の煩惱等。斷ずる時に差別あるも、斷じ終れば差別なきを云ふ。
【一七】習氣。煩惱が慣習的氣分として殘るものを云ふ。
【一八】悉く無爲にして有爲斷なきを說く。
【一九】無我を引く。非有に有流を引生するを云ふ。
【二〇】四果等一切皆是れ無爲の所顯なるを明す。

言はく、善現、一切智とは是れ聲聞及び獨覺智と共なり、道相智とは是れ菩薩摩訶薩智と共なり、一切相智とは是れ諸の如來應正等覺の不共妙智なりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何に緣りて一切智は是れ聲聞及び獨覺智と共なるやと。佛言はく、善現、一切智とは謂ゆる五蘊[九]十二處[一〇]十八界等にして聲聞獨覺も亦た能く了知す、而かも一切の道相及び一切法の一切種相を知ること能はずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、何に緣りて道相智は是れ菩薩摩訶薩智と共なるやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は應に學して遍ねく一切の道相を知るべし、謂ゆる聲聞道相・獨覺道相・菩薩道相・如來道相なり。諸の菩薩摩訶薩は此の諸道に於て常に應に修學して速に圓滿せしむべし。此の道をして作すべき所を作さしむと雖も而かも其れをして實際を證せしめずと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は如來道を修し圓滿するを得已て豈ぞ實際に於て證を作さゞる耶と。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩若し未だ佛土を嚴淨し有情を成熟し諸の大願を修するを圓滿せずんば猶ほ實際に於て未だ證を作すべからず。若し已に佛土を嚴淨し有情を成熟し諸の大願を修するを圓滿せば其の實際に於て乃ち應に證を作すべしと。世尊、菩薩摩訶薩は道に於て住し實際を證すと爲す耶と。[一一]不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩は非道に住して實際を證すと爲す耶と。[一二]不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩は道非道に住して實際を證すと爲す耶と。[一三]不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩は非道非非道に住して實際を證すと爲す耶と。不なり善現と。具壽善現佛に白して言さく、世尊、若し爾れば菩薩摩訶薩は何れの所に住して實際を證すと爲すやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝道に住せば諸漏を盡して心解脫を得たりと爲す耶と。不なり世尊と。善現、非道に住せば諸漏を盡くし心解脫を得たりと爲す耶と。不なり世尊と。善現、汝道非道に住せば諸漏を盡くし心解脫を得たりと爲す耶と。不なり世尊と。善現、汝非道非非道に住せば諸漏を盡くし心解脫を得たりと爲す耶と。不なり世尊。我れ住する有りて諸漏を盡くし心永く

【九】十二處。六根と六境との稱。即ち感官と對象との接觸する處に種種の心作用が起り、次いで惑業となるものなり。

【一〇】十八界。六根と六境にこの根境相對に於て知覺する眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識の六を合せて云ふ。

【一一】不なり。道中作證に、結使ありて正智なきと、一切有爲虛誑なるとの二邊あれば否定す。

【一二】不なり。道中旣に倚得ず況んや非道をやなれば否定せり。

【一三】不なり。道非道も二過あり、非道非非道も著相を脫せず、故に否定せり。

名に於て名に著し相に於て相に著せば是の如く亦た應に空に於て空に著し無相に於て無相に著し無願に於て無願に著し眞如に於て眞如に著し實際に於て實際に著し法界に於て法界に著し無爲に於て無爲に著すべし。善現、是の一切法は但だ假名のみ有り但だ假相のみ有りて眞實無し。聖者は中に於て亦た但だ假りの名相に住著せず。是の如く善現、菩薩摩訶薩は一切法の但だ假りの名相に住するのみにして應に般若波羅蜜多を行ずべし而かも其の中に於て住著すべからずと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法但だ名相のみ有らば菩薩摩訶薩は何の事の爲の故に菩提心を發し、既に發心し已て諸の勤苦を受け菩薩行を行じ(b)布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切三摩地門。一切陀羅尼門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。一切智を修行し道相智一切相智を修行して圓滿せしむるやと。佛言はく、善現、汝が所說の如く若し一切法但だ名相のみ有らば菩薩摩訶薩は何の事の爲の故に菩提心を發して菩薩行を行ずるやとは、善現、一切法は但だ名相有るのみ、是の如き名相は但だ假に施設せる名相のみにして性空なるに、諸の有情類は顚倒して執著し生死に流轉して解脫を得ざるを以て、是の故に菩薩摩訶薩は菩提心を發し菩薩行を行じ、漸次に一切相智を證得し正法輪を轉じ三乘法を以て有情を度脫し生死を出でゝ無餘依般涅槃界に入らしむ。而かも諸の名相は生無く滅無く亦た住異無く施設して得可きなりと。

八 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛は一切相智を一切相智の爲に說きたまふ耶と。佛言はく、善現、我れ一切相智を一切相智の爲に說くと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、如來は常に一切智道相智一切相智を說きたまふ。是の如き三智は其の相云何、何の差別か有ると。佛

(b)「修行布施波羅蜜多修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右も(a)の場合の如くして以下略出す但し「內空眞如苦聖諦」のみは「修行」の代りに「安住」の語を以てす。

【八】三智の相、差別などを明す。

の無上正等菩提、此れは是れ諸佛の無上正等菩提法性なりと分別せず。善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するに是の如く諸法の法性差別を分別して法性を壞すべからずと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩、諸法の法性を壞すべからずんば云何が如來は自ら諸法の法性を壞したまふや。謂ゆる佛は常に說きたまへり、此れは是れ色此れは是れ受想行識、此れは是れ眼處此れは是れ耳鼻舌身意處、此れは是れ色處此れは是れ聲香味觸法處、此れは是れ眼界此れは是れ耳鼻舌身意界、此れは是れ色界此れは是れ聲香味觸法界、此れは是れ眼識界此れは是れ耳鼻舌身意識界、此れは是れ眼觸此れは是れ耳鼻舌身意觸、此れは是れ眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受此れは是れ耳鼻舌身意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受、此れは是れ地界此れは是れ水火風空識界、此れは是れ無明此れは是れ行識名色六處觸受愛取有生老死愁歎苦憂惱、此れは是れ內法此れは是れ外法、此れは是れ善法此れは是れ非善法、此れは是れ有漏法此れは是れ無漏法、此れは是れ世間法此れは是れ出世間法、此れは是れ共法、此れは是れ不共法、此れは是れ有諍法此れは是れ無諍法、此れは是れ有爲法此れは是れ無爲法なりと。佛旣に曾て是の如き等の法を說きたまへり。將に自ら諸法の法性を壞すること無しとしたまふやと。佛言はく、善現、我れ自ら諸法の法性を壞せず、但だ名相方便を以て諸法の法性を假設し諸の有情をして諸法の法性無差別の理に悟入することを得せしむるのみ。是の故に善現、我れ曾て諸法の法性を壞せずと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し佛但だ名相を以て諸法の法性を宣說し諸の有情をして悟入することを得せしむるのみならば云何が佛無名無相法に於て名相を以て說いて他をして悟入せしむる耶と。佛言はく、善現、我れ世俗に隨ひて名相方便を假立して諸法の法性を宣說して而かも執著無し。善現、諸の愚夫の如きは苦等を說くを聞きて名相に執著し假說なるを知らず、諸の如來及び佛弟子は苦等を說くを聞くも名相に執著するに非ず然かも如實に世俗の說に隨ひ、眞實には諸法の名相有ること無しと知る。善現、若し諸の聖者

はく、善現、如來身は法性に由るが故に能く天人阿素洛等の與に淨福田と作るが如く、化佛も亦た誦なり法性に由るが故に能く天人阿素洛等の與に淨福田と作る。如來身は他の供養を受け彼の施主をして生死の際を窮むるまで其の福盡くること無からしむるが如く是の如く化佛も他の供養を受け亦た施主をして生死の際を窮むるまで其の福盡くること無からしむ。善現、且らく如來及び化佛の與に供養して獲る所の福聚を置き、若し善男子善女人等如來の所に於て慈敬心を起して思惟憶念するに是の善男子善女人等の善根盡くること無く乃至最後に苦邊際を作さん。善現、復た慈敬心を以て如來を憶念して獲る所の福聚を置き、若し善男子善女人等佛を供養せんが爲に下一花用て虛空に散ずるに至るまで是の善男子善女人等の善根盡くること無く乃至最後に苦邊際を作さん。善現、復た佛を供養せんが爲に下一花用て虛空に散ずるに至るまで獲る所の福聚を置き、若し善男子善女人等下一たび南謨佛陀と稱ふるに至るまで是の善男子善女人等の善根盡くること無く乃至最後に苦邊際を作さん。是の如く善現、如來の所に於て恭敬供養するに是の如き等の大功德利を獲ん其の量測ること難し。是の故に善現、當に知るべし、如來と化佛身とは等しくして差別無しと、諸法法性定量を爲すが故なり。

[七]是の如く善現、菩薩摩訶薩は應に諸法法性を以て定量と爲して般若波羅蜜多を修行し善巧方便して諸法法性に入るべし。已にして諸法に於て法性を壞せず、謂ゆる(a)此れは是れ般若波羅蜜多。此れは是れ般若波羅蜜多法性。此れは是れ靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多。此れは是れ靜慮乃至布施波羅蜜多法性。(a)內空乃[わ]至無性自性空。(a)眞如乃[か]至不思議界。(a)四念住乃[そ]至八聖道支。(a)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(a)四靜慮乃[た]至四無色定。(a)八解脫乃[れ]至十遍處。(a)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(a)空解脫門、無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃[こ]至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃[ら]至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行、此れは是れ諸佛

【七】諸法の法性無差別の理を說く。
(a)「此是般若波羅蜜多此是般若波羅蜜多法性此是靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多此是靜慮乃至布施波羅蜜多法性」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」とある所に次下の諸法を更に代入せば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

佛事を作し、是の所化の者復た轉じて無量の有情を化作し中に於て[二]正性定等の三聚差別を建立せば、善現、汝が意に於て云何、是の諸の如來の變化する所の者は實に去來乃至行住し、無上正等菩提を修證し、妙法輪を轉じ、諸の佛事を作し三聚の有情別を安立すること有りと爲すや不やと。善現、白して言さく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、如來も亦た爾なり、一切法は皆變化の如しと知り、一切法は皆變化の如しと說く。所作有りと雖も而かも眞實無く、有情を度すと雖も而かも度する所無きこと、所化者の化有情を度するが如し。是の如く善現、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行するに應に諸佛所變化者の所爲有りと雖も而も執著無きが如くなるべしと。[三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆變化の如く如來も亦た爾れば佛と化人と何の差別有りやと。佛言はく、善現、佛と化人及び一切法は等しくして差別無し。何を以ての故に、善現、佛の作す所の業は佛の所化人も亦た能く作すが故なり。善現白して言さく、設ひ佛有ること無きも佛の所化人能く業を作すや不やと。佛言はく、能く作すと。善現白して言さく、其の事云何と。佛言はく、善現、過去世に一りの如來應正等覺有り[四]善寂慧と名づく。自ら度すべき者は皆已に度し訖れり。時に菩薩の佛記を受くる堪ふるもの無し。遂に一佛に一佛を化作して世間に住せしめ自らは[五]無餘依大涅槃界に入りたまへり。時に彼の化佛半劫の中に於て諸の佛事を作し半劫を過ぎ已て一りの菩薩摩訶薩に記を授け入涅槃を現ず。爾の時天人阿素洛等皆彼の佛今涅槃に入れりと謂へり。然かも化佛の身實には起滅無きが如く、是の如く善現、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行するに應に諸法は皆變化の如しと信ずべしと。[六]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し如來身と化と異る無くんば云何が能く眞淨の福田と作るや。若し諸の有情解脫せんが爲の故に如來の所に於て恭敬供養せば其の福盡くる無く乃至最後無餘依般涅槃界に入らん。是の如く若し解脫せんが爲の故に化佛を供養せば獲る所の福聚も亦た應に盡くる無く乃至最後無餘依般涅槃界に入るべきこと有りやと。佛言

【二】正性定等、前出の正性定聚、邪性定聚、不定聚を云ふ。

【三】一切法皆變化の如くなれば佛と化人の差別無きを明す。

【四】善寂慧。須扇多（Sunmatha）なり。

【五】無餘依大涅槃界。四涅槃の一、煩惱障を斷じ、五蘊假和合の身體も凡て滅して、灰身滅智したる所に現はるる涅槃。

【六】佛、化佛共に淨福田たるを明す。

の有情愚癡顚倒にして、非實の法に於て實法の想を起し、非實の有情に於て實有情の想を起せり、我れ彼の虛妄の執を遣除せんが爲に世俗に依りて說く勝義に依らざるなりと。

卷の第三百六十三

初分多問不二品第六十一之十三

(一)具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、勝義に住せば無上正等菩提を證得すと爲す耶と。不なり善現と。世尊、顚倒に住せば無上正等菩提を證得すと爲す耶と。不なり善現と。世尊、若し勝義に住して無上正等菩提を證得せず亦た顚倒に住して無上正等菩提を證得せずんば將た無しとせんや、世尊、無上正等菩提を證得せざる耶と。不なり善現、我れ無上正等菩提を證得すと雖も然かも有爲界に住せず亦た無爲界に住せず、善現、諸の如來の變化する所の者は有爲界に住せず亦た無爲界に住せずと雖も然かも去來坐立等の事有るが如く、善現、是の所化の者若しは布施波羅蜜多を行じ亦た淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行じ、是の所化の者若しは內空に住し亦た外空(わ)乃至無性自性空に住し、是の所化の者若しは眞如に住し亦た法界(か)乃至無性自性空に住し、是の所化の者若しは四念住を修し亦た四正斷(え)乃至八聖道支を修し、是の所化の者若しは苦聖諦に住し亦た集滅道聖諦に住し、是の所化の者若しは四靜慮を修し亦た四無量四無色定を修し、是の所化の者若しは八解脫を修し亦た八勝處(れ)乃至十遍處を修し、是の所化の者若しは一切三摩地門を修し亦た一切陀羅尼門を修し、是の所化の者若しは空解脫門を修し亦た無相無願解脫門を修し、是の所化の者若しは五眼を修し亦た六神通を修し、是の所化の者若しは佛の十力を修し亦た四無所畏(ね)乃至十八佛不共法を修し、是の所化の者若しは無忘失法を修し亦た恒住捨性を修し、是の所化の者若しは一切智を修し亦た道相智一切相智を修し、是の所化の者若しは無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて諸の

【一】如來及び其の所化者は一切法皆變化の如しとして執著せざるを說く。

處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四念住乃至八聖道支。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し諸の如來應正等覺皆五眼を以て(h)色を求むるに得可からず受想行識を求むるも亦た得可からず。(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界。(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(h)地界乃至識界。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)眞如乃至不思議界。(h)四念住乃至八聖道支。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)八解脫乃至十遍處。(h)三摩地門、陀羅尼門。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)預流果乃至阿羅漢果。(h)獨覺菩提、一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提を求むるも得可からざるが故に諸の有情類も亦た得可からざれば則ち定めて無上正等菩提を證得し及び有情を生死の衆苦より脫して常樂の涅槃を究竟するを獲せしむること有ること無からむ。云何が世尊は無上正等菩提を證得するに有情の三聚差別、謂ゆる[六]正性定聚、[七]邪性定聚及び[八]不定聚を安立したまふやと。佛言はく、善現、我れ五眼を以て如實に觀察するに決定して我れ能く無上正等菩提を證するに有情の三聚差別、謂ゆる正性定聚、邪性定聚、不定聚を安立するもの無し。然かも諸

(b)「求色不可得求受想行識亦不可得」右も(g)の場合と同方法により以下略出す。

【六】正性定聚。三聚の一、必ず證悟するに定まるもの。

【七】邪性定聚。三聚の一、畢竟證悟することなきもの。

【八】不定聚。三聚の一、緣あれば證悟し、緣なければ證悟せざるもの。

受想行識を得、(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四念住乃至八聖道支。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門。一切陀羅尼門。(e)空解脫門、無願解脫門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

　善現、是の諸の愚夫無聞の異生は是の如き念を作す、(f)色實に得可く受想行識も亦た實に得可し、我れ當に決定して無上正等菩提を證得し諸の有情を生死の衆苦より脫し常樂の涅槃を究竟することを獲せしむべしと。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四念住乃至八聖道支。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法。恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

　善現、是の諸の愚夫無聞の異生、顚倒の因緣によりて是の如き念を作せば則ち僞れ佛を謗ずるなり。何を以ての故に、(g)善現、佛、[五]五眼を以て色を求むるに尙ほ得可からず受想行識を求むるも亦た尙ほ得可からず。若し決定して當に無上正等菩提を得及び有情を生死の衆苦より脫し常樂の涅槃を究竟するを獲せしむべき有らば是の處有ること無ければなり。(g)眼處乃至意處、(g)色處乃至法

(f)「色實可得受想行識亦實可得……令獲究竟常樂涅槃」右も(e)の場合の如くして以下略出するのみとす。

(f)「善現佛以五眼求色尙不可得求受想行識亦尙不可得……令獲究竟常樂涅槃無有是處」右も(f)の場合と同方法により以下略出す。

【五】五眼。肉眼、天眼、慧眼、法眼、佛眼の稱。

靜慮乃至四無色定。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)八解脫乃至十遍處。(c)三摩地門、一切陀羅尼門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は何の事の爲の故に般若波羅蜜多を修行するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は〔三〕爲す所無きが故に般若波羅蜜多を修行す。所以は何ん、善現、一切法は所爲無く所作無し。般若波羅蜜多も亦た所爲無く所作無く、無上正等菩提も亦た所爲無く所作無く、菩薩摩訶薩も亦た所爲無く所作無し。是の如く善現、菩薩摩訶薩は應に無所爲無所作を以て方便と爲して般若波羅蜜多を修行すべしと。

〔四〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆所爲無く所作無くんば三乘差別、謂ゆる聲聞乘若しは獨覺乘若しは無上乘を安立すべからさらんと。佛言はく、善現、所爲無く所作無くば法の安立得可きに非ず、要らず所爲有り所作有りて法の安立得可きなり。所以は何ん、善現、有ゆる諸の愚夫無聞の異生は(d)色に執著し、亦た受想行識に執著し、(d)眼處乃至意處、(d)色處乃至法處、(d)眼界乃至意界、(d)色界乃至法界、(d)眼識界乃至意識界、(d)眼觸乃至意觸、(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界、(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦(d)四靜慮乃至四無色定。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)八解脫乃至十遍處。(d)三摩地門、陀羅尼門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。諸佛の無上正等菩提に執著すればなり。

善現、是の諸の愚夫無聞の異生は執著するに由るが故に(e)色を念じて色を得、受想行識を念じて

【三】爲す所無きが故。吾れ之をなせりとすることなきを云ふ。

【四】俗諦より三乘三聚等の分別あるを明す。

(d)「執著色亦執著受想行識」右も(c)の場合の如くして以下略出す。

(e)「念色得色念受想行識得受想行識」右も(d)の場合と同方法により以下略出す。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時(b)若し色を得ず亦た受想行識を得ず、(b)眼處乃至意處、(b)色處乃至法處、(b)眼界乃至意界、(b)色界乃至法界、(b)眼識界乃至意識界、(b)眼觸乃至意觸、(b)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受、(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)八解脫乃至十遍處。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智、(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提、(b)一切の菩薩摩訶薩行、若し諸佛の無上正等菩提を得ずんば云何が能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿するや。若し布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿すること能はずんば云何が能く菩薩摩訶薩の[二]正性離生位に入るや。若し菩薩摩訶薩の正性離生位に入ること能はずんば云何が能く佛土を嚴淨するや。若し佛土を嚴淨すること能はずんば云何が能く有情を成熟するや。若し有情を成熟すること能はずんば云何が能く一切智智を得るや。若し一切智智を得ること能はずんば云何が能く正法輪を轉じて諸の佛事を作すや。若し正法輪を轉じ諸の佛事を作すこと能はずんば云何が能く無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を生死の衆苦より解脫し及び常樂の涅槃を證得せしむるやと。

佛言はく、(c)善現、菩薩摩訶薩は色の爲の故に般若波羅蜜多を修行せず亦た受想行識の爲の故に般若波羅蜜多を修行せず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四

(b)「若不得色亦不得受想行識」右も(a)の場合と同じく以下略出す。

【二】正性離生位。無漏智を生じて煩惱を斷じ、聖生を得て永く凡夫の生を離るる位を云ふ。

(c)「善現菩薩摩訶薩不爲色故修行般若波羅蜜多亦不爲受想行識故修行般若波羅蜜多」右もの(b)場合の如く「五蘊」の所の次下の諸法を代入して略するものとす。

般若波羅蜜多を行ずる者行處行時も亦た得可からずんば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時一切法に於て常に[九]決擇するを樂ふや。謂ゆる此(e)れは是れ色、此れは是れ受想行識、(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)八解脫門乃至十遍處。(e)三摩地門、陀羅尼門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。此れは是れ諸佛の無上正等菩提なりと。

卷の第三百六十二

初分多問不二品第六十一之十二

佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時諸法に於て常に決擇を樂ふと雖も而かも(a)色を得ず亦た受想行識を得ず。(a)眼處乃至意處、(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)八解脫乃至十遍處。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

(e)「此是色此是受想行識」右も(c)の場合の如く以下略出す。

【九】決擇。選擇して取捨しこれは是れと決定するを云ふ。

(a)「不得色亦不得受想行識」右も前卷(e)の場合と同じく以下略出す。

【一】決擇するも定相不可得なるを明す、故に知をしては研究なり事としては進化なり。

間を二無しと爲し、非生死非涅槃を二無しと爲し、非異生法非異生を二無しと爲し、非預流法非預流を二無しと爲し、非一來法非一來を二無しと爲し、非不還法非不還を二無しと爲し、非阿羅漢法非阿羅漢を二無しと爲し、非獨覺菩提非獨覺を二無しと爲し、非菩薩摩訶薩行非菩薩摩訶薩を二無しと爲し、非諸佛の無上正等菩提非諸佛を二無しと爲す。是の如く一切の戲論を離るる者を皆二無しと名づくと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、有所得に由るが故に無所得と爲すや、無所得に由るが故に無所得と爲すやと。佛言はく、善現、有所得に由るが故に無所得なるに非ず亦た無所得に由るが故に無所得なるにも非ず、然かも[八]有所得無所得平等性なる是れを無所得と名づく。是の如く善現、菩薩摩訶薩は有所得無所得平等性中に於て應に勤め修學すべし。善現、菩薩摩訶薩是の如く學する時般若波羅蜜多無所得の義を學し諸の過失を離ると名づくと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時有所得に著せず無所得に著せずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して云何が一地より一地に至りて漸次に圓滿するや。若し一地より一地に至りて漸次に圓滿するや。若し一地より一地に至りて漸次に圓滿する無くんば云何が當に所求の無上正等菩提を得べきやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時、有所得の中に住するに非ずして般若波羅蜜多を修行し能く一地より一地に至り漸次に圓滿して無上正等菩提を證得し、亦た無所得の中に住するに非ずして般若波羅蜜多を修行し能く一地より一地に至り漸次に圓滿して無上正等菩提を證得す。何を以ての故に、善現、般若波羅蜜多は無所得なるが故なり。能く般若波羅蜜多を行ずる者行處行時無所得なるが故なり。此の無所得の法も亦た無所得なるが故なり。善現、菩薩摩訶薩は應當に是の如く般若波羅蜜多を修行すべしと。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し般若波羅蜜多得可からず無上正等菩提得可からず能く

【八】有所得無所得平等性。無所得に因て有所得を破し、無所得も亦捨し、畢竟空なり。

〔五〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩都て行ずる所無くして是れ般若波羅蜜多を行ずるならば初修業より菩薩摩訶薩は云何が當に般若波羅蜜多を行ずべきやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は初發心より應に一切法に於て常に無所得を學すべし。(d)善現、是の菩薩摩訶薩は布施を修する時無所得を以て方便と爲して應に布施を修すべく、淨戒安忍精進靜慮般若を修する時無所得を以て方便と爲して應に淨戒乃至般若を修すべし。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)八解脫乃至十遍處。(d)三摩地門、陀羅尼門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。

〔六〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、齊何が有所得と名づけ齊何が無所得と名づくるやと。佛言はく、善現、諸の二有る者を有所得と名づけ諸の二無き者を無所得と名づくと。世尊、齊何が二有りと名づけ齊何が二無しと名づくるやと。善現、諸の眼諸の色を二と爲し、諸の耳諸の聲を二と爲し、諸の鼻諸の香を二と爲し、諸の舌諸の味を二と爲し、諸の身諸の觸を二と爲し、諸の意諸の法を二と爲し、有色無色を二と爲し、有見無見を二と爲し、有對無對を二と爲し、有漏無漏を二と爲し、有爲無爲を二と爲し、世間出世間を二と爲し、生死涅槃を二と爲し、〔七〕異生法異生を二と爲し、預流法預流を二と爲し、一來法一來を二と爲し、不還法不還を二と爲し、阿羅漢法阿羅漢を二と爲し、獨覺菩提獨覺を二と爲し、菩薩摩訶薩行菩薩摩訶薩を二と爲し、諸佛の無上正等菩提諸佛を二と爲す。是の如く一切の戲論有る者は皆二有りと名づく。善現、非眼非色を二無しと爲し、非耳非聲を二無しと爲し、非鼻非香を二無しと爲し、非舌非味を二無しと爲し、非身非觸を二無しと爲し、非意非法を二無しと爲し、非有色非無色を二無しと爲し、非有見非無見を二無しと爲し、非有對非無對を二無しと爲し、非有漏非有漏を二無しと爲し、非有爲非無爲を二無しと爲し、非世間非出世

【五】善現初心に般若の難行たるを聞ふに對して佛無所得法を漸學すべしと敎ふ。

(d)「善現是菩薩摩訶薩修布施時以無所得而爲方便應修布施修淨戒安忍精進靜慮般若時以無所得而爲方便應修淨戒乃至般若」

右の文中「布施乃至般若」のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略出す、以下その諸法のみ略出す、但し「內空眞如苦聖諦」の三は「修」の代りに「住」の語を用ひ「住內空」等とす。

【六】有所得及び無所得を明し二不二を示して諸二相を斥く。

【七】異生法。凡夫衆生の道なり。

受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)内空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四念住乃至八聖道支。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脱乃至十遍處。(b)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(b)空解脱門乃至無願解脱門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、(c)世尊、若し色の色相空、受想行識の受想行識相空ならば云何が菩薩摩訶薩は當に般若波羅蜜多を行ずべきや。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)内空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四念住乃至八聖道支。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脱乃至十遍處。(c)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(c)空解脱門乃至無願解脱門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

[二]佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩都て行ずる所無くんば是れ般若波羅蜜多を行ずるなりと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何に緣りて菩薩摩訶薩都て行ずる所無くんは是れ般若波羅蜜多を行ずるやと。佛言はく、善現、此の[三]般若波羅蜜多得可からざるに由りて菩薩摩訶薩も亦た得可からず、行も亦た得可からず若しは能行者若しは此れに由りて行ずる若しは所行の處皆得可からず、是の故に善現、菩薩摩訶薩は都て行ずる所無し是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、其の中に於て一切の[四]戯論得可からざるを以ての故にと。

(c)「世尊若色色相空受想行識受想行識相空云何菩薩摩訶薩當行般若波羅蜜多」右も(b)の場合と同方法にて略す。

【二】眞若行を說く。

【三】般若も菩薩も行も行相も行處も定むべきものなければ都無所行なり。無戯論なり。これ般若行なり。無所得なり。

【四】戯論。論理を事らとする論議の遊戯たるを云ふ。

等菩提。

卷の第三百六十一

初分多問不二品第六十一之十一

佛言はく、(a)善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に諸法の自相は皆空なりと觀ずるが故に學すべし。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に色に於て諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべく、應に受想行識に於ても亦た諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべし。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四念住乃至八聖道支。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に諸法の自相皆空なりと觀ずるが故に學すべきやと。佛言はく、(b)善現、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時應に色の色相空なりと觀ずるが故に學すべく受想行識の受想行識相空なりと觀ずるが故に學すべし。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に諸法の自相皆空なりと觀ずるが故に學すべし。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸

【一】般若行學は諸法自相空と觀ずるが故なることを明し、正しく不二を說く。

(a)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時……如是善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應於色不起作諸行若有若無故學應於受想行識不起作諸行若有若無故學」右も五蘊の所に次下所出の諸法を代入して略すること前卷(f)の場合の如し。

(a)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應觀色色相空故學應觀受想行識受想行識相空故學如是善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應觀諸法自相空故學」右も(a)の場合の如く五蘊の所に代入する諸法のみ以下略出することとす。

至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提、(d)一切の菩薩摩訶薩行、(d)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、(e)善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に色に於て、諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべく、應に受想行識に於ても亦諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべし。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四念住乃至八聖道支。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門・一切陀羅尼門。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、(f)世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時云何が應に色に於て諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべく云何が應に受想行識に於て諸行の若しは有若しは無を起作せざるが故に學すべきや。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四念住乃至八聖道支。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)一切三摩地門。一切陀羅尼門。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)五眼・六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法・恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正

(e)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應於色不起作諸行若有若無故學應於受想行識亦不起作諸行若有若無故學」右も(d)の場合に準じ以下略出す。

【四】行の若しは有等。有は欲、色、無色の三有、無は斷滅の邊見、起さずば業相應の諸法なきを云ひ、作さずば善惡三業なきを云ふなり。

(f)「世尊菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時云何應於色不起作諸行若有若無故學云何應於受想行識不起作諸行若有若無故學」右も(e)の場合と同じ以下略出す。

苦聖諦乃至道聖諦。(b)四念住乃至八聖道支。(b)四靜慮乃至四無色定。八解脫乃至十遍處。(b)一切三摩地門、一切羅尼門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、善現、(c)菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に色に於て[三]不生不滅なるが故に學すべく亦た受想行識に於ても不生不滅なるが故に學すべし。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四念住乃至八聖道支。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)一切三摩地門・一切陀羅尼門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行(c)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、(d)世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時云何が應に色に於て不生不滅なるが故に學すべく云何が應に受想行識に於て不生不滅なるが故に學すべきや。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四念住乃至八聖道支。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)一切三摩地門・一切陀羅尼門。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃

(c)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應於色不生不滅故學亦應於受想行識不生不滅故學」右も(b)の場合と同方法により以下略出す。

【三】不生不滅。一色の新生するなく滅盡するなく常住なるなく緣起相應なるを云ふ。

(d)「世尊菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時云何應於色不生不滅故學云何應於受想行識不生不滅故學」右も(c)の場合と同じ。

(e)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百六十

初分多問不二品第六十一之十

[一]佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に色に於て[二]不增不減を學すべく亦た應に受想行識に於て不增不減を學すべし、(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四念住乃至八聖道支。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(e)一切三摩地門、一切陀羅尼門。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、(b)世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時云何が應に色に於て不增不減を學すべく云何が應に受想行識に於て不增不減を學すべきや。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)

【一】般若行學の續き。
(a)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時應於色學不增不減亦應於受想行識學不增不減」右も前卷(e)の場合と同方法により略出す。
【二】不增不減。實法の增なく減なく執情の有とし無とするなきを云ふ。
(b)「世尊菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時云何應於色學不增不減云何應於受想行識學不增不減」右も(a)の場合と同じく以下略出す。

はく、善現、若しは我、若しは有情、若しは命者、若しは生者、若しは養者若しは、士夫若しは補特伽羅旣に得可からずんば我れ當に云何が我界有情界命者界生者界養者界士夫界補特伽羅界を施設す可けんや。是の如く善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を施設せず亦た一切智智及び一切法を施設せずんば是の菩薩摩訶薩は定めて當に一切智智を證得すべしと。時に具壽善現復た佛に白して言さく。世尊、但だ般若波羅蜜多のみ施設す可からずと爲すや、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た施設す可からずと爲すやと。佛言はく、善現、但だ般若波羅蜜多のみ施設す可からざるに非ず、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た施設す可からず。善現、若しは聲聞法、若しは獨覺法、若しは菩薩法、若しは諸佛法、若しは有爲法、若しは無爲法是の如き等の一切法は皆施設す可からずと。

[四二] 具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆施設す可からずんば云何が是れ地獄是れ傍生是れ鬼界是れ人是れ天是れ預流是れ一來是れ不還是れ阿羅漢是れ獨覺是れ菩薩是れ諸佛是れ一切法なりと施設す可き耶と。佛言はく、善現、意に於て云何、[四三]有情施設及び法施設實に得可きや不やと。善現白して言さく、不なり世尊と。佛言はく、善現、若し有情施設及び法施設實に得可からずんば我れ云何が是れ地獄是れ傍生是れ鬼界是れ人是れ天是れ預流是れ一來是れ不還是れ阿羅漢是れ獨覺是れ菩薩是れ諸佛是れ一切法なりと施設す可けん。是の如く善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずる時應に一切法皆施設す可からずと學すべしと。具壽善現、佛に白して言さく、(e)世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずる時豈に色に於て學すべく、亦た受想行識に於て學すべからさらんや。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空、(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四念住乃至八聖道支。(e)四靜慮乃至四無色定。

【四二】般若の行學を說く。

【四三】有情施設。人的差別、法施設は義相の差別。

(e)「世尊菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時豈不應於色學亦應於受想行識學」右も(d)の場合と同方法により以下略出す。

に般若波羅蜜多を修すべしと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は何等の[三七]心無間に住して當に般若波羅蜜多を行ずべく、當に般若波羅蜜多を引くべく、當に般若波羅蜜多を修すべきやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで[三八]諸餘の作意を發起するを容れず唯だ常に一切智智相應の作意のみに安住して應に般若波羅蜜多を行ずべく、應に般若波羅蜜多を引くべく、應に般若波羅蜜多を修すべし。是の菩薩摩訶薩は應に是の如く般若波羅蜜多を行ずべく、應に是の如く般若波羅蜜多を引くべく、應に是の如く般若波羅蜜多を修すべく、乃至能く[三九]心心所法をして境に於て轉ぜらしめよと。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行じ般若波羅蜜多を引き般若波羅蜜多を修せば當に一切智智を得べきや不やと。不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ぜず般若波羅蜜多を引かず般若波羅蜜多を修せずして當に一切智智を得べきや不やと。不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を亦たは行じ、亦たは行ぜず、般若波羅蜜多を亦たは引き、亦たは引かず、般若波羅蜜多を[四〇]亦たは修し、亦たは修せずして當に一切智智を得べきや不やと。不なり善現と。世尊、菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずるに非ず行ぜざるに非ず般若波羅蜜多を引くに非ず、引かざるに非ず、般若波羅蜜多を修するに非ず、修せざるに非ずして當に一切智智を得べきや不やと。不なり善現と。[四一]世尊、若し爾かれば云何が當に一切智智を得べきやと。善現、菩薩摩訶薩當に一切智智を得ること眞如の如くすべしと。世尊、云何が眞如なるやと。善現、實際の如しと。世尊、云何が實際なるやと。善現、法界の如しと。世尊、云何が法界なるやと。善現、我界有情界命者界生者界養者界士夫界補特伽羅界の如しと。世尊、云何が我界有情界命者界生者界養者界士夫界補特伽羅界なるやと。佛言はく善現、意に於て云何、若しは我若しは有情、若しは命者、若しは生者、若しは養者、若しは士夫、若しは補特伽羅は得可しと爲すや不やと。善現白して言さく、不なり世尊と。佛言

【三七】心無間。一心或は常念と云ふが如し。

【三八】諸餘の作意を發起するを容れず。貪瞋などの心を以て般若を害せしめざるなり。

【三九】心心所法等。無相三昧を云ふ。

【四〇】亦たは修し亦たは修せず等。修は常行積集に名づく、是れ心所力なれば修も不可得なりとす。修にして得ず況して修せざる者得ざるなり。修不修は能觀實相と無爲般若なり。次に非修非不修も著相の故に不可得なり。

【四一】一切智智證得の法を明す。

を知り、善く速慧を知り、善く[26]達慧を知り、善く[27]廣慧を知り、善く[28]深慧を知り、善く[29]大慧を知り、善く[30]無等慧を知り、善く眞實慧を知り、善く珍寶慧を知り、善く過去世を知り、善く未來世を知り、善く現在世を知り、善く方便を知り、善く意樂を知り、善く[31]增上意樂を知り、善く饒有情を知り、善く文義相を知り、善く諸の聖法を知り、善く三乘に安立する方便を知れりと。善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行じ般若波羅蜜多を引き般若波羅蜜多を修せば是の如き等の功德勝利を獲んと。

[32]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は云何が當に般若波羅蜜多を行ずべく、云何が當に般若波羅蜜多を引くべく、云何が當に般若波羅蜜多を修すべきやと。佛言はく、(d)善現、菩薩摩訶薩[33]色を觀ずるに寂靜なるが故に、破壞す可きが故に、不自在なるが故に、體虛妄なるが故に、不堅實なるが故に應に般若波羅蜜多を行ずべく、受想行識を觀ずるに寂靜なるが故に、破壞す可きが故に、不自在なるが故に、體虛妄なるが故に、不堅實なるが故に應に般若波羅蜜多を行ずべし。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。

善現、汝の問ふ菩薩摩訶薩は云何が當に般若波羅蜜多を引くべきやとは菩薩摩訶薩[34]虛空の空を引くが如く應に般若波羅蜜多を引くべし。善現、汝の問ふ菩薩摩訶薩云何が當に般若般羅蜜多を修すべきやとは菩薩摩訶薩虛空の空を修するが如く應に般若波羅蜜多を修すべしと。[35]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は幾時を經て當に般若波羅蜜多を行ずべく、當に般若波羅蜜多を引くべく、當に般若波羅蜜多を修すべしと爲すやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は初發心より乃至[36]妙菩提の座に安坐するまで應に般若波羅蜜多を行ずべく、應に般若波羅蜜多を引くべく、應

【二六】達慧。佛法に究竟通達する。
【二七】廣慧。眞俗二諦に通ずる。
【二八】深慧。諸法無量無相に達す。
【二九】大慧。佛は生中の最大、般若は法中の最大なれば、佛般若を信ずるを云ふ。
【三〇】無等慧。般若に在りて般若に著せざるなり。
【三一】增上意樂。增進せしめんとする念願なり。
【三二】般若の行、引、修に就いて明す。
(b)「善現菩薩摩訶薩觀色……觀受想行識寂靜故可破壞故不自在故體虛妄故不堅實故應行般若波羅蜜多」
右も「色乃至識」の五蘊のある所に次下の諸法を代入して略すること(c)の場合の如し。
【三三】色を觀ずるに寂靜なり。又現象これ涅槃なるを云ふ。無常、不自在、不一、不實なるが故に無我なり。
【三四】虛空の空。言語道斷不可說なるを云ひ、世間虛空の如く染著なきなり。
【三五】般若の行修は初發心乃至妙菩提に通ずることを說く。
【三六】妙菩提の座に安坐。大覺を成就するを云ふ。

觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四念住乃至八聖道支。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處、(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提、善く是の菩薩摩訶薩を知り、善く〔一九〕止息の道を知り、善く〔二〇〕不止息の道を知り、善く生を知り、善く滅を知り、善く住異を知り、善く貪瞋癡を知り、善く無貪無瞋無癡を知り、善く見を知り、善く非見を知り、善く邪見を知り、善く非邪見を知り 善く〔二一〕一切の見纒隨眠結縛を知り、善く一切の見纒隨眠結縛斷ずるを知り、善く名を知り、善く色を知り、善く名色を知り、善く因緣を知り、善く〔二二〕等無間緣を知り、善く〔二三〕所緣緣を知り、善く〔二四〕增上緣を知り、善く行を知り、善く解を知り、善く相を知り、善く狀を知り、善く苦を知り、善く集を知り、善く滅を知り、善く道を知り、善く地獄を知り、善く〔二五〕地獄道を知り、善く傍生を知り、善く傍生道を知り、善く鬼界を知り、善く鬼界道を知り、善く人を知り、善く人道を知り、善く天を知り、善く天道を知り、善く預流を知り、善く預流果を知り、善く預流道を知り、善く一來を知り、善く一來果を知り、善く一來道を知り、善く不還を知り、善く不還果を知り、善く不還道を知り、善く阿羅漢を知り、善く阿羅漢果を知り、善く阿羅漢道を知り、善く獨覺を知り、善く獨覺菩提を知り、善く獨覺道を知り、善く菩薩摩訶薩を知り、善く菩薩摩訶薩行を知り、善く如來應正等覺を知り、善く無上正等菩提を知り、善く一切智を知り、善く一切智道を知り、善く道相智を知り、善く道相智道を知り、善く一切相智を知り、善く一切相智道を知り、善く根を知り、善く根の圓滿を知り、善く根の勝劣を知り、善く慧を知り、善く疾慧を知り、善く力慧を知り、善く利慧

【一九】止息の道。一地より一地に至り、下地を捨つるを云ふなり。沙門を勤息と云ふ息の如し。

【二〇】不止息の道を知る。地中に住するは邪見なるを知り、貪著せざるを云ふ。勤息に於ける勤の如し精進正勤なり。

【二一】見纒隨眠結縛。見、纒、隨眠、結縛何れも煩惱の異名なり。

【二二】等無間緣。四緣の一。前時の心心所が後時の心心所の生じ來る爲に原因となるを云ふ。

【二三】所緣緣。四緣の一。所緣の境が種種の心作用を起さしめる緣となるを云ふ。

【二四】增上緣。四緣の一。他の諸法を生起するに强き勢力を與ふるものにて、眼根の能く眼識を生じ、田土の能く米麥を生ずる如きを云ふ。

【二五】地獄道。地獄に趣向する行相。

善く合散を知り、善く相應を知り、善く不相應を知り、善く相應不相應を知り、善く眞如を知り、善く不虛妄性を知り、善く不變異性を知り、善く法性を知り、善く法界を知り、善く法定を知り、善く法住を知り、善く緣性を知り、善く非緣性を知り、善無く諸聖諦を知り、善く靜慮を知り、善く無量を知り、善く色定を知り、善く六波羅蜜多を知り、善く四念住を知り、善く四正斷を知り、善く四神足を知り、善く五根を知り、善く五力を知り、善く七等覺支を知り、善く八聖道支を知り、善く八解脫を知り、善く八勝處を知り、善く九次第定を知り、善く十遍處を知り、善く陀羅尼門を知り、善く三摩地門を知り、善く空解脫門を知り、善く無相解脫門を知り、善く無願解脫門を知り、善く一切空法門を知り、善く五眼を知り、善く六神通を知り、善く佛の十力を知り、善く四無所畏を知り、善く四無礙解を知り、善く大慈大悲大喜大捨を知り、善く十八佛不共法を知り、善く無忘失法を知り、善く恒住捨性を知り、善く一切智を知り、善く道相智を知り、善く一切相智を知り、善く有爲界を知り、善く無爲界を知り、善く界を知り、善く非界を知れりと。

當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は(b)善く色作意を知り善く受想行識作意を知り。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四念住乃至八聖道支。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。善く一切智作意を知り善く道相智一切相智作意を知れりと。

當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は(c)善く色色相空を知り善く受想行識受想行識相空を知り。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意

(b)「善知色作意善知受想行識作意」右の文中「色乃至識」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(c)「善知色色相空善知受想行識受想行識相空」右も(b)の場合と同じ方法により以下略出す。

し是の菩薩摩訶薩此已に無量の眞善知識の攝受する所と爲り、已に久しく布施乃至般若波羅蜜多を修し已に久しく內空乃至無性自性空に安住し已に久しく眞如乃至不思議界に安住し已に久しく苦集滅道聖諦に安住し已に久しく四靜慮乃至四無色定を修習し已に久しく八解脫乃至十遍處を修習し已に久しく四念住乃至八聖道支を修習し已に久しく空無相無願解脫門を修習し已に久しく五眼六神通を修習し已に久しく佛の十力乃至十八佛不共法を修習し已に久しく無忘失法恒住捨性を修習し已に久しく一切陀羅尼門一切三摩地門を修習し已に久しく一切智乃至一切相智を修習せりと。當に知るべし是の菩薩摩訶薩は[一二]童子地に住し、一切の所願滿足せざる無く常に諸佛を見たてまつり曾て暫くも捨つる無く、諸の善根に於て恒に捨離せず常に能く一切の有情を成熟し亦た常に所有る佛土を嚴淨し一佛土より一佛土に趣きて諸佛世尊を恭敬供養し無上乘の法を聽受し修行せりと。當に知るべし是の菩薩摩訶薩は已に斷ずる無く盡くる無き辯才を得、已に殊勝の陀羅尼法を得最上微妙の色身を得、已に諸佛圓滿記を授くるを得、隨所に於て樂ふて有情を度せんが爲に諸の有身を受くるに已に自在を得たりと。當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は善く[一三]所緣門を知り、善く[一四]行相門を知り、善く[一五]字門を知り、善く[一六]非字門を知り、[一七]善く言を知り、善く不言を知り、[一八]善く一增語を知り、善く二增語を知り、善く多增語を知り、善く女增語を知り、善く男增語を知り、善く非女男增語を知り、善く過去增語を知り、善く未來增語を知り、善く現在增語を知り、善く諸文を知り、善く諸義を知れりと。當に知るべし是の菩薩摩訶薩は善く色を知り、善く受を知り、善く想を知り、善く行を知り、善く識を知り、善く蘊を知り、善く界を知り、善く處を知り、善く緣起を知り、善く緣起支を知り、善く世間性を知り、善く涅槃性を知り、善く法界性を知り、善く行相を知り、善く非行相を知り、善く有爲相を知り、善く無爲相を知り、善く有爲無爲相を知り、善く相相を知り、善く有を知り、善く非有を知り、善く自性を知り、善く他性を知り、善く合を知り、善く散を知り、

【一二】童子地。補處の菩薩たるを云ふ。

【一三】所緣門。心識の所對たるもの。

【一四】行相門、心識諸法の作用相願なり。

【一五】字門、阿吽等文字を以て表現することを云ふ。

【一六】非字門。眞如法性實際などの其の中に文字無きものの稱なり。

【一七】善く言を知り等。言不言は字門非字門の如し。

【一八】善く一增語を知り等。言不言淨不淨を了知し、能く邪道を伏するを云ふ。增語は有術說明にて方等經の增廣等なり。

摩訶薩の此の般若波羅蜜多に於て如實に修行し彈指の頃を經るに及ばず。何を以ての故に、善現、是の如き般若波羅蜜多は能く一切の布施淨戒安忍精進靜慮般若を生じ、能く一切の解脱及び解脱智見を生じ、能く預流一來不還阿羅漢果を生じ、能く獨覺菩提を生じ、能く無上正等菩提を生じ、現在十方無量無數無邊世界一切の如來應正等覺は皆是の如き般若波羅蜜多に由りて今出現することを得ざる無く、過去世に於ける一切の如來應正等覺も皆是の如き般若波羅蜜多に由りて已に出現することを得ざる無く、未來世に於ける一切の如來應正等覺も皆是の如き般若波羅蜜多に由りて當に出現することを得べからざる無ければなり。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く一切智智相應の作意を遠離せずして般若波羅蜜多を修行して須臾の頃を經、或は半日を經、或は一日を經、或は一月を經、或は一歲を經、或は百歲を經、或は一劫を經、或は百劫を經乃至或は復た無數劫を經るに是の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚其の量甚だ多く、十方面の各殑伽沙等の世界に於ける諸の有情類を教化して皆布施乃[三]至般若に安住せしめ、或は解脱及び解脱智見に安住せしめ、或は預流一來不還阿羅漢果に安住せしめ、或は獨覺菩提に安住せしめて獲る所の福聚に勝過す。何を以ての故に、善現、此の般若波羅蜜多は過去未來現在一切の如來應正等覺を出生し諸の有情の爲に如實に布施乃[三]至般若を施設し、諸の有情の爲に如實に解脱及び解脱智見を施設し、諸の有情の爲に如實に預流一來不還阿羅漢果を施設し、諸の有情の爲に如實に獨覺菩提を施設し、諸の有情の爲に如實に諸佛の無上正等菩提を施設するに由るが故なり。此の福聚を以て彼れに勝過す。

二　復た次に善現、若し菩薩摩訶薩此の般若波羅蜜多の所說の如くにして住せば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は復た退轉せず常に諸佛の護念する所と爲り最勝の方便善巧を成就し、已に曾て無量百千俱胝那庾多の佛に親近し供養し諸佛の所に於て已に無量殊勝の善根を種ゑたるなりと。當に知るべ

【二】般若行者の眞善知識に攝受さるるを說く。

を證得し、亦た隨て八解脫乃至十遍處を證得し。亦た隨て四念住乃至八聖道支を證得し。亦た隨て空無相無願解脫門を證得し、亦た隨て五眼六神通を證得し、亦た隨て佛の十力乃至十八佛不共法を證得し、亦た隨て無忘失法恒住捨性を證得し、亦た隨て一切智乃至一切相智を證得し、亦た隨て一切陀羅尼門一切三摩地門を證得す。善現、若し菩薩摩訶薩如如に此の甚深般若波羅蜜多の所說に依りて學せば是の菩薩摩訶薩は是の如く是の如く所求の一切智智に轉近す。善現、若し菩薩摩訶薩此の般若波羅蜜多の所說の如くにして學せば是の菩薩摩訶薩は所有る隨ひ起らんも卽ち滅せん。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩疾く一切の業障を滅除せんと欲し正しく方便善巧を攝受せんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。

[九] 復た次に善現、若し時に菩薩摩訶薩是の般若波羅蜜多を行じ是の般若波羅蜜多を修し是の般若波羅蜜多を習はば是の時菩薩摩訶薩便ち十方無量無數無邊世界一切の如來應正等覺の現在住持して正法を說く者に皆共に護念せらる。所以は何ん、過去未來現在の諸佛は皆是の如き般若波羅蜜多より出生せざる無きが故なり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩能く般若波羅蜜多を行ぜば應に是の念を作すべし、過去未來現在の諸佛の證得したまへる所の法を我れも亦た當に得べしと。是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩は應に勤めて是の如き般若波羅蜜多を修學すべし。若し勤めて是の如き般若波羅蜜多を修學せば是の菩薩摩訶薩は疾く無上正等菩提を證せん。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は常に應に一切智智相應の作意を離れずして般若波羅蜜多を修行すべし。

[一〇] 復た次に善現、若し菩薩摩訶薩此の般若波羅蜜多に於て如實に修行して彈指の頃を經るも是の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚は其の量甚だ多し。假使ひ人有りて三千大千世界の諸の有情類を敎化して皆布施淨戒安忍精進靜慮般若に安住せしめ或は解脫及び解脫智見に安住せしめ或は預流一來不還阿羅漢果に安住せしめ或は獨覺菩提に安住せしめて是の人無量の福聚を獲と雖も而かも猶ほ彼の菩薩

【九】般若行者諸佛に護念せらるることを再說す。

【一〇】般若行者の獲る福聚に就て明す。

如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。有爲界合せず散ぜず無爲界も亦た合せず散ぜず。[三]何を以ての故に、善現、是の如き諸法は皆無自性なればなり。若し無自性なれば則ち無所有、若し無所有なれば則ち合する有り散ずる有りと説く可からず。諸の菩薩摩訶薩一切法に於て是の如く了知せば則ち能く略廣の相を了知すと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如きを名づけて略攝六種波羅蜜多と爲す。諸の菩薩摩訶薩若し中に於て學せば能く作す所多からん。世尊、是の如き[四]略攝波羅蜜多は初修業の菩薩摩訶薩當應に中に於て學すべく乃至[五]十地に住する菩薩摩訶薩も亦た應に中に於て學すべし。世尊、若し菩薩摩訶薩此の略攝波羅蜜多を學せば一切法に於て略廣の相を知らんと。[六]佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所説の如し。善現、是の如き法門は利根の菩薩摩訶薩能く入り中根の菩薩摩訶薩も亦た能く入る。善現、是の如き法門は定根の菩薩摩訶薩能く入り不定根の菩薩摩訶薩も亦た能く入る。善現、是の如き法門は無障無礙なり。若し菩薩摩訶薩專ら中に於て學せば能く入らざる無し。善現、是の如き法門は[七]懈怠の者劣精進の者正念を失へる者心を散亂せる者惡慧を習ふ者の能く入る所に非ず。善現、是の如き法門は懈怠ならざる者勝精進の者正念に住せる者善く心を攝する者妙慧を修する者のみ方に能く趣入す。善現、若し菩薩摩訶薩[八]不退轉地に住せんと欲し第十地に住せんと欲し一切智智地に住せんと欲せば當に勤め方便して此の法門に入るべし。善現、若し菩薩摩訶薩此の般若波羅蜜多の所説の如くにして學せば是の菩薩摩訶薩は能く隨て布施乃至般若波羅蜜多を證得し亦た隨て內空乃至無性自性空を證得し、亦た隨て眞如乃至不思議界を證得し、亦た隨て苦集滅道聖諦を證得し、亦た隨て四靜慮乃至四無色定

【三】不合不散の義を示す。

【四】略攝波羅蜜多。般若はこれ安穩道にして一切菩薩の學すべき所なればかく云ふ。

【五】十地。修證の階位の名。大乘菩薩を五十位とせば第四十一位より第五十位までの稱即ち、歡喜地、離垢地、發光地、焰慧地、難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地なり。これを不共菩薩の十地とせばその第十法雲地を乃至十地と云ふものなり。

【六】略攝門甚深なるも無障無礙の法門なれば鈍根の菩薩と雖も亦趣入し得べきを説く。

【七】懈怠の者等。爲し得るを爲さぬ機の過あるものを云ふ。

【八】不退轉地。不退轉は處位、行、念に於て説く第八地以上を特に完全なる不退位とす。

し、是れを色法界相と名づく。受想行識界虚空界是れを受想識法界と名づく。此の受想行識法界も亦た斷無く別無くして而かも施設す可し。是れを受想行識法界相と名づく。諸の菩薩摩訶薩如實に了知し當に中に於て學し一切法に於て如實に略廣の相を了知すべしと。

(v)眼處乃至意處。(v)色處乃至法處。(v)眼界乃至意界。(v)色界乃至法界。(v)眼識界乃至意識界。(v)眼觸乃至意觸。(v)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(v)地界乃至識界。無明乃至老死愁歎苦憂惱。(v)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(v)內空乃至無性自性空。(v)眞如乃至不思議界。(v)苦聖諦乃至道聖諦。(v)四靜慮乃至四無色定。(v)八解脫乃至十遍處。(v)四念住乃至八聖道支。(v)空解脫門乃至無願解脫門。(v)五眼・六神通。(v)佛の十力乃至十八佛不共法。(v)無忘失法・恒住捨性。(v)一切智乃至一切相智。(v)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(v)預流果乃至阿羅漢果。(v)獨覺菩提。(v)一切の菩薩摩訶薩行。(v)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百五十九

初分多問不二品第六十一之九

【一】爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は復た云何が應に一切法の略廣相を知るべきやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩如實に一切法は【二】合せず散ぜずと了知せば是の菩薩摩訶薩は是の如く當に一切法の略廣相を知るべしと。具壽善現復た佛に白して言さく。世尊、何等の一切法合せず散ぜざるやと。佛言はく、善現、(a)色合せず散ぜず受想行識も亦た合せず散ぜず。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞

【一】一切法の略廣相を明す。

【二】合せず散ぜず。法を無所得なれば分子の合する如く合するにあらず、不散亦然り、不合不散にして宛として諸法の相を成就す。

(n)「色不合不散受想行識亦不合不散」

右も前卷(v)の場合の如く以下諸法を略出すゝのみとす。

卷の第三百五十八

初分多問不二品第六十一之八

(t)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(t)內空乃至無性自性空。(t)眞如乃至不思議界。(t)苦聖諦乃至道聖諦。(t)四靜慮乃至四無色定。(t)八解脫乃至十遍處。(t)四念住乃至八聖道支。(t)空解脫門乃至無願解脫門。(t)五眼・六神通。(t)佛の十力乃至十八佛不共法。(t)無忘失法、恒住捨性。(t)一切智乃至一切相智。(t)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(t)預流果乃至阿羅漢果。(t)獨覺菩提。(t)一切の菩薩摩訶薩行。(t)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(u)善現、若し菩薩摩訶薩如實に色法界相を了知し如實に受想行識法界相を了知せば是の菩薩摩訶薩は一切法に於て如實に略廣の相を了知す。(u)眼處乃至意處。(u)色處乃至法處。(u)眼界乃至意界。(u)色界乃至法界。(u)眼識界乃至意識界。(u)眼觸乃至意觸。(u)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(u)地界乃至識界。(u)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(u)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(u)內空乃至無性自性空。(u)眞如乃至不思議界。(u)苦聖諦乃至道聖諦。(u)四靜慮乃至四無色定。(u)八解脫乃至十遍處。(u)四念住乃至八聖道支。(u)空解脫門乃至無願解脫門。(u)五眼、六神通。(u)佛の十力乃至十八佛不共法。(u)無忘失法、恒住捨性。(u)一切智乃至一切相智。(u)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(u)預流果乃至阿羅漢果。(u)獨覺菩提。一切の菩薩摩訶薩行。(u)諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(v)世尊、云何が色法界相、云何が受想行識法界相にして諸の菩薩摩訶薩如實に了知して中に於て學するに一切法に於て如實に略廣の相を了知するやと。佛言はく、善現、色界虛空界是れを色法界と名づく。此の色法界は斷無く別無くして而かも施設す可

(t)　前卷と同意。

【一】　法界相に就て說く。

(u)「善現若菩薩摩訶薩如實了知色法界相如實了知受想行識法界相是菩薩摩訶薩於一切法如實了知略廣之相」右も(s)の場合と全く同じくして以下略出す。

(v)「世尊云何色法界相云何受想行識法界相……佛言善現色界虛空界是名色法界……於一切法如實了知略廣之相」右も(t)の場合と全く同方法によりて以下略出す。

四念住乃至八聖道支。(r)空解脱門乃至無願解脱門。(r)五眼、六神通。(r)佛の十力乃至十八佛不共法。(r)無忘失法・恒住捨性。(r)一切智乃至一切相智。(r)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(r)預流果乃至阿羅漢果。(r)獨覺菩提。(r)一切の菩薩摩訶薩行。(r)諸佛の無上正等菩提。

七 復た次に(s)善現、若し菩薩摩訶薩如實に色實際相を了知し如實に受想行識實際相を了知せば是の菩薩摩訶薩は一切法に於て如實に略廣の相を了知す。(s)眼處乃至意處。(s)色處乃至法處。(s)眼界乃至意界。(s)色界乃至法界。(s)眼識界乃至意識界。(s)眼觸乃至意觸。(s)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(s)地界乃至識界。(s)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(s)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(s)内空乃至無性自性空。(s)眞如乃至不思議界。(s)苦聖諦乃至道聖諦。(s)四靜慮乃至四無色定。(s)八解脱乃至十遍處。(s)四念住乃至八聖道支。(s)空解脱門乃至無願解脱門。(s)五眼、六神通。(s)佛の十力乃至十八佛不共法。(s)無忘失法、恒住捨性。(s)一切智乃至一切相智。(s)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(s)預流果乃至阿羅漢果。(s)獨覺菩提。(s)一切の菩薩摩訶薩行。(s)諸佛の無上正等菩提。

八 爾の時、具壽善現、佛に白して言さく、(t)世尊、云何が色實際相、云何が受想行識實際相にして諸の菩薩摩訶薩如實に了知して中に於て學するに一切法に於て如實に略廣の相を了知するやと。佛言はく、善現、無色際是れを色實際相と名づけ、無受想行識際是れを受想行識實際相と名づく。諸の菩薩摩訶薩如實に了知し當に中に於て學し一切法に於て如實に略廣の相を了知すべしと。(t)眼處乃至意處。(t)色處乃至法處。(t)眼界乃至意界。(t)色界乃至法界。(t)眼識界乃至意識界。(t)眼觸乃至意觸。(t)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(t)地界乃至識界。(t)無明乃至老死愁歎苦憂惱。

【七】 實際相に就て說く、眞如相の如し。(s)「善現若菩薩摩訶薩如實了知色實際相如實了知受想行識實際相是菩薩摩訶薩於一切法如實了知略廣之相」右も(r)の場合に準じ以下略出するのみとす。

【八】 諸法の實際相を明し、色の色とすべき際なきを色實際相とす。(t)「世尊云何色實際相云何受想行識實際相……佛言善現無色際是名色實際相……於一切法如實了知略廣之相」右も(r)の場合と全く同じく以下略出するのみとす。

復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は諸の如來の所說の六種波羅蜜多相應の法教に於て若しは略若しは廣勤め修學する時應に諸法に於て如實に略廣の相を了知すべしと。具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は一切法に於て如實に略廣の相を了知するやと。佛言はく、(q)善現、若し菩薩摩訶薩如實に色[六]眞如相を了知し如實に受想行識眞如相を了知せば是の菩薩摩訶薩は一切法に於て如實に略廣の相を了知す。(q)眼處乃(ろ)至意處。(q)色處乃(は)至法處。(q)眼界乃(に)至意界。(q)色界乃(う)至法界。(q)眼識界乃(る)至意識界。(q)眼觸乃(の)至意觸。(q)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(q)地界乃(ゐ)至識界。(q)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(q)布施波羅蜜多乃(く)至般若波羅蜜多。(q)內空乃(わ)至無性自性空。(q)眞如乃(か)至不思議界。(q)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(q)四靜慮乃(た)至四無色定。(q)八解脫乃(れ)至十遍處。(q)四念住乃(そ)至八聖道支。(q)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(q)五眼・六神通。(q)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(q)無忘失法・恒住捨性。(q)一切智乃(な)至一切相智。(q)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(q)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(q)獨覺菩提。(q)一切の菩薩摩訶薩行。(q)諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(r)世尊、云何が色眞如相、云何が受想行識眞如相にして諸の菩薩摩訶薩如實に了知して中に於て學するに一切法に於て如實に略廣の相を了知するやと。佛言はく、善現、色眞如は生無く滅無く亦た住異無くして而かも施設す可し。是れを色眞如相と名づく。受想行識眞如は生無く滅無く亦た住異無くして而かも施設す可し。是れを受想行識眞如相と名づく。諸の菩薩摩訶薩如實に了知して當に中に於て學し、一切法に於て如實に略廣の相を了知すべしと。(r)眼處乃(ろ)至意處。(r)色處乃(は)至法處。(r)眼界乃(に)至意界。(r)色界乃(う)至法界。(r)眼識界乃(る)至意識界。(r)眼觸乃(の)至意觸。(r)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(r)地界乃(ゐ)至識界。(r)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(r)布施波羅蜜多乃(く)至般若波羅蜜多。(r)內空乃(わ)至無性自性空。(r)眞如乃(か)至不思議界。(r)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(r)四靜慮乃(た)至四無色定。(r)八解脫乃(れ)至十遍處。(r)

(q)「善現若菩薩摩訶薩如實了知色眞如相如實了知受想行識眞如相是菩薩摩訶薩於一切法如實了知略廣之相」(p)の場合と同じく右も以下略出するに止む。

【六】眞如相。諸法如如の相即ち不生滅不住異なり。

(r)「世尊云何色眞如相云何受想行識眞如相………佛言善現………諸菩薩摩訶薩如實了知當於中學於一切法如實了知略廣之相」右も(q)の場合の如く五蘊のある所に夫々次下の諸法を代入して以下略出するものとす。

識を以ての故に是の菩薩摩訶薩を護念せず。(p)眼處乃至意處。(p)色處乃至法處。(p)眼界乃至意界(p)色界乃至法界。(p)眼識界乃至意識界。(p)眼觸乃至意觸。(p)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(p)地界乃至識界。(p)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(p)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(p)內空乃至無性自性空。(p)眞如乃至不思議界。(p)苦聖諦乃至道聖諦。(p)四靜慮乃至四無色定。(p)八解脫乃至十遍處。

卷の第三百五十七

初分多問不二品第六十一之七

(p)四念住乃至八聖道支。(p)空解脫門乃至無願解脫門。(p)五眼、六神通。(p)佛の十力乃至十八佛不共法。(p)無忘失法、恒住捨性。(p)一切智乃至一切相智。(p)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(p)預流果乃至阿羅漢果。(p)獨覺菩提。(p)一切の菩薩摩訶薩行。(p)諸佛の無上正等菩提。

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は[二]多く學に處すと雖も而かも學する所無しと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、諸の菩薩摩訶薩は多く學に處すと雖も而かも學する所無し。何を以ての故に、善現、實に法の菩薩摩訶薩をして中に於て學せしむ可き有ること無きが故なりと。具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、如來は諸の菩薩摩訶薩の爲に[三]或は略[四]或は廣六種波羅蜜多相應の法を宣說したまふ。若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば此の六種波羅蜜多相應の法敎に於て若しは略若しは廣皆應に聽聞し受持讀誦し其れをして通利せしめ既に通利し已らば理の如く思惟し既に思惟し已らば審に正しく觀察すべし。正しく觀察する時は[五]心心所法、所緣の相に於て皆復た轉ぜずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如しと。

(p) 前卷と同意。

【一】佛。正學正觀を說く。
【二】多く學に處す。俗法、道法、諸波羅蜜、畢竟空、起滅如幻などを學するを云ふ。
【三】或は略。小品一品一段又は諸法空無相無作無生無滅等なり。
【四】或は廣。八萬四千法聚乃至無量佛法、又は諸法の種種別相なり。
【五】心心所法等。無相三昧に入るを云ふ。

來現在の諸佛に護念せらるるや。(m)內空乃至無性自性空。(m)眞如乃至不思議界。(m)苦聖諦乃至道聖諦。(m)四靜慮乃至四無色定。(m)八解脫乃至十遍處。(m)四念住乃至八聖道支。(m)空解脫門乃至無願解脫門。(m)五眼、六神通。(m)佛の十力乃至十八佛不共法。(m)無忘失法・恒住捨性。(m)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(m)一切智乃至一切相智。

佛言はく、(n)善現、是の菩薩摩訶薩布施波羅蜜多を行ずる時、布施波羅蜜多得可からずと觀ずるが故に過去未來現在の[二三]諸佛に護念せられ、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時淨戒乃至般若波羅蜜多得可からずと觀ずるが故に過去未來現在の諸佛に護念せらる。(n)內空乃至無性自性空。(n)眞如乃至不思議界。(n)苦聖諦乃至道聖諦。(n)四靜慮乃至四無色定。(n)八解脫乃至十遍處。(n)四念住乃至八聖道支。(n)空解脫門乃至無願解脫門。(n)五眼、六神通。(n)佛の十力乃至十八佛不共法。(n)無忘失法、恒住捨性。(n)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(n)一切智乃至一切相智。

復た次に(o)善現、過去未來現在の諸佛は色の如く得可からさるが故に是の菩薩摩訶薩を護念し、受想行識の如く得可からさるが故に是の菩薩摩訶薩を護念す。(o)眼處乃至意處。(o)色處乃至法處。(o)眼界乃至意界。(o)色界乃至法界。(o)眼識界乃至意識界。(o)眼觸乃至意觸。(o)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(o)地界乃至識界。(o)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(o)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(o)內空乃至無性自性空。(o)眞如乃至不思議界。(o)苦聖諦乃至道聖諦。(o)四靜慮乃至四無色定。(o)八解脫乃至十遍處。(o)四念住乃至八聖道支。(o)空解脫門乃至無願解脫門。(o)五眼・六神通。(o)佛の十力乃至十八佛不共法、(o)無忘失法・恒住捨性。(o)一切智乃至一切相智。(o)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(o)預流果乃至阿羅漢果。(o)獨覺菩提。(o)一切の菩薩摩訶薩行。(o)諸佛の無上正等菩提。

復た次に　(p)善現、過去未來現在の諸佛は[二四]色を以ての故に是の菩薩摩訶薩を護念せず、受想行

(n)「善現是菩薩摩訶薩行布施波羅蜜多時觀布施波羅蜜多不可得故爲過去未來現在諸佛護念行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時觀淨戒乃至般若波羅蜜多不可得故爲過去未來現在諸佛護念」
右も(m)の場合と同方法により以下略す。

【二三】諸佛に護念せられ。自力行の般若が我れ般若を行じ般若を得たりとせば却つて魔障を受け般若を離る、我れ行せず得ずとする時般若に卽し實相如來に合し諸佛の加護を被ることとなる。

(o)「善現過去未來現在諸佛如色不可得故護念是菩薩摩訶薩如受想行識不可得故護念是菩薩摩訶薩」
右の文中「色乃至識」の五蘊の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之の符號(o)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(p)「善現過去未來現在諸佛不以色故護念是菩薩摩訶薩、以受想行識故護念是菩薩摩訶薩」
右は(o)の場合に準じて以下略出す。

【二四】色を以ての故に。色法として有所得なるが故にと云ふ意なり。

を修學すべし。

善現、善く射る人甲冑堅固にして好き弓箭を執るに怨敵を懼れざるが如く菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。般若波羅蜜多を攝受し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受し、內空乃至無性自性空を攝受し、眞如乃至不思議界を攝受し、苦聖諦乃至道聖諦を攝受し、四靜慮乃至四無色定を攝受し、八解脫乃至十遍處を攝受し、四念住乃至八聖道支を攝受し、空解脫門乃至無願解脫門を攝受し、五眼、六神通を攝受し、佛の十力乃至十八佛不共法を攝受し、無忘失法、恒住捨性を攝受し、一切陀羅尼門、一切三摩地門を攝受し、一切智乃至一切相智を攝受し、是の如き諸の功德を攝受する時皆般若波羅蜜多を以て方便と爲す。此の因緣に由りて一切の魔軍外道他論皆伏すること能はず。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば當に勤めて甚深般若波羅蜜多を修學すべし。

三 善現、若し菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜多を行ずる時は便ち過去未來現在の諸佛に護念せられんと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜多を行ずる時は便ち過去未來現在の諸佛に護念せらるるやと。佛言はく(l)善現、若し菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜多を行ずる時は能く布施波羅蜜多を行じ能く淨戒安忍靜慮般若波羅蜜多を行ずるが故に過去未來現在の諸佛に護念せらる。(l)內空乃至無性自性空。(l)眞如乃至不思議界。(l)苦聖諦乃至道聖諦。(l)四靜慮乃至四無色定。(l)八解脫乃至十遍處。(l)四念住乃至八聖道支。(l)空解脫門乃至無願解脫門。(l)五眼、六神通。(l)佛の十力乃至十八佛不共法。(l)無忘失法、恒住捨性。(l)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(l)一切智乃至一切相智。

具壽善現、復た佛に白して言さく、(m)世尊、是の菩薩摩訶薩は云何が布施波羅蜜多を行ずる時便ち過去未來現在の諸佛に護念せられ、云何が淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる時便ち過去未

(わ) 六度の場合の如く分說すべきを今簡を旨とするが故に本文の如く合說す以下亦た同じ。

【三】 般若行者の諸佛に護念せらるるを說く。

(l) 「善現若菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜多時能行布施波羅蜜多能行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多故爲過去未來現在諸佛護念」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(l)にて略し以下諸法のみ略出す。

(m) 「世尊是菩薩摩訶薩云何行布施波羅蜜多時便爲過去未來現在諸佛護念云何行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多時便爲過去未來現在諸佛護念」右も(l)の場合の如くして以下略出す。

んと欲し、疾く妙菩提の座に安坐せんと欲し、能く一切の魔軍を降伏せんと欲し、速に一切智智を證得せんと欲し、法輪を轉じて有情類を生老病死より脫せしめんと欲せば當に六種波羅蜜多を學し四攝事の方便を以て諸の有情類を攝受すべし。菩薩是の如く勤め修學する時應に般若波羅蜜多に於て常に勤め修學するなりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛は菩薩摩訶薩に應に般若波羅蜜多に於て常に勤め學すべしと說きたまふ耶と。佛言はく、善現、是の如し是の如し、我れ菩薩摩訶薩に應に般若波羅蜜多に於て常に勤め修學すべしと說く。善現、若し菩薩摩訶薩諸法に於て大自在を得んと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は能く菩薩をして一切法に於て自在を得せしむるが故なり。復た次に善現、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の善法の生長する方便にして趣向する所の門なり。譬へば大海は是れ諸の寶物の生長する方便にして及び一切の水趣向する所の門なるが如く是の如く善現、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の善法の生長する方便にして趣向する所の門なり。是の故に善現、聲聞乘を求むる補特伽羅、獨覺乘を求むる補特伽羅、菩薩乘を求むる補特伽羅は皆當に此の甚深般若波羅蜜多に於て常に勤め修學すべし。善現、諸の菩薩摩訶薩此の般若波羅蜜多に於て勤め修學する時應に勤めて布施波羅蜜多を修學すべく、應に勤めて淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修學すべし。應に勤めて內空乃至無性自性空に安住すべし。應に勤めて眞如乃至不思議界に安住すべし。應に勤めて苦聖諦乃至道聖諦に安住すべし。應に勤めて四靜慮乃至四無色定を修學すべし。應に勤めて八解脫乃至十遍處を修學すべし。應に勤めて四念住乃至八聖道支を修學すべし。應に勤めて空解脫門乃至無願解脫門を修學すべし。應に勤めて五眼・六神通を修學すべし。應に勤めて佛の十力乃至十八佛不共法を修學すべし。應に勤めて無忘失法、恒住捨性を修學すべし。應に勤めて一切陀羅尼門、一切三摩地門を修學すべし。應に勤めて一切智乃至一切相智

【五】布施。布施攝なり。四攝法の一、衆生の樂しむ所の財法を布施し、是に因て親愛の心を生じ、我に依て道を受けしむを云ふ。

【六】愛語。愛語攝なり。四攝法の一、衆生の根性に隨つて善言慰喩し、是に因て親愛の心を生じ、我に依附して道を受けしむるを云ふ。

【七】利行。利行攝なり。四攝法の一、身口意の善行を起して衆生を利益し、是に因て親愛の心を生ぜしめ、道を受けしむるを云ふ。

【八】同事。同事攝なり。四攝法の一、法眼を以て衆生の根性を見、其の所樂に隨つて形を分けて示現し、其所作を同じくして利益に霑はしめ、是に因りて道を受けしむるを云ふ。

【九】他縁を藉らず等。他の強増上緣によらず自覺せんとする自力道なり。

【一〇】般若修學の法を明す。

【一一】補特伽羅(pudgala)。舊に人又は衆生と譯し、新に數取趣と譯す。數は五趣を取て輪廻する義なり。

(わ)六度の場合の如く分說すべきを今略を簡びて本文の如く合說す以下同じ。

巻の第三百五十六

初分多問不二品第六十一之六

(k)眼界乃至意界。(k)色界乃至法界。(k)眼識界乃至意識界。(k)眼觸乃至意觸。(k)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(k)地界乃至識界。(k)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(k)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(k)内空乃至無性自性空。(k)眞如乃至不思議界。(k)苦聖諦乃至道聖諦。(k)四靜慮乃至四無色定。(k)八解脱乃至十遍處。(k)四念住乃至八聖道支。(k)空解脱門乃至無願解脱門。(k)五眼、六神通。(k)佛の十力乃至十八佛不共法。(k)無忘失法、恒住捨性。(k)一切智乃至一切相智。(k)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(k)預流果乃至阿羅漢果。(k)獨覺菩提。(k)一切の菩薩摩訶薩行。(k)諸佛の無上正等菩提。

善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如き[一]無住方便を以て六種波羅蜜多を修行せば是の菩薩摩訶薩は速に無上正等菩提を證せん。

善現、[二]譬へば人有り[三]菴沒羅果或は[四]半那娑果を食せんと欲するに先づ其の子を取りて良美地に於て之を種植し隨時に漑灌守護營理して漸次に芽莖枝葉を生長し時節和合せば便ち花果を有ち、果成熟し已て取て之を食するが如く是の如く善現、菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば先づ六種波羅蜜多を學し復た有情に於て或は[五]布施を以ち、或は[六]愛語を以ち、或は[七]利行を以ち、或は[八]同事を以て之を攝受し、既に攝受し已らば教へて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に安住せしめよ、既に安住し已らば一切の生老病死を解脱して常住の畢竟安樂を證得せん。菩薩は是の如く當に無上正等菩提を得、妙法輪を轉じて無量の衆を度すべし。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩諸法に於て[九]他縁を藉らずして自ら悟解せんと欲し能く一切有情を成熟せんと欲し、佛土に於て能く嚴淨せ

(k) 前卷と同意。

【一】無住方便。事毎に能住とも所住ともせず精進するなり。

【二】譬へば人有り等。人は行者、果は無上菩提、樹は般若、水は五波羅蜜に喩ふるなり。

【三】菴沒羅果（Amalaka）。マンゴー果のこと。

【四】半那娑果(panasa)、其果大きく冬瓜の如く熟すれば則ち黄赤、之を剖れば中に數十の小果有りて鷄卵より大きく、又更に之を剖れば其の汁黄赤、其の味甘美なり（西域記）。

訶薩常に勤め精進して是の如き六種波羅蜜多を修學し、修行せば一切の善根速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は應に六種波羅蜜多と常に共に相應して相捨離すること勿るべしと。[一〇]

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は能く六種波羅蜜多と常に共に相應して相捨離せざるやと。佛言はく(j)善現、若し菩薩摩訶薩[一一]如實に色は相應に非ず不相應に非ずと觀じ如實に受想行識は相應に非ず不相應に非ずと觀ぜば是の菩薩摩訶薩は能く六種波羅蜜多と常に共に相應して相捨離せざるなり。(j)眼處乃至意處。(j)色處乃至法處。(j)眼界乃至意界。(j)色界乃至法界。(j)眼識界乃至意識界。(j)眼觸乃至意觸。(j)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(j)地界乃至識界。(j)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(j)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(j)内空乃至無性自性空。(j)眞如乃至不思議界。(j)苦聖諦乃至道聖諦。(j)四靜慮乃至四無色定。(j)八解脫乃至十遍處。(j)四念住乃至八聖道支。(j)空解脫門乃至無願解脫門。(j)五眼、六神通。(j)佛の十力乃至十八佛不共法。(j)無忘失法、恒住捨性。(j)一切智乃至一切相智。(j)一切陀羅尼門。一切三摩地門。(j)預流果乃至阿羅漢果。(j)獨覺菩提。(j)一切の菩薩摩訶薩行。(j)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(k)善現、若し菩薩摩訶薩恒に是の念を作さん、我れ色に住すべからず亦た受想行識に住すべからずと。何を以ての故に、色は能住に非ず所住に非ず、受想行識も亦た能住に非ず所住に非ざるが故なりと。善現、是の菩薩摩訶薩は能く六種波羅蜜多と常に共に相應して相捨離せず。(k)眼處乃至意處。(k)色處乃至法處。

【一〇】 菩薩能く六度と共に相應して相捨離せざるを明す。
(i)「善現若菩薩摩訶薩如實觀色非相應非不相應如實觀受想行識非相應非不相應是菩薩摩訶薩能與六種波羅蜜多常共相應不相捨離」
右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同なる故に之を符號(j)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【一一】 如實に色は等。菩薩利智深く觀ずれば色等相應に非ず不相應に非ずとなり。

(k)「善現若菩薩摩訶薩恒作是念我不應住色亦不應住受想行識……是菩薩摩訶薩能與六種波羅蜜多常共相應不相捨離」
右も(j)の場合に準じ以下略出す。

【　】

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し甚深般若波羅蜜多、一切法に於て起無く滅無くんば云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に布施波羅蜜多を修すべく、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に淨戒波羅蜜多を修すべく、云何が菩薩摩訶薩は、深般若波羅蜜多を行ずる時應に安忍波羅蜜多を修すべく、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に精進波羅蜜多を修すべく、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に靜慮波羅蜜多を修すべく、云何が菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に般若波羅蜜多を修すべきやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に布施波羅蜜多を修すべく、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に淨戒波羅蜜多を修すべく、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に安忍波羅蜜多を修すべく、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に精進波羅蜜多を修すべく、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に靜慮波羅蜜多を修すべく、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に一切智智に緣りて諸の有情の爲に般若波羅蜜多を修すべし。善現、是の菩薩摩訶薩は此の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて廻向の時に於ては[九]三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の善根を持て是の如く所求の無上正等菩提に廻向せば則ち六種波羅蜜多を修して速に圓滿することを得亦た菩薩の慈悲喜捨を修して速に圓滿することを得。此れに由りて疾く一切智智を得乃至妙菩提の座に安坐して常に是の如き六種波羅蜜多を遠離せず。善現、若し菩薩摩訶薩六種波羅蜜多を離れずんば則ち一切智智を遠離せず。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩速に所求の無上正等菩提を證するを得んと欲せば當に勤め精進して六種波羅蜜多を修學すべく、當に勤め精進して六種波羅蜜多を修行すべし。善現、若し菩薩摩

【八】般若の一切法に於て起滅無く空なるは六度を行ずるに妨無きを明す。

【九】三心。能廻向と廻向處と所廻向となり。

薩摩訶薩の道及び非道と爲すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は世間に出現して能く大事を爲す、所謂諸の菩薩摩訶薩に道非道の相を示現し諸の菩薩摩訶薩をして是れ道是れ非道と知りて速に能く一切智智を證得せしむと。佛言はく、善現、是の如し、是の如し、汝が所說の如し、甚深般若波羅蜜多は世間に出現して能く大事を爲す。所謂諸の菩薩摩訶薩に道非道の相を示現し諸の菩薩摩訶薩をして是れ道是れ非道と知りて速に能く一切智智を證得せしむと。復た次に善現、甚深般若波羅蜜多は世間に出現して能く大事を爲す。所謂無量無數無邊の有情を度脫して皆利益安樂を獲得せしむ。

善現、甚深般若波羅蜜多は[七]無邊に他を利樂する事を作すと雖も而かも此の事に於て取著する所無し。(i)善現、甚深般若波羅蜜多は能く色所作の事を示現すと雖も而かも此の事に於て取著する所無く、能く受想行識所作の事を示現すと雖も而かも此の事に於て取著する所無し。(i)眼處乃(ろ)至意處。(i)色處乃(は)至法處。(i)眼界乃(に)至意界。(i)色界乃(ほ)至法界。(i)眼識界乃(へ)至意識界。(i)眼觸乃(と)至意觸。(i)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(ち)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(i)地界乃(る)至識界。(i)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(i)布施波羅蜜多乃(ぬ)至般若波羅蜜多。(i)內空乃(わ)至無性自性空。(i)眞如乃(か)至不思議界。(i)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(i)四靜慮乃(た)至四無色定。(i)八解脫乃(れ)至十遍處。(i)四念住乃(そ)至八聖道支。(i)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(i)五眼、六神通。(i)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(i)無忘失法、恒住捨性。(i)一切智乃(な)至一切相智。(i)一切陀羅尼門。一切三摩地門。(i)預流果乃(ら)至阿羅漢果(i)獨覺菩提(i)一切の菩薩摩訶薩行。(i)諸佛の無上正等菩提。

善現、甚深般若波羅蜜多は菩薩摩訶薩を引導して無上正等菩提に趣かしめ其の中間に於て定めて退轉せず。善現、甚深般若波羅蜜多は菩薩摩訶薩をして聲聞獨覺等の地を遠離して無上正等菩提に親近せしむと雖も而かも諸法に於て起無く滅無し。法住性を以て定量と爲すが故にと。

【七】無限に善を行ひて善を行へりともせず。

(i)「善現甚深般若波羅蜜多雖能示現色所作事而於此事無所取著雖能示現受想行識所作事而於此事無所取著」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(i)にて略し以下その諸法のみ出す。

若しは遠離若しは不遠離を觀察する所有らば則ち意に隨て殊勝の功德を引發し安住すること能はざればなり。

復た次に(h)善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば則ち爲れ靜慮波羅蜜多を行ずるなり、亦た爲れ精進安忍淨戒布施波羅蜜多を行ずるなり。(h)內空乃至（わ）無性自性空。(h)眞如乃至（か）不思議界。(h)苦聖諦乃至（る）道聖諦。(h)四靜慮乃至（た）四無色定。(h)八解脫乃至（れ）十遍處。(h)四念住乃至（そ）八聖道支。(h)空解脫門乃至（つ）無願解脫門。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃至（ね）十八佛不共法。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(h)一切智乃至（な）一切相智。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多所行の處に隨ひて所有る一切の波羅蜜多及び餘の一切の[二]菩提分の法皆悉く隨從す。甚深般若波羅蜜多所至の處に隨ひて所有る一切の波羅蜜多及び餘の一切の菩提分の法皆悉く隨至す。善現、轉輪聖王に[三]四支勇軍有り彼の輪王の所行の處に隨ひて是の四勇軍皆悉く隨從し、彼の輪王の所至の處に隨ひて是の四勇軍皆悉く隨至するが如く甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し。行ずる所有り及び至る所有るに隨ひて所有る一切の波羅蜜多及び餘の一切の菩提分の法皆悉く隨逐し究竟して一切智智に至る。善現、善く御する者の四馬車に駕し險路を避けて正道を行かしめ本の意欲に隨ひて能く所至に往くが如く甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、善く一切の波羅蜜多及び餘の一切の菩提分の法を御し生死涅槃の險路を避けて自利利他の正道を行かしめ本所求の一切智智に至ると。

[四]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩の云何が爲れ道にして云何が道に非ざるやと。佛言はく、善現、諸の[五]異生道は諸の菩薩摩訶薩道に非ず、諸の聲聞道は諸の菩薩摩訶薩道に非ず、諸の獨覺道は諸の菩薩摩訶薩道に非ず。自利利他道は是れ諸の菩薩摩訶薩道、[六]一切智智道は是れ諸の菩薩摩訶薩道、生死及び涅槃に住せざる道は是れ諸の菩薩摩訶薩道なり。善現、是れを菩

(h)「善現若菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多則爲行靜慮波羅蜜多亦爲行精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右の文中「靜慮乃至布施波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(h)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【二】菩提分法(Bodhyaṅga)。四念處、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺、八正の三十七道品の總稱なり。或は此中の七覺支を特に指す場合あり。七種或は三十七科の道行支分するが故に分法と名づくるなり。

【三】四支勇軍。四兵の軍なり。

【四】菩薩の道、非道を明す。

【五】一異生道。凡夫道なり。凡夫は六道に輪廻して種々別異の果報を受け、又凡夫は種種に變異して邪見を生じ惡を造るの故に異生と名く。

【六】菩薩道は自利利他の二利圓修なり一切智智道なり不住處道たり。

遠離を觀ぜず、亦た受想行識の若しは常若しは無常、若しは樂若しは苦、若しは我若しは無我、若しは淨若しは不淨、若しは寂靜若しは不寂靜、若しは遠離若しは不遠離を觀ぜず。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處、(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。

卷の第三百五十五

初分多問不二品第六十一之五

(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行(f)諸佛の無上正等菩提。

(g)善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き一切法に於て「觀察せざるが故に便ち能く般若波羅蜜多を引發し亦た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を引發す。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)一切智乃至一切相智。

何を以ての故に、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時諸法の中に於て若しは常若しは無常、若しは樂若しは苦、若しは我若しは無我、若しは淨若しは不淨、若しは寂靜若しは不寂靜、

(f) 前卷と同意。

(g)「善現是菩薩摩訶薩於如是一切法不觀察故便能引發般若波羅蜜多亦能引發靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右は前卷(e)と同方法により以下略す但し「引發」とある所は「內空眞如苦聖諦」のみに於ては「安住」と改むるものとす。

【一】觀察せず有無常無常苦樂等の二分取着なきを云ふ。

門。(c)一切智乃至一切相智。

復た次に(d)善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多行ずる時色に執著せず、謂ゆる此れは是れ色、此の色は彼れに屬すと、亦た受想行識に執著せず、謂ゆる此れは是れ受想行識、此の受想行識は彼れに屬すと。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

(c)善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き一切法に於て執著無きが故に便ち能く般若波羅蜜多を引發し亦た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を引發す。

(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切陀羅尼門。一切三摩地門。(e)一切智乃至一切相智。何を以ての故に、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時諸法の中に於て執著する所有りて、此れは是れ法、此の法は彼れに屬すと謂はば、則ち意に隨ひて殊勝の功德を引發し安住すること能はざればなり。

復た次に(f)善現、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時色の若しは常若しは無常、若しは樂若しは苦、若しは我若しは無我、若しは淨若しは不淨、若しは寂靜若しは不寂靜、若しは遠離若しは不

(d)「善現菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時不執著色謂此是色此色屬彼亦不執著受想行識謂此是受想行識此受想行識屬彼」右の文中「色乃至識」の五蘊のある所に皆夫々次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(e)「善現是菩薩摩訶薩於如是一切法無執著故便能引發般若波羅蜜多亦能引發靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右の文中「六度」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(e)に略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「引發」とある所を「安住」と改むるものとす。

(f)「善現菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時不觀色若常若無常……………亦不觀受想行識若常若無常若樂若苦若我若無我若淨若不淨若寂靜若不寂靜若遠離若不遠離」右は(d)の場合と同方法により以下略す。

ばなり。若し諸法に於て執著する所有り攝受する所有らば則ち般若波羅蜜多を離ると。

[九]時に具壽善現、佛に白して言さく、(a)世尊、般若波羅蜜多は般若波羅蜜多に於て遠離すと爲すや遠離せずと爲すや、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多は靜慮乃至布施波羅蜜多に於て遠離すと爲すや遠離せずと爲すや。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。
(a)一切智乃至一切相智。

(b)世尊、若し般若波羅蜜多、般若波羅蜜多に於て設しは遠離し設しは遠離せず、云何が菩薩摩訶薩能く執著無くして般若波羅蜜多を引發するや、世尊、若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多、靜慮乃至布施波羅蜜多に於て設しは遠離し設しは遠離せず、云何が菩薩摩訶薩能く執著無くして靜慮乃至布施波羅蜜多を引發するや。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)一切智乃至一切相智。

佛言はく、(c)善現、般若波羅蜜多は般若波羅蜜多に於て遠離に非ず不遠離に非ず、是の故に菩薩摩訶薩は能く執著無くして般若波羅蜜多を引發す。善現、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多は靜慮乃至布施波羅蜜多に於て遠離に非ず不遠離に非ず、是の故に菩薩摩訶薩は能く執著無くして靜慮乃至布施波羅蜜多を引發す。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地

【九】自相を離れて行成ずべきやを辨じて、諸法不生これ能く般若を行ずることを說く。

(a)「世尊般若波羅蜜多於般若波羅蜜多爲遠離爲不遠離靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多於靜慮乃至布施波羅蜜多爲遠離爲不遠離」

右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」のある所に皆次下に出す諸法を夫〻代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(b)「世尊若般若波羅蜜多……世尊若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多於靜慮乃至布施波羅蜜多設遠離設不遠離云何菩薩摩訶薩能無執着引發靜慮乃至布施波羅蜜多」

右も(a)の場合と全く同方法によりて略す。

(c)「善現般若波羅蜜多於般若波羅蜜多非遠離非不遠離……善現靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多於靜慮乃至布施波羅蜜多非遠離非不遠離是故菩薩摩訶薩能無執著引發靜慮乃至布施波羅蜜多」

右も(b)と全く同方法によりて略す。

退失せば則ち布施乃至般若波羅蜜多を引發する能はず、亦た內空乃至無性自性空に安住する能はず、亦た眞如乃至不思議界に安住する能はず、亦た苦聖諦乃至道聖諦に安住する能はず、亦た四靜慮乃至四無色定を引發する能はず、亦た八解脫乃至十八佛不共法を引發する能はず、亦た四念住乃至八聖道支を引發する能はず、亦た空解脫門乃至無願解脫門を引發する能はず、亦た五眼六神通を引發する能はず、亦た佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を引發する能はず、亦た無忘失法、恒住捨性を引發する能はず、亦た一切陀羅尼門、一切三摩地門を引發する能はず、亦た一切智乃至一切相智を引發する能はず、亦た大慈大悲大喜大捨を引發する能はず。何を以ての故に、善現、般若波羅蜜多を離れては能く善法を引發し安住するに非ざればなり。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き念を作さん、佛は諸法の無攝受相を知り自ら無上正等菩提を證し、菩提を得已て諸の有情の爲に諸法の實相を宣說し開示したまふと。善現、是の菩薩摩訶薩若し是の念を作さば則ち爲れ甚深般若波羅蜜多を退失せん。何を以ての故に、善現、[六]如來は法に於て知る無く覺る無く說く無く示す無ければなり。所以は何ん、諸法の實性は知覺す可からず施設す可からざればなり。云何が知覺して一切法を說示する者有るを得んや。若し實に知覺して一切法を說示する者有りと言はば是の處有ること無しと。

[七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するに是の如き種種の過失を遠離するやと、佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行して是の如き念を作さん、諸法は無所有にして取る可からず。若し法無所有にして取る可からずんば則ち能く[八]現等覺する者有ること無く亦た能く宣說開示すること有ること無しと若し是の如く行ぜば是れ般若波羅蜜多を行じ諸の過失を離る。若し菩薩摩訶薩無所有不可取の法に著せば則ち般若波羅蜜多を離る。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は一切法に於て執著する所無く攝受する所無けれ

【六】如來は明覺智慧具足すと云ふも實相は實に分別を離るゝが故に知覺なく、知覺なきが故に開示すべからずとなり。

【七】菩薩無所有不可取の法に著するの故に般若波羅蜜多を遠離するを說く。

【八】現等覺(Abhisambuddha)。佛の正覺を成ずること。

十遍處を攝受すること能はず、亦た四念住乃至八聖道支を攝受すること能はず、亦た空解脫門乃至無願解脫門を攝受すること能はず、亦た五眼六神通を攝受すること能はず、亦た佛の十力乃至十八佛不共法を攝受すること能はず、亦た無忘失法恒住捨性を攝受すること能はず、亦た一切智乃至一切相智を攝受すること能はず、亦た一切陀羅尼門、一切三摩地門を攝受すること能はず、亦た一切の菩薩摩訶薩行を攝受すること能はず、亦た諸佛の無上正等菩提を攝受すること能はず。何を以ての故に、善現、般若波羅蜜多を離れては能く遍ねく殊勝の善法を攝受し及び無上正等菩提を證するに非ざればなり。

〔三〕復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き念を作さん、般若波羅蜜多に安住せば便ち無上正等菩提に於て定めて記を受くることを得と。善現、是の菩薩摩訶薩若し是の念を作さば則ち爲れ甚深般若波羅蜜多を退失せん。若し般若波羅蜜多を退失せば則ち無上正等菩提に於て〔四〕記を受くることを得ず。何を以ての故に善現、般若波羅蜜多を離れては無上正等菩提に於て記を受くることを得可きに非ざればなり。

〔五〕復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き念を作さん、般若波羅蜜多に安住せば則ち遍ねく布施乃至般若波羅蜜多を引發し、亦た遍ねく內空乃至無性自性空に安住し、亦た遍ねく眞如乃至不思議界に安住し、亦た遍ねく苦聖諦乃至道聖諦に安住し、亦た遍ねく四靜慮乃至四無色定を引發し、亦た遍ねく八解脫乃至十遍處を引發し、亦た遍ねく四念住乃至八聖道支を引發し、亦た遍ねく空解脫門乃至無願解脫門を引發し、亦た遍ねく五眼六神通を引發し、亦た遍ねく佛の十力四無所畏四無礙解十八佛不共法を引發し、亦た遍ねく無忘失法恒住捨性を引發し、亦た遍ねく一切陀羅尼門一切三摩地門を引發し、亦た遍ねく一切智乃至一切相智を引發し、亦た遍ねく大慈大悲大喜大捨を引發すと。善現、是の菩薩摩訶薩若し是の念を作さば則ち般若波羅蜜多を退失せん。般し般若波羅蜜多を

【三】安住すとすれば般若を離るべく、又成就せざるを明す。

【四】記。成就すべき豫約。

【五】般若波羅蜜多を離れて諸法を引發し、安住するを得ざるを明す。

た苦聖諦乃至道聖諦を退し、亦た四靜慮乃至四無色定を退し、亦た八解脫乃至十遍處を退し、亦た四念住乃至八聖道支を退し、亦た空解脫門乃至無願解脫門を退し、亦た五眼六神通を退し、亦た佛の十力乃至十八佛不共法を退し、亦た無忘失法恒住捨性を退し、亦た一切智乃至一切相智を退し、亦た一切陀羅尼門一切三摩地門を退し、亦た一切の菩薩摩訶薩行を退し、亦た諸佛の無上正等菩提を退するなり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は是れ[八]一切の種・白・法の根本なればなり若し般若波羅蜜多を退せば則ち爲れ一切の白法を退失せん。

卷の第三百五十四

初分多問不二品第六十一之四

[一]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き念を作さん甚深般若波羅蜜多は遍ねく、能く布施乃至般若波羅蜜多を攝受し、亦た遍ねく內空乃至無性自性空を攝受し、亦た遍ねく眞如乃至不思議界を攝受し、亦た遍ねく苦聖諦乃至道聖諦を攝受し、亦た遍ねく四靜慮乃至四無色定を攝受し、亦た遍ねく八解脫乃至十遍處を攝受し、亦た遍ねく四念住乃至八聖道支を攝受し、亦た遍ねく空解脫門乃至無願解脫門を攝受し、亦た遍ねく五眼六神通を攝受し、亦た遍ねく佛の十力乃至十八佛不共法を攝受し、亦た遍ねく無忘失法恒住捨性を攝受し、亦た遍ねく一切智乃至一切相智を攝受し、亦た遍ねく一切陀羅尼門一切三摩地門を攝受し、亦た遍ねく一切の菩薩摩訶薩行を攝受し、亦た遍ねく諸佛の無上正等菩提を攝受すと。善現、是の菩薩摩訶薩若し[二]是の念を作さば則ち般若波羅蜜多を退失せん。若し般若波羅蜜多を退失せば則ち布施乃至般若波羅蜜多を攝受すること能はず、亦た內空乃至無性自性空を攝受すること能はず、亦た眞如乃至不思議界を攝受すること能はず、亦た苦聖諦乃至道聖諦を攝受すること能はず、亦た四靜慮乃至四無色定を攝受すること能はず、亦た八解脫乃至

【八】一切の種白法の根本。諸法差別、純善淸白の生活の基礎なるを云ふ。

【一】般若を離れて殊勝の善法を攝受し、無上菩提を證するを得ざるを說く。

【二】是の念。攝受すとすれば般若退失して成就せず。

有るを見ざるが故なり。善現、是の如き菩薩摩訶薩は無執著及び無安住を以て方便と爲して深般若波羅蜜多を行ず。

[六]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き念を作さん。若し能く是の如く執著する所無く安住する所無くして深般若波羅蜜多を行ぜば是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。若し能く是の如く執著する所無く安住する所無くして深般若波羅蜜多を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなり、我れ應に是の如く深般若波羅蜜多を行ずべし、我れ應に是の如く深般若波羅蜜多を修すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き念に由りて相を取りて執著し般若波羅蜜多を遠離す。若し般若波羅蜜多を遠離せば則ち靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を遠離し、亦た內空乃至無性自性空を遠離し、亦た眞如乃至不思議界を遠離し、亦た苦聖諦乃至道聖諦を遠離し、亦た四靜慮乃至四無色定を遠離し、亦た八解脫乃至十遍處を遠離し、亦た四念住乃至八聖道支を遠離し、亦た空解脫門乃至無願解脫門を遠離し、亦た五眼六神通を遠離し、亦た佛の十力乃至十八佛不共法を遠離し、亦た無忘失法恒住捨性を遠離し、亦た一切智乃至一切相智を遠離し、亦た一切陀羅尼門一切三摩地門を遠離し、亦た一切の菩薩摩訶薩行を遠離し、亦た諸佛の無上正等菩提を遠離す。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は一切法に於て執著する所無ければなり。深般若波羅蜜多は執著性有るに非ず。所以は何ん、善現、甚深般若波羅蜜多は都て自性の諸法に於て執著する所有る可き無ければなり。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行するに一切法及び深般若波羅蜜多に於て皆執著無し。

[七]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行する時是の如き想を起さん、此れは是れ般若波羅蜜多、我れ般若波羅蜜多を行ず、則ち是れ遍ねく諸法の實相を行ずるなりと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の想を起すに由りて便ち般若波羅蜜多を退す。若し般若波羅蜜多を退せば則ち靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を退し、亦た內空乃至無性自性空を退し、亦た眞如乃至不思議界を退し、亦

【六】無執著。無安住の相を取るも執着にして深般若を失ふを明す。

【七】菩薩般若波羅蜜多を退する所以を說く。

の無上正等菩提。

具壽善現復た佛に白して言さく、(c)世尊、何に緣りて菩薩摩訶薩精勤して甚深般若波羅蜜多を修學するに色に住すべからず亦た受想行識に住すべからざるや。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

四 佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩精勤して甚深般若波羅蜜多を修學せば一切法に於て執著無きが故に(d)色に住すべからず亦た受想行識に住すべからず。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は五法の其の中に於て而かも執著を起し及び安住す可き

(c)「世尊何緣菩薩摩訶薩精勤修學甚深般若波羅蜜多不應住色亦不應受想行識」右も(b)の場合に準じ以下略出す。

【四】菩薩不著不住法を以て能く般若波羅蜜多を行ずるを明す。(d)「不應住色亦不應住受想行識」右も(c)の場合に準じ以下略出す。

【五】正法眞生には精進し正信すべく、大道を前進するが如し。腰を下して安住し枕樹に執着すべきにあらざるを云ふ。

す。若し菩薩摩訶薩色を思惟せず受想行識を思惟せずんば則ち欲界色無色界に染著せず、若し欲界色無色界に染著せずんば則ち能く具足して諸の菩薩摩訶薩行を修し無上正等菩提を證得す。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩菩薩摩訶薩行を修せんと欲し無上正等菩提を證せんと欲せば當に勤めて甚深般若波羅蜜多を修學すべし。染著の諸法を思惟すべからず。(b)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

三 具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩精勤して甚深般若波羅蜜多を修學せば當に何に於て住すべきやと。佛言はく、(b)善現、若し菩薩摩訶薩精勤して甚深般若波羅蜜多を修學するには色に住すべからず亦た受想行識に住すべからず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛

【三】修學般若は何にも住すべからざるを說く。
(b)「善現若菩薩摩訶薩精勤修學甚深般若波羅蜜多當於何住佛言善現若菩薩摩訶薩精勤修學甚深般若波羅蜜多不應住色亦不應住受想行識」右も(a)の場合の如くして以下略出す。

眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

[四]具壽善現復た佛に白して言さく、(e)世尊、何に緣りて諸の菩薩摩訶薩は要らず色を思惟せず亦た受想行識を思惟せずして乃ち能く具足して諸の菩薩摩訶薩行を修し無上正等菩提を證得するや。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百五十三

初分多問不二品第六十一之三

[一]佛言はく、(a)善現、若し菩薩摩訶薩色を思惟し受想行識を思惟せば則ち[二]欲界色無色界に染著す。若し欲界色無色界に染著せば具足して諸の菩薩摩訶薩行を修し、無上正等菩提を證得すること能は

【四】更に分別なくし行證具足すべきを問答す。(e)「世尊何緣諸菩薩摩訶薩要不思惟色亦不思惟受想行識乃能……證得無上正等菩提」右も(d)の場合と同じくして以下略出す。

【一】菩薩三界に染著せざれば無上菩提を證得するを明す。(a)「善現若菩薩摩訶薩思惟色思惟受想行識……當勤修學甚深般若波羅蜜多不應思惟染著諸法」右も前卷(e)の場合の如く「五蘊」の所に次下の諸法を代入して以下略するものとす。

【二】欲界等。色を思惟し分別を執せば物的心的宇宙的固執生ずるを云ふ。

法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

[三]佛言はく、(c)善現、若し時に菩薩摩訶薩色を思惟せず亦た受想行識を思惟せずんば是の時菩薩摩訶薩は便ち能く種うる所の善根を增長す。種うる所の善現增長することを得るが故に便ち能く波羅蜜多を圓滿す。波羅蜜多圓滿するを得るが故に便ち能く一切智智を證得す。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。所以は何ん、(d)善現、諸の菩薩摩訶薩は要らず色を思惟せず亦た受想行識を思惟せずして乃ち能く具足して諸の菩薩摩訶薩行を修し無上正等菩提を證得す。

(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)

【三】物的差別を執せざるを以て眞の善根長じ解脫究竟するを答ふ。

(c)「善現若時菩薩摩訶薩不思惟色亦不思惟受想行識是時……
……便能證得一切智智」
右も(b)の場合と全く同じ方法にて以下略出す。

(d)「善現諸菩薩摩訶薩要不思惟色亦不思惟受想行識乃能具足修諸菩薩摩訶薩行證得無上正等菩提」
右も(c)の場合と同じくして以下略出す。

る所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百五十二

初分多問不二品第六十一之二

佛言はく、善現、(a)甚深般若波羅蜜多は色に於て一切相を思惟せず亦た一切の所緣を思惟せず是の如く色を思惟せず、受想行識に於て一切相を思惟せず亦た一切の所緣を思惟せず是の如く受想行識を思惟せざるなり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現復た佛に白して言さく、(b)世尊、若し菩薩摩訶薩色を思惟せず亦た受想行識を思惟せずんば云何が種うる所の善根を增長するや。若し種うる所の善根を增長せずんば云何が波羅蜜多を圓滿するや。若し波羅蜜多を圓滿せずんば云何が能く一切智智を得るや。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至

(a)「甚深般若波羅蜜多於色……如是不思惟受想行識」……右も前卷(e)の場合の如くして以下略出す。

【一】色に於て一切相等。物の萬差の差別をも對待關係をも確執せざるを云ふ。

(b)「世尊若菩薩摩訶薩不思惟色亦不思惟受想行識……云何能得一切智智」……右も(a)の場合と同じくして以下略出するものとす。

【二】若し思惟せず等。差別なくば善惡……增減なく、善根增長なくば圓度も解脫智も如何にして成就するか。

く云何が受想行識に於て取る無く捨つる無きやと。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、善現、(d)甚深般若波羅蜜多は色を思惟せず、是の如く色に於て取らず捨てず受想行識を思惟せず、是の如く受想行識に於て取らず捨てさるなり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、(e)甚深般若波羅蜜多は云何が色を思惟せず云何が受想行識を思惟せさるやと。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ず

(d)「甚深般若波羅蜜多不思惟色如是於色無取無捨不思惟受想行識如是於受想行識無取無捨」右も(c)の場合の如くして以下略出す。

(e)「甚深般若波羅蜜多云何不思惟色云何不思惟受想行識」右も(d)の場合の如くして以下略出す。

現當に知るべし、轉輪王の所有の女寶、人中の女に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲るが如く是の如き般若波羅蜜多は布施等の波羅蜜多に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙有り上爲り無上爲りと。[一二]具壽善現復た佛に白して言さく、佛何の意を以て但だ般若波羅蜜多のみ布施等の波羅蜜多に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙なり上爲り無上爲りと說きたまふやと。佛言はく、善現、此の般若波羅蜜多は能善く一切の善法を攝取し、和合して一切智智に趣入し不動に安住して無所住を以て方便と爲すに由ると。具壽善現復た佛に白して言さく、是の如き般若波羅蜜多は諸の善法に於て取捨有りや不やと。佛言はく、不なり。甚深般若波羅蜜多は一切法に於て取る無く捨つる無し。何を以ての故に、善現。一切法は皆取る可からず捨つ可からざるを以ての故なりと。

爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は何等の法に於て取る無く捨つる無きやと。佛言はく、善現、(b)甚深般若波羅蜜多は色に於て取る無く捨つる無く受想行識に於て取る無く捨つる無し。

(b)眼處(ろ)乃至意處。(b)色處(は)乃至法處。(b)眼界(に)乃至意界。(b)色界(ほ)乃至法界。(b)眼識界(へ)乃至意識界。(b)眼觸(と)乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受(ち)乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界(り)乃至識界。(b)無明(ぬ)乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多(る)乃至般若波羅蜜多。(b)內空(を)乃至無性自性空。(b)眞如(わ)乃至不思議界。(b)苦聖諦(か)乃至道聖諦。(b)四靜慮(よ)乃至四無色定。(b)八解脫(た)乃至十遍處。(b)四念住(れ)乃至八聖道支。(b)空解脫門(そ)乃至無願解脫門。(b)正眼、六神通。佛の十方(ね)乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智(な)乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果(ら)乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提、(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、(c)甚深般若波羅蜜多は云何が色に於て取る無く捨つる無

【一二】俗諦に差別して般若を最勝とする所以を明し、不取不念の般若行を說く。

【一三】無取無捨。自性無なれば取る無く、取る無ければ捨つる無きにて憶念取相すべきなきを云ふなり。

(b)「甚深般若波羅蜜多於色無取無捨於受想行識無取無捨」右の文中「色乃至識」の五蘊の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(c)「甚深般若波羅蜜多云何於色無取無捨云何於受想行識無取無捨」右も全く(b)の場合に準じて以下略す。

是の如し是の如し、汝が所說の如し、布施等の六波羅蜜多は差別相無し。若し般若波羅蜜多無くんば布施等の五は名づけて波羅蜜多と爲すことを得ず。要らず般若波羅蜜多に因りて布施等の五は乃ち名づけて波羅蜜多と爲すことを得。此の前五波羅蜜多は攝して般若波羅蜜多に在るに由るが故に但だ一波羅蜜多所謂般若波羅蜜多のみ有り。是の故に一切の波羅蜜多は無差別相なり。善現當に知るべし、諸の有情は種種の身相差別有りと雖も若し妙高山王に隣近すること有らば咸く同一色なるが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、種種の品類差別有りと雖も而かも般若波羅蜜多の攝受する所と爲るが故に、皆般若波羅蜜多に由りて修成滿するが故に、般若波羅蜜多に依止して方に能く一切智智に趣入し乃ち名づけて到彼岸と爲すを得るが故に皆同一味相にして差別無し。此れは是れ布施波羅蜜多、此れは是れ淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多なりと施設す可からず。何を以ての故に、善現、是の如き六種波羅蜜多は同じく能く一切智智に趣入し能く彼岸に到り相差別無ければなり。此の因緣に由りて布施等の六波羅蜜多は差別相無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、波羅蜜多及び一切法は若し實義に隨はゞ皆此彼勝劣差別無し。何に緣るが故に甚深般若波羅蜜多は布施等の波羅蜜多に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲りと說きたまふやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。若し實義に隨はゞ波羅蜜多及び一切法は皆此彼勝劣差別無し。但だ世俗の言說作用に依りて此彼勝劣差別有りと說き布施波羅蜜多を施設し、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を施設し諸の有情類の世俗の作用の生老病死を度脫せんと欲することを爲すのみ。然かも諸の有情の生老病死は皆實に有るに非ず但だ假りの施設のみ。所以は何ん、有情無きが故なり。當に知るべし諸法も亦た無所有なりと。甚深般若波羅蜜多は一切都て無所有なりと了達して能く有情の世俗の作用の生老病死を拔く。此れに由るが故に甚深般若波羅蜜多は布施等の波羅蜜多に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲りと說く。善

んに亦た一念惡心を發起せず。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は一切は聲の谷に響くが如く色の沫を聚めたるが如しと觀察すればなり。我れ一切有情を饒益せんが爲に中に於て妄りに瞋恨を起すべからずと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀察に由りて安忍波羅蜜多を修行するに速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん、善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に善法を勤求し乃至無上正等菩提まで其の中間に於て常に懈怠無し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作せばなり。我れ若し懈怠ならば諸の有情類の生老病死を拔濟すること能はず、亦た所求の無上正等菩提を得る能はずと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀察に由りて精進波羅蜜多を修行するに速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に諸の勝定を修し乃至無上正等菩提まで終に貪瞋癡等の散亂の心を發起せず。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作せばなり。若し我れ貪俱行心瞋俱行心癡俱行心及び〔一〇〕餘事に於て散亂の心を發起せば則ち他を饒益する事を成ずる能はず亦た所求の無上正等菩提を得る能はずと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀察に由りて靜慮波羅蜜多を修行するに速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に常に甚深般若波羅蜜多を遠離せず乃至無上正等菩提まで常に勤めて世出世間微妙の勝慧を修學す。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作せばなり。若し般若波羅蜜多に異らば終に他を利樂する事を成ずる能はず亦た所求の無上正等菩提を得る能はずと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀察に由りて般若波羅蜜多を修行するに速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せんと。〔一一〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し六波羅蜜多無差別相ならば皆是れ般若波羅蜜多の攝受する所なるが故に、皆般若波羅蜜多に由りて修成滿するが故に應に合して一波羅蜜多、所謂般若波羅蜜多と成るべし。云何が甚深般若波羅蜜多は布施等の波羅蜜多に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲りと說く可けんと。佛言はく、善現、

【一〇】餘事。貪瞋癡三毒俱起心の場合、雜念亂想なり。

【一一】六波羅蜜多無差別相なる、般若波羅蜜多を最勝無上と爲す所以を明す。

八爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法の自性皆空なれば云何が菩薩摩訶薩は布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を精勤修學して當に無上正等菩提を得べきやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に於て勤め修學する時恒に是の念を作す。世間有情の心皆顚倒して生死の苦に沒し自ら脫すること能はず、我れ若し善巧方便を修せずんば彼の生死の苦より解脫すること能はず、我れ當に彼の諸の有情類の爲に精勤して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多善巧方便を修學すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の念を作し已て諸の有情の爲に內外の物を捨つ。捨て已て復た是の如き思惟を作す。我れ此の物に於て都て捨つる所無しと。何を以ての故に、此の內外の物の自性皆空にして九我れに關するに非ざれば捨つ可からさるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀察に由りて布施波羅蜜多を修行するに速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に終に戒を犯さず。所には何ん、是の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作せばなり。我れ有情の爲に無上正等菩提に趣かんことを求むるに若し生命を斷じ、與へさるを而かも取り、欲邪行を行ぜば是れ應ぜざる所なり。我れ有情の爲に無上正等菩提に趣かんことを求むるに虛誑語を作し離間語を作し麁惡語を作し雜穢語を作さば是れ應ぜざる所なり。我れ有情の爲に無上正等菩提に趣かんことを求むるに、貪欲瞋恚邪見を發起せば是れ應ぜざる所なり。我れ有情の爲に無上正等菩提に趣かんことを求むるに、妙なる欲境を求め天の富樂を求め帝釋魔梵王等と作るを求めば是れ應ぜさる所なり。我れ有情の爲に無上正等菩提に趣かんことを求むるに聲聞或は獨覺地に住するを求めば是れ應せさる所なりと。善現、是の菩薩摩訶薩は、此の觀察に由りて淨戒波羅蜜多を修行するに、速に圓滿することを得て疾く無上正等菩提を證せん。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情の爲に瞋恨を起さず。假使ひ恒に毀謗凌辱せられ辛楚苦言心髓を切るも終に一念瞋恨を發起せず。設ひ復た常に刀仗瓦石杖塊等の物もて其の身を捶打し割截斫刺し節節支解するに遭は

【八】一切法空にして方便善巧の故に六度を行ずることを明す。

【九】我れに等。非關於我不可捨故と云ふ。我と物と皆自性なければ我がこの物を捨つると云ふこともなきを云ふ。

贍部洲の東方の諸水皆殑伽大河に趣き殑伽河と倶に大海に入らざる無きが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、皆甚深般若波羅蜜多の攝引する所と爲らざる無きが故に能く無上正等菩提に到ると。善現善に知るべし、人の右手にて能く衆事を作すが如く甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、能く一切の殊勝の善法を引くと。善現當に知るべし、人の左手にて作す所不便なるが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、殊勝の善法を引生すること能はずと。善現當に知るべし、譬へば衆流の若しは大若しは小皆大海に入るに同一鹹味なるが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、皆般若波羅蜜多の攝引する所と爲るが故に同じく無上正等菩提に至らん。此れに由りて皆能く彼岸に到ると名づくと。善現當に知るべし、轉輪王趣く所有らんと欲するに四軍導從し輪寶先に居し、王及び[五]四軍飲食せんと念欲すれば輪則ち爲に住り、既に飲食し已て王行かんと念欲すれば輪則ち前に去る。其の輪の去住は王の意欲に隨ひ所趣にに至れば方さに復た前に去らざるが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、諸の善法と無上正等菩提に趣かんと欲せば要らず般若波羅蜜多に因りて前導せらるゝを以て進止倶に隨ひて相捨離せず、若し佛果に至らば更らに前進せずと。善現當に知るべし、轉輪王七寶具足す、所謂輪寶象寶馬寶主藏臣寶女寶將寶如意珠寶なり。其の轉輪王至る所有らんと欲するに四軍七寶前後に導從す。爾の時輪寶最も先に居すと雖も而かも前後の相を分別せざるが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、諸の善法と無上正等菩提に趣かんと欲するに必ず般若波羅蜜多を以て其の前導と爲す。然かも此の般若波羅蜜多は是の念を作さず、我れ布施淨戒安忍精進靜慮波羅蜜多に於て最も前導を爲し彼れ我れに隨從すと。布施等の五波羅蜜多も是の念を作さず、甚深般若波羅蜜多は我れ等の前に居し我れ彼れに隨ふと。何を以ての故に、善現、波羅蜜多及び一切法の自性は皆[六]鈍にして能く爲す所無く[七]虚妄不實空無所有不自在相なればなり。譬へば陽焰光影水月鏡中の像等、其の中都て分別作用眞實自體無きが如しと。

【五】四軍。歩兵騎兵象軍車乘軍なり。

【六】鈍。自性判然たらず。

【七】虚妄不實。一切法を虚妄等と云ふこと過ぎたるが如きも實有ならざるを云ふ。

の菩薩摩訶薩の是の如き方便善巧を成就するは甚だ爲れ希有なり。善現當に知るべし、日月輪周行して四大洲界を照燭し大事業を作すに其の中の所有る若しは情非情、彼の光明勢力に隨て轉じて各已れの事を成ずるが如く是の如く般若波羅蜜多は餘の五波羅蜜多を照燭し、大事業を作し、布施等の五波羅蜜多は般若波羅蜜多の勢力に隨順し轉じて各已れの事を成ず。

[三]善現當に知るべし、布施等の五波羅蜜多は皆般若波羅蜜多に攝受せらるゝに由るが故に乃ち名づけて波羅蜜多と爲すことを得、若し般若波羅蜜多を離るれば布施等の五は名づけて波羅蜜多と爲すことを得ず。善現當に知るべし、轉輪王若し七寶無くば名づけて轉輪聖王と爲すを得ず要らず七寶を具して乃ち名づけて轉輪聖王と爲すを得るが如く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し。若し般若波羅蜜多に攝受せらるゝに非ずんば名づけて波羅蜜多と爲すを得ず、要らず般若波羅蜜多の攝受する所と爲りて乃ち名づけて波羅蜜多と爲すことを得と。善現當に知るべし、如し女人の端正にして巨富なる有らんも若し強夫に守護せらるゝ無き者は惡人の侵淩する所と爲り易し。布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、若し般若波羅蜜多の力に攝護せらるゝ無くんば天魔及び彼の眷屬の沮壞する所と爲り易しと。善現當に知るべし、如し女人有りて端正にして巨富なるに若し強夫に守護せらるゝ有る者は惡人の侵淩する所と爲らず。布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し。若し般若波羅蜜多の力に攝護せらるゝ有らば一切の天魔及び彼の眷屬沮壞すること能はずと。善現當に知るべし、如し軍將有りて戰陣に臨む時善く種種の鎧鉀刀仗を備ふるに隣國の怨敵害する能はざる所なり。布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、若し甚深般若波羅蜜多を遠離せんば天魔眷屬增上慢人乃至菩薩[四]旃荼羅等皆壞すること能はずと。善現當に知るべし、贍部洲の諸の小王等隨時に轉輪聖王に朝侍し轉輪王に因て勝處に遊ぶことを得るが故く布施等の五波羅蜜多も亦復た是の如し、般若波羅蜜多に隨順し彼の勢力に引導せらるゝに由るが故に速に無上正等菩提に趣くと。善現當に知るべし、

【三】般若波羅蜜を離れて五波羅蜜の波羅蜜たり得ざるを例示す。

【四】旃陀羅（Caṇḍāla）。屠者、執暴惡人、下姓などゝ譯す。四姓の外に在つて屠殺を業とする男子の稱。

大般若波羅蜜多經　卷の第三百五十一

初分　多問不二品[一(a)]第六十一之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就せば發心して已來幾時を經と爲すやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は發心して已來無數百千俱胝那庾多劫を經たりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就せば已ん曾て幾佛に親近し供養せるやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は已に曾て殑伽沙等の諸佛に親近し供養せるなりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就せば已に曾て幾所の[二]善根を種植せしやと。佛言はく、善現、(a)是の菩薩摩訶薩は發心して已來布施波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無く、淨戒波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無く、安忍波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無く、精進波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無く、靜慮波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無く、般若波羅蜜多有りて圓滿し精勤し修習せざること無し。(a)內空乃至[わ]無性自性空。(a)眞如乃至[か]不思議界。(a)苦聖諦乃至[る]道聖諦。(a)四靜慮乃至[た]四無色定。(a)八解脫乃至[れ]十遍處。(a)四念住乃至[そ]八聖道支。(a)空解脫門乃至[こ]無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至[ね]十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至[な]一切相智。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)菩薩摩訶薩行・無上正等菩提。

善現、是の菩薩摩訶薩は發心して已來上の如き圓滿の善根を種植し、此の因緣に由りて是の如き方便善巧を成就せりとの具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き方便善巧を成就するは甚だ希有なりと爲すやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。是

(a) 多問不二。廣く有色無色、有爲無爲等の二法の不二なるを明し般若と五度、平等と差別との不二にして假設さるる所以を問答分別するものなり。

【一】 菩薩利根にして一波羅蜜多に五度を具する方便善巧の成就せる過去前緣を明し、般若の導護たるを說く。

【二】 善根を種植す。無上菩提の爲に六波羅蜜多を具足するを云ふ。

(a)「是菩薩摩訶薩發心已來無有布施波羅蜜多而不圓滿精勤修習………無有般若波羅蜜多而不圓滿精勤修習」右の文中「六度」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「修習」の代りに「安住」の語を用ふるものとす。

目次

（本　丁）　（通頁）

般若部 四

椎尾辨匡譯

國譯一切經

大東出版社藏版